大村市男女共同参画に関する
市民意識調査報告書

令和８年９月

大村市　男女いきいき推進課

目　　次

第１章　調査概要

１．調査の目的 1
２．調査実施期間 1
３．調査対象 1
４．調査方法 1
５．調査主体 1
６．回収結果 1
７．報告書の見方 2
８．設問項目 2

第２章　調査結果総括

男女共同参画について 12
家庭生活について 12
女性活躍推進について 13
人権（ＤＶ・セクハラ・ＬＧＢＴQ）について 13
男女共同参画社会の実現に向けて 13

第３章　調査結果

１．回答者属性 16
１．あなたの年齢をお尋ねします 16
２．あなたの性別をお尋ねします 16
３．あなたの現在の職業をお答えください 17
４．あなたは、現在結婚していますか 18
４－１．あなたの配偶者・パートナーは、今、働いていますか 18
５．あなたの世帯は、次のどれに当てはまりますか 18

２．設問回答

【男女共同参画について】

問１　あなたは、次のような分野で、男女は平等になっていると思いますか 19
Ａ家庭生活 21
Ｂ職場 22
Ｃ学校教育 23
Ｄ地域活動 24
Ｅ社会の通念や慣習・しきたり 25
Ｆ法律や制度上 26
Ｇ政治や行政の政策・方針決定の場 27
Ｈ社会全体 28
問２　次の 1～７の男女共同参画に関する言葉のうち、
あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉 29
問３　あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
どう思いますか 31
問３-1「賛成」「どちらかといえば賛成」と思うのはなぜですか 32
問３-2「反対」「どちらかといえば反対」と思うのはなぜですか 34
問４　あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには
どのようなことが必要だと思いますか 36
問５　あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか 38
Ａ育児休業 38
Ｂ介護休業 39

問５－1　現実には取りづらい理由は何だと思いますか 40
問６　仕事と家庭の関係について、あなたのお考えをお尋ねします 42
　Ａ女性にとって望ましい形 43
　Ｂ男性にとって望ましい形 44
　Ｃあなたの現在の状況 45

【あなたの家庭生活について】
問７　あなたの家庭では次のA～Mについて誰がその役割を行っていますか 46
　Ａ食料品などの買い物 46
　Ｂ食事のしたく 47
　Ｃ食後の片づけ 48
　Ｄ掃除 49
　Ｅ洗濯 50
　Ｆ育児 51
　GPTA活動等学校行事への参加 52
　Ｈ地域活動への参加 53
　Ｉ高齢者の世話・介護 54
　Ｊ家計費の管理 55
　Ｋ土地・家屋の購入 56
　Ｌ子どもの教育方針や進路 57
　M介護問題 58
問８　あなたは育児休業、介護休業を取ったことがありますか 59
　Ａ育児休業 59
　Ｂ介護休業 59
問９　育児休業を取った理由は何ですか 60
問１０　育児休業を取らなかった理由は何ですか 62
問１１　介護休業を取った理由は何ですか 64
問１２　介護休業を取らなかった理由は何ですか 66
問１３　育児休業、介護休業を取りますか 68
　Ａ育児休業 68
　Ｂ介護休業 69

【女性活躍推進について】
問１４　あなたは、結婚や出産、育児、介護等のライフイベントがあったとき、
　　「女性が働くこと」についてどう思いますか 70
問１５　結婚や出産、育児、介護等により退職することなく、
　　継続して女性が働くには、どのようなことが必要だと思いますか 72
問１６　結婚や出産、育児、介護等に専念するため一旦退職して落ち着いたあと、
　　女性が再就職するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか 74
問１７　女性の社会進出を進めていく中で、議員や審議会等の委員、町内会長などには、
　　まだ女性が少ないのが現状です。今後、政策や方針を決定する場へ女性が参画し
　　ていくためには、どのようなことが必要だと思いますか 76

【人権（ＤＶ・セクハラ・ＬＧＢＴQ）について】
問１８　ＤＶについてお尋ねします。あなたは、配偶者や交際相手などの親密な関係にある
　　（あった）人から、次にあげるようなことをされたことがありますか 78
　Ａ身体的暴力 79
　Ｂ精神的な暴力・社会的な暴力 80
　Ｃ性的な暴力 81
　Ｄ経済的な暴力 82

Ｅ子どもを利用した暴力 83
問１９　なたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか 84
問２０　あなたが、どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）理由 85
問２１　セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)についてお尋ねします。あなたはこれまでに、
次のような行為で不快な思いをしたことがありますか 86
Ａ卑猥な話を聞かされた 87
Ｂ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた 88
Ｃ故意に体を触られた 89
Ｄ宴会でお酒やデュエットを強要された 90
Ｅ交際を強要された 91
Ｆ性的行為を強要された 92
Ｇ結婚や異性との交流についてしつこく聞かれた 93
Ｈ容姿について傷つくようなことを言われた 94
Ｉ帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした 95
Ｊ性的な内容のメールや電話を受けた 96
Ｋ卑猥な画像などを見せられた、送りつけられた 97
Ｌその他 98
問２２　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか 99
問２３　あなたは、セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）やＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）
を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか 101
問２４　あなたは、令和 5 年 10 月 11 日から大村市でパートナーシップ宣誓制度を
開始したことを知っていますか 103
問２５　あなたは、「ALLY（アライ）」という言葉を知っていますか。または聞いたことがありますか.. 104
問２６　ＬＧＢＴＱなどの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るため、
性の多様性（SOGI）に関する取組は必要だと思いますか 105
問２７　どのような取組が必要だと思いますか 106

【男女共同参画社会の実現に向けて】
問２８　「男女共同参画社会の実現」「女性の活躍促進」を目指して、
今後、行政はどのような施策に力をいれていくべきだと思いますか 108
問２９　大村市には、大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」があります。
今後、どのような事業に力を入れるべきだと思われますか 111
【意見・要望の自由記述】
意見・要望の項目別件数 113
性別・年代別の個別回答 114

第１章　調査概要

第１章　調査概要

1. 調査目的

本調査は、「第６期おおむら男女共同参画プラン(令和９年度～令和 13 年度)」を策定するため、、市民の男女共同参画に関する意識を把握するとともに、市民の性別及び年代別の男女共同参画に関する課題やニーズを明らかにし、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の立案・推進に資する基礎資料となるデータの収集及び分析を行うことを目的とする。

2. 調査実施期間

令和８年１月６日（火）から令和８年２月 10 日（火）まで

3. 調査対象

大村市内在住の 18 歳以上の中から、無作為に 3,000 人を抽出。抽出方法は市町、年齢層による偏りを避けるため、年齢別人口で振り分けて抽出を行った。

4. 調査方法

郵送により送付、紙媒体及び Web 回答

5. 調査主体

大村市　男女いきいき推進課

6. 回収結果

本調査の配布数及び回収結果は下記の通り。

配布数：3,000 件　回答数：1,263 件　回収率：42.1％

〈参考〉

アンケート票数と誤差との関係は、当然アンケート票数が少ないと誤差は大きく、アンケート票数が多いと誤差は小さくなる。しかし、統計学において、アンケート票数と誤差の関係については、一定の数を超えると、票数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなることが知られている。この「一定の数」は、下記の計算式によって表される。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M - n)}{(M - 1)} \times \frac{p(1 - p)}{n}}$$

M：母集団　　n：有効回答数　　p：結果の比率
K：信頼率による定数　　σ：標本誤差

必要サンプル数を計算すると　n=382.14 となる。
※M=72,853（令和７年 11 月 30 日時点の住民基本台帳による 18 歳以上 80 未満人口）
※p については、安全側を取り、比率の標準偏差√p(1-p)が最大となる 0.5 を用いる。
※k は信頼率を決めると自動的に決まる定数で、信頼率に対応する標準正規分布の%点である。信頼率は、統計的な慣習として 95%とすることが多く、信頼率 95%ならばｋは 1.96 となる。
※標本誤差については、統計学的に誤差を 3～5%に抑えたいため、今回は 5%として 0.05 を用いる。

今回の調査においては、有効回答数が 1,263 件であり、対象者の意向の把握として十分信頼性があるといえる。

ただし、付問等により回答数が少なくなった場合は信頼性が担保されない可能性があり、参考程度にとどめておく必要がある。

7. 報告書の見方

（1）比率は百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の計が 100%にならない場合がある。

（2）基数となる実数はｎとして掲載した。その比率は件数を 100%として算出した。

（3）１人の回答者が複数回答を行う設問では、その比率の合計が 100%を上回ることがある。

（4）図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向をみる程度になる。

（5）図表の各項目は表示の関係上省略して表示する場合がある。

（6）集計対象数は「N」単回答は「SA」、複数回答は「MA」、記述式回答は「FA」で表している。

（7）単回答（SA）に対し複数回答した場合、性別での「男性」、「女性」、「回答しない」以外を選択したものは無効とし集計を行っている。

8. 設問項目

設問		選択肢	回答区分	頁
☐結果分析のため、あなたご自身のことについてお尋ねします。				
1	あなたの年齢をお尋ねします。（令和８年１月１日現在の年齢）（○は１つ）	１．１０歳代　２．２０歳代 ３．３０歳代　４．４０歳代 ５．５０歳代　６．６０歳代 ７．７０歳代	SA	16
2	あなたの性別をお尋ねします。（ご自分の認識でお答えください。）（○は１つ）	1．男性 2．女性 3．（　　）	SA	16
3	あなたの現在の職業をお答えください。 該当する番号（1～13）１つに○をつけてください。 なお、4～10 の場合は、その右の欄にも○をつけてください。（○は１つ）	●自営業者　（家族従業員含）経営者 １ 農業・林業・漁業 ２ 商工業・製造業・サービス業 （各種卸・小売店、飲食店等） ３ その他の自営業者、または経営者 ●雇用されている者 ４ 管理職 ５ 事務職 ６ 専門・技術・保安職 ７ 販売・サービス ８ 生産・輸送・建設・労務職 ９ 農林漁業職 10 その他の職種 （正社員／非正規社員／その他） ●無職 11 家事専業 12 学生 13 その他	SA	17
4	あなたは、現在結婚していますか。（○は１つ）	１．結婚している （パートナーと暮らしている人を含む） ２．離別・死別 ３．未婚	SA	18

設問		選択肢	回答区分	頁
4－1	【4で「1 と答えた方」がお答えください】 あなたの配偶者・パートナーは、今、働いていますか。（○は１つ）	1．働いている 2．働いていない	SA	18
5	あなたの世帯は、次のどれに当てはまりますか。（○は１つ）	1．単身世帯 2．夫婦のみの世帯 3．二世代世帯（親・子） 4．三世代世帯（親・子・孫） 5．その他（　　）	SA	18
□男女共同参画について、あなたのお考えをお尋ねします。				
問1	あなたは、次のような分野で、男女は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。	●項目 A　家庭生活 B　職場 C　学校教育 D　地域活動 E　社会の通念や慣習・しきたり F　法律や制度上 G　政治や行政の政策・方針決定の場 H　社会全体 ●選択肢 1．女性が優遇されている 2．どちらかといえば女性が優遇されている 3．平等である 4．どちらかといえば男性が優遇されている 5．男性が優遇されている 6．わからない	SA	19
問2	次の 1～7の男女共同参画に関する言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉をすべて選び○で囲んでください。	1．男女共同参画社会 2．ジェンダーギャップ指数 3．ワーク・ライフ・バランス 4．育児休業制度・介護休業制度 5．アンコンシャス・バイアス （無意識の思い込み） 6．困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援法） 7．大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」 8．見たり聞いたりしたことはない	MA	29
問3	あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。（○は１つ）	1．賛成 2．どちらかといえば賛成 3．どちらかといえば反対 4．反対 5．分からない	SA	31
問3-1	【※問３で１または２と答えた方がお答えください】 「賛成」「どちらかといえば賛成」と思うのはなぜですか。（○は３つまで）	1．日本の伝統的な家族の在り方だから 2．自分の両親も役割分担をしていたから 3．夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから 4．妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから 5．家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから 6．夫と妻の役割分担を両者で決め、納得していれば良いと思うから 7．自分が望む役割分担に合っているから 8．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	32

設問		選択肢	回答区分	頁
問3-2	【※問３で３または４と答えた方がお答えください】 「反対」「どちらかといえば反対」と思うのはなぜですか。（○は３つまで）	1．男女平等に反するから 2．自分の両親も働いていたから 3．夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られるから 4．妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから 5．夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから 6．固定的な夫と妻の役割分担を押しつけず、両者で決めた方が良いから 7．自分が望む役割分担に合っていないから 8．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	34
問4	あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）	1．男性自身の抵抗感をなくす 2．女性の抵抗感をなくす 3．夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかる 4．夫婦の役割分担の考え方を周りの人が尊重する 5．社会の中で、男性の積極的な参加に対する評価を高める 6．多様な働き方を普及させ、仕事以外の時間をより多くもてるようにする 7．男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行う 8．地方自治体などの研修等により男性の家事、子育て、介護等の技能を高める 9．男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間づくりを進める １０．家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける １１．職場の中で、理解や支援を行う １２．世代間ギャップをなくす １３．特に必要なことはない １４．わからない １５．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	36
問5	あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。A、B のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。	●項目 A　育児休業 B　介護休業 ●選択肢 1．積極的に取るべきである 2．取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う 3．男性が休みを取る必要はない 4．わからない	SA	38
問5-1	【※問 5-A・B いずれかで２を選んだ方がお答えください】 現実には取りづらい理由は何だと思いますか。（○は３つまで）	1．過去にまわりの男性で取った人がいないから 2．職場に取りやすい雰囲気がないから 3．仕事が忙しいから 4．取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから 5．取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから 6．休業補償が十分でないので経済的に困るから 7．男性が取ることについて、社会全体の理解が十分でないから 8．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	40

設問		選択肢	回答区分	頁
問6	仕事と家庭の関係について、あなたのお考えをお尋ねします。A～C のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。	●項目 A　女性にとって望ましい形 B　男性にとって望ましい形 C　あなたの現在の状況 ●選択肢 1．家庭生活や地域活動より仕事に専念 2．.家庭生活や地域活動より仕事を優先 3．家庭生活や地域活動と仕事を両立 4．仕事より家庭生活や地域活動を優先 5．仕事より家庭生活や地域活動に専念	SA	42
□あなたの家庭生活についてお尋ねします。				
問7	【※結婚している方（パートナーと暮らしている方も含む）がお答えください】 あなたの家庭では次のA～Mについて誰がその役割を行っていますか。現状に近いものに、１つずつ○をつけてください。なお、育児・介護に関する項目について、該当がない場合は「8 わからない又は該当なし」をお選びください。	●項目 （家事の分担） A　食料品などの買い物 B　食事のしたく C　食後の片づけ D　掃除 E　洗濯 F　育児 G　PTA 活動等学校行事への参加 H　地域活動への参加 I　高齢者の世話・介護 （最終決定者） J　家計費の管理 K　土地・家屋の購入 L　子どもの教育方針や進路 M　介護問題 ●選択肢 1．ほとんど自分 2．どちらかといえば自分 3．配偶者と同じ程度分担 4．どちらかといえば配偶者 5．ほとんど配偶者 6．親や子どもなど他の家族 7．代行業者等 8．わからない又は該当なし	SA	46
問8	あなたは育児休業、介護休業を取ったことがありますか。A 育児休業・B 介護休業それぞれについてお答えください。 （A・B それぞれに○は１つずつ）	【A　育児休業】 1．取ったことがある 2．取ったことがない 【B　介護休業】 3．取ったことがある 4．取ったことがない	MA	59
問9	【問８で１を選んだ方がお答えください】 育児休業を取った理由は何ですか。（○は３つまで）	1．積極的に関わるべきだと思ったから 2．雇用主や上司の理解があり、取りやすい職場環境だったから 3．今しかできない経験をしたいと思ったから 4．男性・女性に関わらず取れる方が取れば良いと考えたから 5．配偶者の要望があったから 6．配偶者が休めないから 7．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	60

設問		選択肢	回答区分	頁
問１０	【問８で２を選んだ方がお答えください】 育児休業を取らなかった理由は何ですか。（○は３つまで）	１．配偶者がやるべきだと思ったから ２．雇用主や上司の理解が得にくく、取りにくい職場環境だったから ３．自分の出世に影響すると考えたから ４．休むと職場に迷惑がかかるから ５．収入が減ったり、無くなると困るから ６．他人の目が気になったから ７．当時、制度そのものがなかったから ８．養育の対象者がいないから ９．その他（具体的にお書きください：　　）	SA	62
問１１	【問８で３を選んだ方がお答えください】 介護休業を取った理由は何ですか。（○は３つまで）	１．積極的に関わるべきだと思ったから ２．雇用主や上司の理解があり、取りやすい職場環境だったから ３．今しかできない経験をしたいと思ったから ４．男性・女性に関わらず取れる方が取れば良いと考えたから ５．配偶者の要望があったから ６．配偶者が休めないから ７．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	64
問１２	【問８で２を選んだ方がお答えください】 介護休業を取らなかった理由は何ですか。（○は３つまで）	１．配偶者がやるべきだと思ったから ２．雇用主や上司の理解が得にくく、取りにくい職場環境だったから ３．自分の出世に影響すると考えたから ４．休むと職場に迷惑がかかるから ５．収入が減ったり、無くなると困るから ６．他人の目が気になったから ７．当時、制度そのものがなかったから ８．養育の対象者がいないから ９．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	66
問１３	【※育児中、介護中、または今後育児・介護の予定も含めてお答えください】 育児休業、介護休業を取りますか。 (A・B それぞれに○は１つずつ)	●項目 A　育児休業 B　介護休業 ●選択肢 １．取る予定がある（現在取得中を含む） ２．職場の理解が得られれば取るつもりである ３．取りたいが、職場環境等の理由で取れない ４．必要性を感じないので取るつもりはない ５．取る予定がない	SA	68
□女性活躍推進についてお尋ねします。				
問１４	あなたは、結婚や出産、育児、介護等のライフイベントがあったとき、「女性が働くこと」についてどう思いますか。あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。	１．結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい ２．出産・育児、介護期間は一時退職し、期間が終わったら再び働く方がよい ３．出産・育児・介護期間に入るまでは働く方がよい ４．結婚するまでは、働く方がよい ５．女性は働かない方がよい ６．わからない ７．その他（具体的にお書きください：　　）	SA	70

設問		選択肢	回答区分	頁
問１５	結婚や出産、育児、介護等により退職することなく、継続して女性が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）	１．結婚・出産による退職等の慣行を改める ２．賃金・昇進・昇格における男女格差をなくす ３．仕事内容における男女格差をなくす ４．長時間労働や残業の習慣を改める ５．労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由時間勤務制）を導入する ６．企業経営者や職場の理解を深める ７．育児休業・介護休業等の制度を充実させる ８．正規職員としての雇用を増やす ９．育児や介護のための施設やサービスを充実する １０．配偶者・パートナーの理解・協力を得られるようにする １１．配偶者・パートナー以外の親族の理解・協力を得られるようにする １２．女性自身の知識や経験、就業意欲を高める １３．特に必要なことはない １４．わからない １５．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	72
問 16	結婚や出産、育児、介護等に専念するため一旦退職して落ち着いたあと、女性が再就職するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）	１．就業情報を積極的に提供する ２．技能習得のための機会を充実する ３．結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する ４．労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する ５．採用の年齢制限の廃止や緩和を促進する ６．女性が働くことに対する家族や職場などの周囲の理解・協力を深める ７．育児や介護のための施設やサービスを充実する ８．特に必要なことはない ９．わからない １０．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	74
問 17	女性の社会進出を進めていく中で、議員や審議会等の委員、町内会長などには、まだ女性が少ないのが現状です。今後、政策や方針を決定する場へ女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）	１．家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める ２．男性優位の組織運営を改める ３．家族の支援・協力が得られるようにする ４．女性の能力を向上させる機会を増やす ５．女性の活動を支援するネットワークをつくる ６．女性自身が参画しようとする意識を高める ７．女性の参画を積極的に進めようと考える人を増やす ８．特に必要なことはない ９．わからない １０．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	76

□人権（DV・セクハラ・LGBTQ）についてお尋ねします。

【用語説明】

＊「ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）」

配偶者や交際相手などの親密な関係にあるもの、またはあったものからふるわれる身体的・精神的・経済的・性的な暴力のこと

＊「セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）」

性的いやがらせ（男女間だけでなく同性間を含む）のこと

＊「ＬＧＢＴＱ」

Lesbian（レズビアン）、Gay（ゲイ）、Bisexual（バイセクシュアル）、Transgender（トランスジェンダー）、Questioning（クエスチョニング）/Queer（クィア）」の頭文字を組み合わせた言葉。同性が好きな人や心と体の性別に違和感があるなど、「異性を愛するのが普通だ」、「心と体の性別が異なることなどない、性別は男と女だけである」とする人からみて少数者という意味での「性的少数者（性的マイノリティ）」を総称する言葉のひとつ

設問		選択肢	回答区分	頁
＊「パートナーシップ宣誓制度」 一方または双方が性的マイノリティであるお二人が、日常生活において、互いを人生のパートナーとして支え協力しあう関係であることを市に宣誓する制度				
問１８	ＤＶについてお尋ねします。あなたは、配偶者や交際相手などの親密な関係にある（あった）人から、次にあげるようなことをされたことがありますか。Ａ～Ｅのそれぞれについて、○をつけてください。	●項目 Ａ　身体的暴力 （なぐる、ける、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす等） Ｂ　精神的な暴力・社会的な暴力 （人格を否定するような暴言、長時間の無視、どなる、「だれのおかげで生活できるんだ」や「かいしょうなし」などの見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等） Ｃ　性的な暴力 （相手がいやがっているのに性的な行為を強要する。避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる等） Ｄ　経済的な暴力 （生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等） Ｅ　子どもを利用した暴力 （子どもの前で暴力を振るったり暴言を浴びせる、子どもに自分の言いたいことを伝えさせる等） ●選択肢 １．1～2 度あった ２．何度もあった ３．全くない	ＭＡ	78
問１９	【問 18 で１つでも「1～2 度あった」、「何度もあった」と答えた方がお答えください】 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 あてはまるものすべてに○をつけてください。	１．警察に連絡・相談した ２．法務局や人権擁護委員に相談した ３．配偶者暴力相談支援センター、県女性相談支援センター（県こども・女性・障害者支援センター）、男女共同参画推進センター、市役所などの公的相談窓口に相談した ４．民間の専門家や専門機関（弁護士・カウンセリング機関・ＮＰＯ法人など）に相談した ５．医療関係者（医師、看護師、助産師など）に相談した ６．学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）に相談した ７．家族や親戚に相談した ８．友人、知人に相談した ９．どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった） １０．その他（具体的にお書きください：　　）	ＭＡ	84
問２０	【問 19 で「9　どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」と答えた方がお答えください】 あなたが、どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。	１．どこ（誰）に相談してよいのかわからなかった ２．恥ずかしくて誰にも言えなかった ３．人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事、学校、地域での関係）ができなくなると思った ４．相談しても無駄だと思った ５．加害者に「誰にも言うな！」とおどされた ６．相談したことがわかると仕返しや、もっとひどい暴力を受けると思った ７．相談相手の言動により不快な思いをさせられると思った ８．自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った ９．世間体が気になった １０．他人を巻き込みたくなかった １１．そのことについて思い出したくなかった	ＭＡ	85

設問		選択肢	回答区分	頁
		１２．自分にも悪いところがあると思った １３．相手の行為は愛情表現だと思った １４．相手と別れた後の自立不安があった（経済的なこと、子どものことなど） １５．相談するほどのことではないと思った １６．その他（具体的にお書きください：　　）		
問２１	セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)についてお尋ねします。 あなたはこれまでに、次のような行為で不快な思いをしたことがありますか。 下のＡ～Ｌ それぞれについて、経験がある場合は１に、ない場合は２「ない」に○をつけてください。	●項目 Ａ　卑猥な話を聞かされた Ｂ　「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた Ｃ　故意に体を触られた Ｄ　宴会でお酒やデュエットを強要された Ｅ　交際を強要された Ｆ　性的行為を強要された Ｇ　結婚や異性との交流についてしつこく聞かれた Ｈ　容姿について傷つくようなことを言われた Ｉ　帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした Ｊ　性的な内容のメールや電話を受けた Ｋ　卑猥な画像などを見せられた、送りつけられた Ｌ　その他(　　) ●選択肢 １．ある ２．ない	SA	86
問２２	【問 21 で１つでも「ある」と答えた方がお答えください】 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 あてはまるものすべてに○をつけてください。	１．上司・同僚に相談した ２．職場内の相談窓口に相談した ３．公的機関（労働局・県・市の相談窓口・警察など）に相談した ４．民間の専門家や専門機関（弁護士・カウンセリング機関・ＮＰＯ法人など）に相談した ５．家族・友人・知人に相談した ６．どこ（誰）にも相談しなかった ７．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	99
問２３	あなたは、セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）やＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。 （○は３つまで）	１．加害者への罰則を強化する ２．加害者の更生を促すカウンセリングなどの加害者対策を強化する ３．暴力を許さない社会づくりに向けた意識啓発を推進する ４．被害者のための相談所や保護施設を整備する ５．あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・家庭・職場で推進する ６．テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現について倫理規定を強化する ７．過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する ８．特に必要なことはない ９．わからない １０．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	101
問２４	あなたは、令和５年 10 月 11 日から大村市でパートナーシップ宣誓制度を開始したことを知っていますか。１つ○をつけてください。	１．知っている ２．言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない ３．知らない	SA	103
問２５	あなたは、「ALLY（アライ）」という言葉を知っていますか。または聞いたことがありますか。１つ○をつけてください。	１．知っている ２．言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない ３．知らない	SA	104

設問		選択肢	回答区分	頁
問２６	ＬＧＢＴＱなどの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るため、性の多様性（SOGI）に関する取組は必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。	１．かなり必要だと思う ２．必要だと思う ３．あまり必要だと思わない ４．必要ではないと思う ５．わからない	SA	105
問２７	【問 26 で「1 かなり必要だと思う」、「2 必要だと思う」と答えた方お答えください】 どのような取組が必要だと思いますか。必要と思うものすべてに○をしてください。	１．広報紙やホームページ、講演会等により、多様な性のあり方についての情報発信や啓発活動を行う ２．学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる ３．教職員や保護者、行政職員等の研修を実施する ４．様々な施策の中に多様性の視点を取り入れる ５．当事者や支援団体と市役所等を交えた意見交換 ６．相談窓口の充実とその周知 ７．法律・条例等に性的少数者の人たちへの偏見や差別解消への取組を明記する ８．社会環境（だれでも使えるトイレや更衣室等）を整備 ９．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	106
【問 25：用語説明】 ＊「ALLY（アライ）」 英語の Ally（支援者、同盟）が語源で、ＬＧＢＴＱなどの性的マイノリティの方たちを、理解し、共感し、寄り添いたい、支援したいと思っている人たちのこと				
□男女共同参画社会の実現に向けて				
問２８	「男女共同参画社会の実現」「女性の活躍促進」を目指して、今後、行政はどのような施策に力をいれていくべきだと思いますか。（○は３つまで）	１．法律、制度の見直し ２．男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・ＰＲを行う ３．地域の女性団体等に関する情報の収集・提供 ４．男性に対し、育児・介護・地域生活へ参画するよう、教育・啓発を行う ５．女性に対し、積極的な社会参画や就労継続のための教育・啓発を行う ６．国・地方公共団体の審議会の委員など政策決定の場に女性を積極的に登用する ７．民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する ８．女性が少ない分野（研究者等）における女性の進出を支援する ９．女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する １０．長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など男女ともに働き方を見直す １１．育児や介護のための施設やサービスを充実する １２．子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する １３．子育てや介護で一旦離職した人の再就職のための情報提供、職業訓練、研修を充実する １４．性に関する被害（セクハラ・ＤＶなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する １５．防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる １６．特に必要なことはない １７．わからない １８．その他（具体的にお書きください：　　）	MA	108

設問		選択肢	回答区分	頁
問２９	大村市には、大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」があります。今後、どのような事業に力を入れるべきだと思われますか。（○は３つまで）	１．男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供 ２．広報紙や市ホームページなどによる啓発 ３．男女共同参画に関する講演会や講座などの開催 ４．男性向けの啓発講座の開催 ５．各種団体や地域で活躍する女性リーダーの育成 ６．市職員に対する啓発講座の開催 ７．ハートパルにあるライブラリー室の貸出書籍・資料等の充実 ８．男女共同参画に関する調査・研究 ９．相談機能の充実 １０．特に必要なことはない １１．わからない １２．その他（具体的にお書きください：　　）	SA	111
男女共同参画社会の実現に向けた市の施策について、ご意見やご要望がありましたら下欄へご記入ください。			FA	113

第2章　調査結果総括

第2章　調査結果総括

【男女共同参画について】

「平等」が最も高いのは「学校教育」の 58.5%、次いで「家庭生活」が 37．9%、「地域活動」が 37.4%と続いており、「社会の通念や慣習・しきたり」が 16.2%で最も低くなっている。

男性と女性の優遇度合いを比べると、すべての項目で男性の優遇度が上回っており、最も差が大きいのは「社会全体」が 59.0 ポイント、次いで「社会の通念や慣習・しきたり」が 58.3 ポイント、「政治や行政の政策・方針決定の場」が 46.6 ポイントと続いている。

男女共同参画に関する言葉のうち最も認知度が高いのは「育児休業制度・介護休業制度」が 87.1%でトップとなっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「肯定」21.8%、「否定」62.9%となっており、「肯定」の理由のトップは「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」が 57.5%となっており、「否定」の理由のトップは「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけず、両者で決めた方が良いから」が 62.6%となっている。また、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかる」が 52.0%でトップであった。

男性の育児休業については、「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が 55.9%でトップ、介護休業も「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が 53.4%でトップとなっており、その理由は「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 60.0%で最も高くなっている。また、仕事と家庭の関係について女性にとっても男性にとっても望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」がトップであるが、現状の男性は「仕事優先」、女性は「地域活動を優先」となっている。

【家庭生活について】

家庭での役割分担で女性の役割は「食事のしたく」は 8 割以上、「洗濯」は 7 割以上、「食料品などの買い物」・「食後の片づけ」・「掃除」は 6 割以上、「育児」・「PTA 活動等学校行事への参加」は 4 割以上が女性の役割となっており、「地域活動への参加」・「高齢者の世話・介護」は女性の役割がやや大きくなっている。

家庭での決定権は「家計の管理」で 6 割以上を女性が管理しており、「土地・家屋の購入」は男性の意向が大きく、「子どもの教育方針や進路」はやや女性の負担が多きものの、夫婦でほぼ同等にかかわりを持っている。また、「介護問題」は女性の負担がやや重い。

育児休業の取得率は 16.3%、介護休業取得率は 2.9%、いずれも女性の取得率が高くなっており、育児休業を取った理由のトップは「積極的に関わるべきだと思ったから」が 55.3%、取らなかった理由のトップは「当時、制度そのものがなかったから」が 35.9%となっており、介護休業を取った理由のトップは「積極的に関わるべきだと思ったから」が 40.5%、取らなかった理由のトップは「養育の対象者がいないからら」が 65.2%となっている。また、今後の取得意向は、育児休業は「取る」が 13.4%、「取らない」が 5.6%、「予定がない」が 72.8%、介護休業は「取る」が 19.4%、「取らない」が 9.0%、「予定がない」が 63.3%となっている。

【女性活躍推進について】

結婚や出産、育児、介護等のライフイベントがあったとき、「女性が働くこと」についての考え方は「結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 36.2%でトップとなっており、結婚や出産、育児、介護等により退職することなく、継続して女性が働くに必要なことは「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由時間勤務制)を導入する」が 46.0%でトップとなっている。また、結婚や出産、育児、介護等に専念するため一旦退職して落ち着いたあと、女性が再就職するために今後必要な事は「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」が 58.4%でトップであった。

今後、政策や方針を決定する場へ女性が参画していくために必要と考えることのトップは「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が 40.1%であった。

【人権（ＤＶ・セクハラ・ＬＧＢＴＱ）について】

ＤＶ被害が最も高かったのは「精神的な暴力・社会的な暴力」の 15.9%、次いで「身体的暴力」が 11.0%、「性的な暴力」が 6.2%、「子どもを利用した暴力」が 5.3%、「経済的な暴力」が 5.2%の順で続いており、ＤＶ被害の相談先は「友人、知人に相談した」が 31.8%でトップであるが、「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった)」は 46.5%で最多となっており、その理由のトップは「相談するほどのことではないと思った」が 36.7%となっている。

セクシュアル・ハラスメントの経験は「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が 27.2%、次いで「容姿について傷つくようなことを言われた」が 20.8%、「卑猥な話を聞かされた」が 18.1%と続いており、その時の対応は「家族・友人・知人に相談した」が 37.2%でトップであったが、「どこ（誰）にも相談しなかった」は 56.1%で最多となっている。また、セクシュアル・ハラスメントやＤＶを防止するために必要な事のトップは「加害者への罰則を強化する」が 61.2%であった。

大村市でパートナーシップ宣誓制度の認知度は 63.5%、「ALLY（アライ)」という言葉の認知度は 15.0%となっている。

性の多様性（SOGI）に関する取組は「必要」が 57.8%、「不要」が 19.4%となっており、必要な取り組みは「学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる」が 65.8%で最も高く、次いで「様々な施策の中に多様性の視点を取り入れる」が 48.0%、「広報紙やホームページ、講演会等により、多様な性のあり方についての情報発信や啓発活動を行う」が 39.1%と続いている。

【男女共同参画社会の実現に向けて】

今後、行政が力をいれていくべき施策は「子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する」が 34.9%で最も高く、次いで「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など男女ともに働き方を見直す」が 30.3%、「法律、制度の見直し」が 28.1%と続いている。

今後、大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」が力をいれていくべき事業は「男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供」が 44.6%で最も高く、次いで「広報紙や市ホームページなどによる啓発」が 31.0%、「相談機能の充実」が 25.1%と続いている。

第3章　調査結果

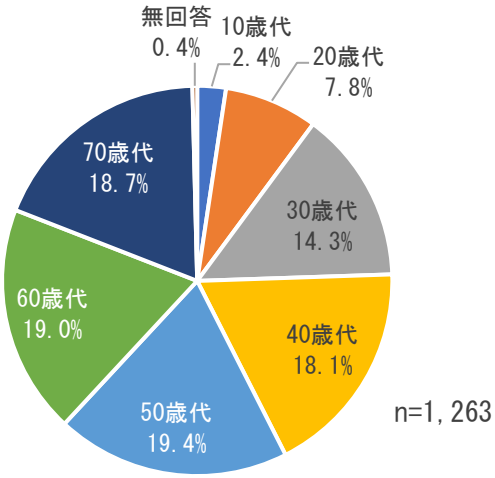
第3章　調査結果

1. 回答者属性

1．あなたの年齢をお尋ねします。（令和８年１月１日現在の年齢）（○は１つ）

年齢は「50 歳代」が 19.4%で最も高く、次いで「60 歳代」が 19.0%、「70 歳代」が 18.7%と続いており、おおよそ大村市の対象年代別人口と同様の回答となっている。

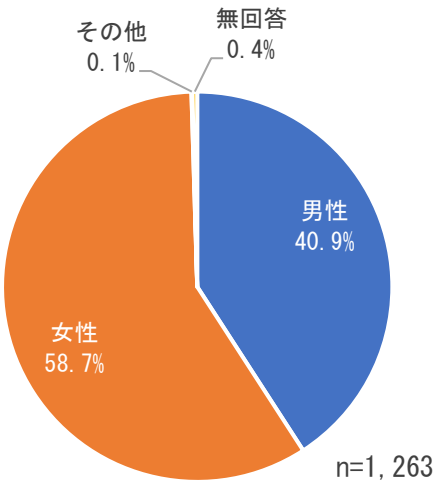
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	10 歳代	30	2.4
2	20 歳代	98	7.8
3	30 歳代	181	14.3
4	40 歳代	228	18.1
5	50 歳代	245	19.4
6	60 歳代	240	19.0
7	70 歳代	236	18.7
9	無回答	5	0.4
	N　(%ﾍﾞｰｽ)	1263	100



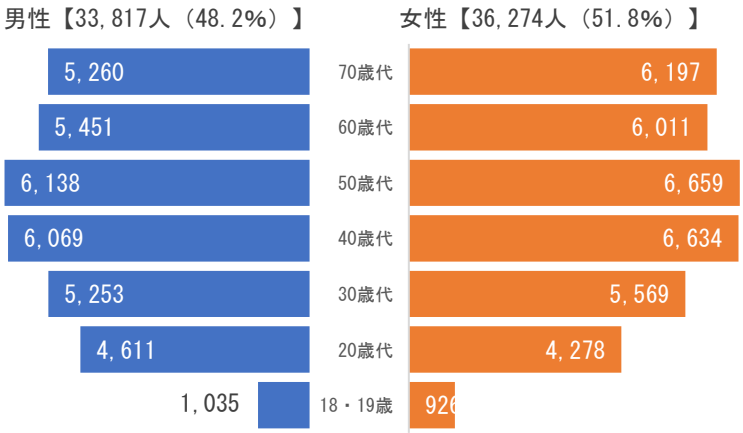
2．あなたの性別をお尋ねします。（ご自分の認識でお答えください。）（○は１つ）

「男性」が 40.9%、「女性」が 58.7%となっており、大村市の対象人口の割合よりもやや女性が多い回答となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男性	516	40.9
2	女性	741	58.7
3	回答しない	1	0.1
4	無回答	5	0.4
	N　(%ﾍﾞｰｽ)	1263	100



調査対象人口ピラミッド

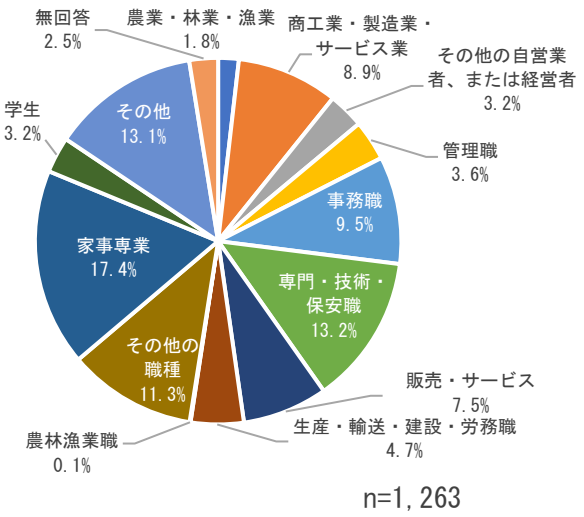


※R6 年 10 月 1 日　出典：長崎県市町別年齢別推計人口

3．あなたの現在の職業をお答えください。該当する番号（1～13）１つに○をつけてください。
なお、4～10 の場合は、その右の欄にも○をつけてください。（○は１つ）

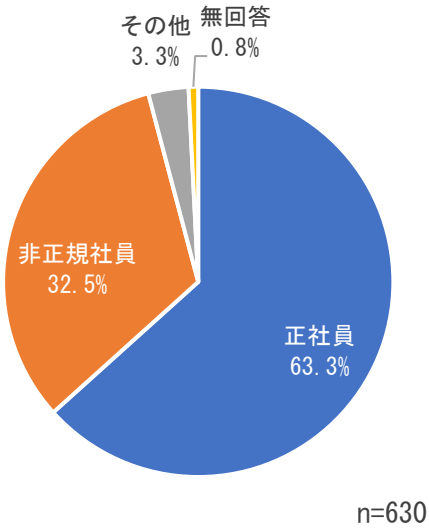
「家事専業」が 17.4%で最も高く、次いで「専門・技術・保安職」が 13.2%、「その他」が 13.1%と続いており、雇用されている方のうち「正社員」が 63.3%、「非正規社員」が 32.5%となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業・林業・漁業	23	1.8
2	商工業・製造業・サービス業	113	8.9
3	その他の自営業者、または経営者	40	3.2
4	管理職	45	3.6
5	事務職	120	9.5
6	専門・技術・保安職	167	13.2
7	販売・サービス	95	7.5
8	生産・輸送・建設・労務職	59	4.7
9	農林漁業職	1	0.1
10	その他の職種	143	11.3
11	家事専業	220	17.4
12	学生	40	3.2
13	その他	165	13.1
14	無回答	32	2.5
	N （%ﾍﾞｰｽ）	1263	100



その仕事は

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	正社員	399	63.3
3	非正規社員	205	32.5
4	その他	21	3.3
5	無回答	5	0.8
	N （%ﾍﾞｰｽ）	630	100

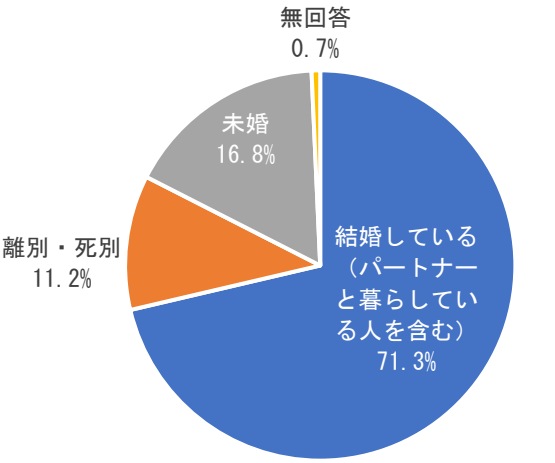


４．あなたは、現在結婚していますか。（○は１つ）

「結婚している（パートナーと暮らしている人を含む）」が 71.3%、「離別・死別」が 11.2%、「未婚」が 16.8%となっている

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	結婚している	901	71.3
2	離別・死別	141	11.2
3	未婚	212	16.8
9	無回答	9	0.7
	N （%ﾍﾞｰｽ）	1263	100

※結婚している＝パートナーと暮らしている人を含む

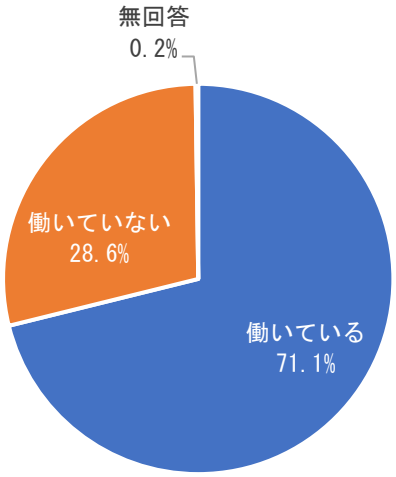


n=1,263

４－１．あなたの配偶者・パートナーは、今、働いていますか。（○は１つ）

「働いている」が 71.1%、「働いていない」が 28.6%となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	働いている	641	71.1
2	働いていない	258	28.6
3	無回答	2	0.2
	N （%ﾍﾞｰｽ）	901	100

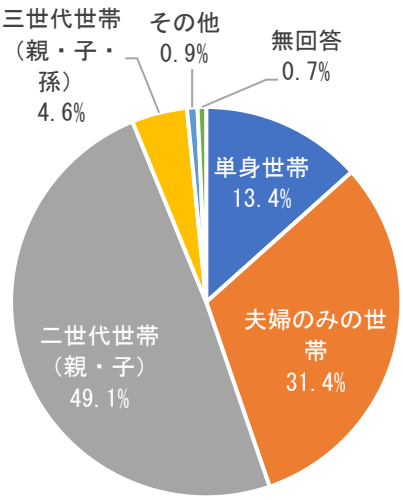


n=901

５．あなたの世帯は、次のどれに当てはまりますか。（○は１つ）

「二世代世帯（親・子）」が 49.1%で最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が 31.4%、「単身世帯」が 13.4%、「三世代世帯（親・子・孫）」が 4.6%、「その他」が 0.9%の順となっている。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	単身世帯	169	13.4
2	夫婦のみの世帯	396	31.4
3	二世代世帯（親・子）	620	49.1
4	三世代世帯（親・子・孫）	58	4.6
5	その他	11	0.9
9	無回答	9	0.7
	N （%ﾍﾞｰｽ）	1263	100



n=1,263

2. 設問回答

【男女共同参画について】

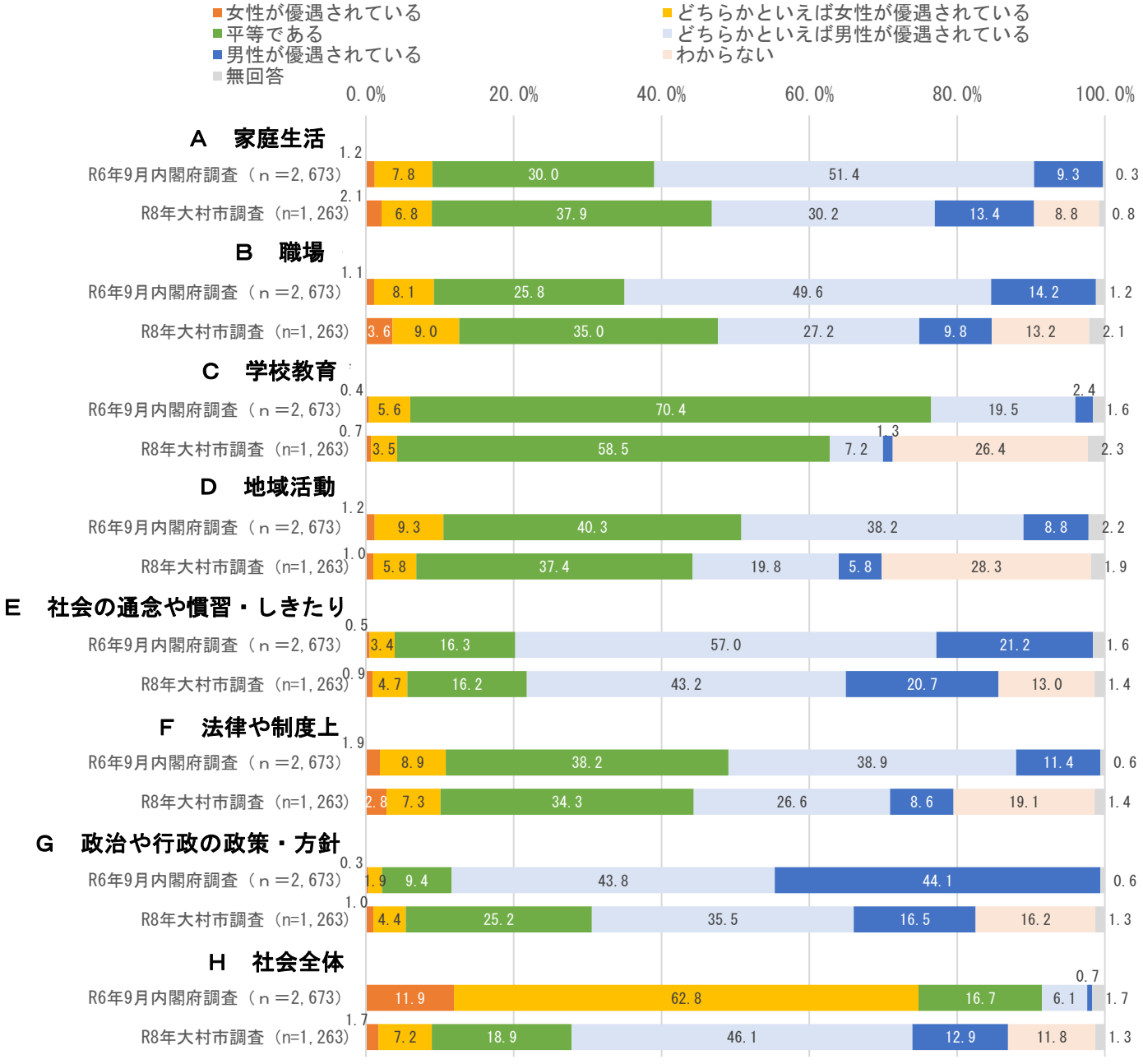
【全員がお答えください】

問 1　あなたは、次のような分野で、男女は平等になっていると思いますか。A～Hのそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。（SA）

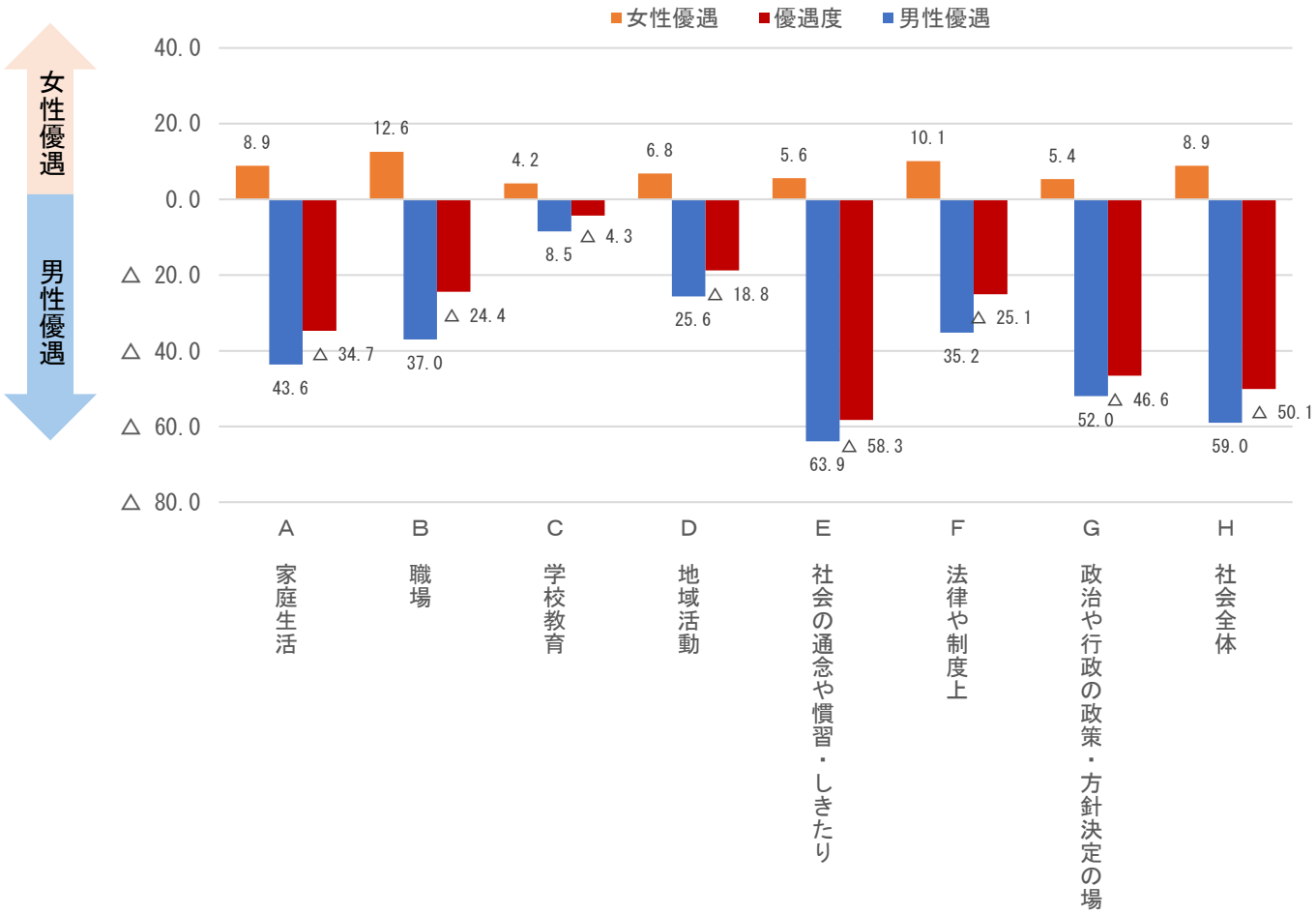
平等は「学校教育」が 58.5%でトップ

「平等」が最も高いのは「学校教育」の 58.5%、次いで「家庭生活」が 37.9%、「地域活動」が 37.4%と続いており、「社会の通念や慣習・しきたり」が 16.2%で最も低くなっている。

「平等」が平成 6 年の内閣府調査と比べ低くなっているのは「政治や行政の政策・方針決定の場」が▲15.8 ポイント、「職場」が▲9.2 ポイント、「家庭生活」が▲7.9 ポイント、「社会全体」が▲2.2 ポイントとなっている。一方、今回結果が内閣府調査を上回ったのは、「学校教育」が 11.9 ポイント、「法律や制度上」が 3.9 ポイント、「地域活動」が 2.9 ポイント、「社会の通念や慣習・しきたり」が 0.1 ポイントとなっている。



男性と女性の優遇度合いを比べると、すべての項目で男性の優遇度が上回っており、最も差が大きのは「社会の通念や慣習・しきたり」が 58.3 ポイント、次いで「社会全体」が 50.1 ポイント、「政治や行政の政策・方針決定の場」が 46.6 ポイントと続いている。



優遇度算出式

（「女性の方が優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）－（「どちらかといえば男性の方が優遇されている」+「男性の方が優遇されている」）が、R1 年以前は「わからない」の選択肢があるため単純比較はできない。

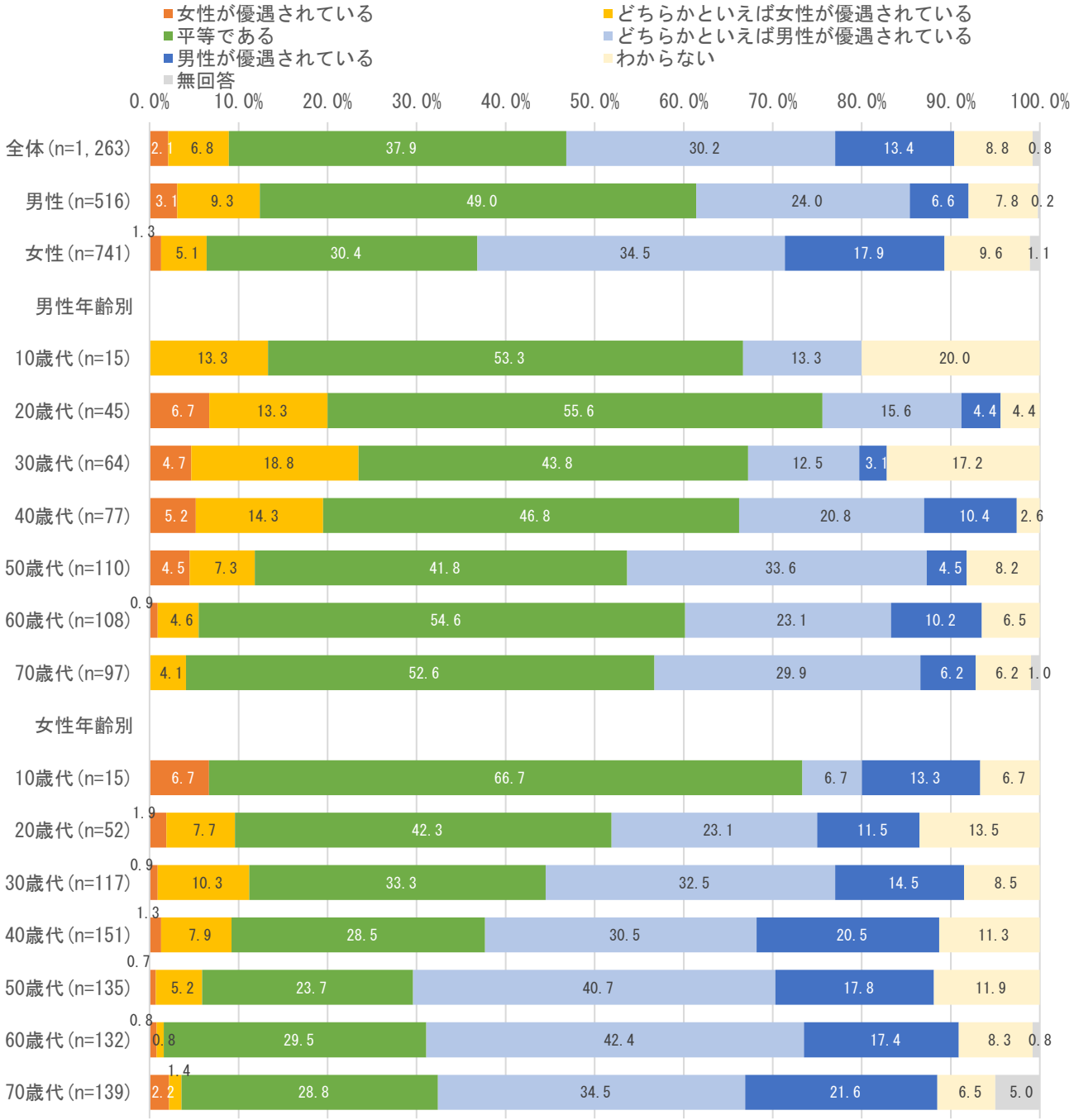
A　家庭生活

「女性優遇」が 8.9%、「平等」が 37.9%、「男性優遇」が 43.6%

「平等である」が 37.9%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 30.2%、「男性が優遇されている」が 13.4%と続いており、「男性優遇（「どちらかといえば男性が優遇されている」＋「男性が優遇されている」）」が 43.6%、「女性優遇（「どちらかといえば女性が優遇されている」＋「女性が優遇されている」）」が 8.9%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「平等」で 18.6 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 21.8 ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて女性は年代の上昇とともに「平等」は減少の傾向がみられ、「男性優遇」は増加の傾向がみられる。また、男性の「平等」はバラツキがあり 20 歳代が最も高く、「女性優遇」は年代の上昇とともに減少している。**（※10・20 歳代は母数が著しく少ないため考察には含めていない。以降同様）**



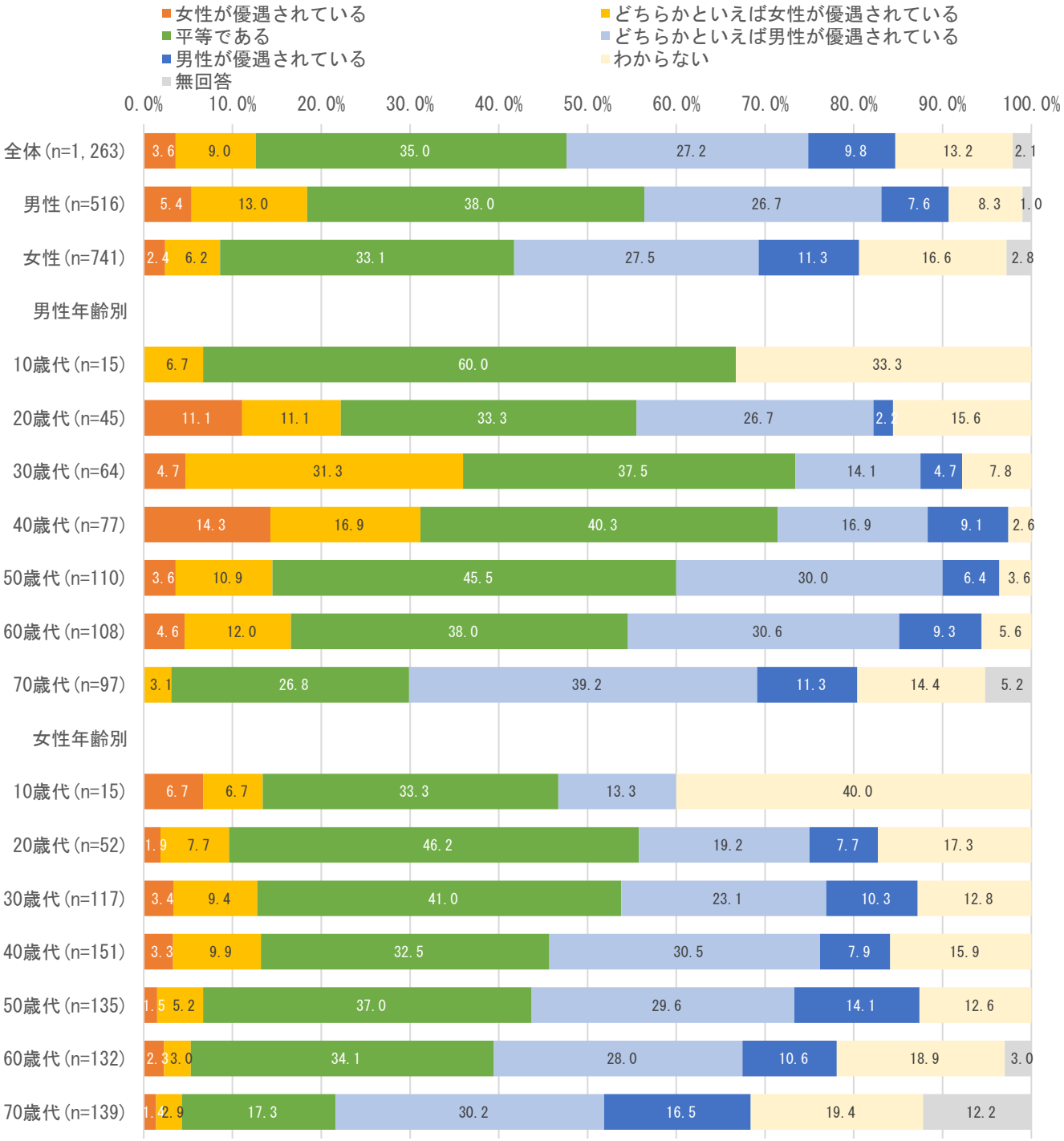
B　職場

「女性優遇」が 12.6%、「平等」が 35.0%、「男性優遇」が 37.0%

「平等である」が 35.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 27.2%、「わからない」が 13.2%と続いており、「男性優遇」が 37.0%、「女性優遇」が 12.6%となっている。

性別でみると男女間の差は「女性優遇」で 9.8 ポイント「平等」で 4.9 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 4.5 ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて女性は年代の上昇とともに「平等」は減少しており、「男性優遇」は男女ともに年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



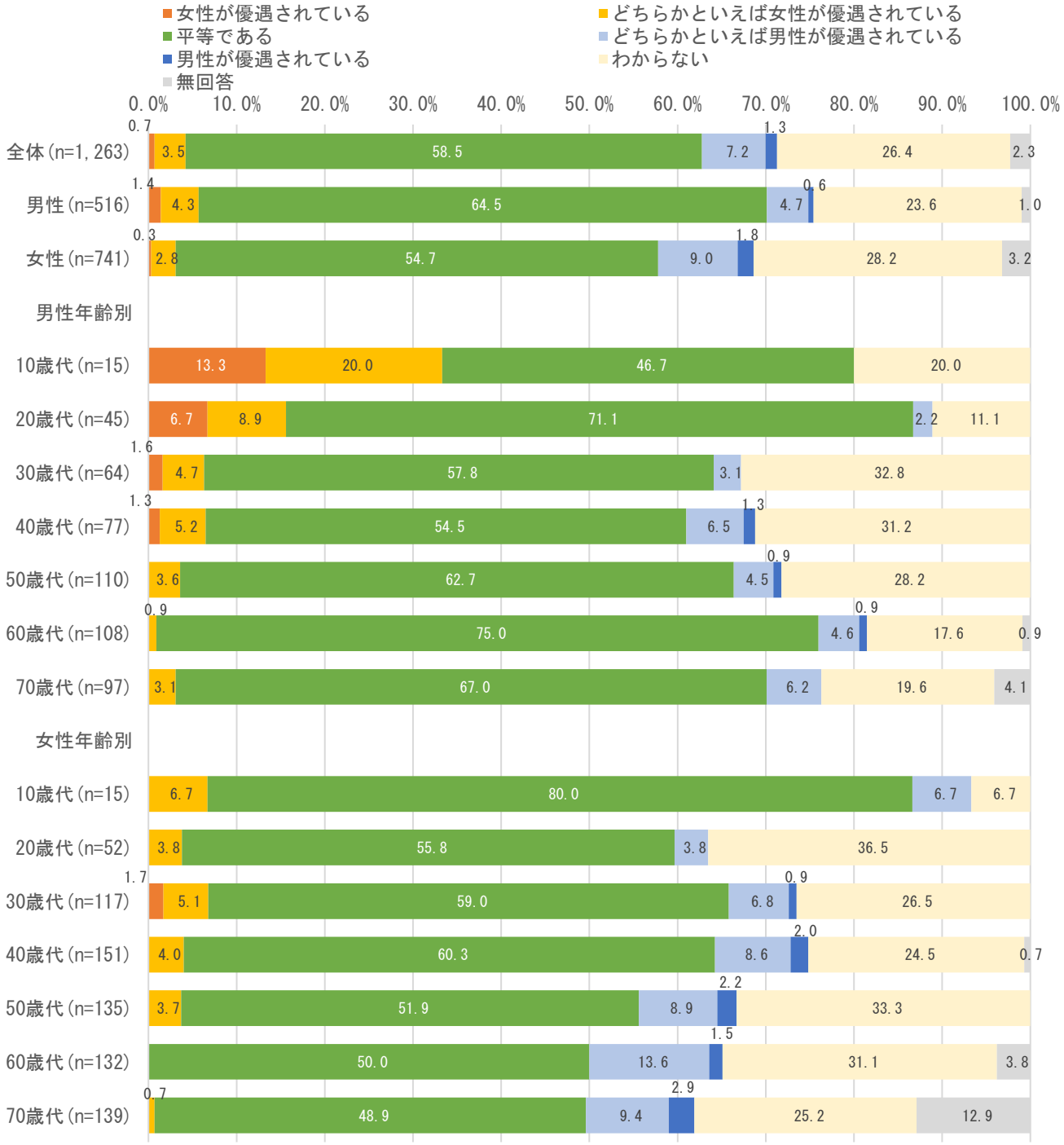
C　学校教育

「女性優遇」が 4.2%、「平等」が 58.5%、「男性優遇」が 8.5%

「平等である」が 58.5%で最も高く、次いで「わからない」が 26.4%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が 7.2%と続いており、「男性優遇」が 8.5%、「女性優遇」が 4.2%となっている。

性別でみると男女間の差は、「平等」で 9.8 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 5.5 ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて女性で「平等」は 40 歳代まで増加、以降は年代の上昇とともに減少しており、「男性優遇」は年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。男性の「平等」はバラツキがあり 60 歳代が最も高く、「女性優遇」は年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。



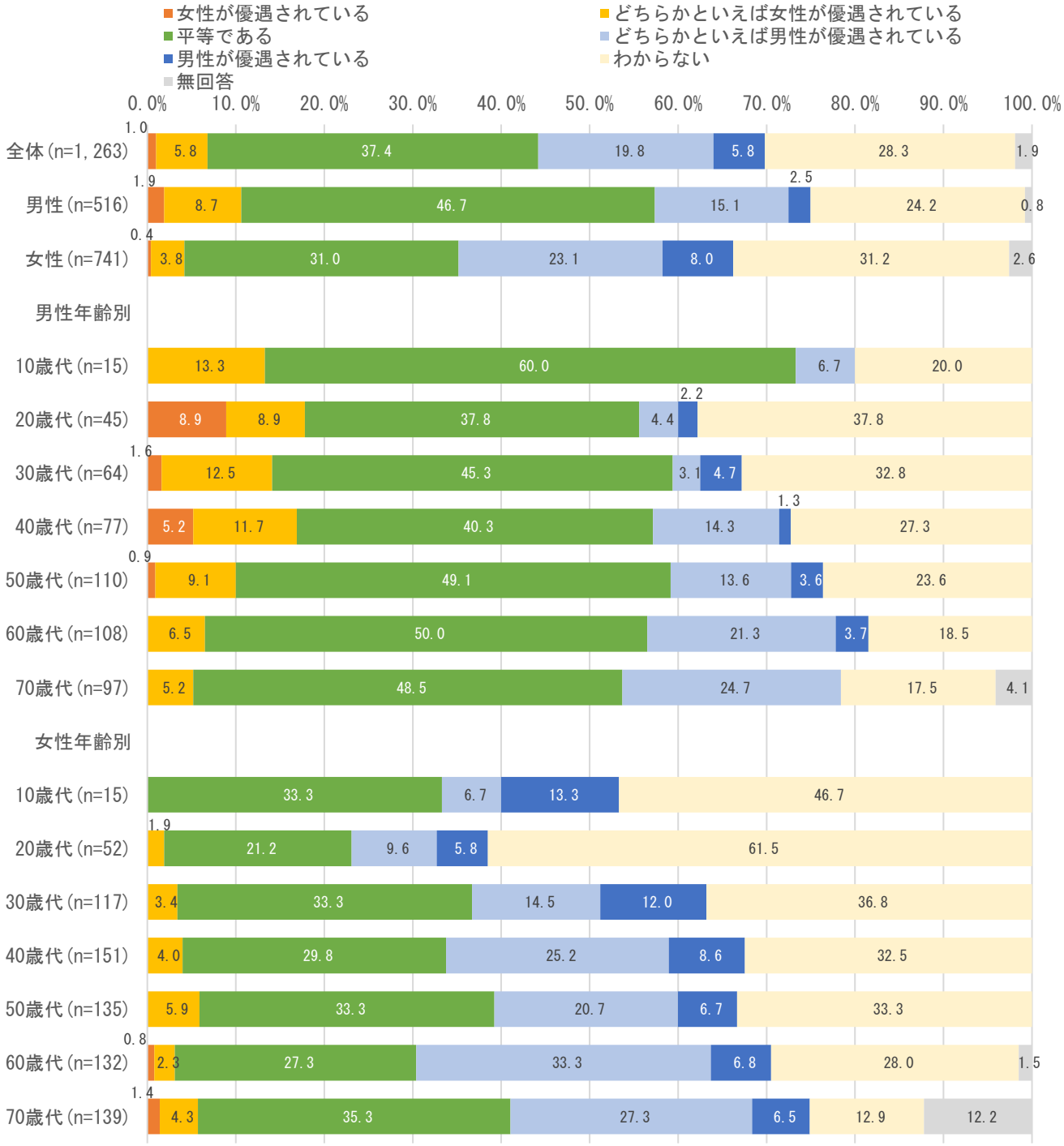
D　地域活動

「女性優遇」が6.8%、「平等」が37.4%、「男性優遇」が25.6%

「平等である」が37.4%で最も高く、次いで「わからない」が28.3%、「どちらかといえば男性が優遇されている」が19.8%と続いており、「男性優遇」が25.6%、「女性優遇」が6.8%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「平等」で15.7ポイント女性が低く、「男性優遇」で13.5ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて「平等」は年代によるバラツキがみられるものの男性が高く、「男性優遇」は男女ともに年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



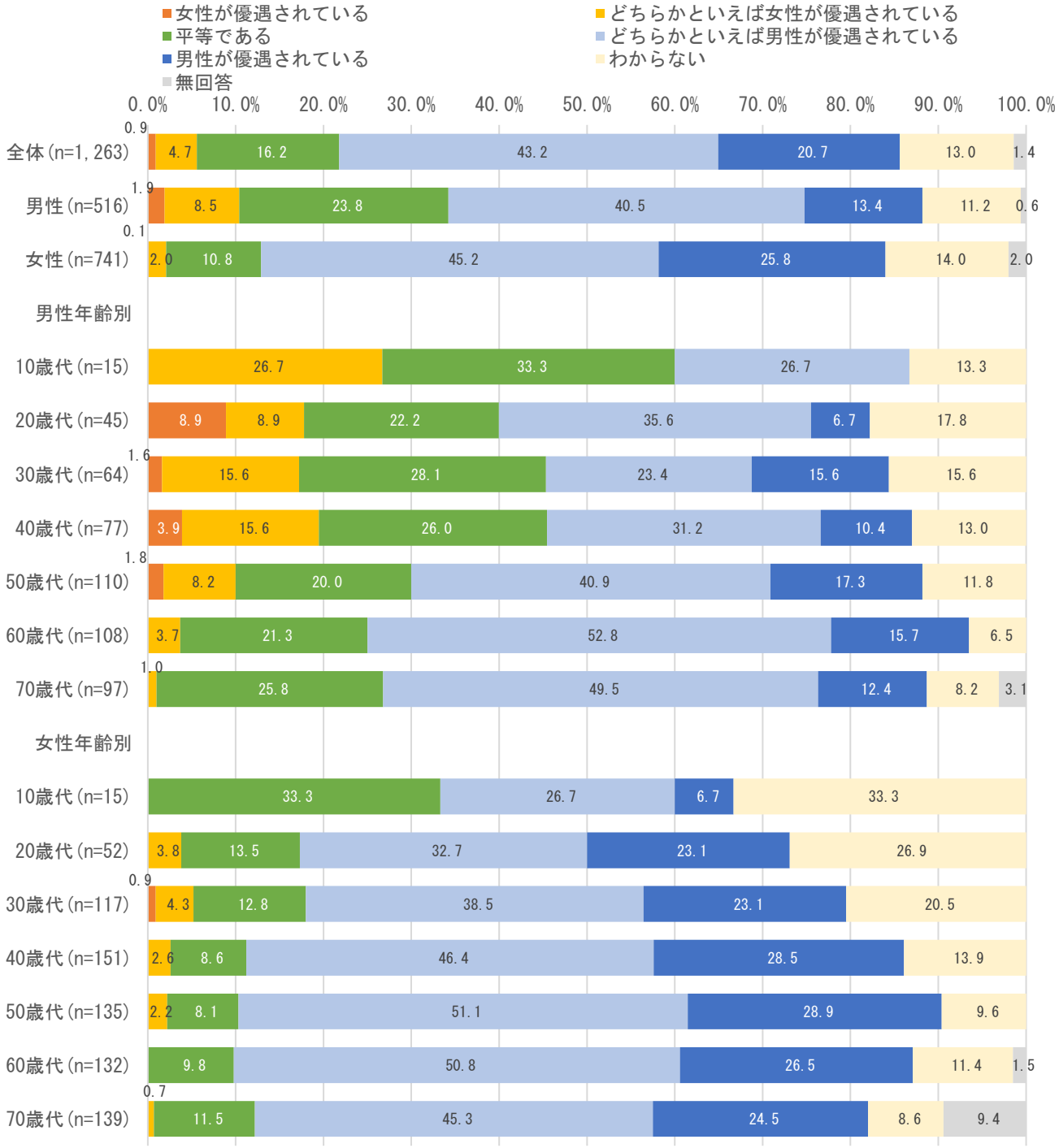
E　社会の通念や慣習・しきたり

「女性優遇」が5.6%、「平等」が16.2%、「男性優遇」が63.9%

「どちらかといえば男性が優遇されている」が43.2%で最も高く、次いで「男性が優遇されている」が20.7%、「平等」が16.2%と続いており、「男性優遇」が63.9%、「女性優遇」が5.6%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「平等」で13.0ポイント女性が低く、「男性優遇」で17.1ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて「平等」は男女ともに年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、「男性優遇」は男女ともに40歳代以降、年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



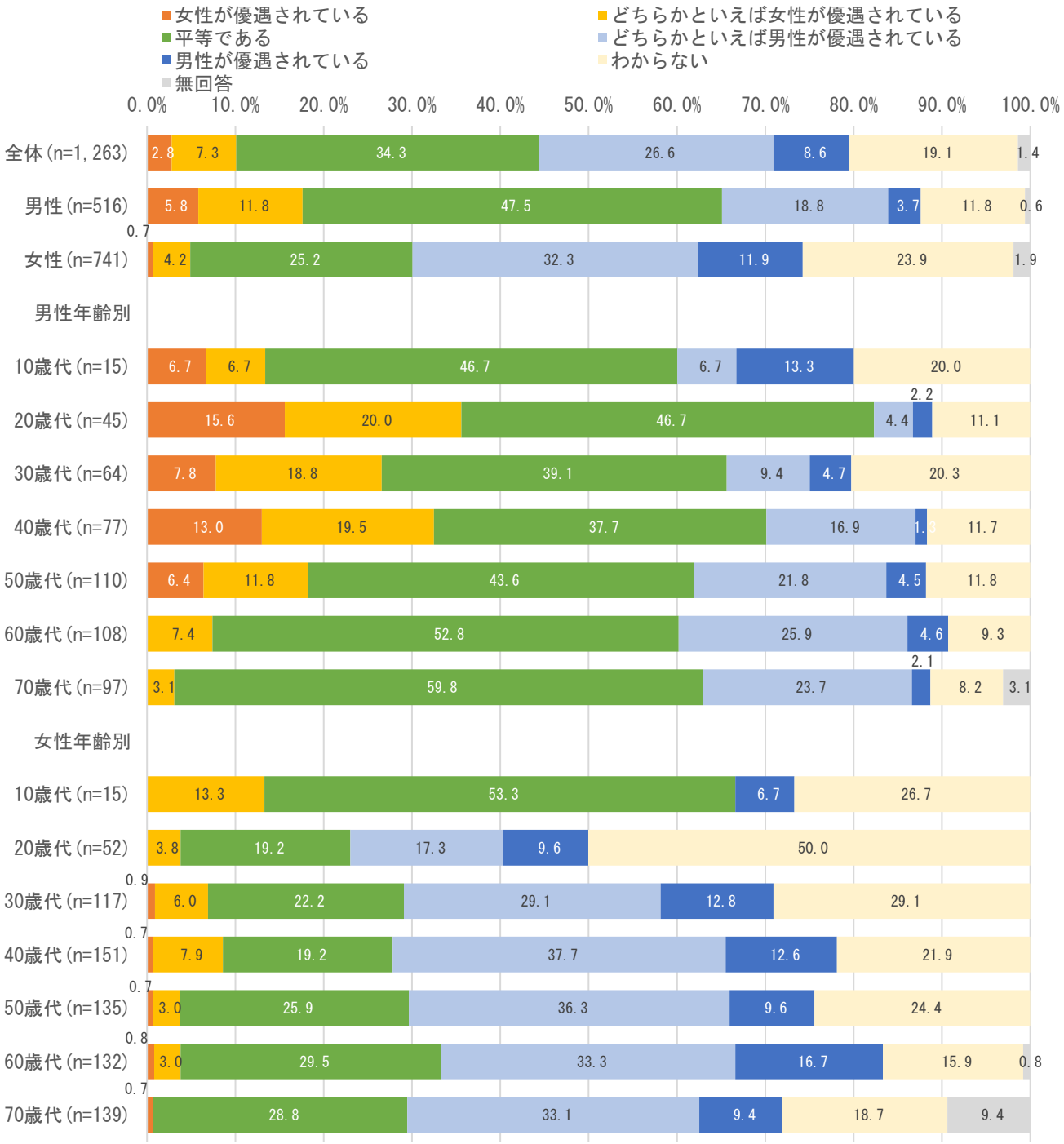
F　法律や制度上

「女性優遇」が 10.1%、「平等」が 34.3%、「男性優遇」が 35.2%

「平等である」が 34.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば男性が優遇されている」が 26.6%、「わからない」が 19.1%と続いており、「男性優遇」が 35.2%、「女性優遇」が 10.1%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「女性優遇」で 12.7 ポイント、「平等」で 22.3 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 21.7 ポイント女性が低くなっている。

性別・年代別にみて「平等」は年代によるバラツキがみられるものの男性が高く、「男性優遇」は男性で年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、女性はバラツキがあり 40 歳代が最も高くなっている。



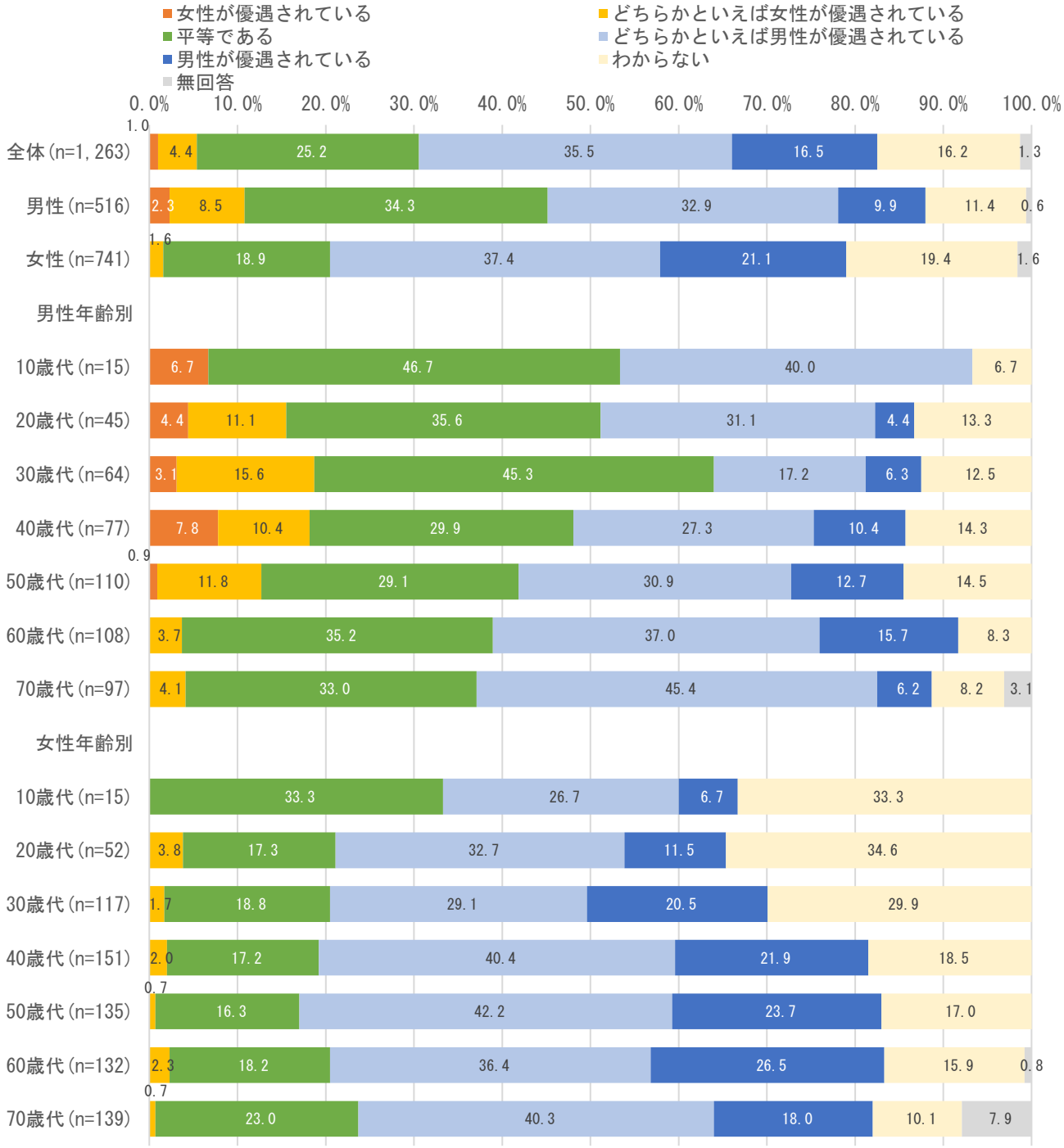
G　政治や行政の政策・方針決定の場

「女性優遇」が 5.4%、「平等」が 25.2%、「男性優遇」が 52.0%

「どちらかといえば男性が優遇されている」が 35.5%で最も高く、次いで「平等である」が 25.2%、「男性が優遇されている」が 16.5%と続いており、「男性優遇」が 52.0%、「女性優遇」が 5.4%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「平等」で 15.4 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 15.7 ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて「平等」は年代によるバラツキがみられるものの男性が高く、「男性優遇」は男性で年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、女性は 50 歳代まで増加、以降で減少している。



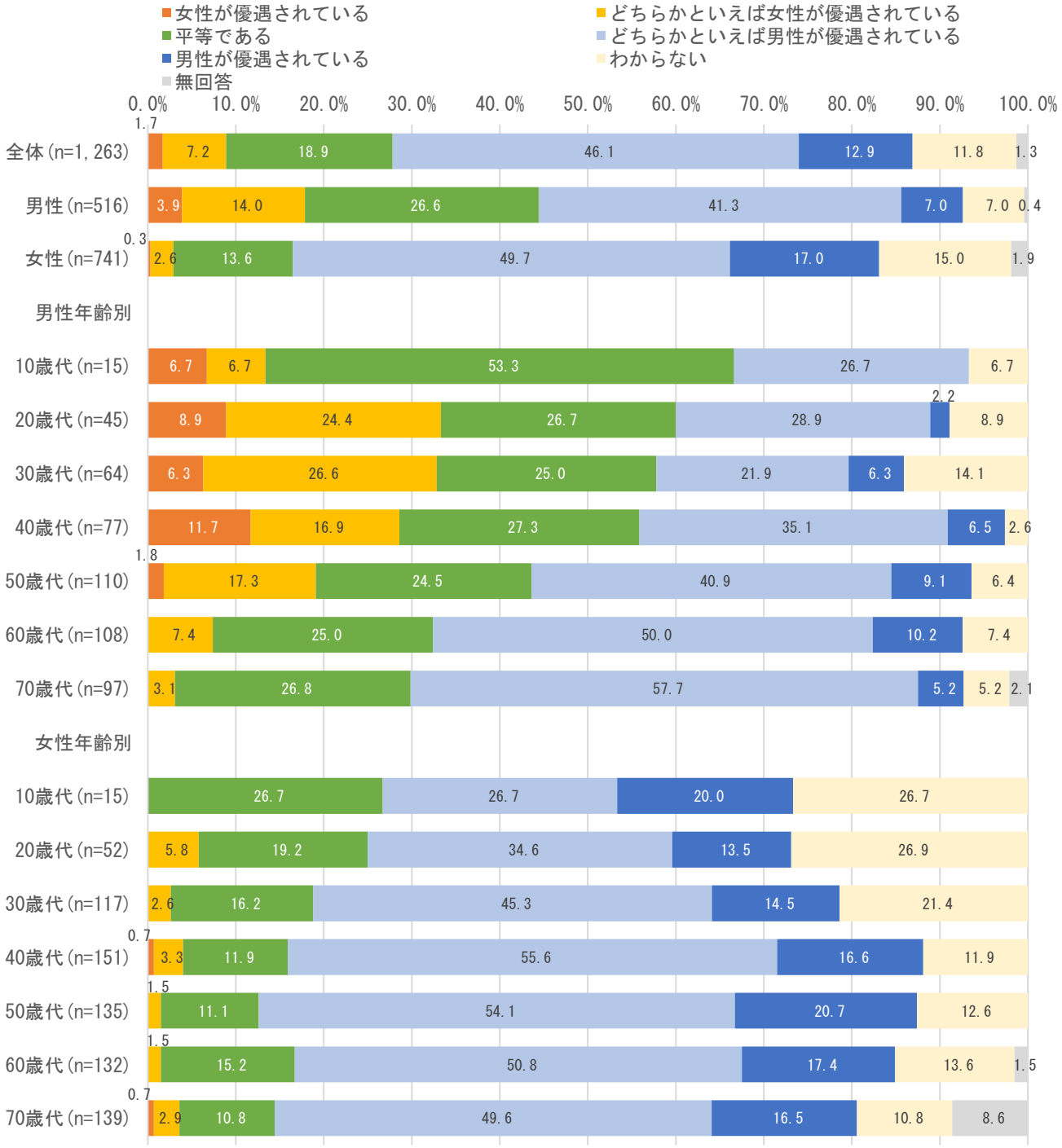
H　社会全体

「女性優遇」が 8.9%、「平等」が 18.9%、「男性優遇」が 59.0%

「どちらかといえば男性が優遇されている」が 46.1%で最も高く、次いで「平等である」が 18.9%、「男性が優遇されている」が 12.9%と続いており、「男性優遇」が 59.0%、「女性優遇」が 8.9%となっている。

性別でみると男女間の乖離が大きく、「女性優遇」で 15.0 ポイント、「平等」で 13.0 ポイント女性が低く、「男性優遇」で 18.4 ポイント女性が高くなっている。

性別・年代別にみて「平等」は年代によるバラツキがみられるものの男性が高く、「男性優遇」は男性で年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、女性は 50 歳代まで増加、以降で減少している。



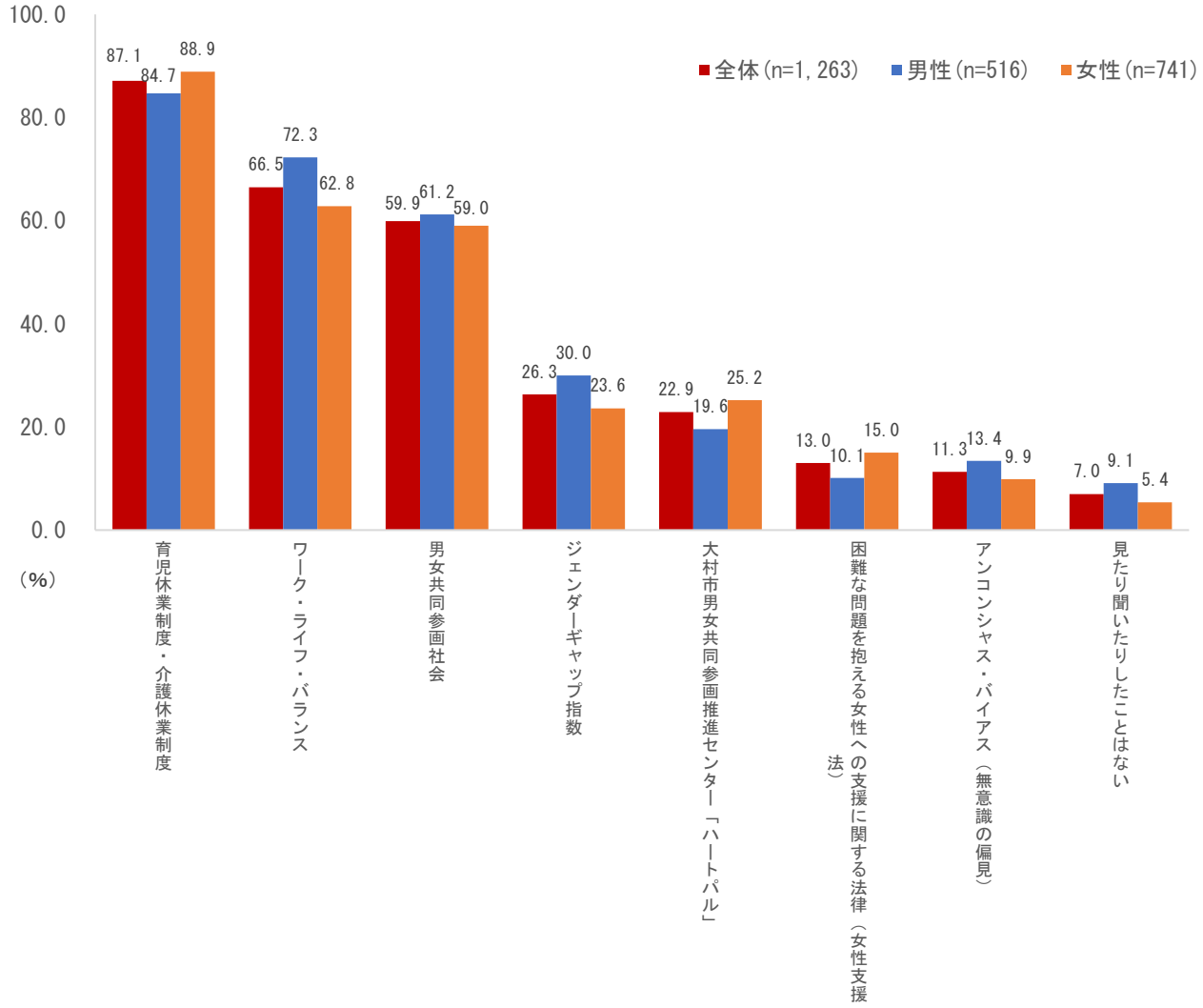
【全員がお答えください】

問２　次の 1～7の男女共同参画に関する言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉をすべて選び〇で囲んでください。（MA）

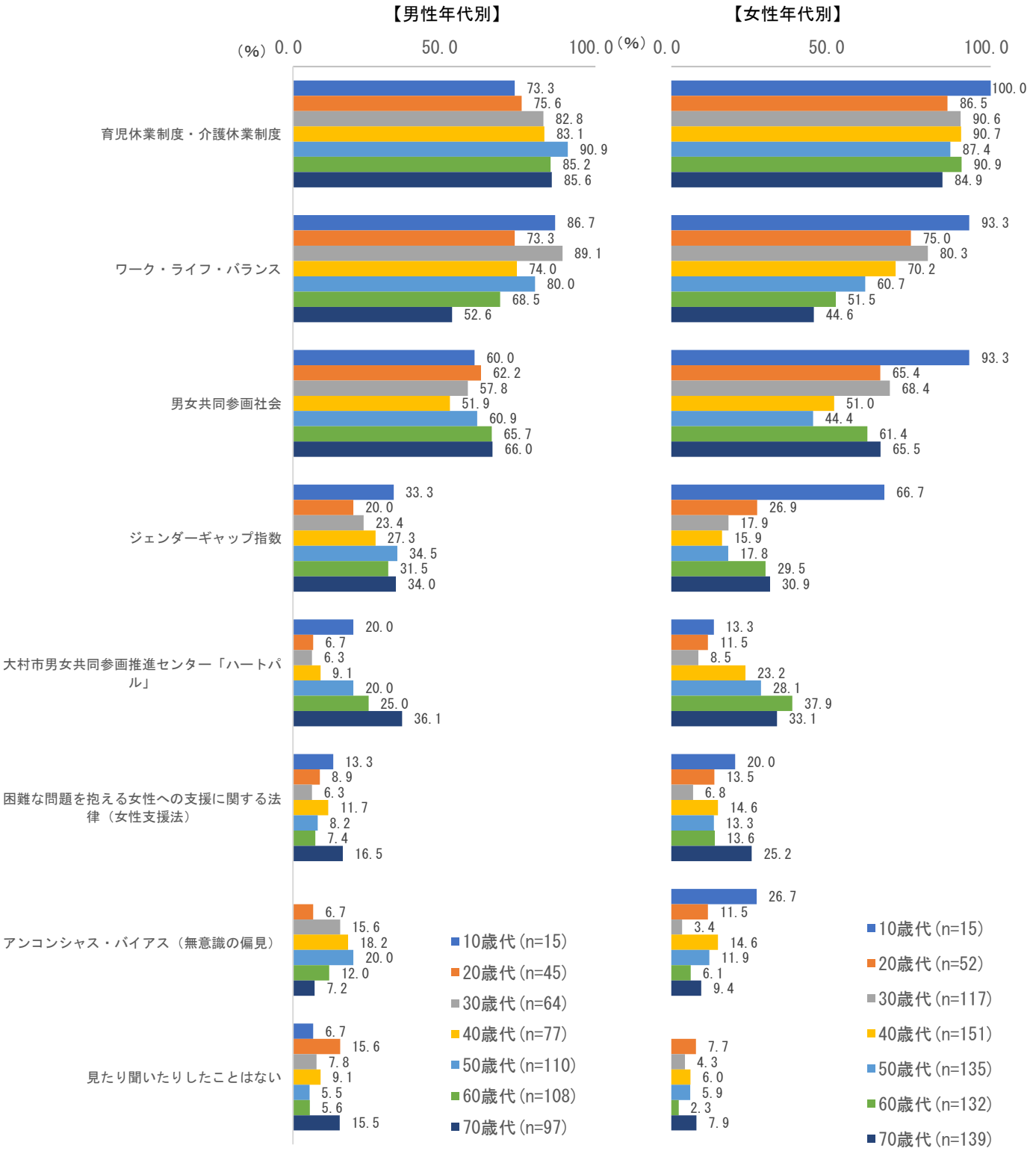
「育児休業制度・介護休業制度」が 87.1%でトップ

「育児休業制度・介護休業制度」が 87.1%で最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランス」が 66.5%、「男女共同参画社会」が 59.9%と続いている。

性別で上位項目に傾向の相違はみられず、男女間の差がみられるのは「ワーク・ライフ・バランス」で男性が 9.5 ポイント高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「育児休業制度・介護休業制度」は子育て世代の 20・30・40 歳代で男性よりも女性が多く回答する傾向がみられ、全体 2 位項目の「ワーク・ライフ・バランス」は 30・40・50 歳代で女性よりも男性が多く回答する傾向がみられる。また、全体 3 位項目の「男女共同参画社会」は 40 歳代以上で「女性」よりも「男性」が多く回答する傾向がみられる。



【全員がお答えください】

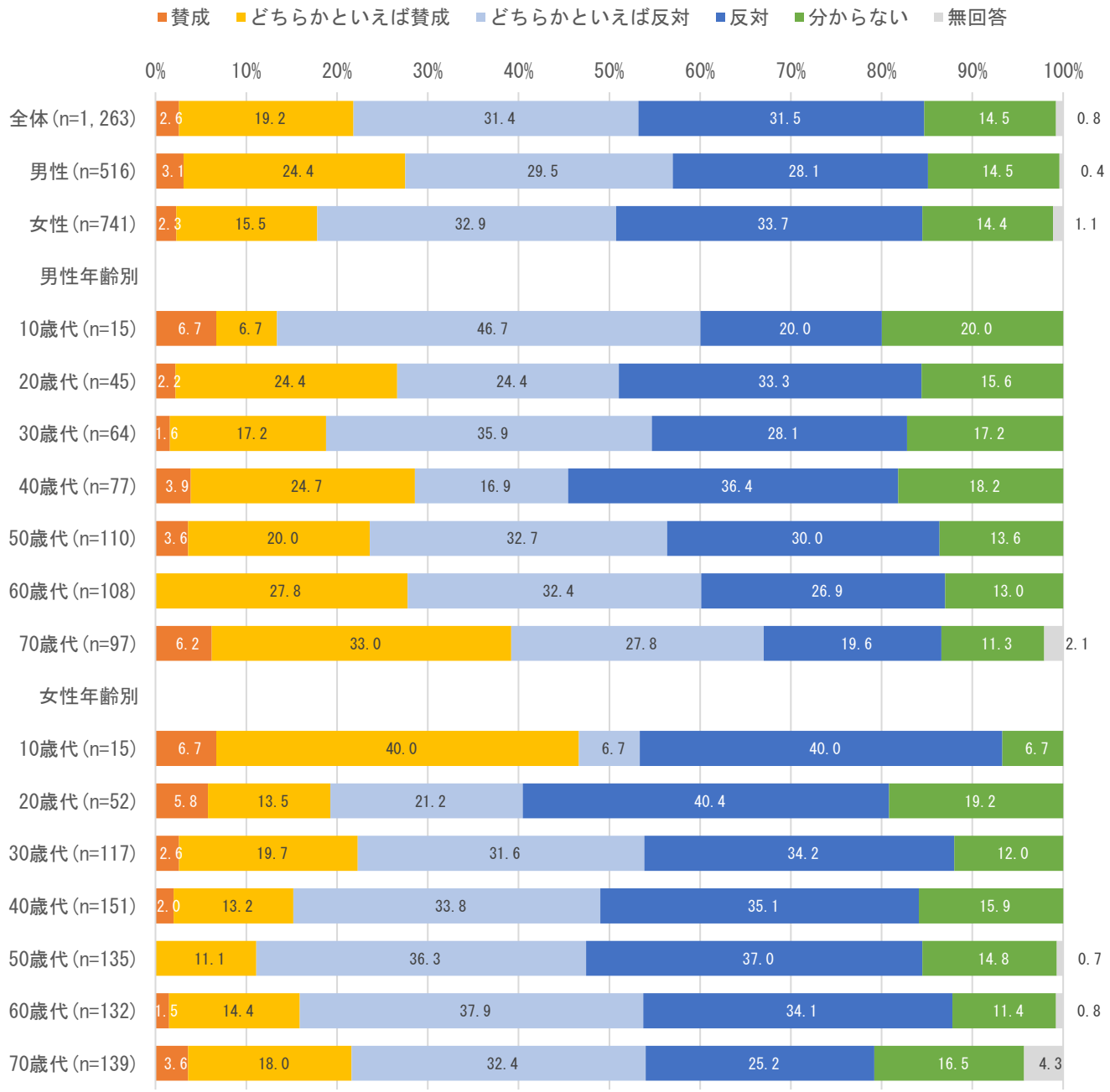
問３　あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。（SA）

「肯定」21.8%、「否定」62.9%

「反対」が 31.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば反対」が 31.4%、「どちらかといえば賛成」が 19.2%と続いており「否定（「反対」＋「どちらかといえば反対」）」は 62.9%、「肯定（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）」は 21.8%となっている。

性別での傾向は変わらないが、「否定」は男性が 9.0 ポイント高くなっている。

性別・年代別にみるとバラツキはあるものの傾向の相違はみられない。「肯定」は男性で 70 歳代、女性は 30 歳代が最も高く、「否定」は男性が 30 歳代、女性は 50 歳代が最も高くなっている。

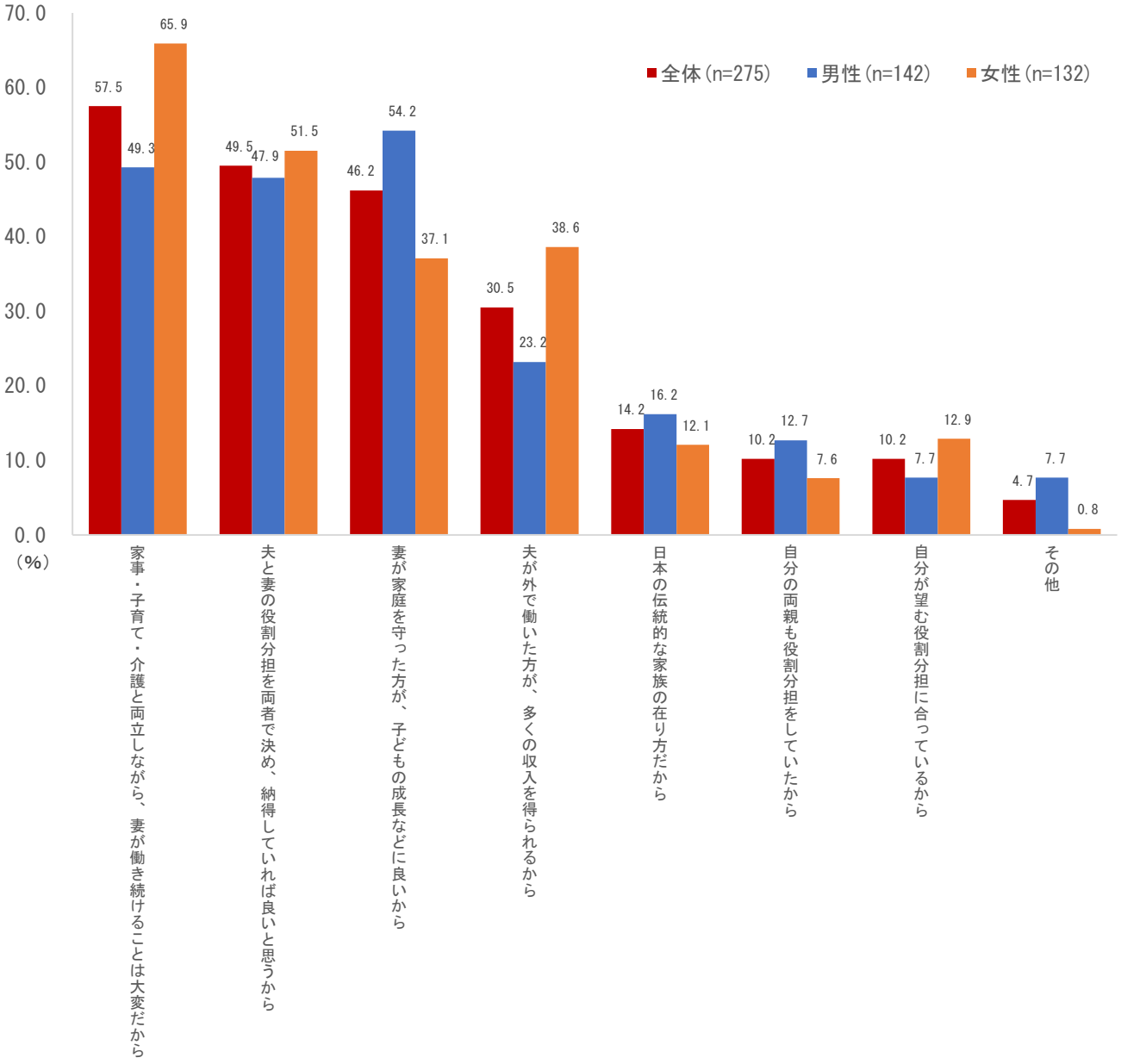


【※問３で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と答えた方がお答えください】
問３−１　「賛成」「どちらかといえば賛成」と思うのはなぜですか。（○は３つまで）（MA）

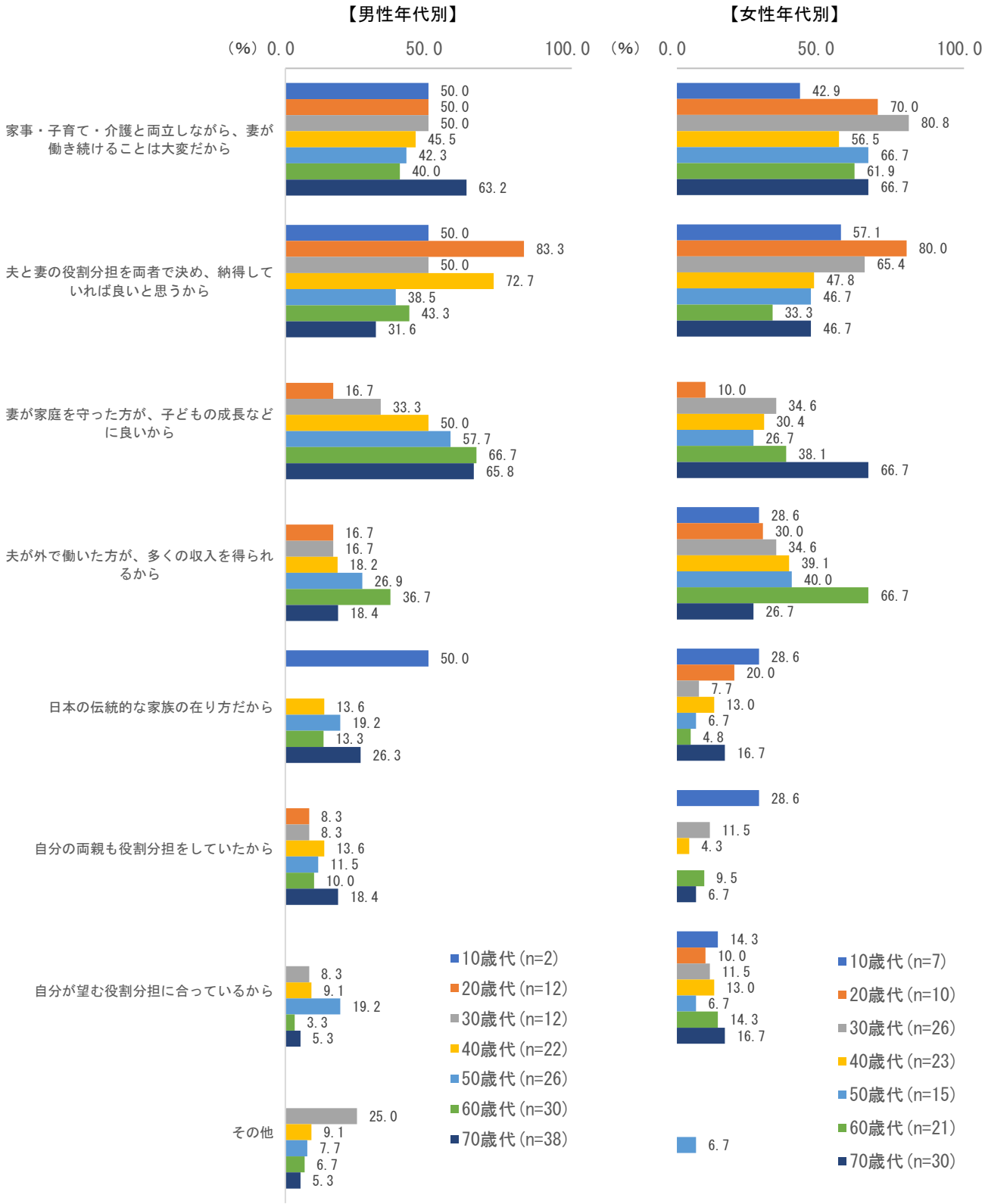
「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」が 57.5%でトップ

「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」が 57.5%で最も高く、次いで「夫と妻の役割分担を両者で決め、納得していれば良いと思うから」が 49.5%、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」が 46.2%と続いている。

性別で上位 3 項目に変わりはみられないが、男性で「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」が 1 位項目となっている。また、男女の差をみると「家事・子育て・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だから」で 16.6 ポイント、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られるから」で 15.4 ポイント、「夫と妻の役割分担を両者で決め、納得していれば良いと思うから」で 3.6 ポイント女性が高く、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などに良いから」は 17.1 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別は各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

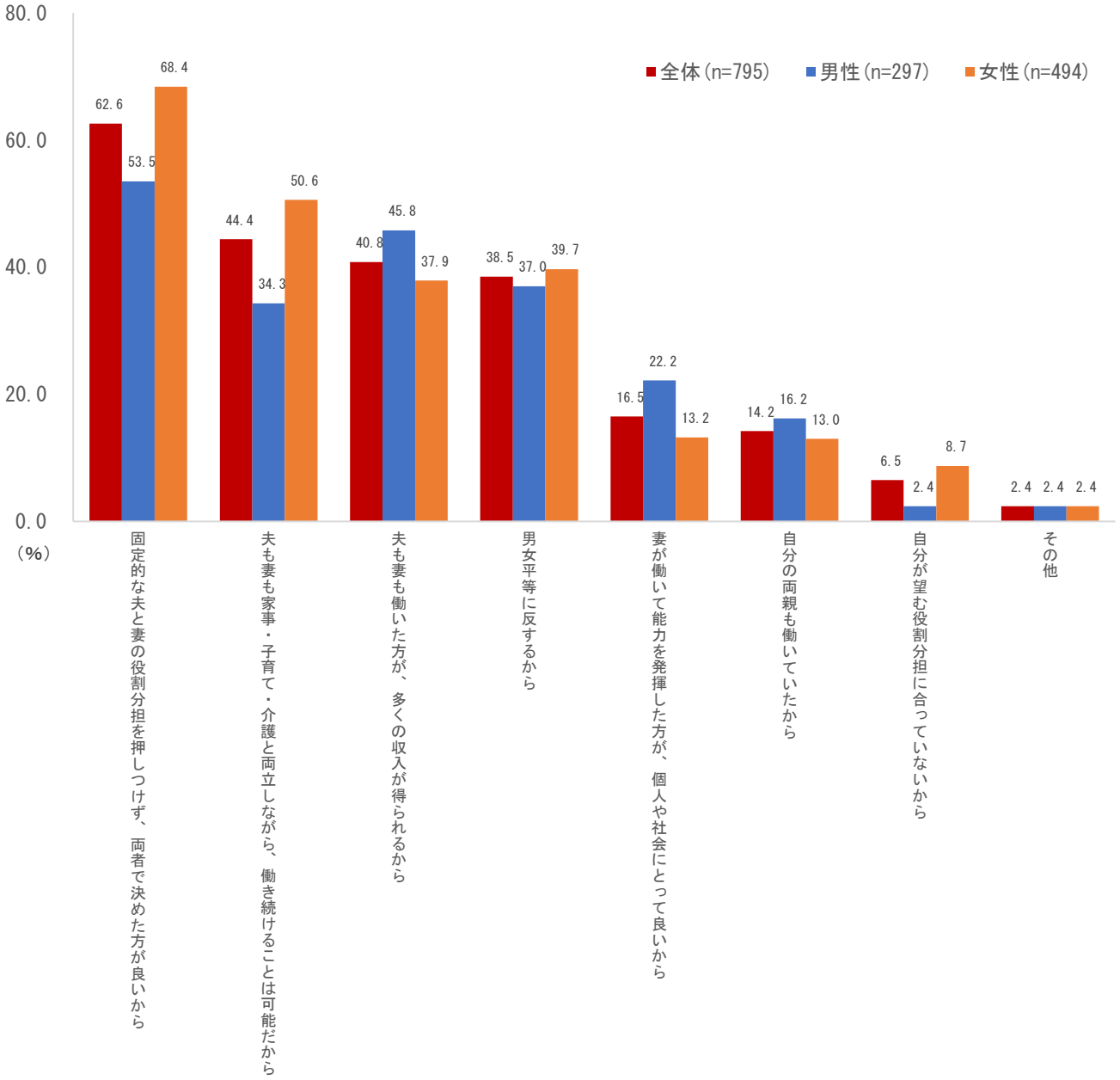


【※問３で「反対」または「どちらかといえば反対」と答えた方がお答えください】
問３−２　「反対」「どちらかといえば反対」と思うのはなぜですか。（○は３つまで）（MA）

「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけず、両者で決めた方が良いから」が 62.6%でトップ

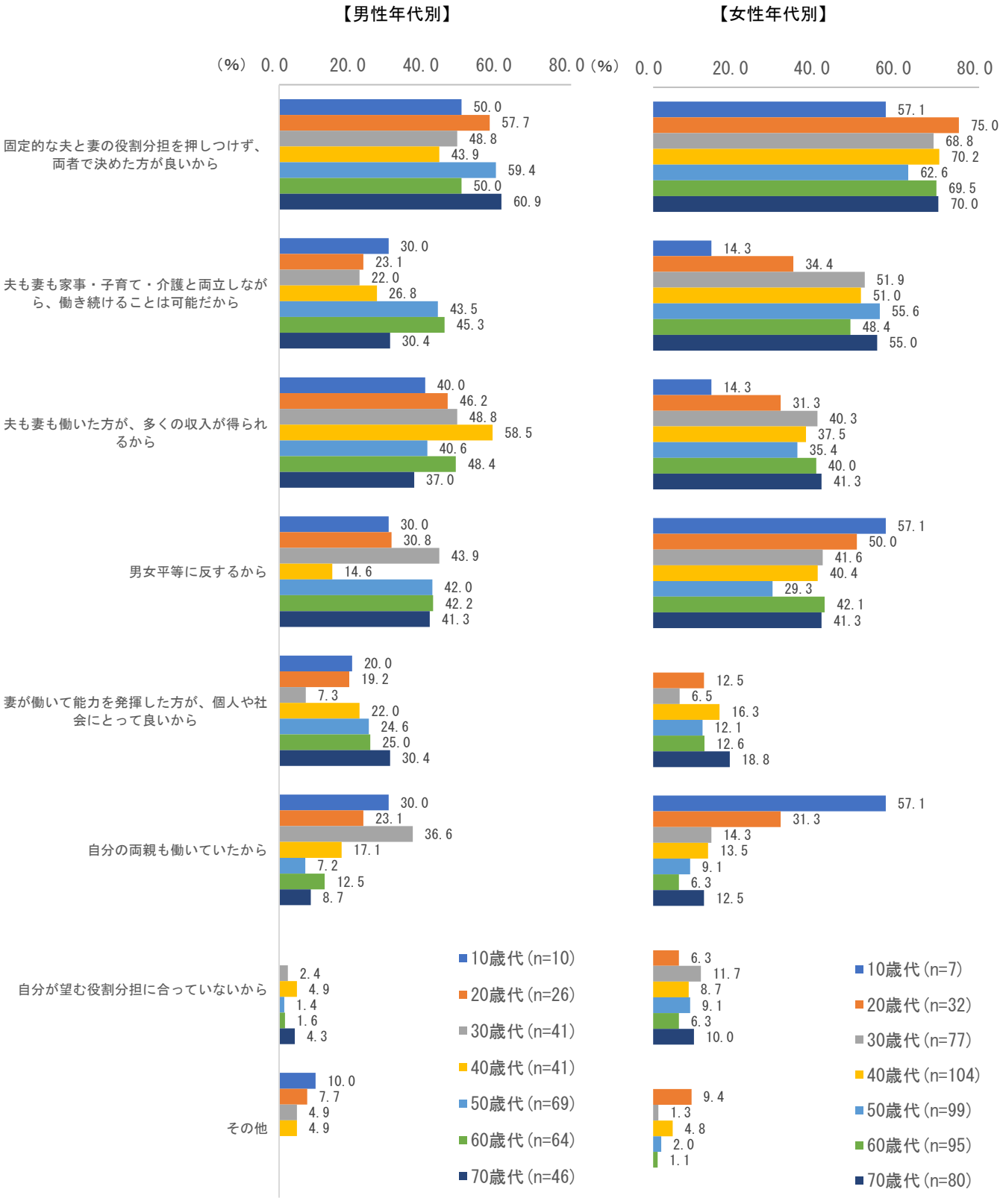
「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけず、両者で決めた方が良いから」が 62.6%で最も高く、次いで「夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから」が 44.4%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られるから」が 40.8%と続いている。

性別で上位 3 項目の相違は女性で「男女平等に反するから」が 3 位項目となっている。また、男女の差をみると「固定的な夫と妻の役割分担を押しつけず、両者で決めた方が良いから」で 14.9 ポイント、「夫も妻も家事・子育て・介護と両立しながら、働き続けることは可能だから」で 16.3 ポイント女性が高く、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られるから」は 7.9 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別で男性は各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

女性で１・２位項目はバラツキがみられ特に傾向はみられないが、「男女平等に反するから」は年代の若い方が高い傾向がみられる。



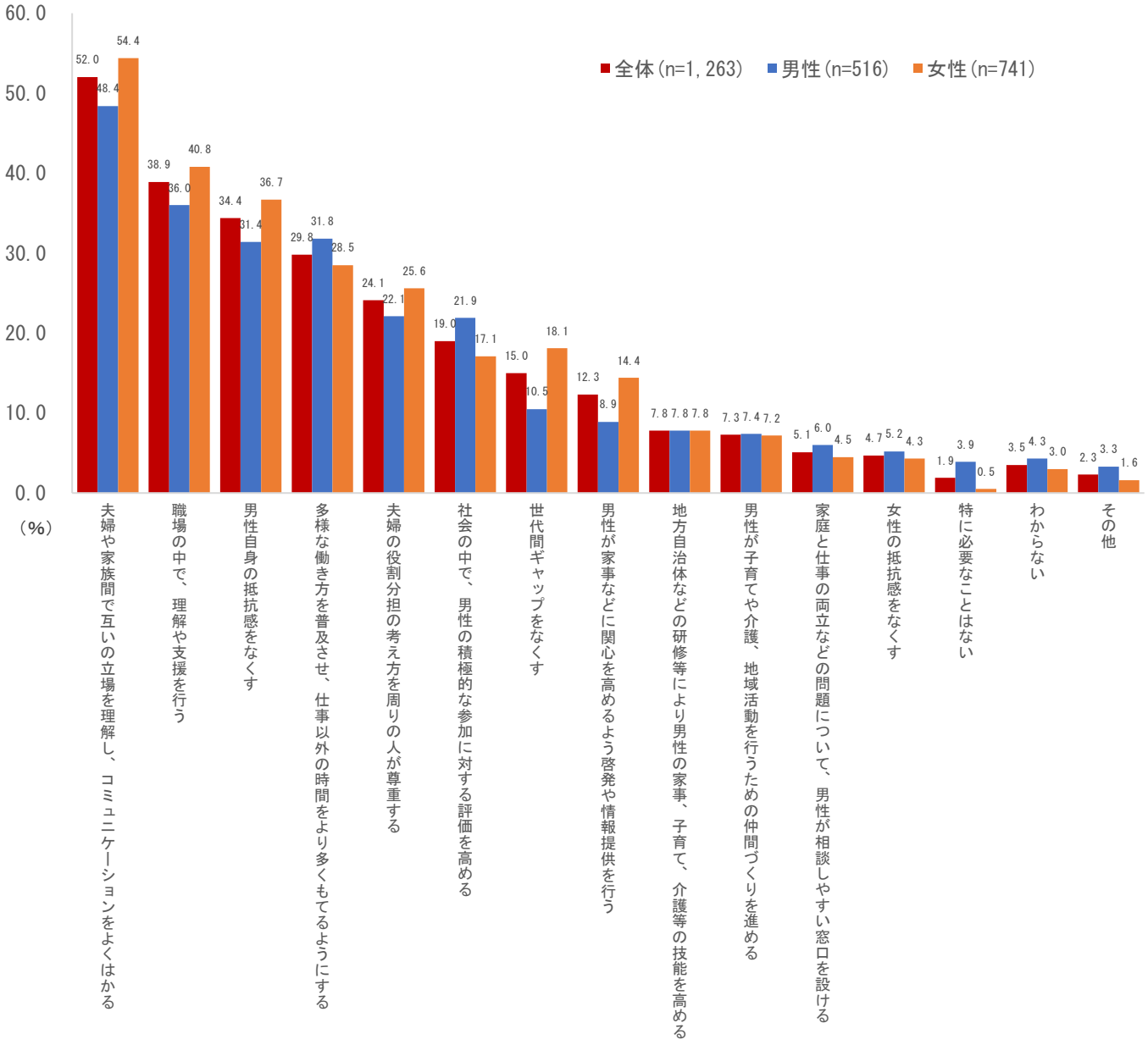
【全員がお答えください】

問 4　あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）（MA）

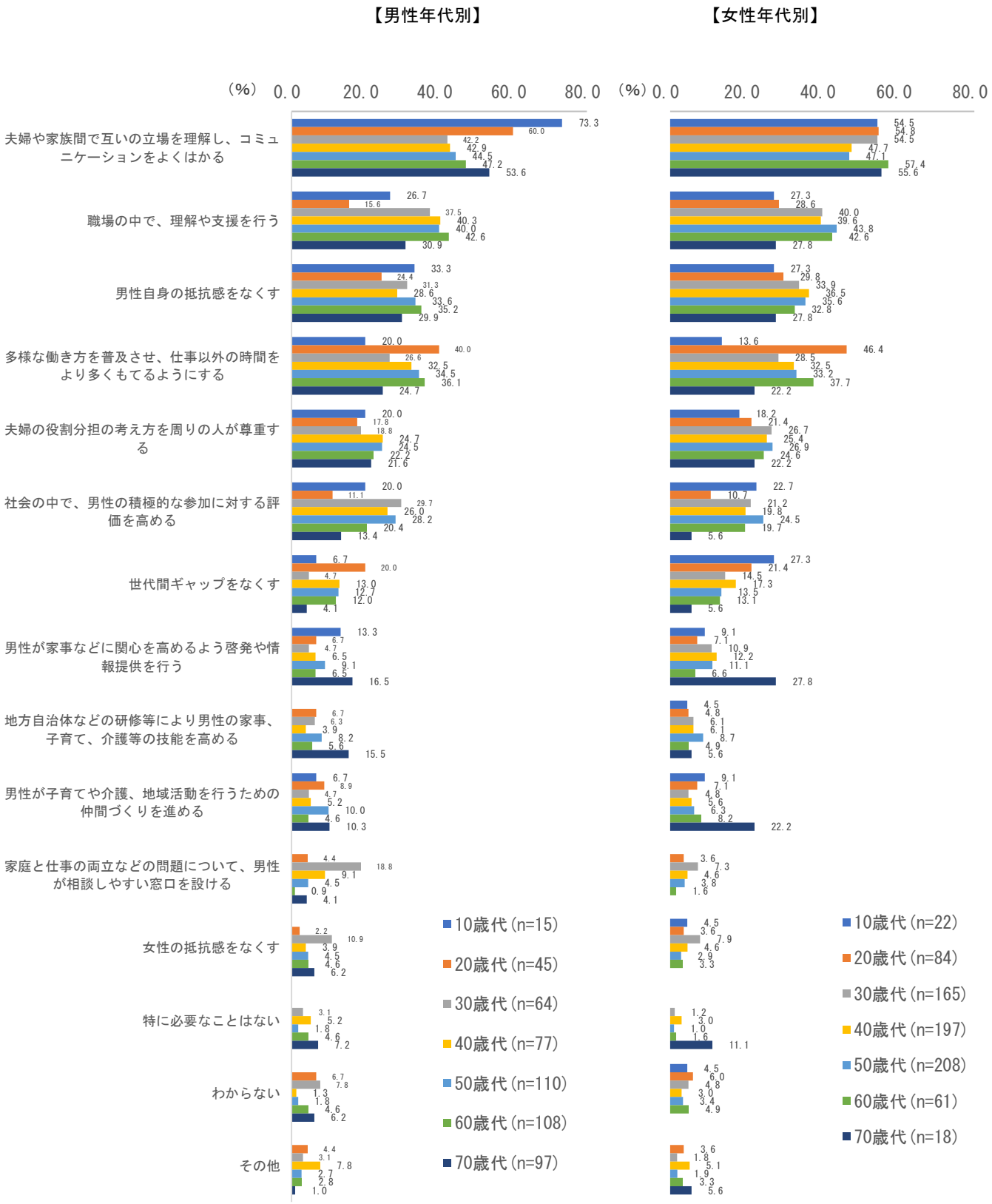
「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかる」が 52.0%でトップ

「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかる」が 52.0%で最も高く、次いで「職場の中で、理解や支援を行う」が 38.9%、「男性自身の抵抗感をなくす」が 34.4%と続いている。

性別で上位 3 項目に傾向の相違ははみられず、男女間の差がみられるのは上位 3 項目とも 4.8～6.0 ポイント女性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「夫婦や家族間で互いの立場を理解し、コミュニケーションをよくはかる」は男性が 30 歳以降で年代の上昇とともに高く重視する傾向がみられ、女性は 40・50 歳代以外で半数以上が重視している。全体 2 位項目の「職場の中で、理解や支援を行う」は男性が 60 歳代、女性は 50 歳代が最も高く、全体 3 位項目の「男性自身の抵抗感をなくす」は 30～60 歳代で「男性」よりも「女性」が重視する傾向がみられる。



【全員がお答えください】

問５　あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。A、B のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。（SA）

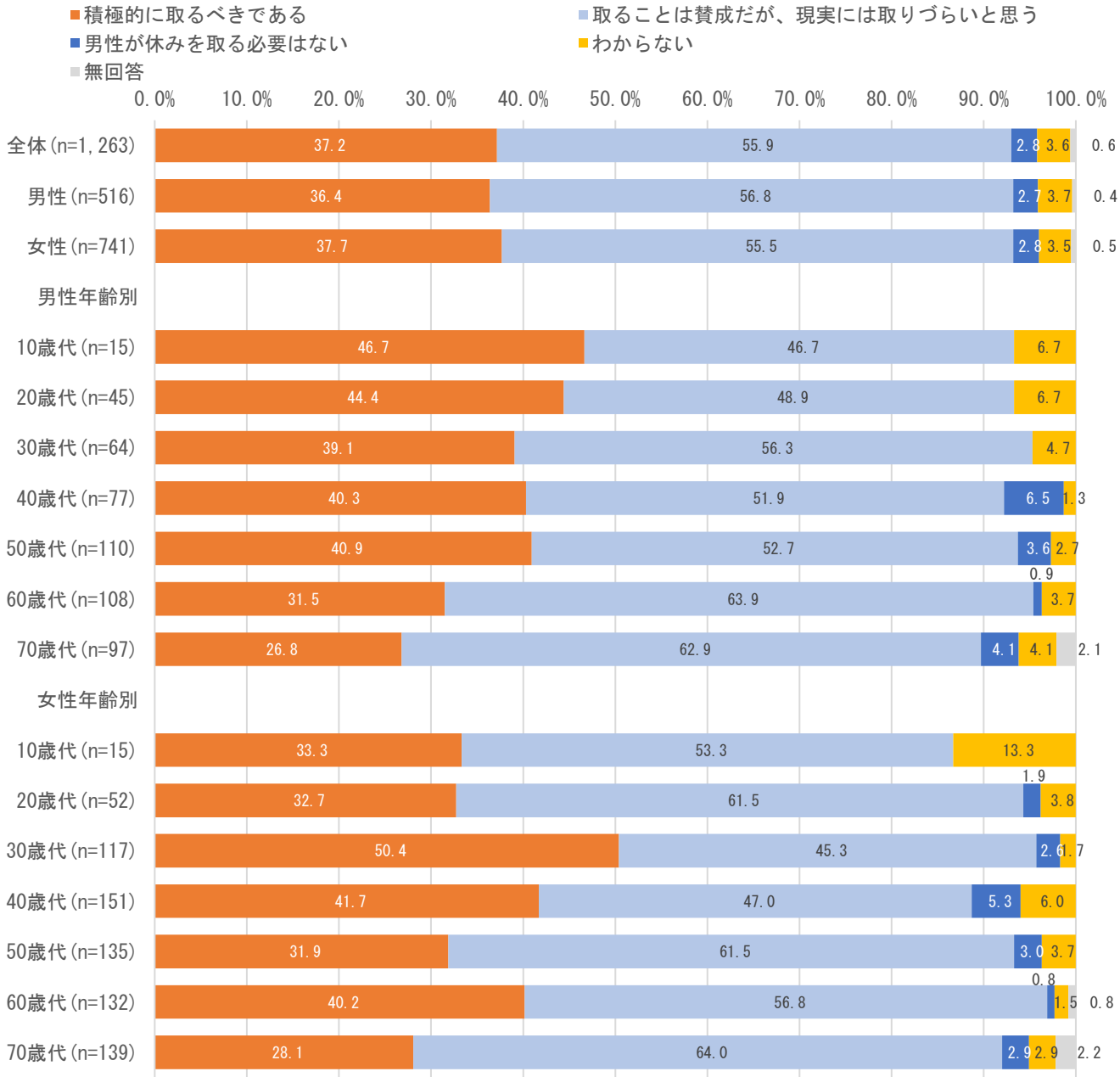
【A育児休業】

「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が 55.9%でトップ

「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が 55.9%で最も高く、次いで「積極的に取るべきである」が 37.2%、「わからない」が 3.6%と続いている。

性別での傾向は変わらないが、「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は男性が 1.3 ポイント高くなっている。

性別・年代別にみると女性は年代によるバラツキはあるものの傾向の相違は、女性の 30 歳代で、「積極的に取るべきである」が「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」を 5.1 ポイント上回っている。



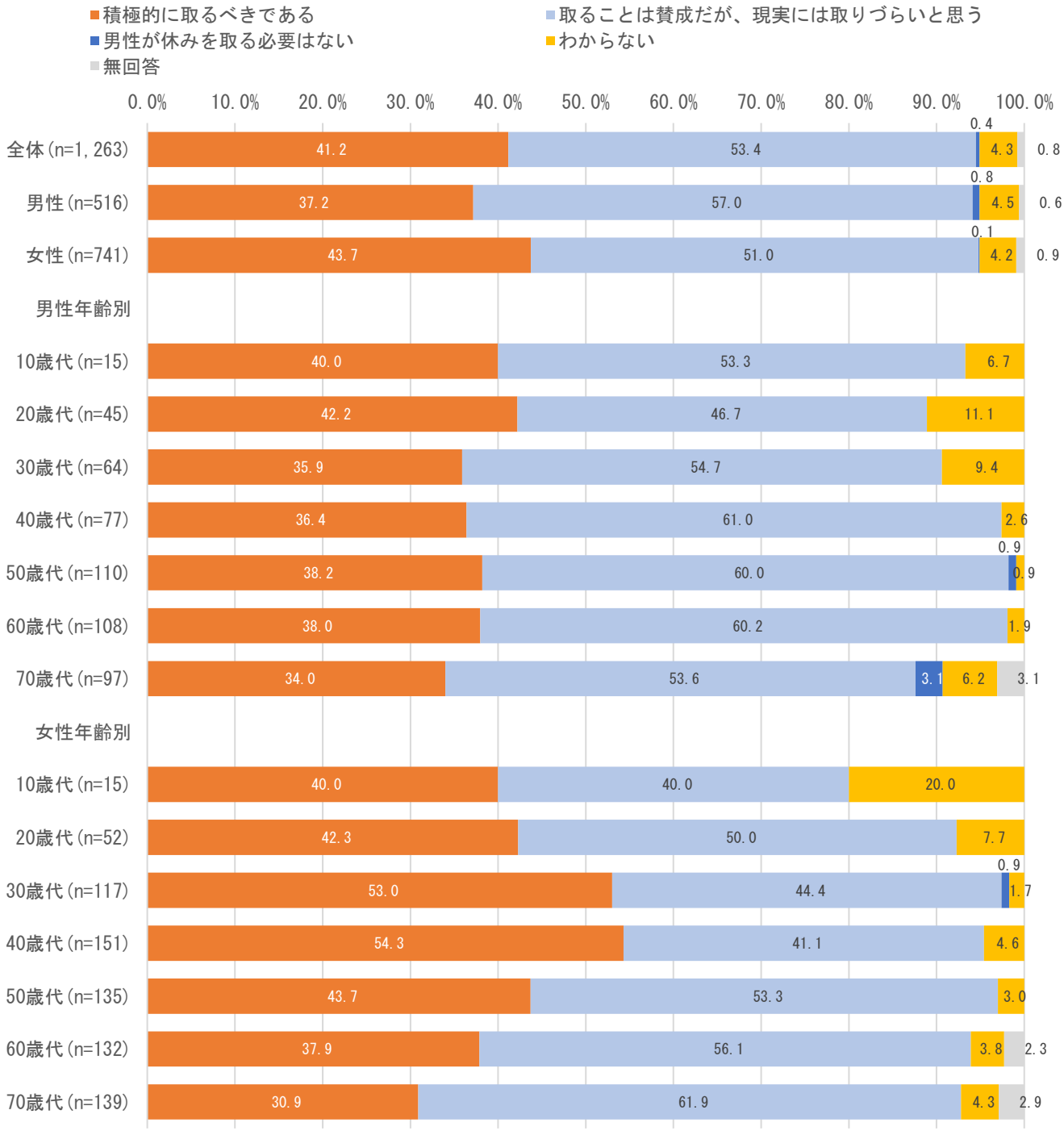
【B介護休業】

「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が53.4%でトップ

「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が53.4%で最も高く、次いで「積極的に取るべきである」が41.2%、「わからない」が4.3%と続いている。

性別での傾向は変わらないが、「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は男性が6.0ポイント高くなっている。

性別・年代別にみると傾向の相違は、女性の30・40歳代で、「積極的に取るべきである」が「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」を30歳代で8.6ポイント、40歳代で13.2ポイント上回っている。



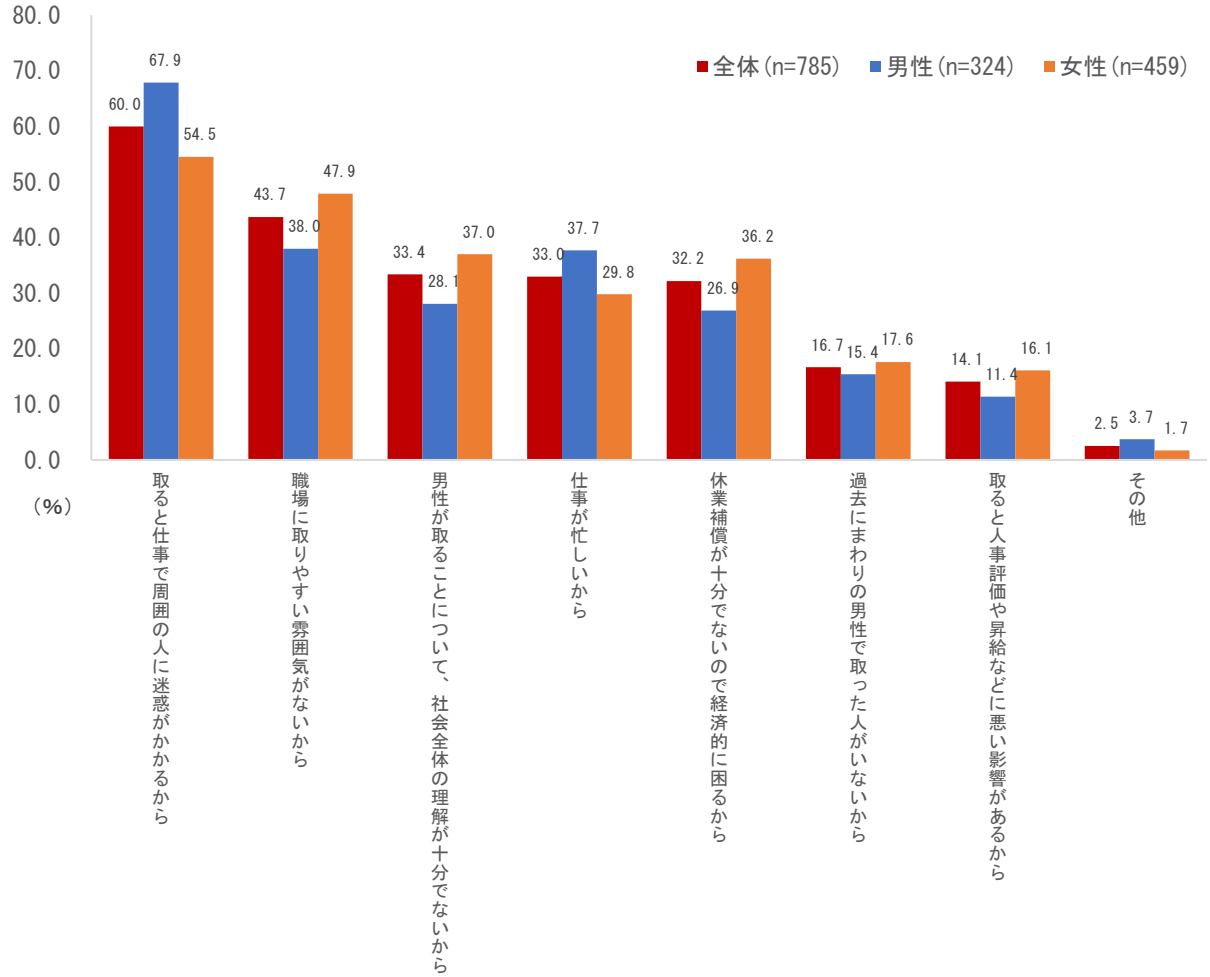
【問 5-A・B いずれかで「取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思」を選んだ方がお答えください】

問５－１　現実には取りづらい理由は何だと思いますか。（○は３つまで）（MA）

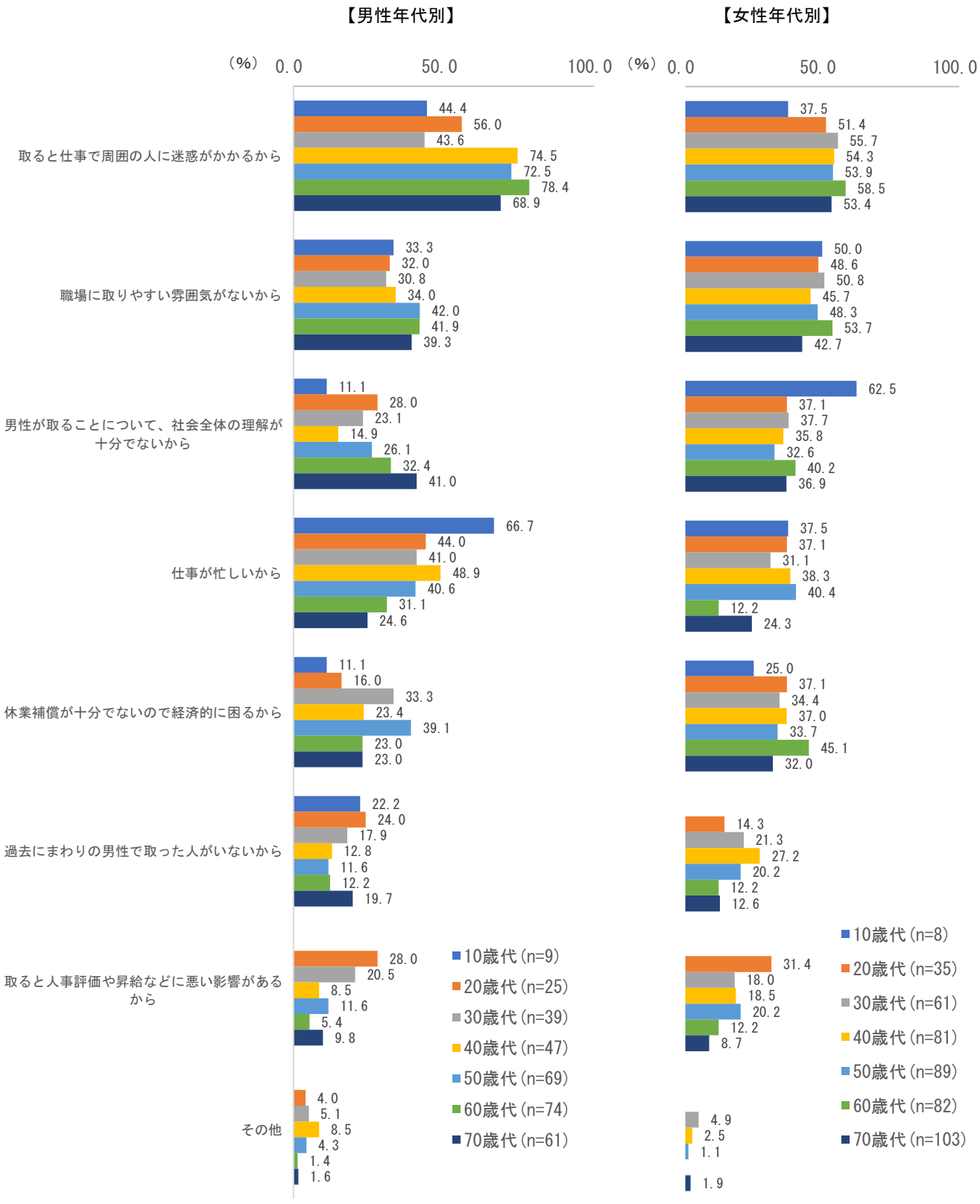
「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 60.0%でトップ

「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」が 60.0%で最も高く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 43.7%、「男性が取ることについて、社会全体の理解が十分でないから」が 33.4%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、男性で「仕事が忙しいから」が 37.7%で 3 位項目に上がっている。男女間の差がみられるのは「取ると仕事で周囲の人に迷惑がかかるから」で男性が 13.4 ポイント高く、「職場に取りやすい雰囲気がないから」で女性が 9.9 ポイント高くなっている。



性別・年代別で各母数が少なくなるため参考掲載とする。



【全員がお答えください】

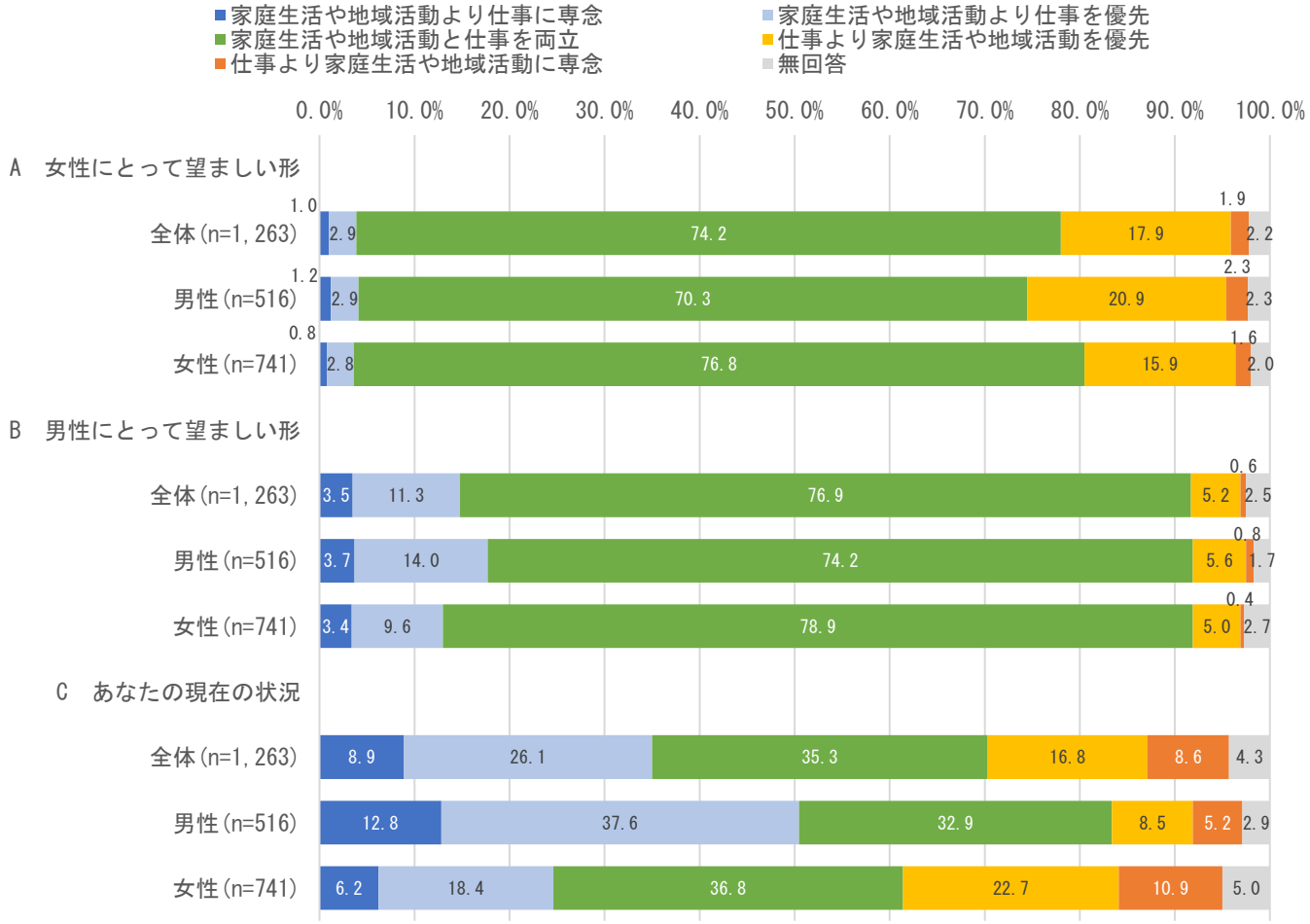
問６　仕事と家庭の関係について、あなたのお考えをお尋ねします。A～C のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。（SA）

女性にとっても男性にとっても望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」がトップ
現状男性は「仕事優先」、女性は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」

女性にとって望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 74.2%で最も高く、次いで「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 17.9%、「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 2.9%と続いており、「仕事優先（「家庭生活や地域活動より仕事に専念」＋「家庭生活や地域活動より仕事を優先」）」は 3.9%、「地域活動優先（「仕事より家庭生活や地域活動に専念」＋「仕事より家庭生活や地域活動を優先」）」は 19.8%となっている。また、性別での傾向の相違はみられない。

男性にとって望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 76.9%で最も高く、次いで「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 11.3%、「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 5.2%と続いており、「仕事優先」は 14.8%、「地域活動優先」は 5.8%となっている。また、性別での傾向の相違はみられない。

あなたの現在の状況は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 35.3%で最も高く、次いで「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 26.1%、「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 16.8%と続いており、男性は「仕事優先」が 50.4%で「家庭生活や地域活動と仕事を両立」の 32.9%を上回り、女性は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」の 36.8%をやや下回ったものの「地域活動優先」が 33.6%となっている。



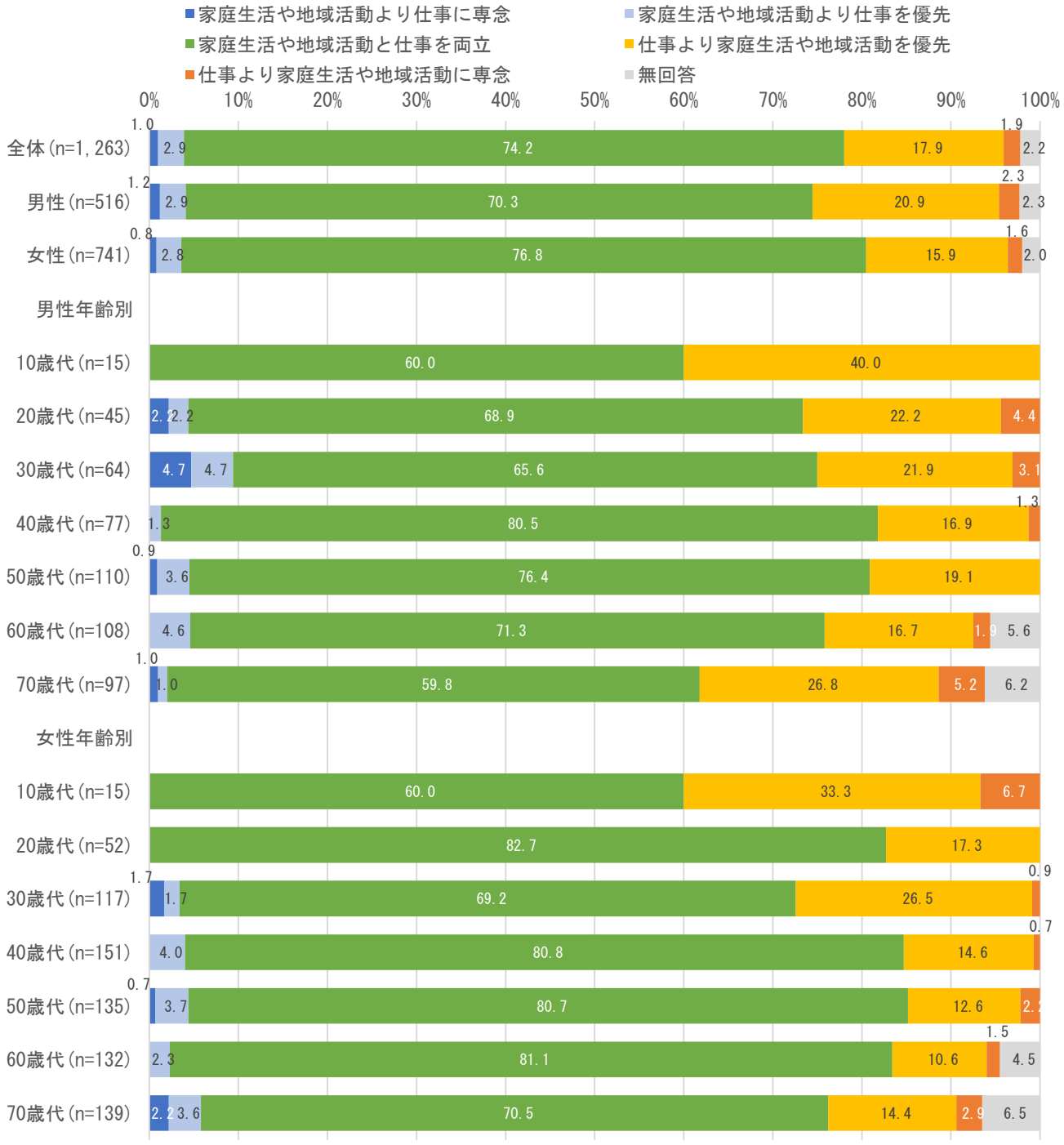
【A 女性にとって望ましい形】

女性にとって望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 74.2%でトップ

「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 74.2%で最も高く、次いで「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 17.9%、「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 2.9%と続いており、「仕事優先」は 3.9%、「地域活動優先」は 19.8%となっている。

また、性別での傾向の相違はみられず、男性が思う女性にとって望ましい形は「両立」が 70.3%、「仕事優先」が 4.1%、「地域活動優先」が 23.2%となっており、女性が思う女性にとって望ましい形は「両立」が 76.8%、「仕事優先」が 3.6%、「地域活動優先」が 17.5%となっている。

性別・年代別でみると男性は「両立」が 40 歳代以上で年代の上昇とともに減少しているが、女性は 30・70 歳代を除き「両立」が 8 割を超えている。



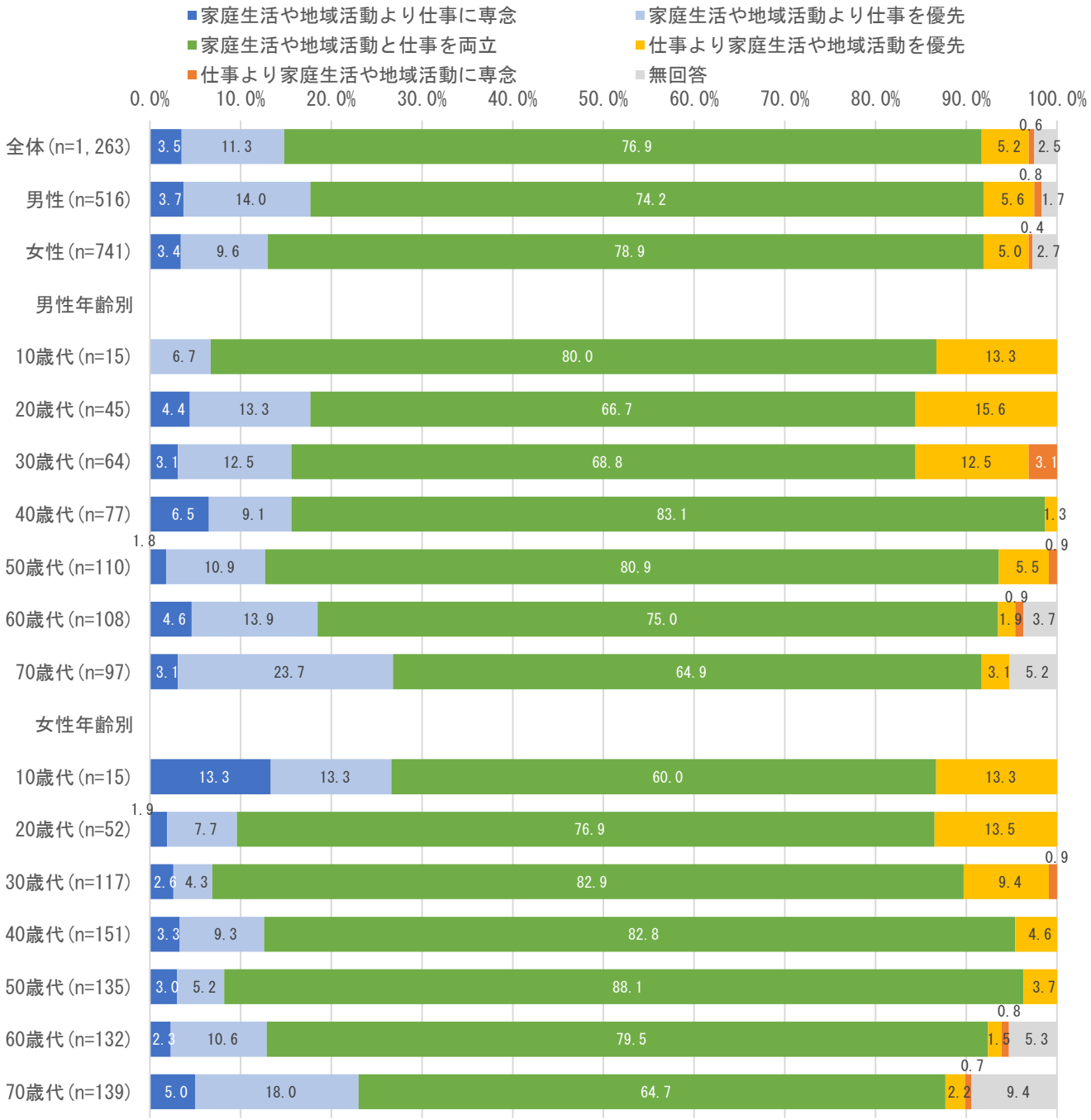
【B 男性にとって望ましい形】

男性にとって望ましい形は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 76.9%でトップ

「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 76.9%で最も高く、次いで「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 11.3%、「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 5.2%と続いており、「仕事優先」は 14.8%、「地域活動優先」は 5.8%となっている。

また、性別での傾向の相違はみられず、男性が思う男性にとって望ましい形は「両立」が 74.2%、「仕事優先」が 17.7%、「地域活動優先」が 6.4%となっており、女性が思う男性にとって望ましい形は「両立」が 78.9%、「仕事優先」が 13.0%、「地域活動優先」が 5.4%となっている。

性別・年代別でみると「両立」は男性が 40 歳代、女性は 50 歳代以上で年代の上昇とともに減少しているが、「両立」を望むのは女性の方が高い傾向がみられる。

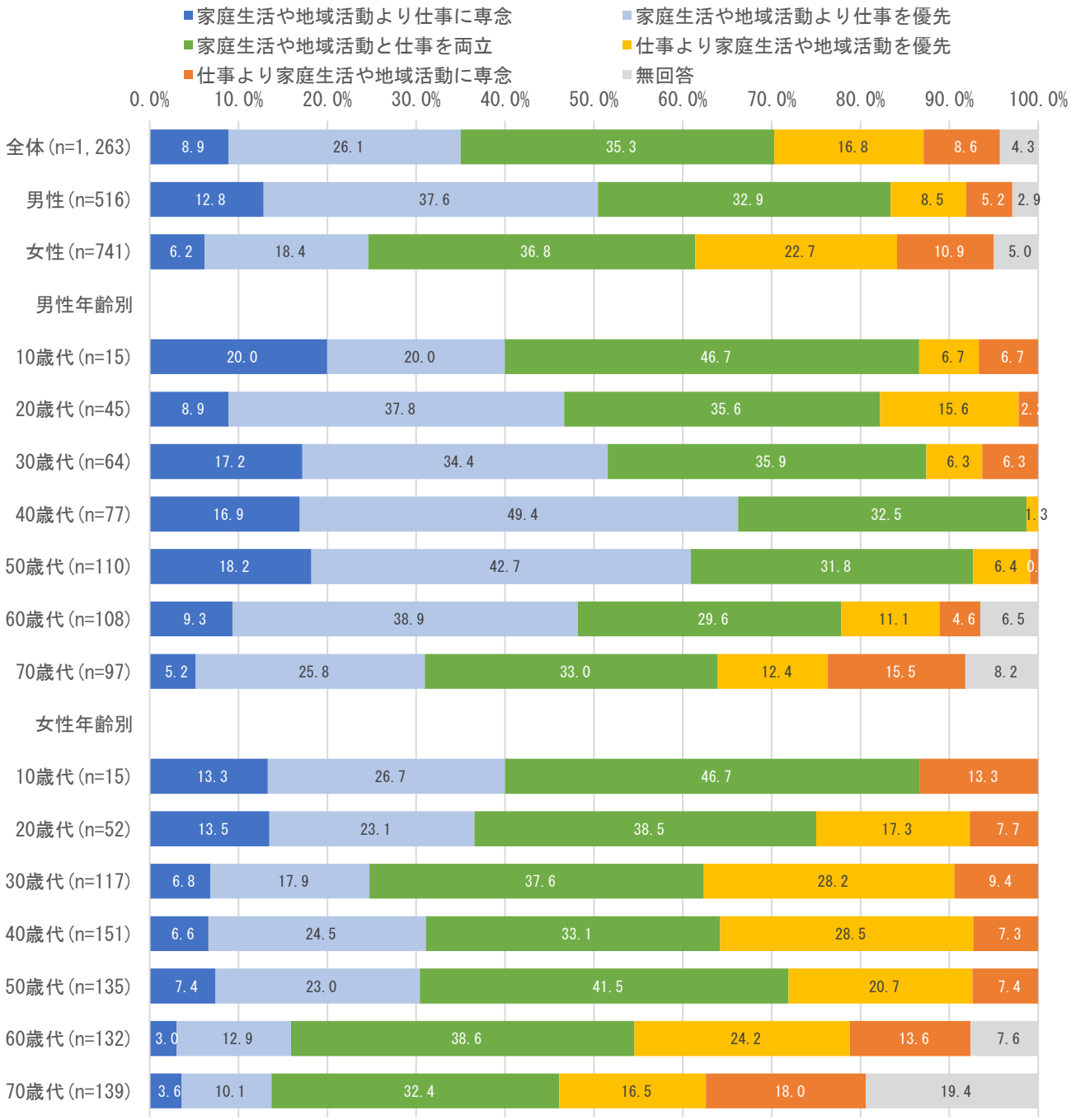


【C あなたの現在の状況】

あなたの現在の状況は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 35.3%でトップ

「家庭生活や地域活動と仕事を両立」が 35.3%で最も高く、次いで「家庭生活や地域活動より仕事を優先」が 26.1%、「仕事より家庭生活や地域活動を優先」が 16.8%と続いており、男性は「仕事優先」が 50.4%で「家庭生活や地域活動と仕事を両立」の 32.9%を上回り、女性は「家庭生活や地域活動と仕事を両立」の 36.8%をやや下回ったものの「地域活動優先」が 33.6%となっている。

性別・年代別でみると男女ともに「仕事優先」は 40 歳代以降で減少している。



【あなたの家庭生活について】

【※結婚している方（パートナーと暮らしている方も含む）がお答えください】

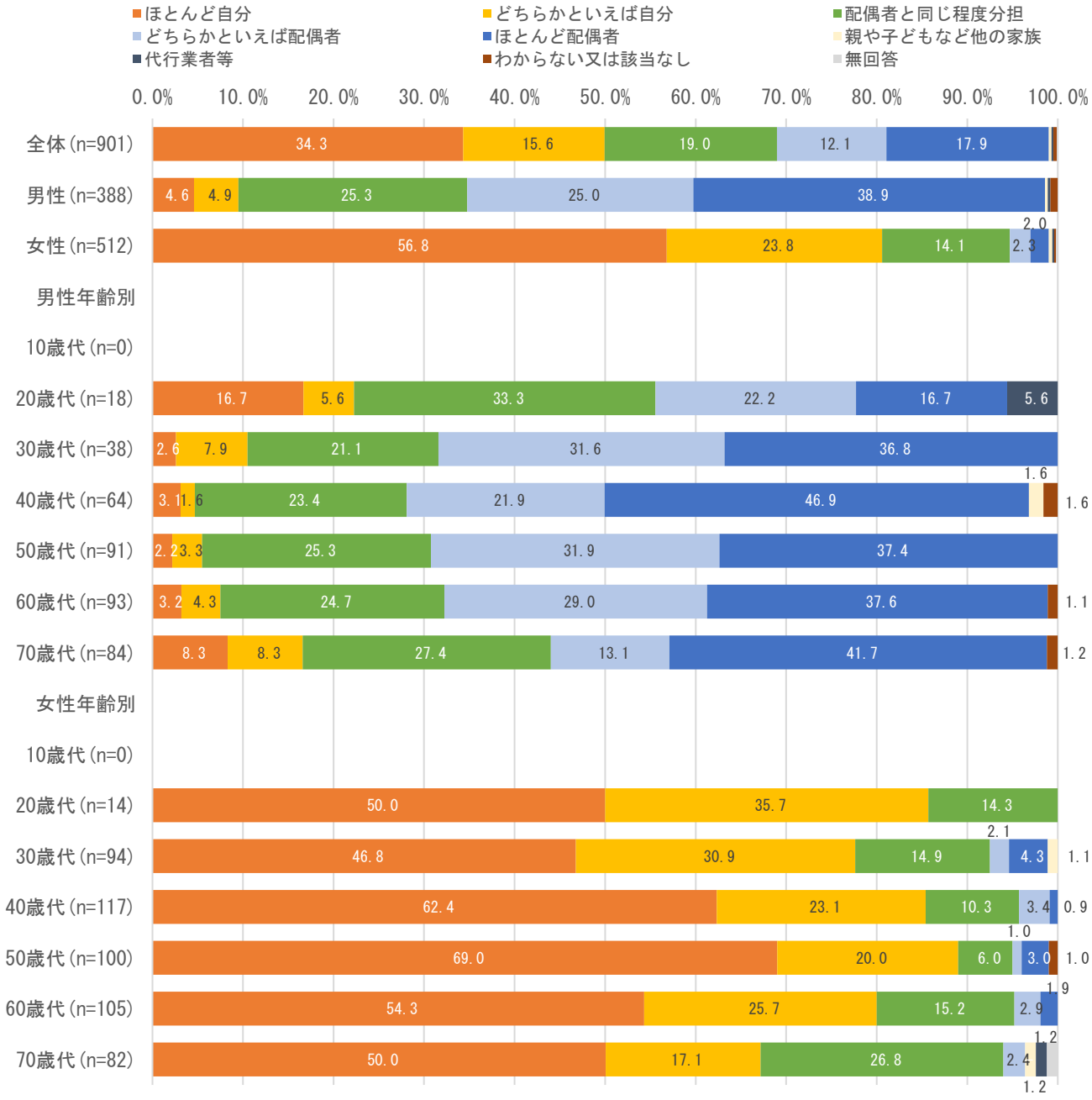
問７　あなたの家庭では次のA～Mについて誰がその役割を行っていますか。現状に近いものに、１つずつ○をつけてください。（SA）

A　食料品などの買い物

共通認識で６割以上が女性の役割となっている

「ほとんど自分」が 34.3%で最も高く、次いで「配偶者と同じ程度分担」が 19.0%、「ほとんど配偶者」が 17.9%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 56.8%、「どちらかといえば自分」の 23.8%を合わせると 80.6%となっており、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 9.5%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 63.9%を踏まえても女性の役割が大きくなっていることがわかる。また、男女の認識差は「配偶者と同じ程度分担」でみられ、男女の認識の差は 11.2 ポイント男性が高い。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割（男性：「どちらかといえば配偶者」＋「ほとんど配偶者」、女性：「ほとんど自分」＋「どちらかといえば自分」）」は男女共に 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少となっている。

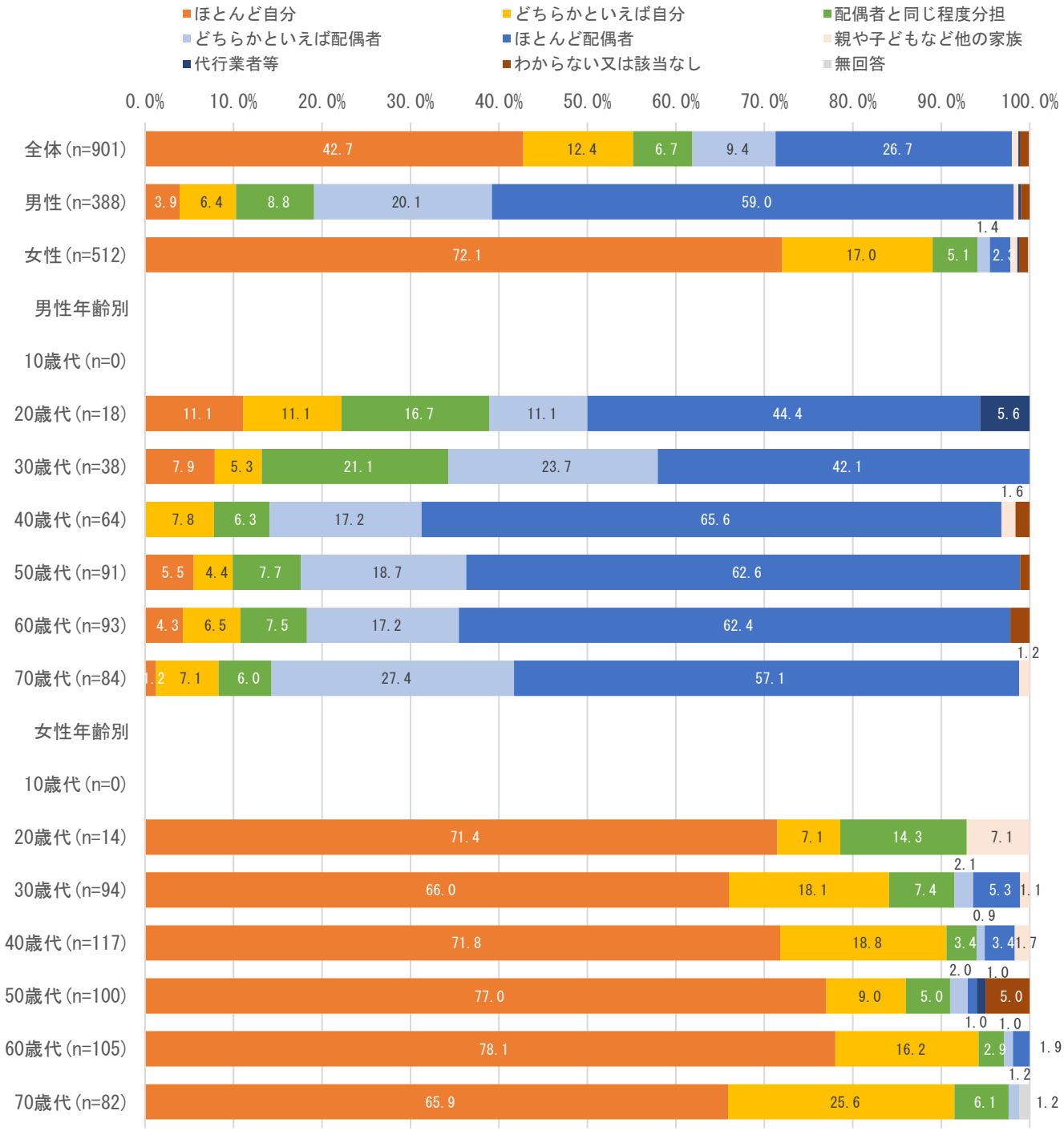


B 食事のしたく

共通認識で８割以上が女性の役割となっている

「ほとんど自分」が 42.7%で最も高く、次いで「ほとんど配偶者」が 26.7%、「どちらかといえば自分」が 12.4%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 72.1%、「どちらかといえば自分」の 17.0%を合わせると 89.1%となっており、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 10.3%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 79.1%を踏まえても女性の役割が大きくなっていることがわかる。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.7 ポイント男性が高い。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男女共に年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

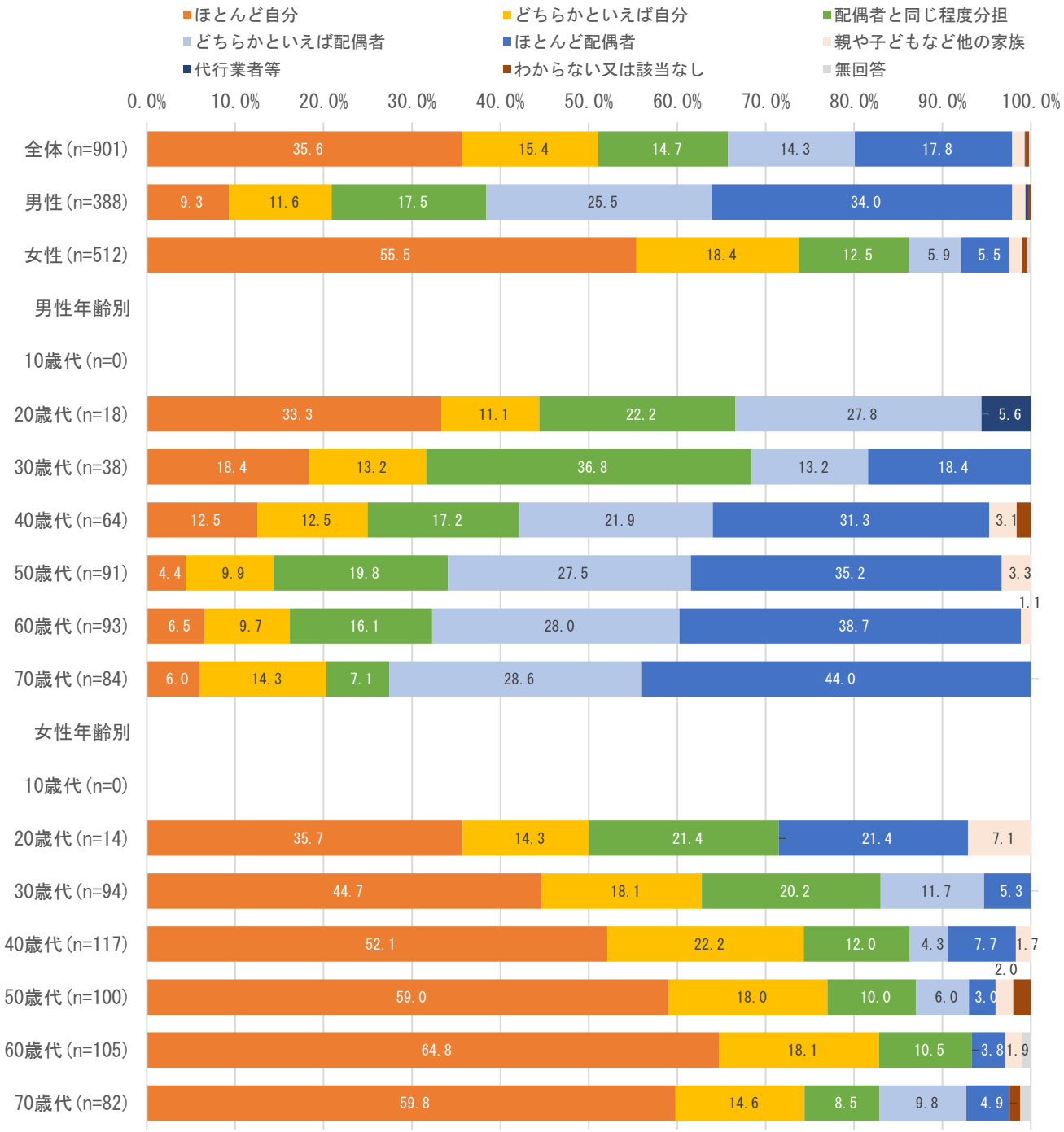


C 食後の片づけ

共通認識で６割以上が女性の役割となっている

「ほとんど自分」が 35.6%で最も高く、次いで「ほとんど配偶者」が 17.8%、「どちらかといえば自分」が 15.4%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 55.5%、「どちらかといえば自分」の 18.4%を合わせると 73.9%となっており、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 20.9%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 59.5%を踏まえても女性の役割が大きくなっていることがわかる。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 5.0 ポイント男性が高い。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男女共に年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

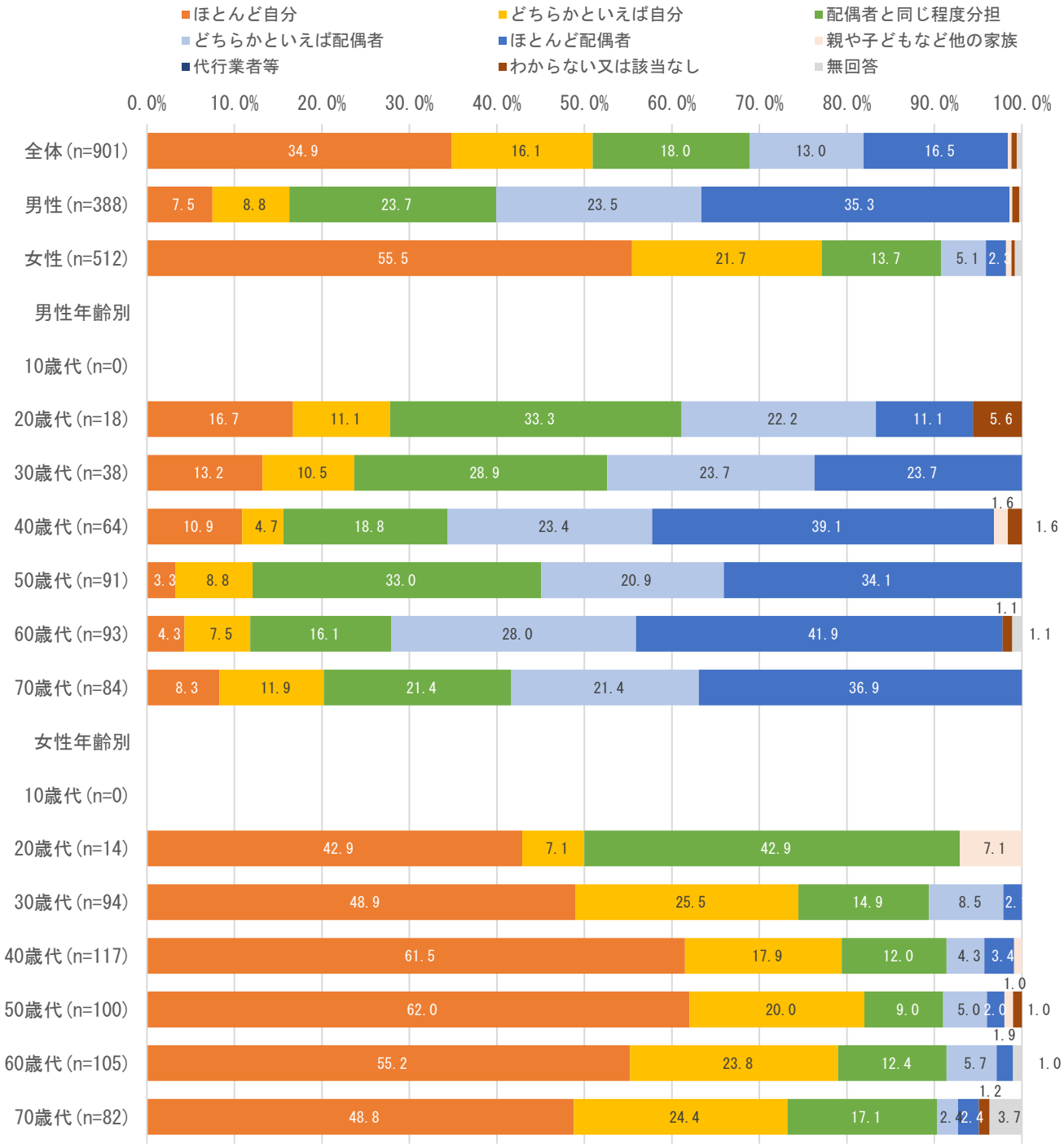


D 掃除

共通認識で６割以上が女性の役割となっている

「ほとんど自分」が 34.9%で最も高く、次いで「配偶者と同じ程度分担」が 18.0%、「ほとんど配偶者」が 16.5%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 55.5%、「どちらかといえば自分」の 21.7%を合わせると 77.2%となっており、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 16.3%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 58.8%を踏まえても女性の役割が大きくなっていることがわかる。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差乖離は 10.0 ポイント男性が高い。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」はバラツキがあるものの男性で 60 歳代が最も高く、女性は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少している。

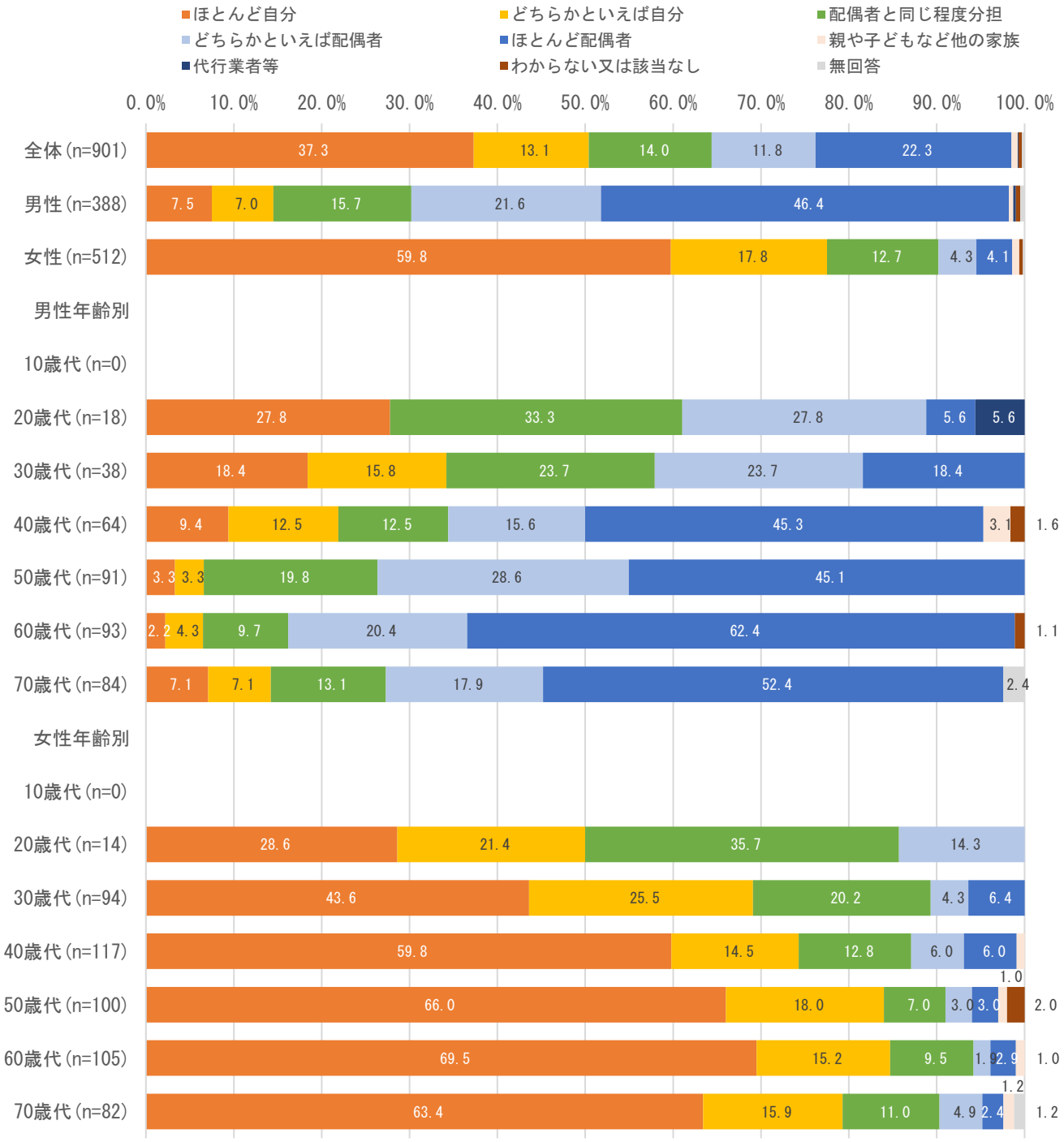


E 洗濯

共通認識で７割以上が女性の役割となっている

「ほとんど自分」が 37.3%で最も高く、次いで「ほとんど配偶者」が 22.3%、「配偶者と同じ程度分担」が 14.0%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 59.8%、「どちらかといえば自分」の 17.8%を合わせると 77.6%となっており、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 14.5%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 68.0%を踏まえても女性の役割が大きくなっていることがわかる。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.0 ポイント男性が高い。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男女共に年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

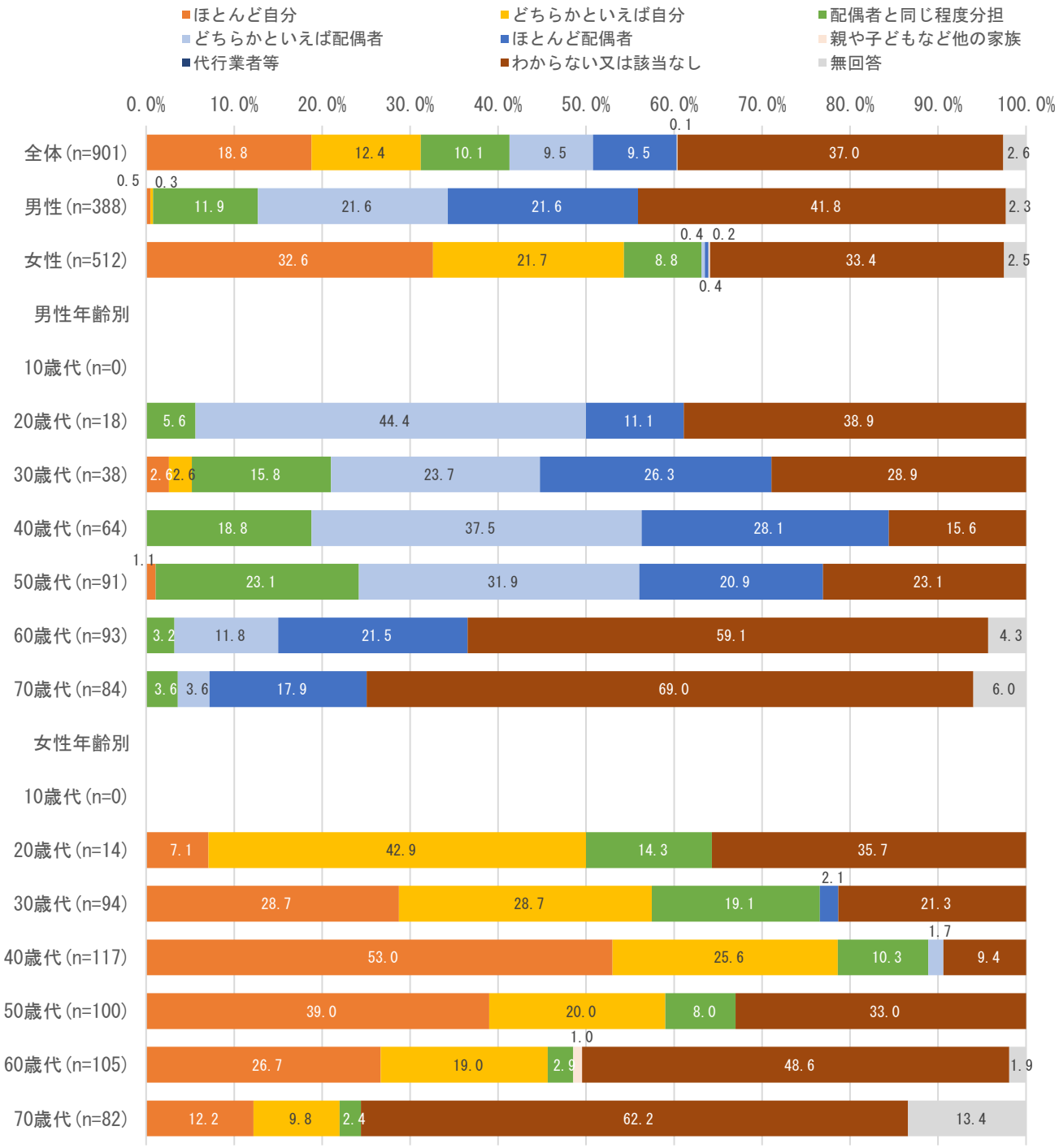


F　育児

共通認識で４割以上が女性の役割となっている

「わからない又は該当なし」が 37.0%で最も高く、次いで「ほとんど自分」が 18.8%、「どちらかといえば自分」が 12.4%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 32.6%、「どちらかといえば自分」の 21.7%を合わせると 54.3%となっている。また、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 0.8%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 43.2%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.１ポイント男性が高いことから女性の役割が大きくなっていることがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男女共に 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少となっている。

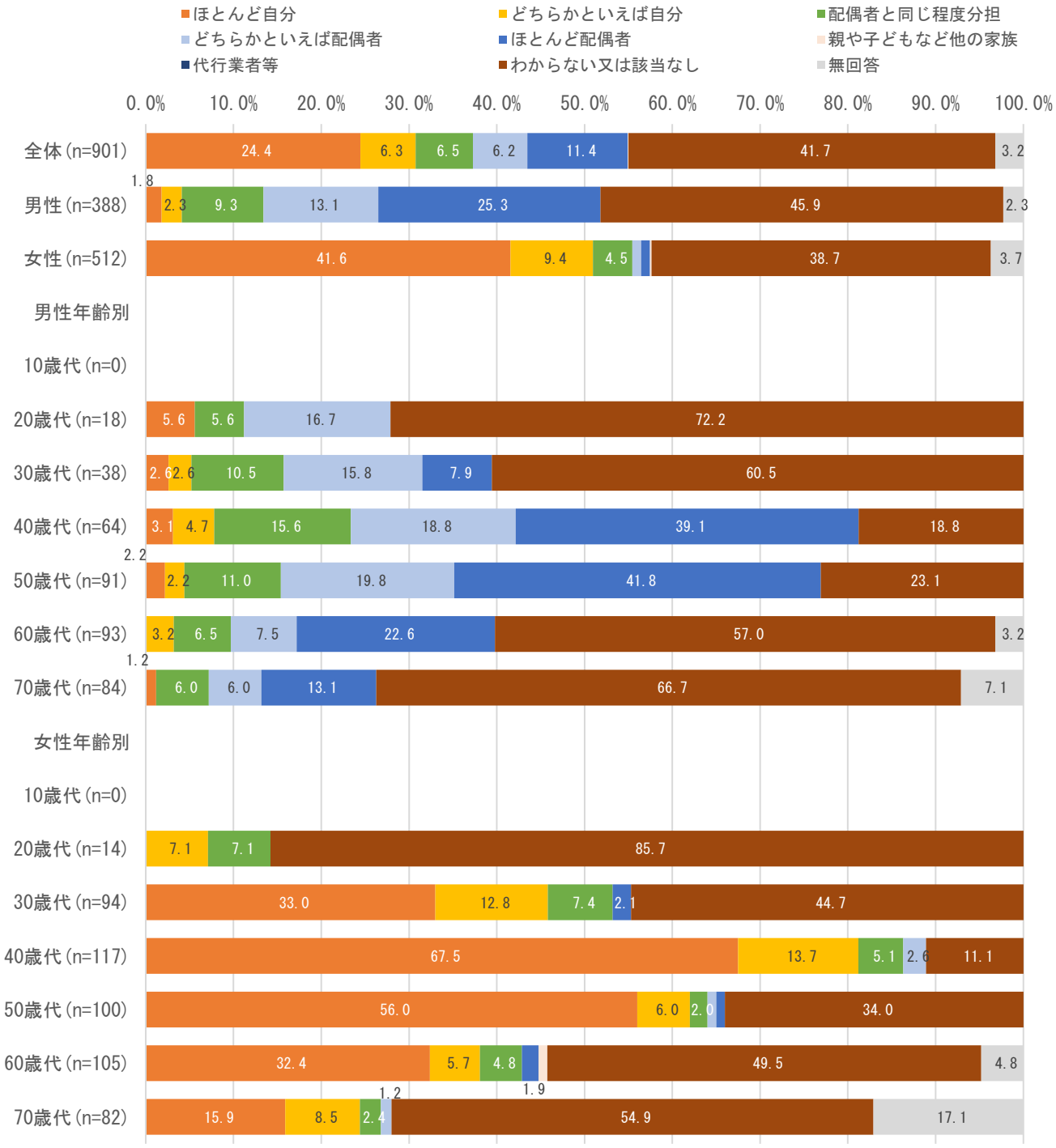


G PTA 活動等学校行事への参加

共通認識で４割以上が女性の役割となっている

「わからない又は該当なし」が 41.7%で最も高く、次いで「ほとんど自分」が 24.4%、「ほとんど配偶者」が 11.4%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 41.6%、「どちらかといえば自分」の 9.4%を合わせると 51.0%となっている。また、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 4.1%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 38.4%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 4.8 ポイント男性が高いことから女性の役割が大きくなっていることがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男性が 50 歳代、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少となっている。

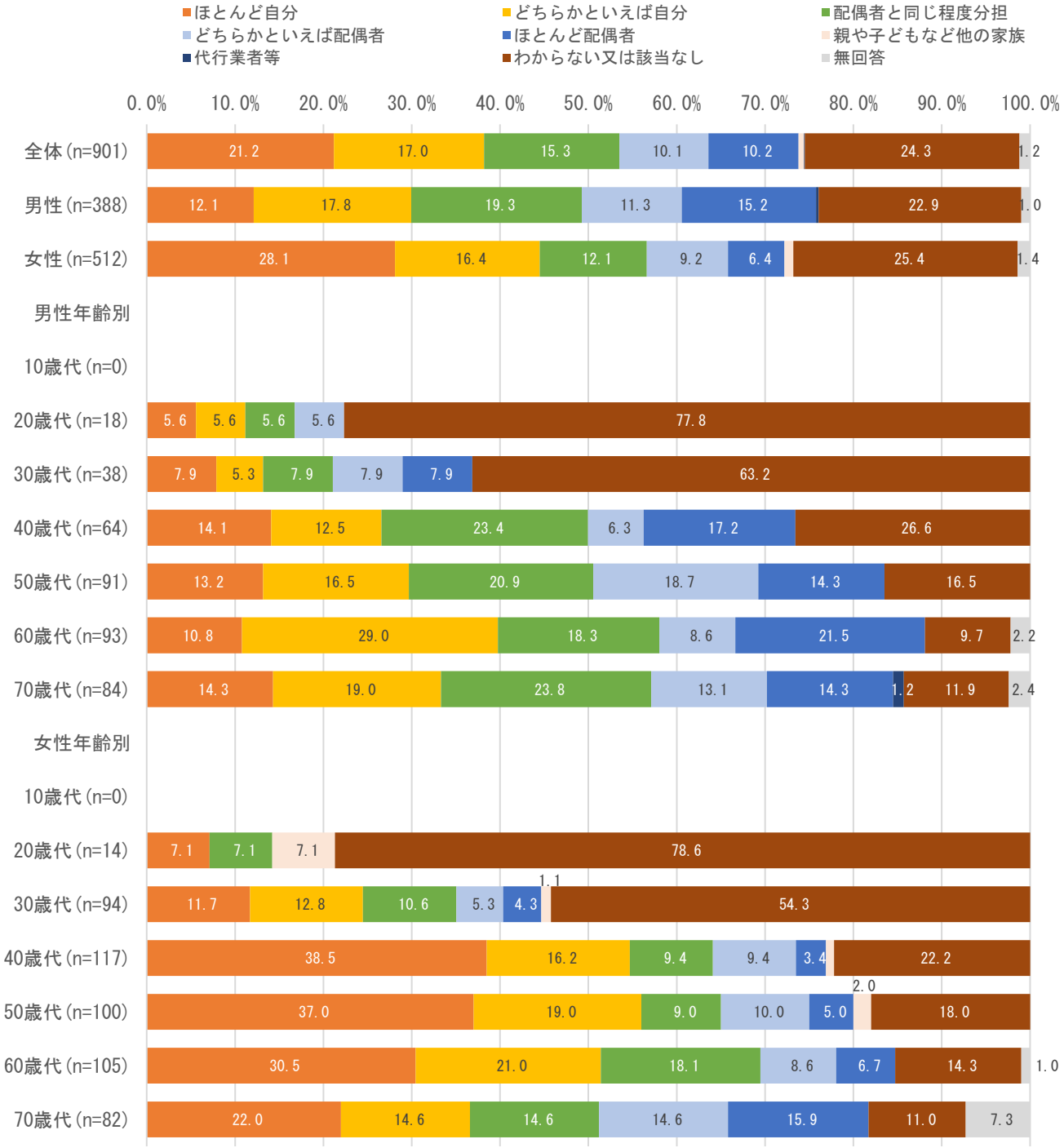


H 地域活動への参加

共通認識で女性の役割がやや大きい

「わからない又は該当なし」が 24.3%で最も高く、次いで「ほとんど自分」が 21.2%、「どちらかといえば自分」が 17.0%と続いている。これは、回答数の性別による影響もややみられ、女性では「ほとんど自分」が 28.1%、「どちらかといえば自分」の 16.4%を合わせると 44.5%となっている。また、男性の「ほとんど自分」・「どちらかといえば自分」が 29.9%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 26.5%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 7.2 ポイント男性が高いことから女性の役割がやや大きいことがわかる。

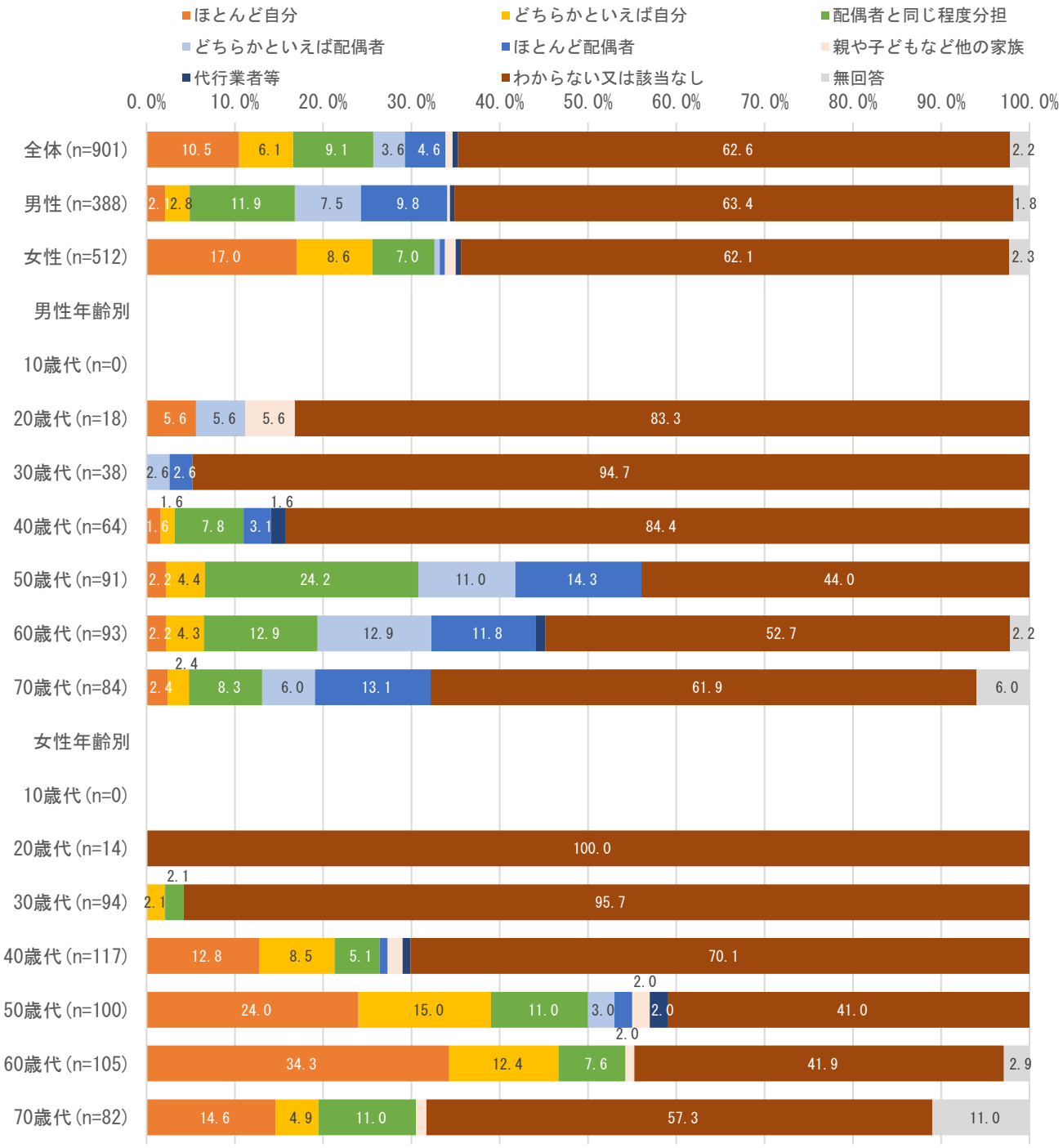
性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男女共に 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少となっている。



共通認識で女性の役割がやや大きい

「わからない又は該当なし」が 62.6%で最も高く、次いで「ほとんど自分」が 10.5%、「配偶者と同じ程度分担」が 9.1%と続いている。これは、回答数の性別による影響もややみられ、女性では「ほとんど自分」が 17.0%、「どちらかといえば自分」の 8.6%を合わせると 25.6%となっている。また、男性の「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」が 4.9%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 17.3%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 4.9 ポイント男性が高いことから女性の役割がやや大きいことがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男性が 50 歳代、女性は 60 歳代が最も高くなっている。

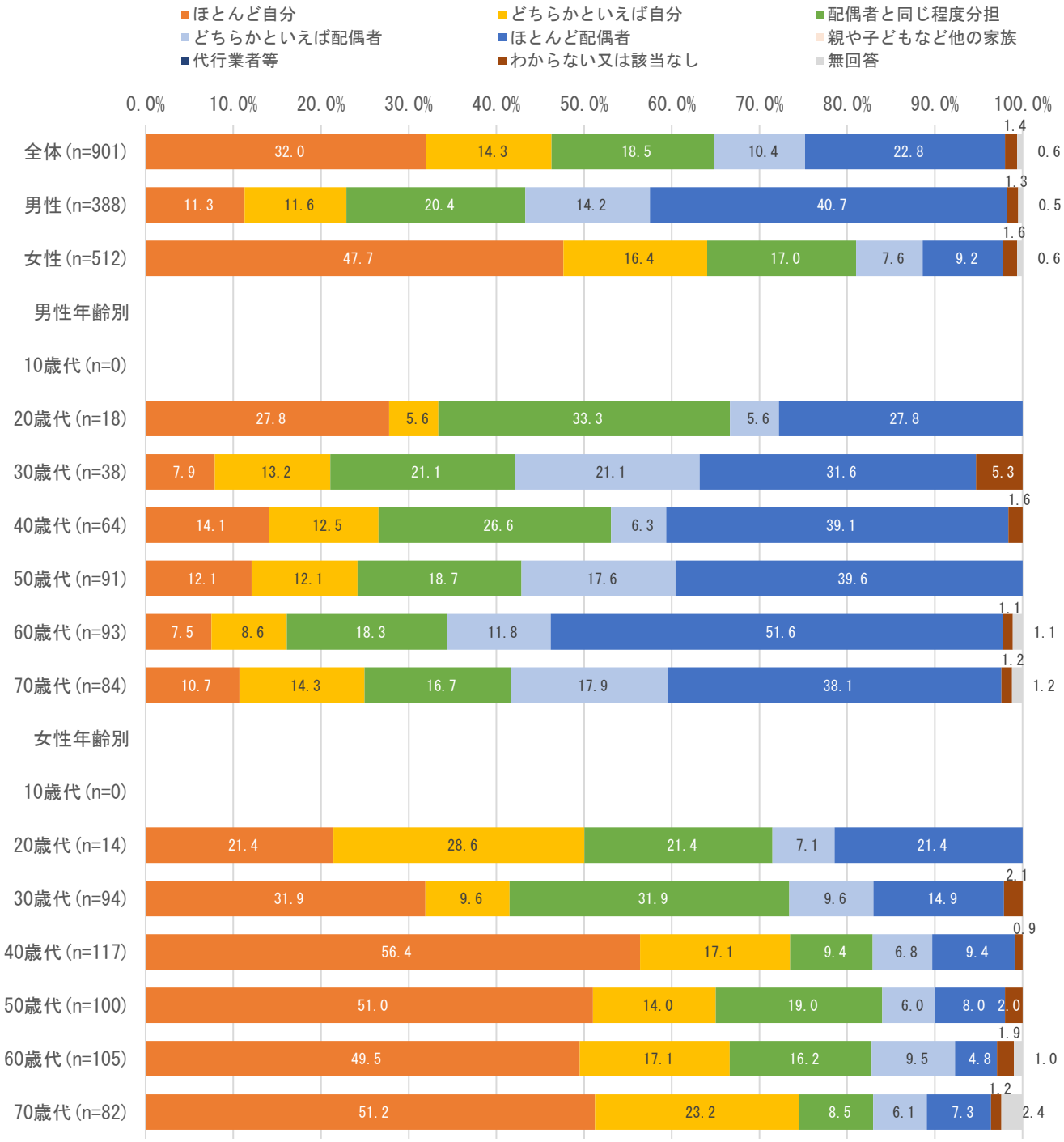


J 家計費の管理

共通認識で５割が女性の管理となっている

「ほとんど自分」が 32.0%で最も高く、次いで「ほとんど配偶者」が 22.8%、「配偶者と同じ程度分担」が 18.5%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど自分」が 47.7%、「どちらかといえば自分」の 16.4%を合わせると 64.1%となっている。また、男性の「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」が 22.9%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 54.9%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.4 ポイント男性が高いことから女性の管理がやや大きくなっていることがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性が管理している」は男性女性共に年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

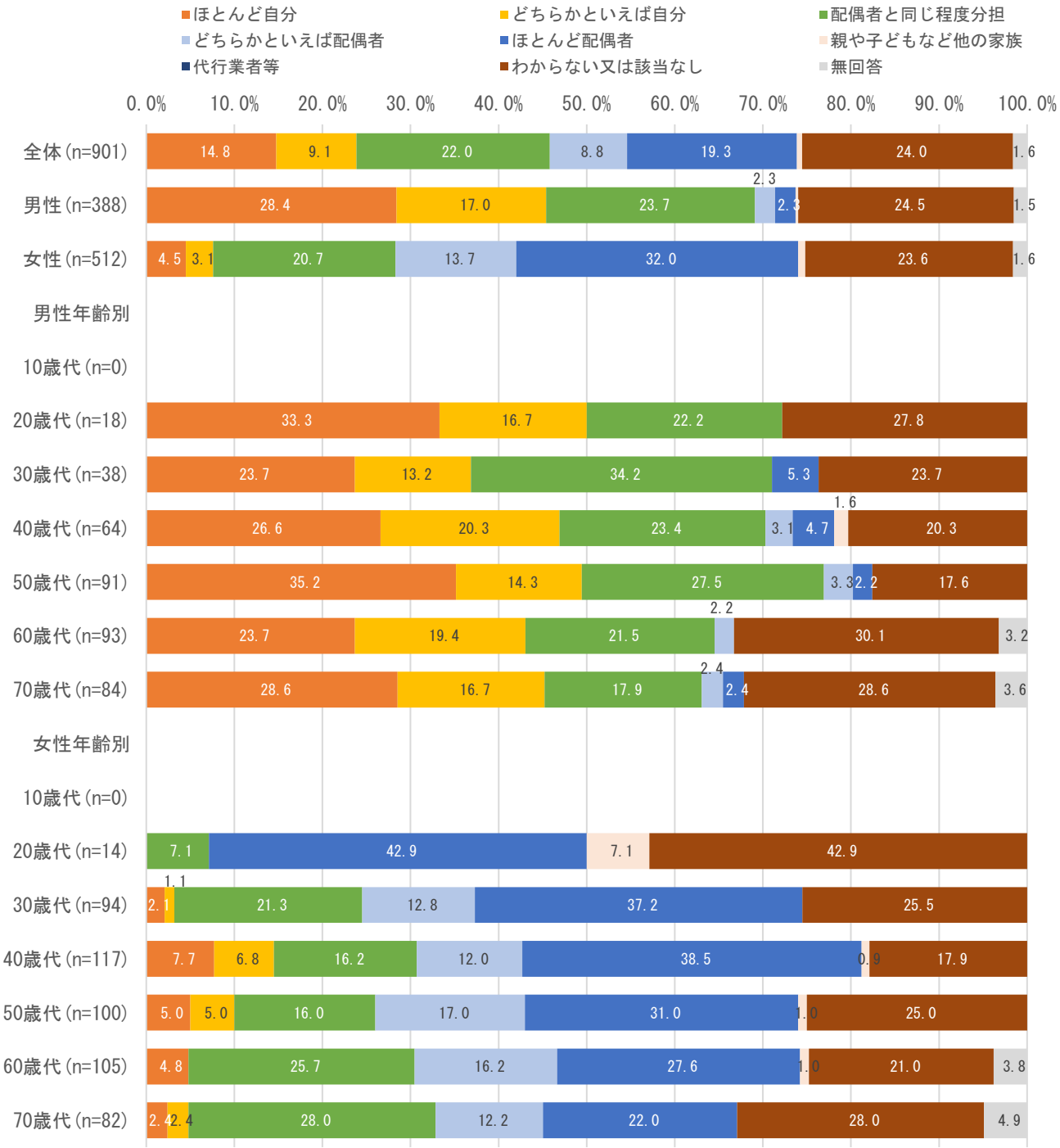


K 土地・家屋の購入

共通認識で男性の意向が大きい

「わからない又は該当なし」が 24.0%で最も高く、次いで「配偶者と同じ程度分担」が 22.0%、「ほとんど配偶者」が 19.3%と続いている。これは、回答者数の性別による影響があり、女性では「ほとんど配偶者」が 32.0%、「どちらかといえば配偶者」の 13.7%を合わせると 45.7%となっている。また、男性の「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」で 45.4%となっており、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.0 ポイント男性が高いことから男性の意向が大きくなっていることがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「男性の意向が大きい（女性：「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」、男性：「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」）」は男性が 50 歳代、女性が 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少している。

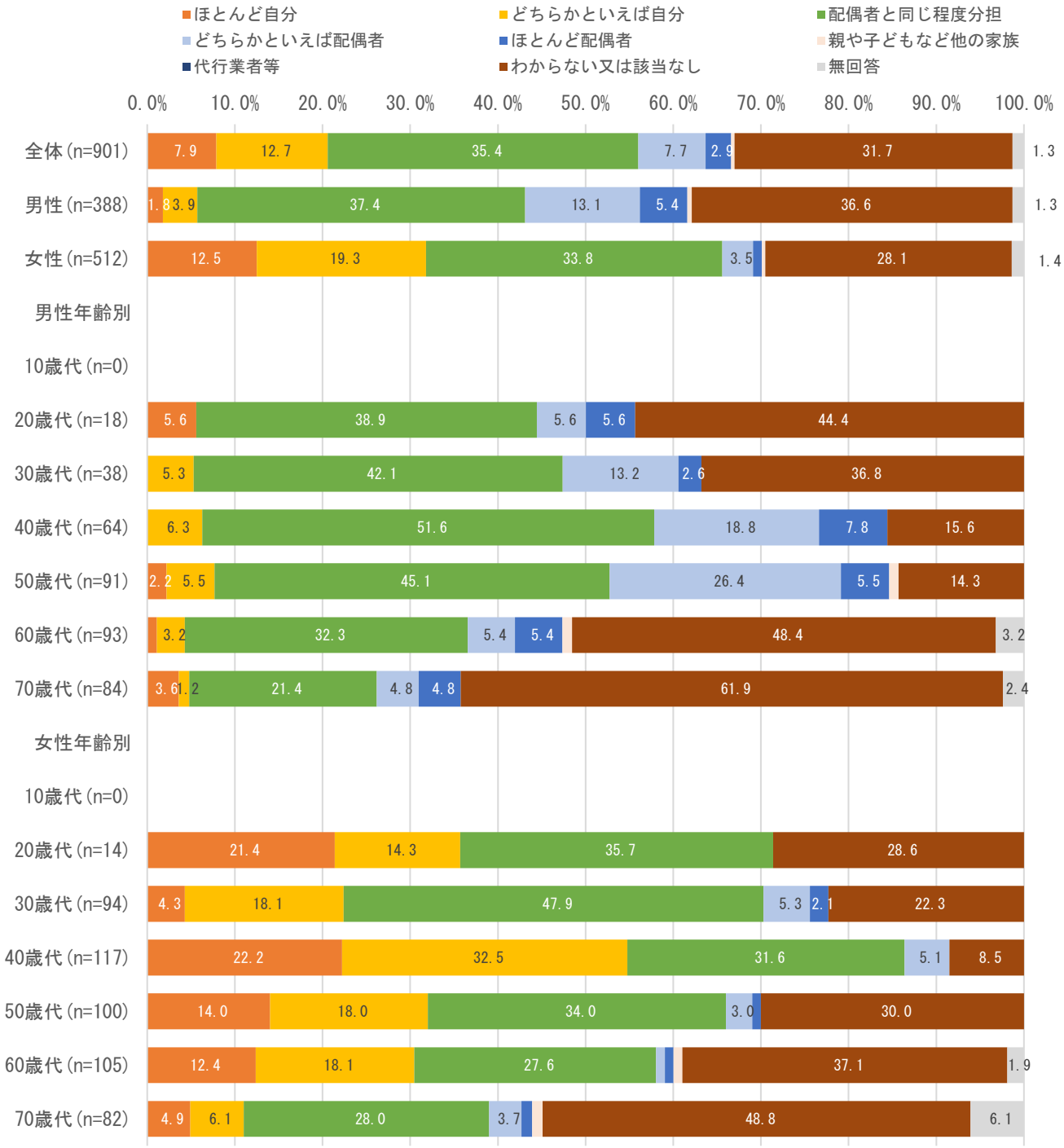


L 子どもの教育方針や進路

共通認識で３割以上が「配偶者と同じ程度分担」であるが、女性の役割がやや大きい

「配偶者と同じ程度分担」が 35.4%で最も高く、次いで「わからない又は該当なし」が 31.7%、「どちらかといえば自分」が 12.7%と続いている。これは、回答者数の性別による影響もややみられ、女性では「ほとんど自分」が 12.5%、「どちらかといえば自分」の 19.3%を合わせると 31.8%となっている。また、男性の「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」が 5.7%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 18.5%となっている。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 3.6 ポイント男性が高いことからやや女性の役割がやや大きいことがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「配偶者と同じ程度分担」は男性が 40 歳代、女性は 30 歳代が最も高く、以降年代の上昇とともに減少している。

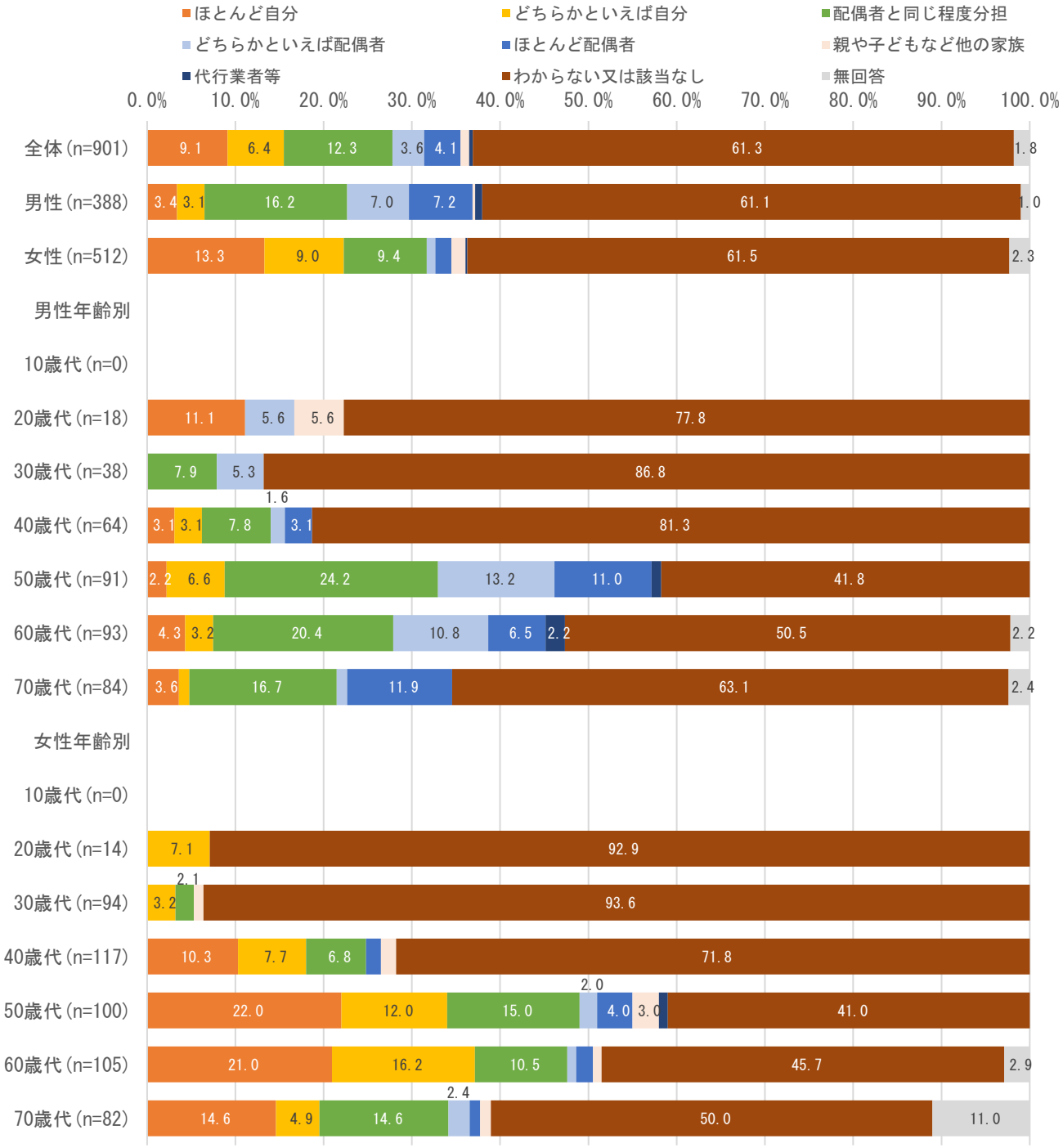


M 介護問題

共通認識で女性の役割がやや大きい

「わからない又は該当なし」が 61.3%で最も高く、次いで「配偶者と同じ程度分担」が 12.3%、「どちらかといえば自分」が 9.1%と続いている。これは、回答者数の性別による影響もややみられ、女性では「ほとんど自分」が 13.3%、「どちらかといえば自分」の 9.0%を合わせると 22.3%となっている。また、男性の「どちらかといえば自分」・「ほとんど自分」で 6.5%、「どちらかといえば配偶者」・「ほとんど配偶者」で 14.2%となっている。また、「配偶者と同じ程度分担」の男女の認識差は 6.8 ポイント男性が高いことから女性の役割がやや大きいことがわかる。

性別・年代別でも傾向の相違はみられず、「女性の役割」は男が 50 歳代、女性は 60 歳代が最も高くなっている。



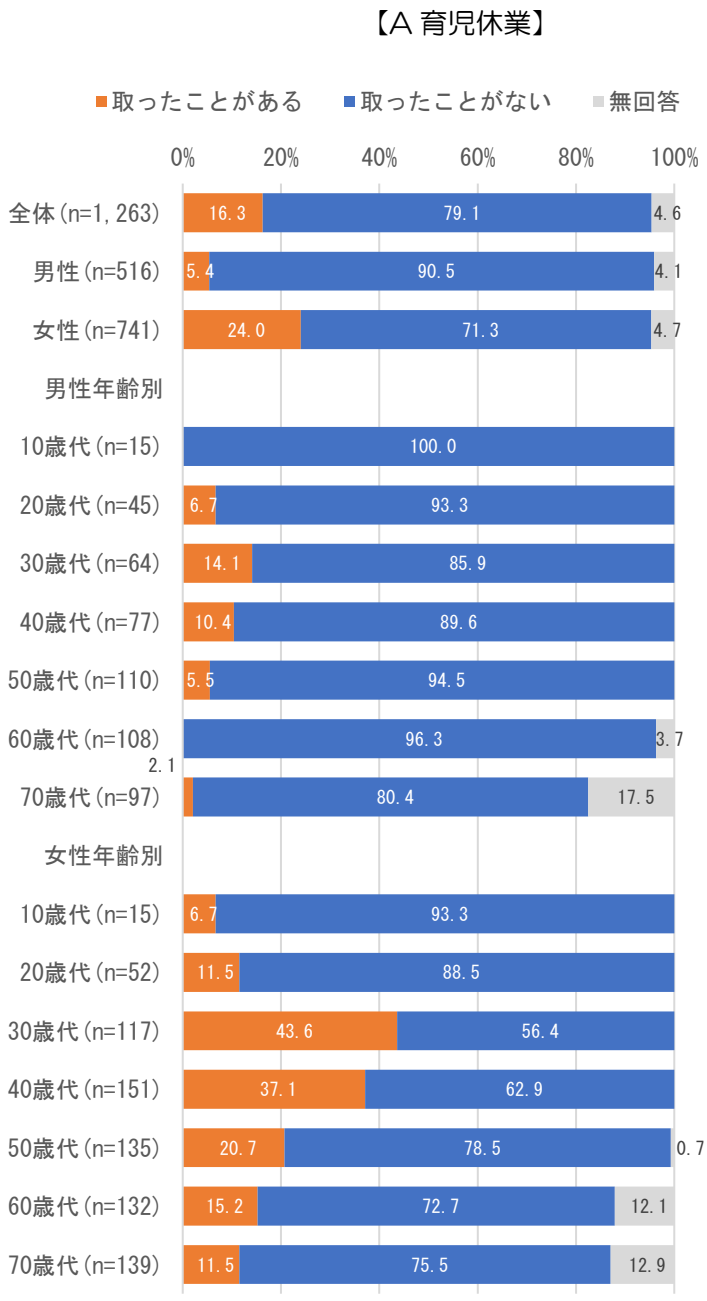
【全員がお答えください】

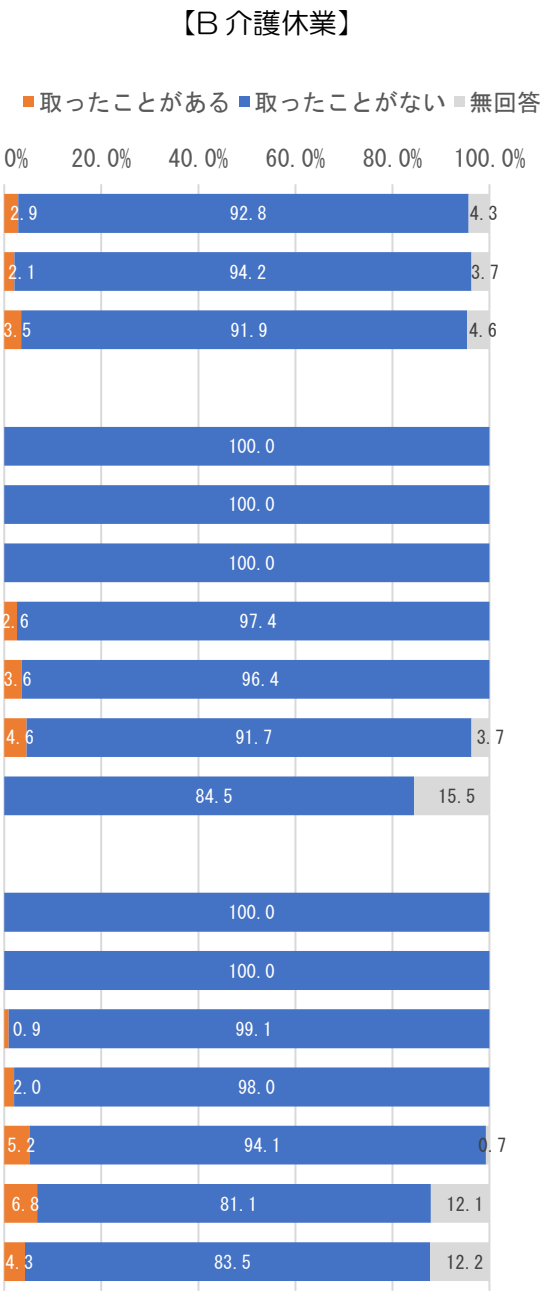
問８　あなたは育児休業、介護休業を取ったことがありますか。A 育児休業・B 介護休業それぞれについてお答えください。（SA）

育児休業の取得率は 16.3%、介護休業取得率は 2.9%、いずれも女性の取得率が高い

育児休業の取得率は 16.3%、男性が 5.4%、女性が 24.0%となっている。性別・年代別では男女ともに 30 代が最も高く男性は 14.1%、女性は 43.6%となっており、以降年代の上昇とともに減少している。

介護休業の取得率は 2.9%、男性が 2.1%、女性が 3.5%となっている。性別・年代別で男性は 40 歳代から 60 歳代で年代の上昇とともに増加し、女性は 30 歳代から 60 歳代にかけ年代の上昇とともに増加している。



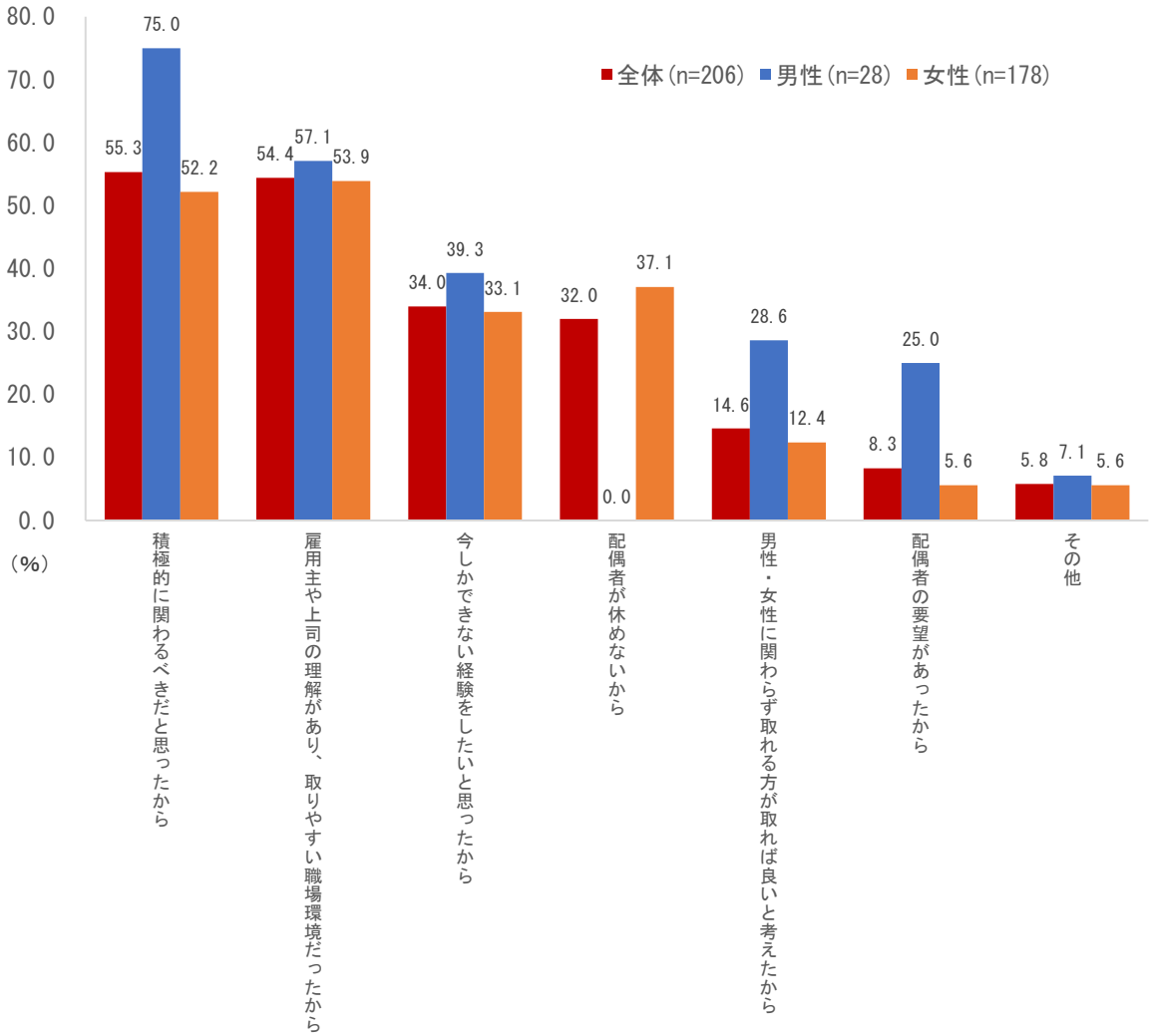


【問８で「育児休業：取ったことがある」を選んだ方がお答えください】
問９　育児休業を取った理由は何ですか。（○は３つまで）（MA）

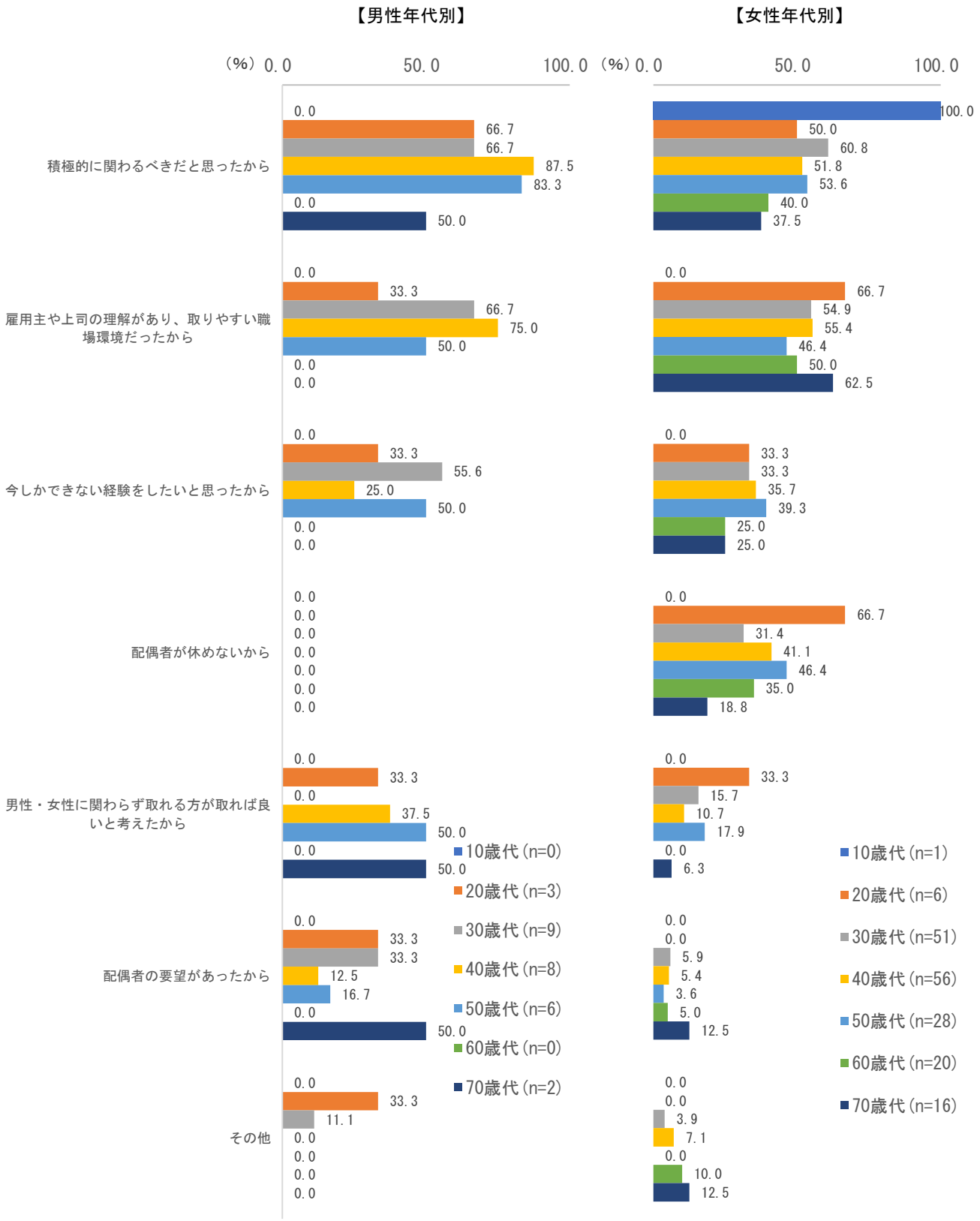
「積極的に関わるべきだと思ったから」が 55.3%でトップ

「積極的に関わるべきだと思ったから」が 55.3%で最も高く、次いで「雇用主や上司の理解があり、取りやすい職場環境だったから」が 54.4%、「今しかできない経験をしたいと思ったから」が 34.0%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、女性で「雇用主や上司の理解があり、取りやすい職場環境だったから」が 53.9%で 1 位項目となり、「配偶者が休めないから」が 37.1%で 3 位項目となっている。　また、全体 1 位項目の「積極的に関わるべきだと思ったから」は男性が 22.8 ポイント高いなど男女間の乖離が大きい項目がある。



性別・年代別は各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

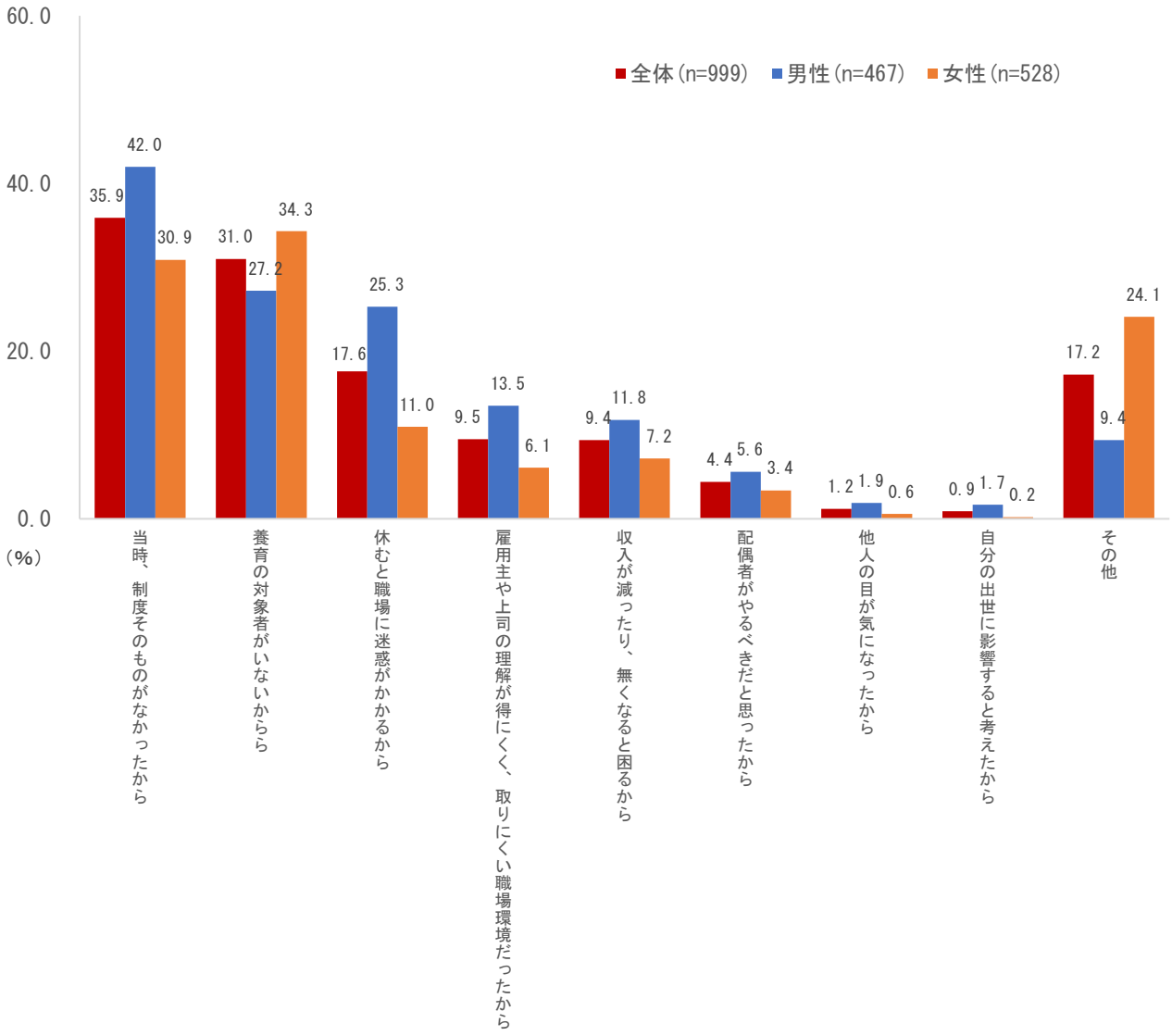


【問８で「育児休業：取ったことがない」を選んだ方がお答えください】
問１０　育児休業を取らなかった理由は何ですか。（○は３つまで）（MA）

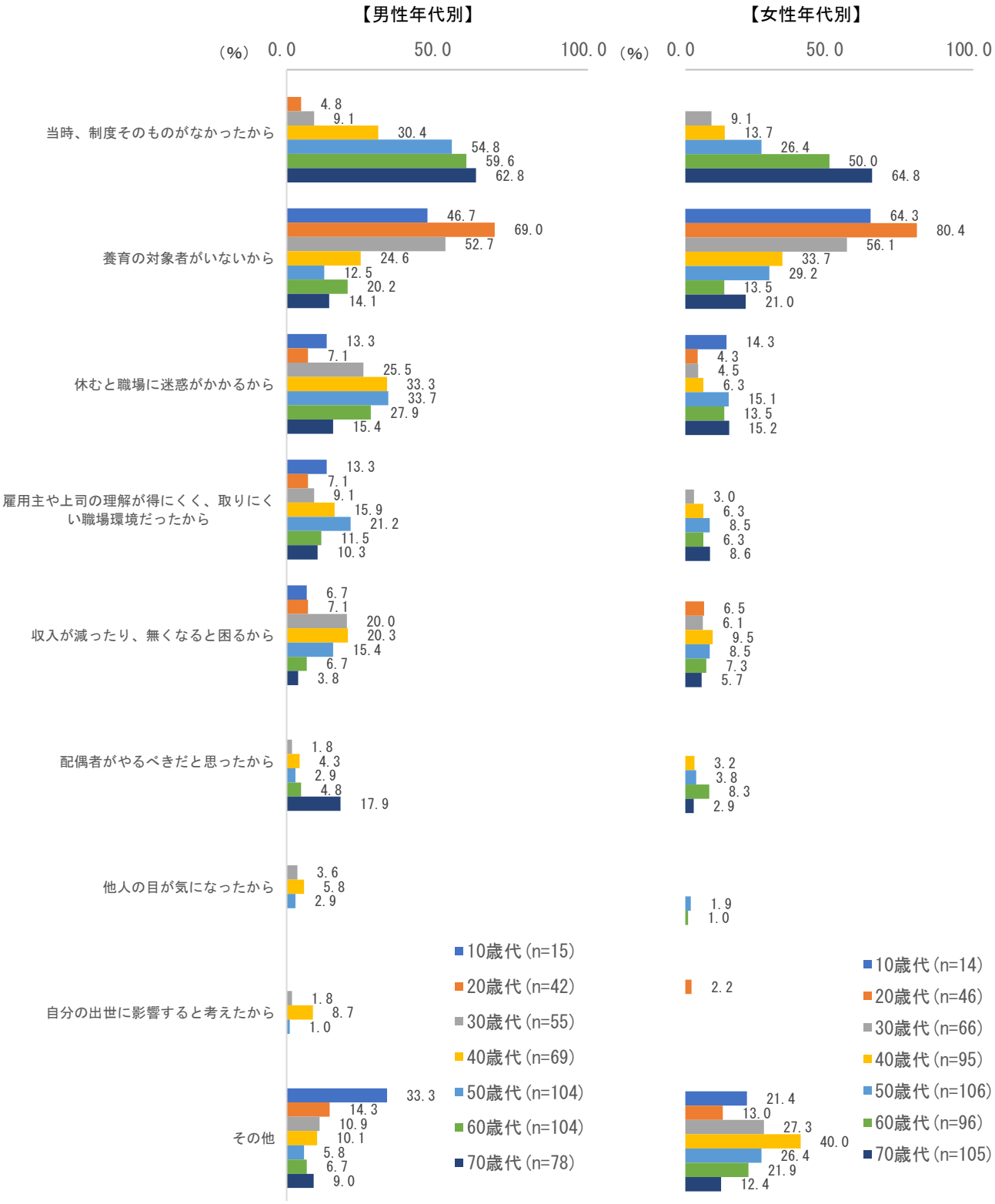
「当時、制度そのものがなかったから」が 35.9%でトップ

「当時、制度そのものがなかったから」が 35.9%で最も高く、次いで「養育の対象者がいないから」が 31.0%、「休むと職場に迷惑がかかるから」が 17.6%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、女性で「養育の対象者がいないから」が 34.3%で 1 位項目となっている。また、全体上位 3 項目の男女間の乖離が大きく、「当時、制度そのものがなかったから」は 11.1 ポイント、「休むと職場に迷惑がかかるから」は 14.3 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「当時、制度そのものがなかったから」は男女とも年代の上昇とともに増加し、「養育の対象者がいないから」は年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。また、「休むと職場に迷惑がかかるから」は男女での乖離はあるものの、男性は 50 歳代まで増加し、以降は年代の上昇とともに減少し、女性は 70 代代が最も高くなっている。

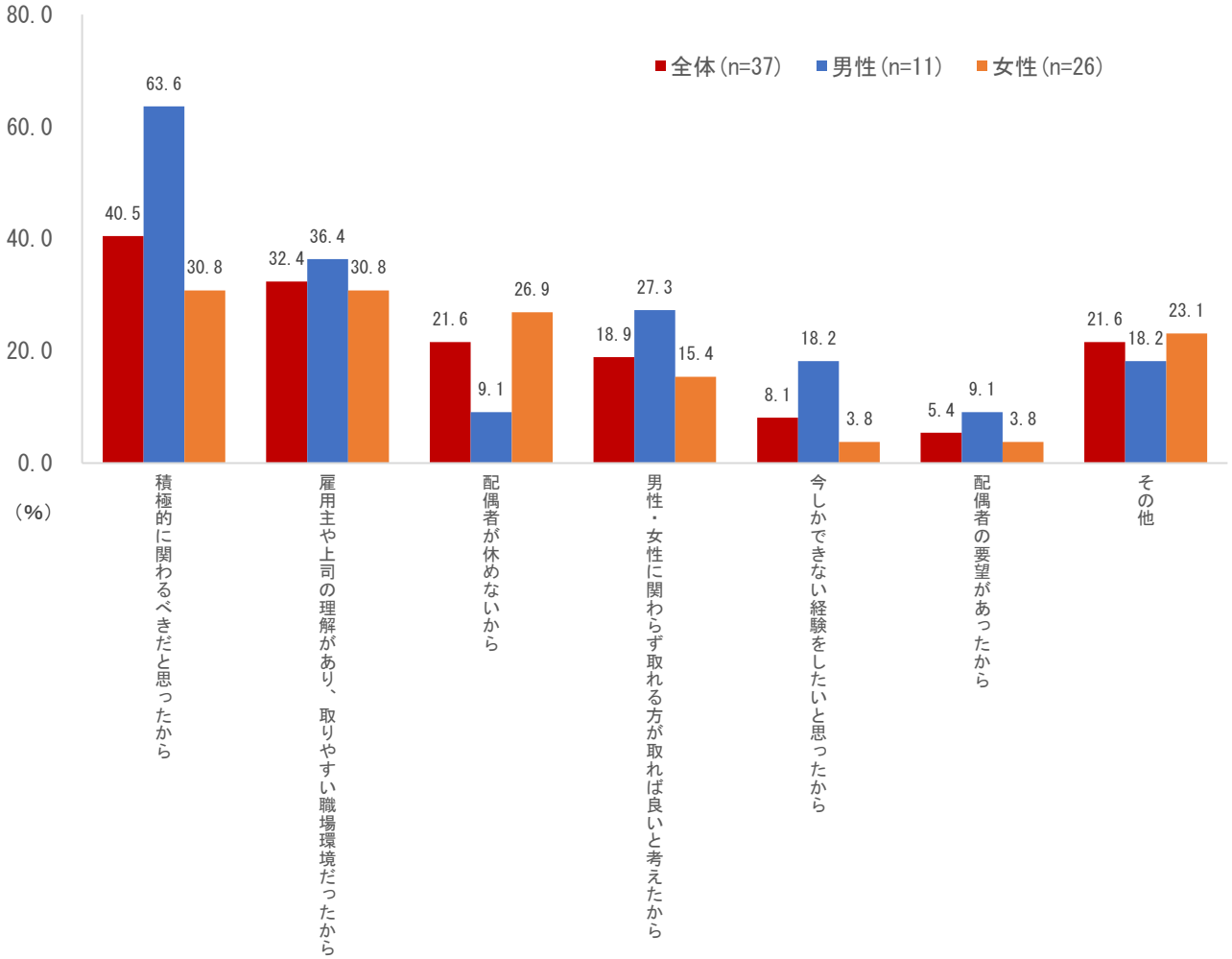


【問８で「介護休業：取ったことがある」を選んだ方がお答えください】
問１１　介護休業を取った理由は何ですか。（○は３つまで）（MA）

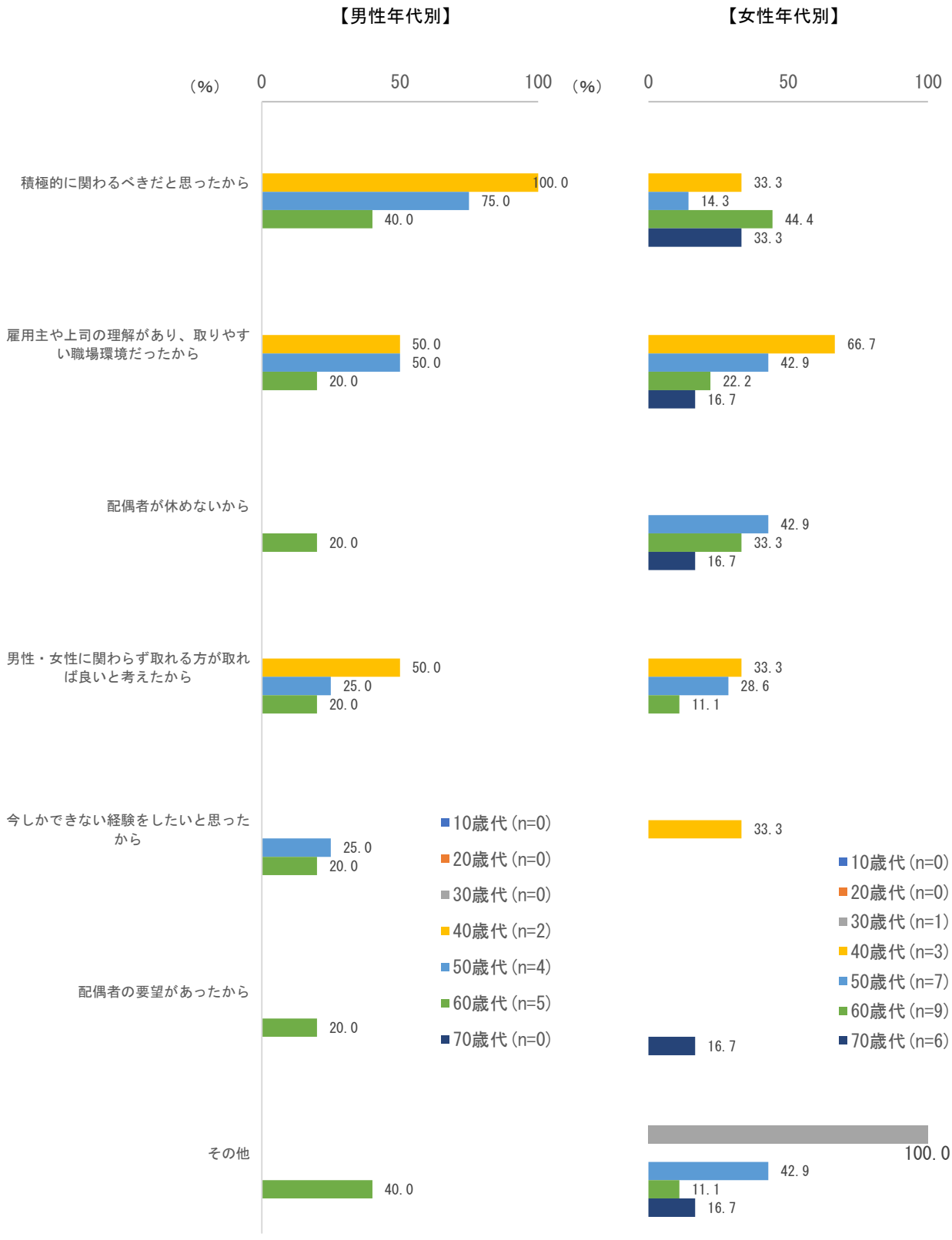
「積極的に関わるべきだと思ったから」が 40.5%でトップ

「積極的に関わるべきだと思ったから」が 40.5%で最も高く、次いで「雇用主や上司の理解があり、取りやすい職場環境だったから」が 32.4%、「配偶者が休めないから」が 21.6%と続いている。

性別で上位 3 項目に傾向の相違はみられないが、全体 1 位項目の「積極的に関わるべきだと思ったから」は男性が 32.8 ポイント高く、「配偶者が休めないから」は 17.8 ポイント女性が高いなど男女間の乖離が大きい。



性別・年代別は各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

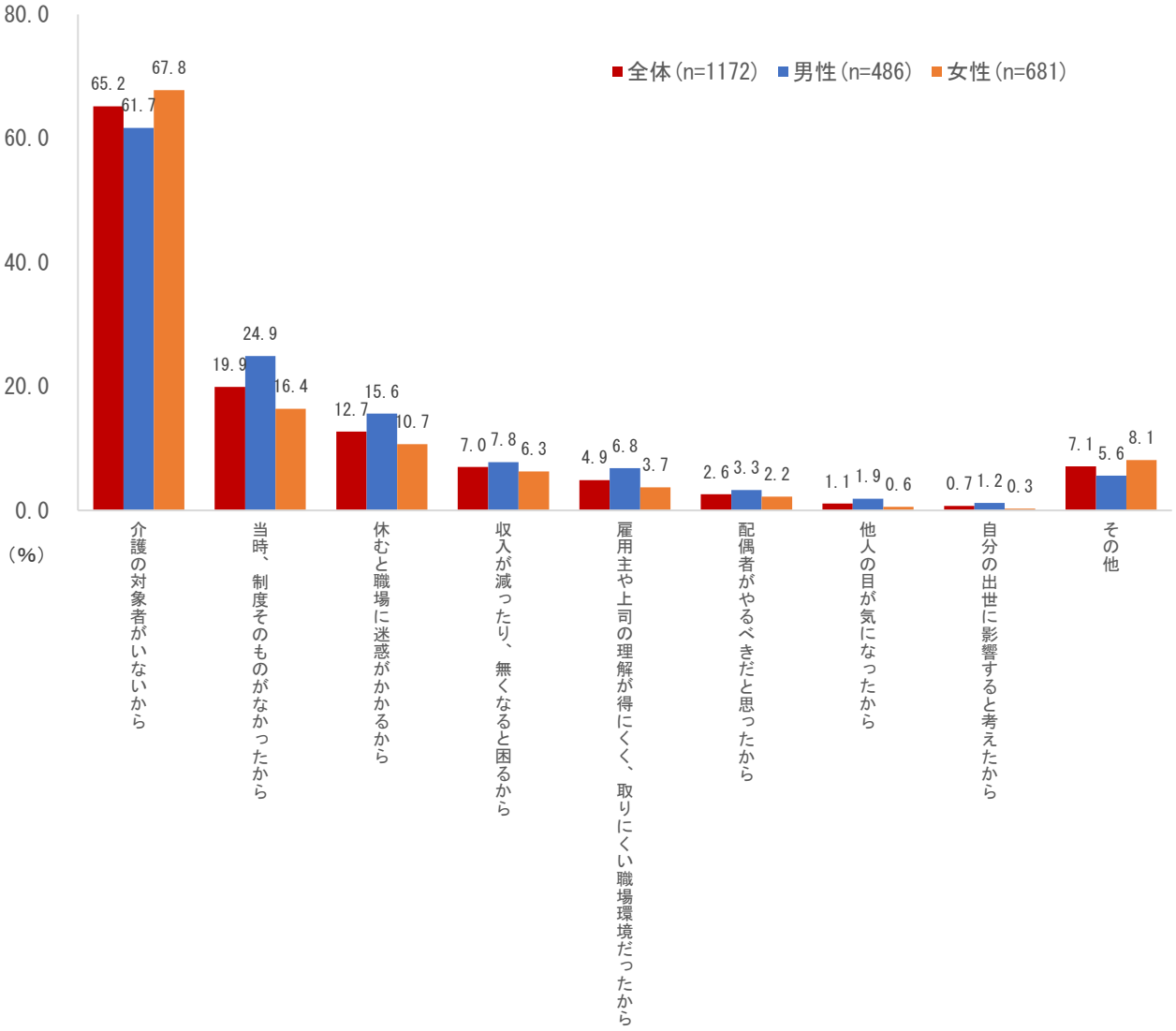


【問８で「介護休業：取ったことがない」を選んだ方がお答えください】
問１２　介護休業を取らなかった理由は何ですか。（○は３つまで）（MA）

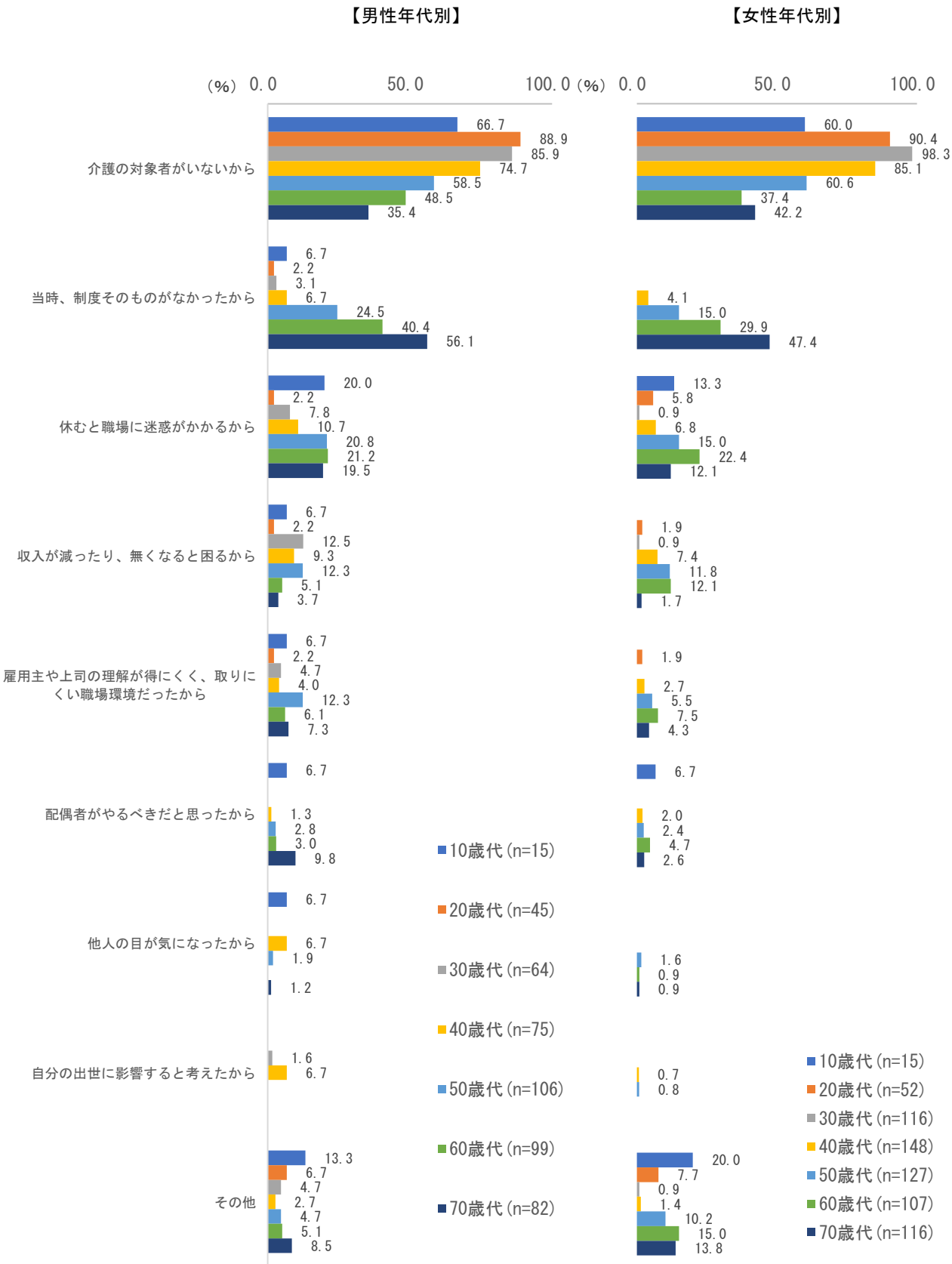
「介護の対象者がいないから」が 65.2%でトップ

「介護の対象者がいないから」が 65.2%で最も高く、次いで「当時、制度そのものがなかったから」が 19.9%、「休むと職場に迷惑がかかるから」が 12.7%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違はみられないが「当時、制度そのものがなかったから」は 8.5 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「介護の対象者がいないから」は男性が 20 歳代、女性は 30 歳代が最も高く、以降年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、「当時、制度そのものがなかったから」は年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。また、「休むと職場に迷惑がかかるから」は男女ともに 60 歳代まで年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



【※育児中、介護中、または今後育児・介護の予定も含めてお答えください】

問１３　育児休業、介護休業を取りますか。（SA）

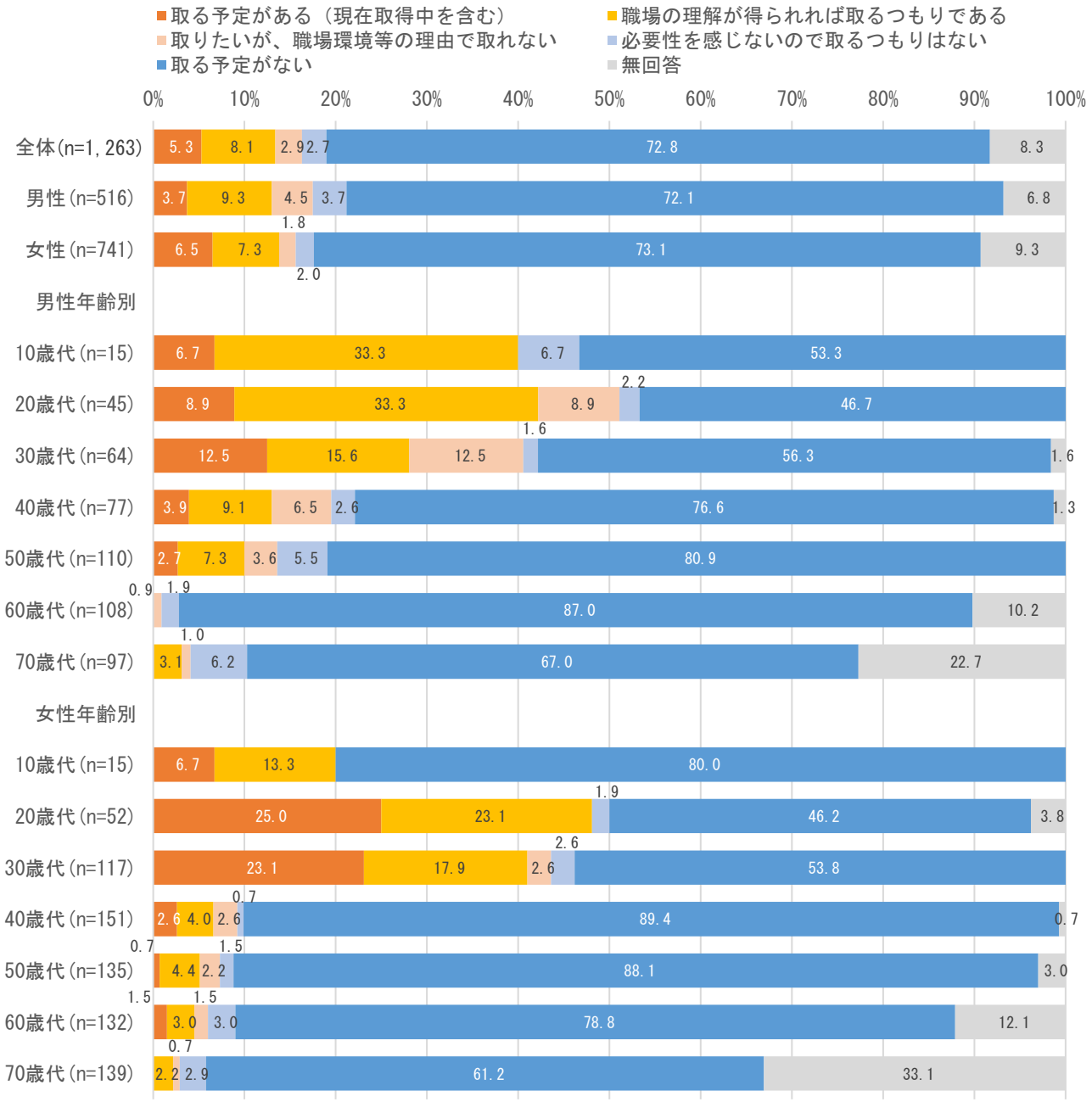
【A育児休業】

「取る」が 13.4%、「取らない」が 5.6%、「予定がない」が 72.8%

「取る予定がない」が 72.8%で最も高く、次いで「職場の理解が得られれば取るつもりである」が 8.1%、「取る予定がある（現在取得中を含む）」が 5.3%と続いており、「取る（「取る予定がある」＋「職場の理解が得られれば取るつもりである」）」は 13.4%、「取らない（「取りたいが、職場環境等の理由で取れない」＋「必要性を感じないので取るつもりはない」）」が 5.6%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「取る」は女性が 0.8 ポイント高く「取らない」は男性が 4.4 ポイント高くなっている。

性別・年代別では「取る」は男女とも年代の上昇とともに減少しており、「取らない」は男性女性とも 30 歳代以降は年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。



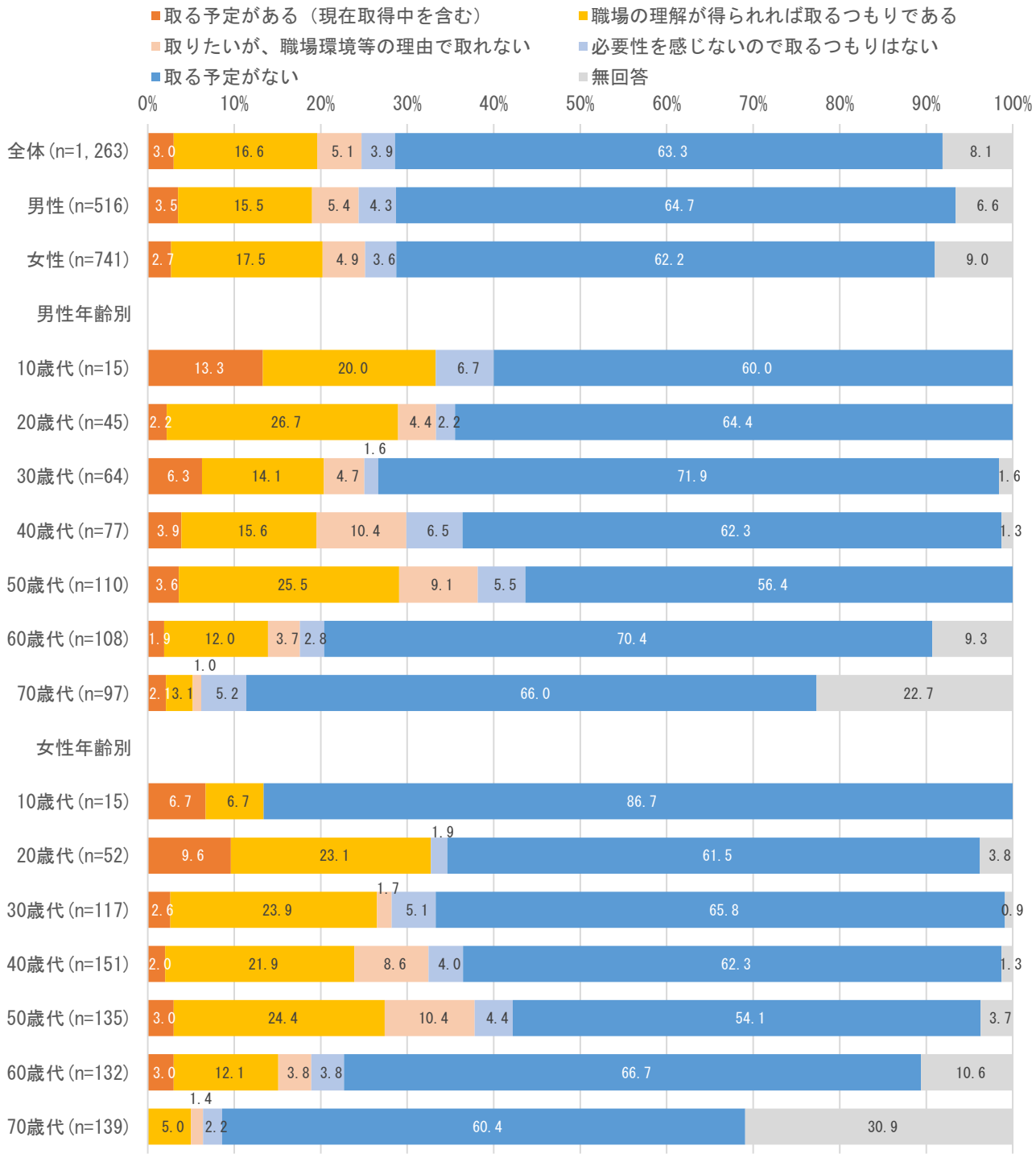
【B 介護休業】

「取る」が 19.4%、「取らない」が 9.0%、「予定がない」が 63.3%

「取る予定がない」が 63.3%で最も高く、次いで「職場の理解が得られれば取るつもりである」が 16.6%、「取る予定がある（現在取得中を含む）」が 3.0%と続いており、「取る」は 19.6%、「取らない」が 9.0%となっている。

性別での傾向の相違はみられず、「取る」は女性が 1.2 ポイント高く「取らない」は男性が 1.2 ポイント高くなっている。

性別・年代別では「取る」は男女とも 50 歳代最も高く、「取らない」は男性で 40 歳代、女性は 50 歳代が最も高くなっている。



【女性活躍推進について】

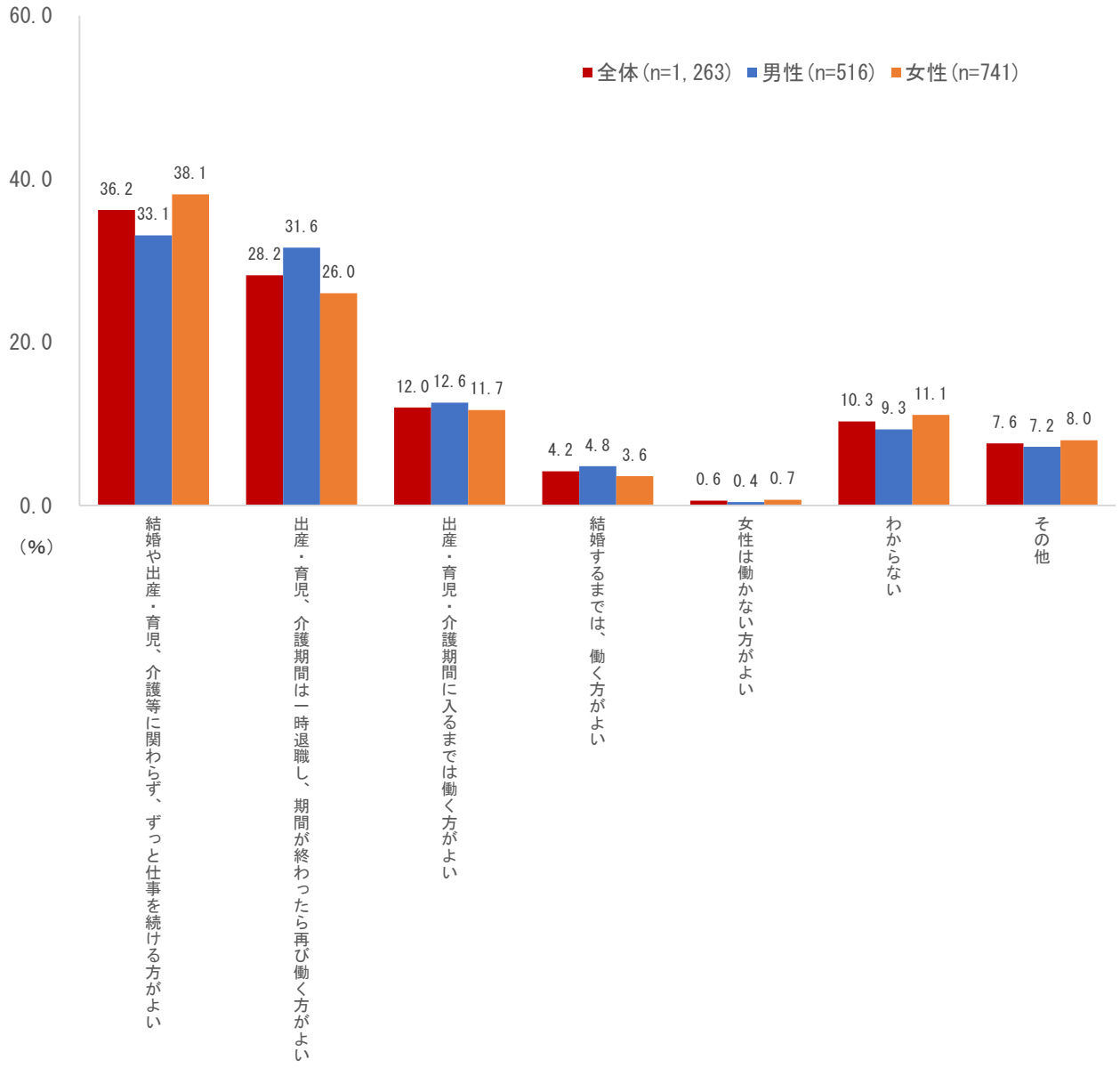
【全員がお答えください】

問１４　あなたは、結婚や出産、育児、介護等のライフイベントがあったとき、「女性が働くこと」についてどう思いますか。あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。（SA）

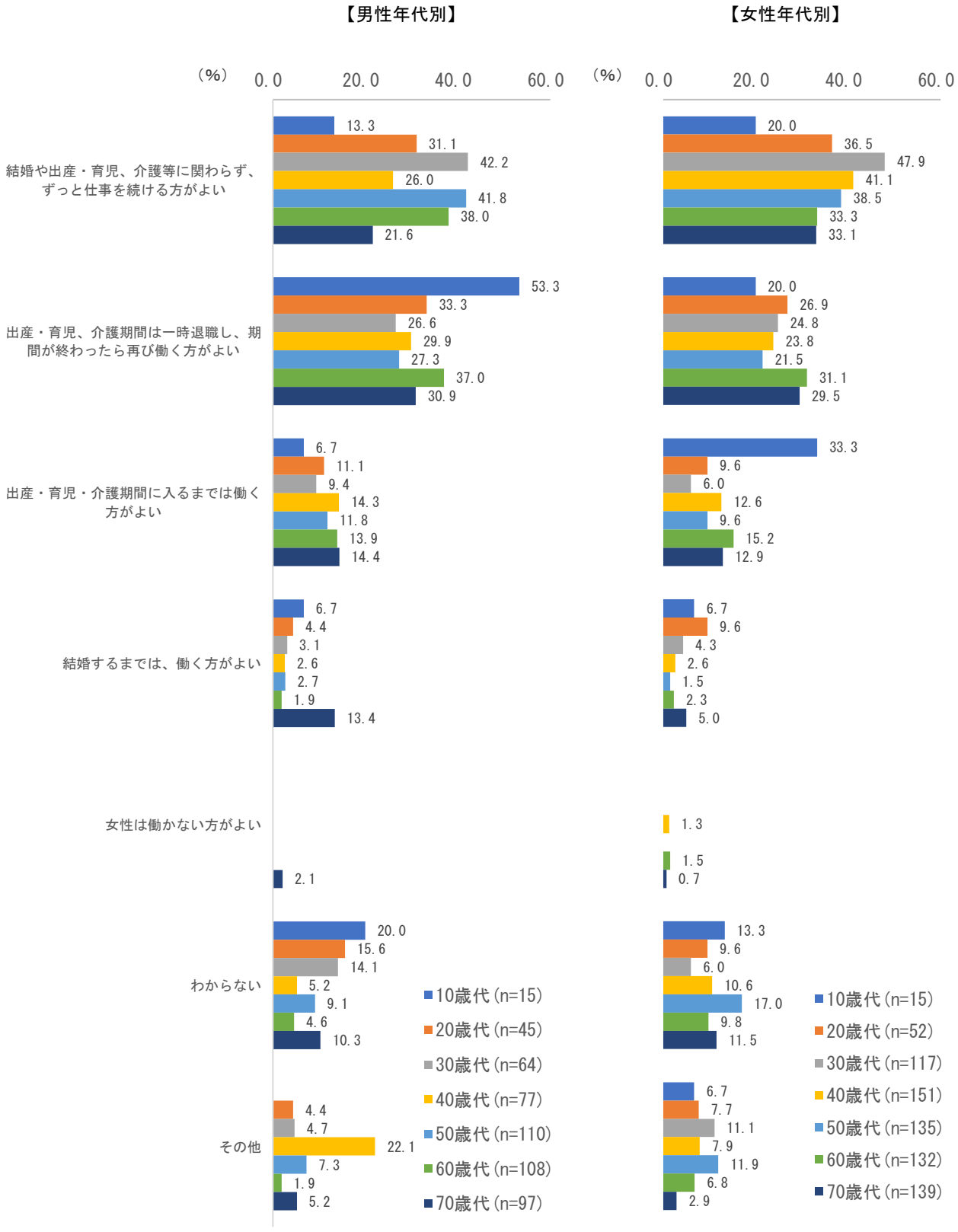
「結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 36.2%でトップ

「結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が 36.2%で最も高く、次いで「出産・育児、介護期間は一時退職し、期間が終わったら再び働く方がよい」が 28.2%、「出産・育児・介護期間に入るまでは働く方がよい」が 12.0%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違はみられないが「結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」は女性が 5.0 ポイント高く、「出産・育児、介護期間は一時退職し、期間が終わったら再び働く方がよい」は 5.6 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「結婚や出産・育児、介護等に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」は男性で 30 歳代が最も高く、女性は 30 歳代以降年代の上昇とともに減少傾向がみられる。「出産・育児、介護期間は一時退職し、期間が終わったら再び働く方がよい」は男女ともに 60 歳代が最も高く、「出産・育児・介護期間に入るまでは働く方がよい」は男性は 70 歳代、女性は 60 歳代が最も高くなっている。



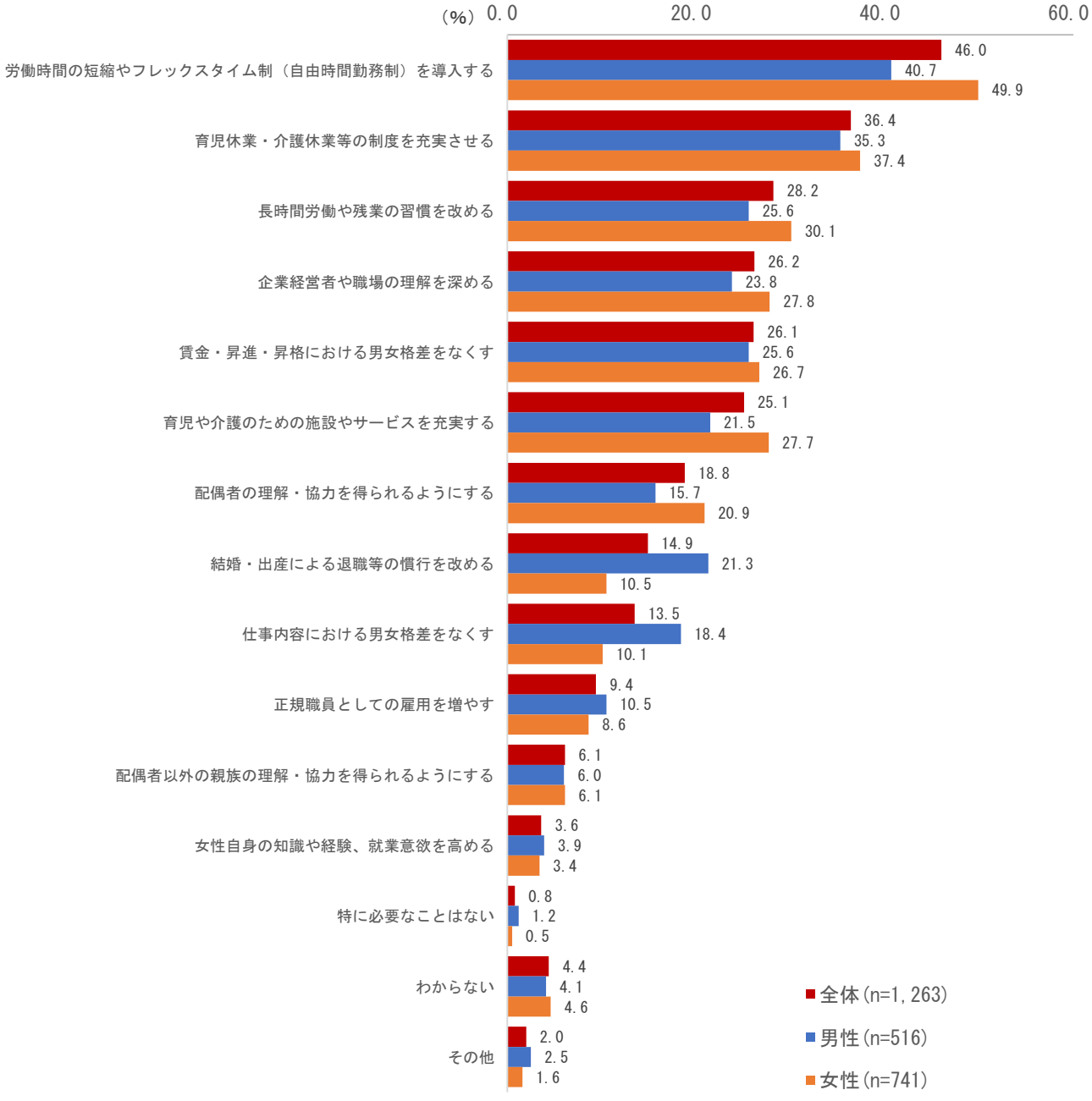
【全員がお答えください】

問１５　結婚や出産、育児、介護等により退職することなく、継続して女性が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）（MA）

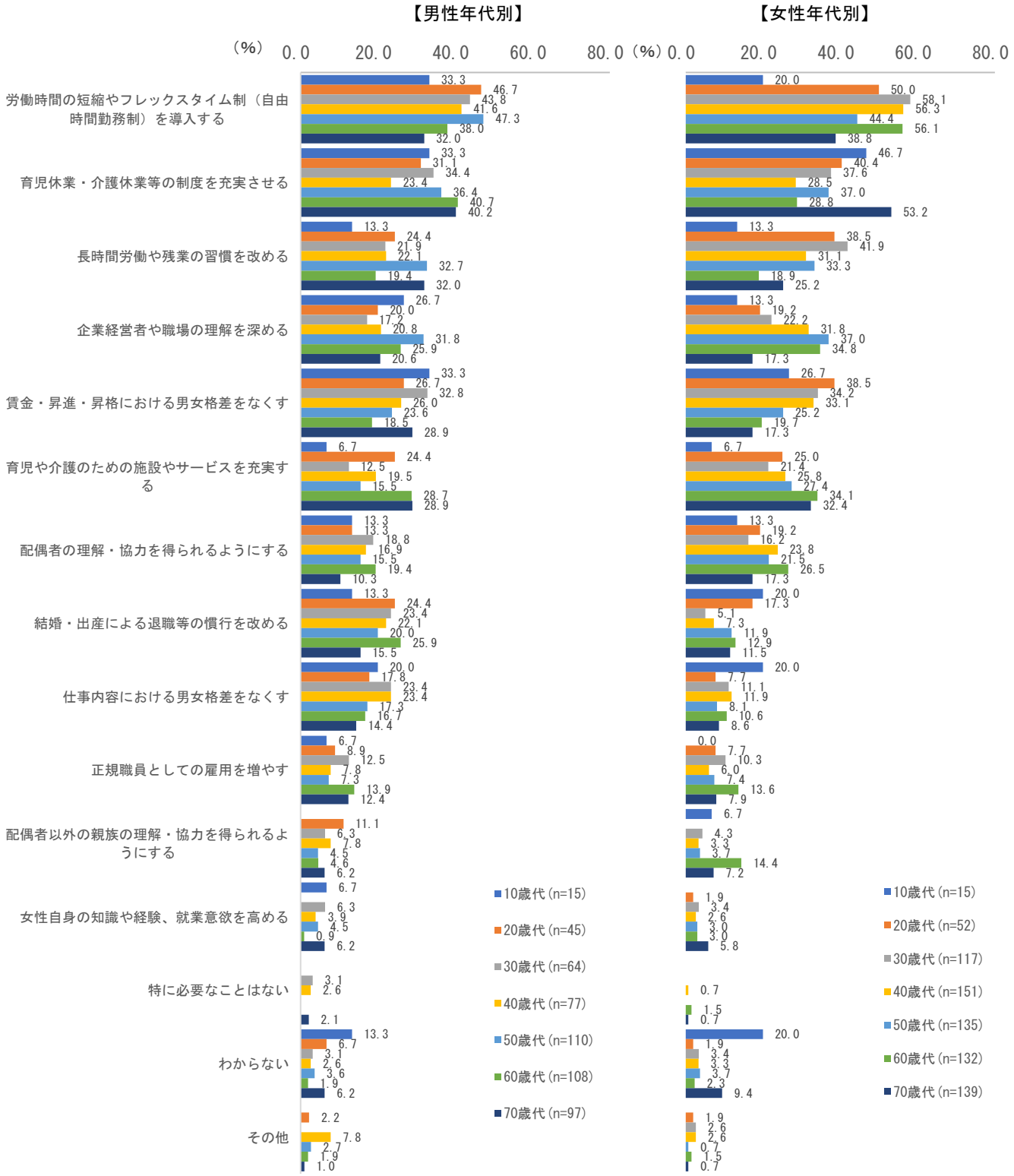
「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由時間勤務制）を導入する」が 46.0%でトップ

「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由時間勤務制）を導入する」が 46.0%で最も高く、次いで「育児休業・介護休業等の制度を充実させる」が 36.4%、「長時間労働や残業の習慣を改める」が 28.2%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違はみられないが、上位 7 項目は男性よりも女性が高く、「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由時間勤務制）を導入する」は男性よりも 9.2 ポイント高くなっており、女性よりも男性が高く差が大きいのは「結婚・出産による退職等の慣行を改める」で 10.8 ポイント、「仕事内容における男女格差をなくす」で 8.3 ポイントとなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由時間勤務制）を導入する」は男性 50 歳代、女性は 30 歳代が最も高く、「育児休業・介護休業等の制度を充実させる」は男性が 60 歳代、女性は 70 歳代が最も高くなっている。また、「長時間労働や残業の習慣を改める」は男性が 50 歳代、女性は 30 歳代が最も高くなっている。

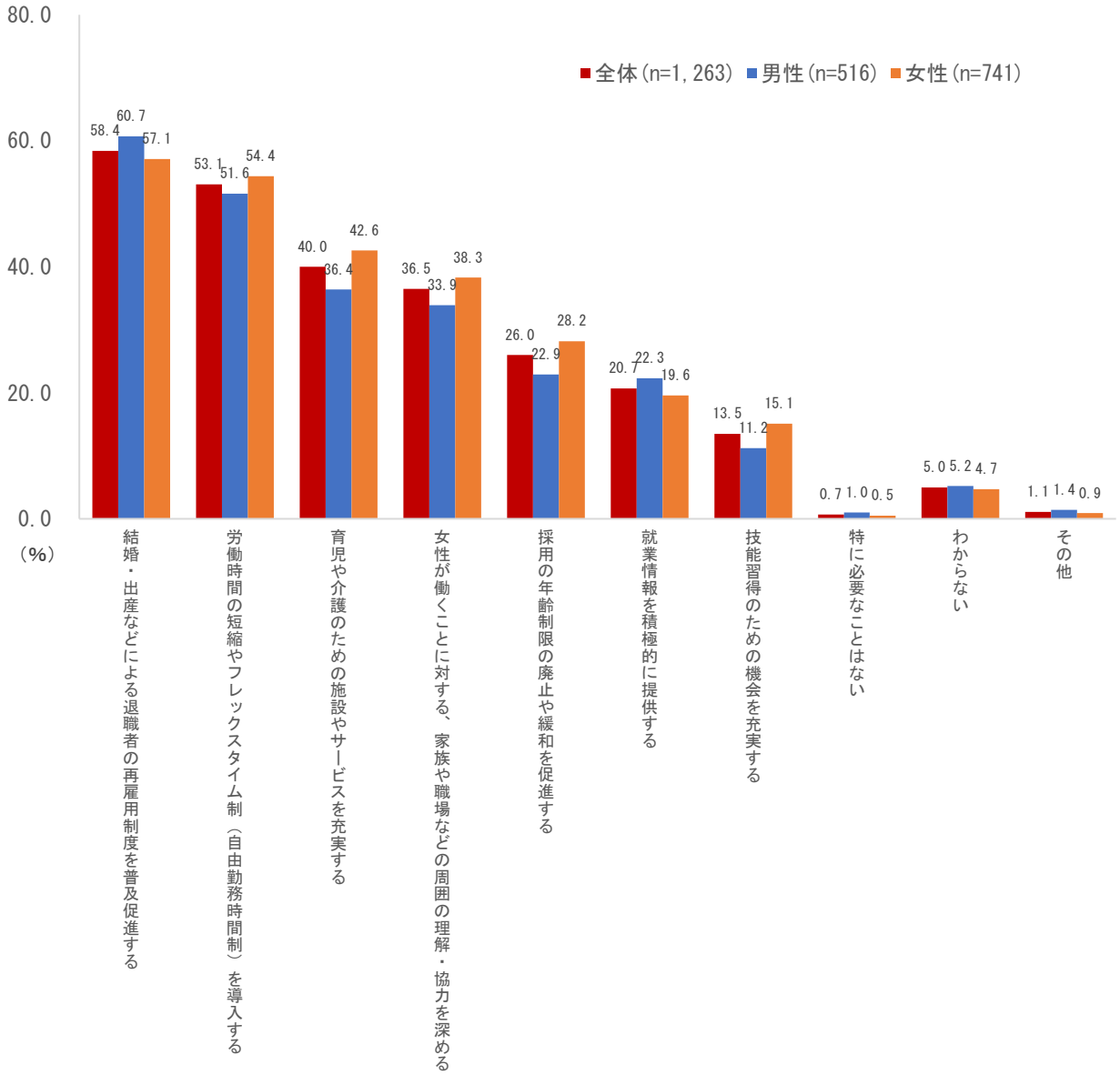


【全員がお答えください】
問１６　結婚や出産、育児、介護等に専念するため一旦退職して落ち着いたあと、女性が再就職するためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）（MA）

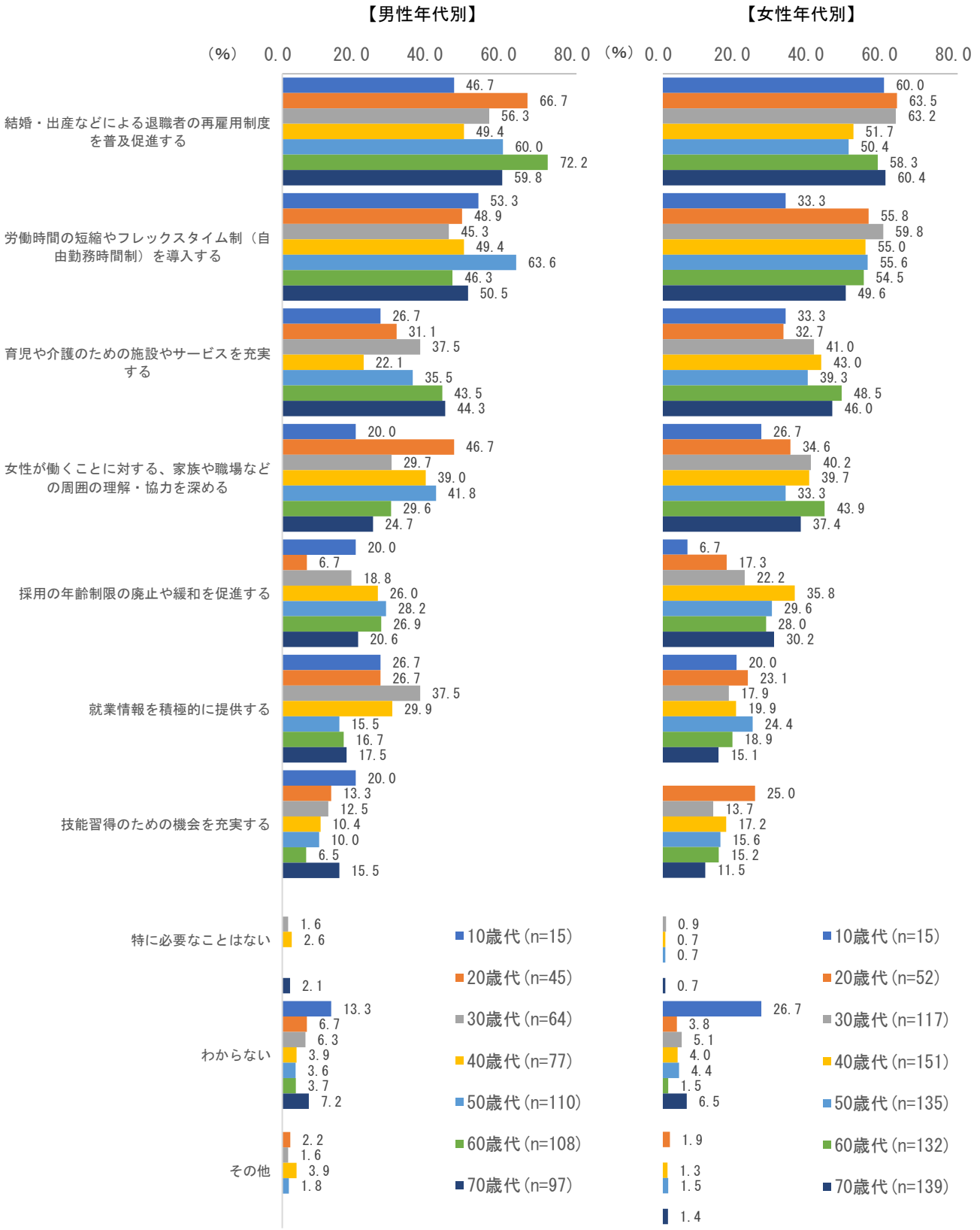
「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」が 58.4%でトップ

「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」が 58.4%で最も高く、次いで「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する」が 53.1%、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」が 40.0%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違はみられないが「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する」は 2.8 ポイント、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」は 6.2 ポイント女性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」は男性が 40 歳代以降年代の上昇とともに増加、70 歳代で減少し、女性は 20 歳代以降年代の上昇とともに減少し、50 歳代以降増加に転じている。「労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する」は男性が 50 歳代、女性は 30 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少の傾向がみられる。また、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」は男女ともに年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。

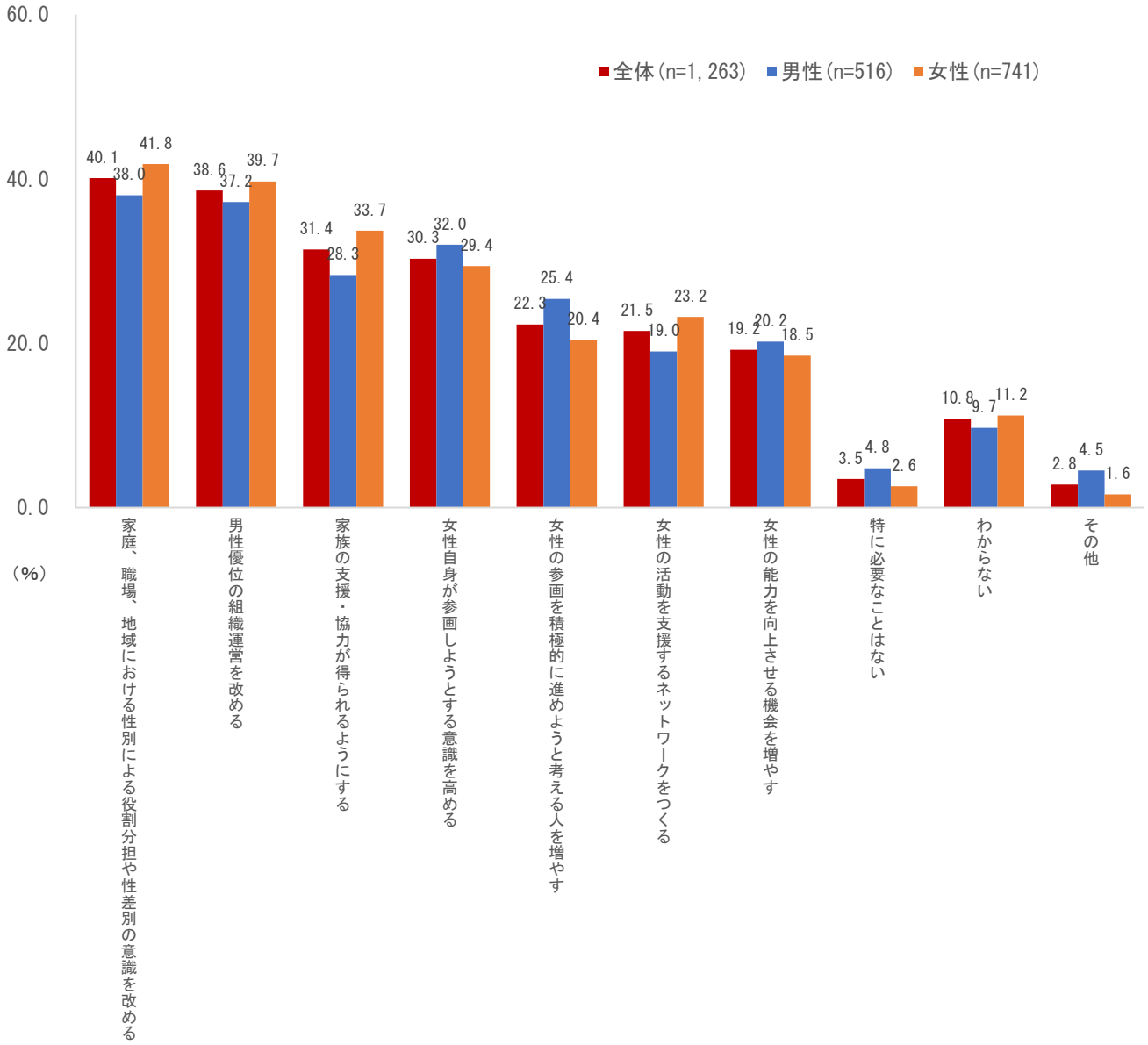


【全員がお答えください】
問１７　女性の社会進出を進めていく中で、議員や審議会等の委員、町内会長などには、まだ女性が少ないのが現状です。今後、政策や方針を決定する場へ女性が参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。（○は３つまで）（MA）

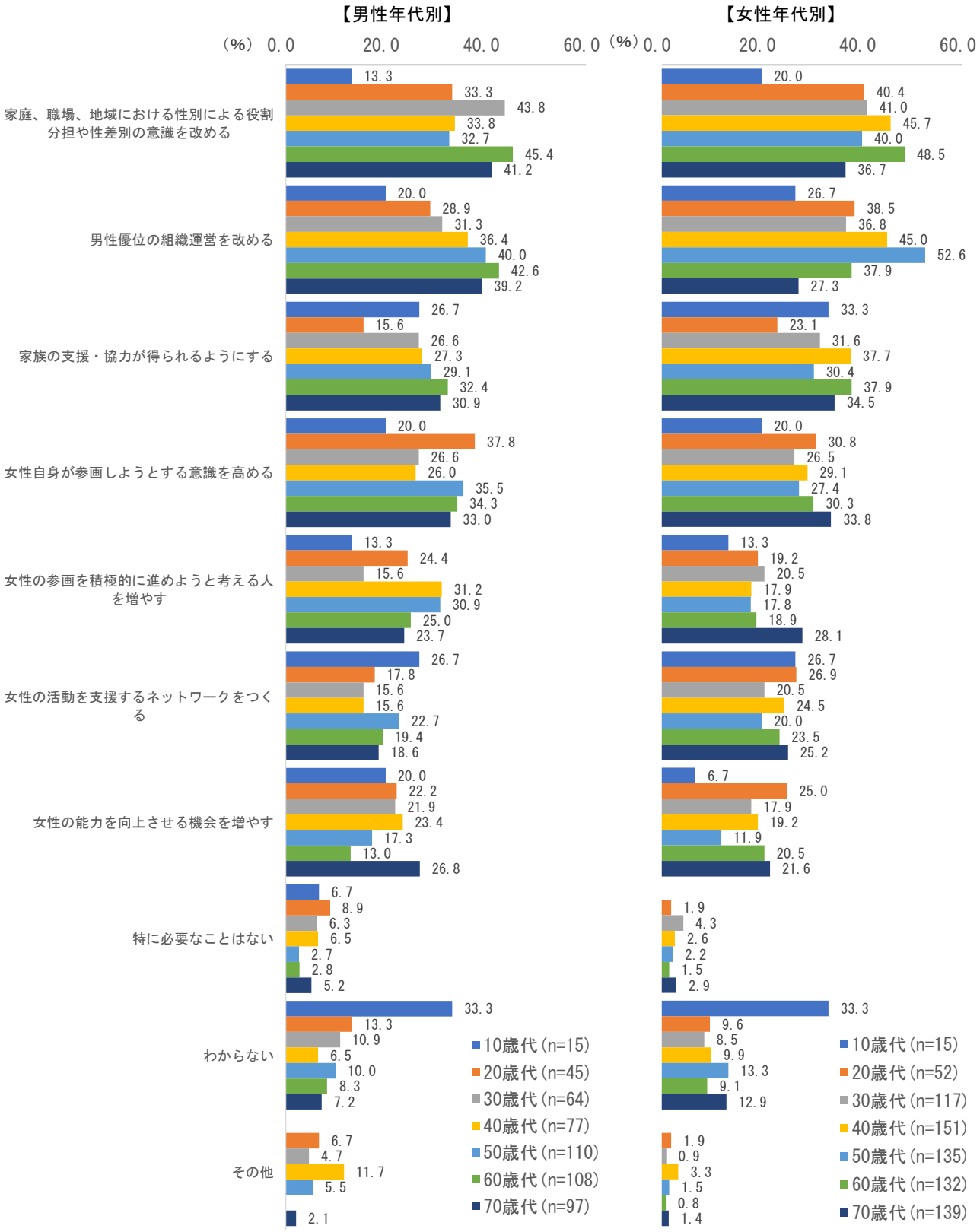
「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が 40.1%でトップ

「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」が 40.1%で最も高く、次いで「男性優位の組織運営を改める」が 38.6%、「家族の支援・協力が得られるようにする」が 31.4%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、男性で「女性自身が参画しようとする意識を高める」が 32.0%で 3 位項目となり、以降の項目でも「女性の参画を積極的に進めようと考える人を増やす」など女性自身の能動性を求める項目は男性のポイントが上回っている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」はバラツキがあり男女ともに 60 歳代が最も高くなっている。「男性優位の組織運営を改める」で男性は年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、女性は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加傾向にあり、以降は減少に転じている。「家族の支援・協力が得られるようにする」は男性が年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、女性はバラツキがあり 60 歳代が最も高くなっている。



【人権（ＤＶ・セクハラ・ＬＧＢＴＱ）について】

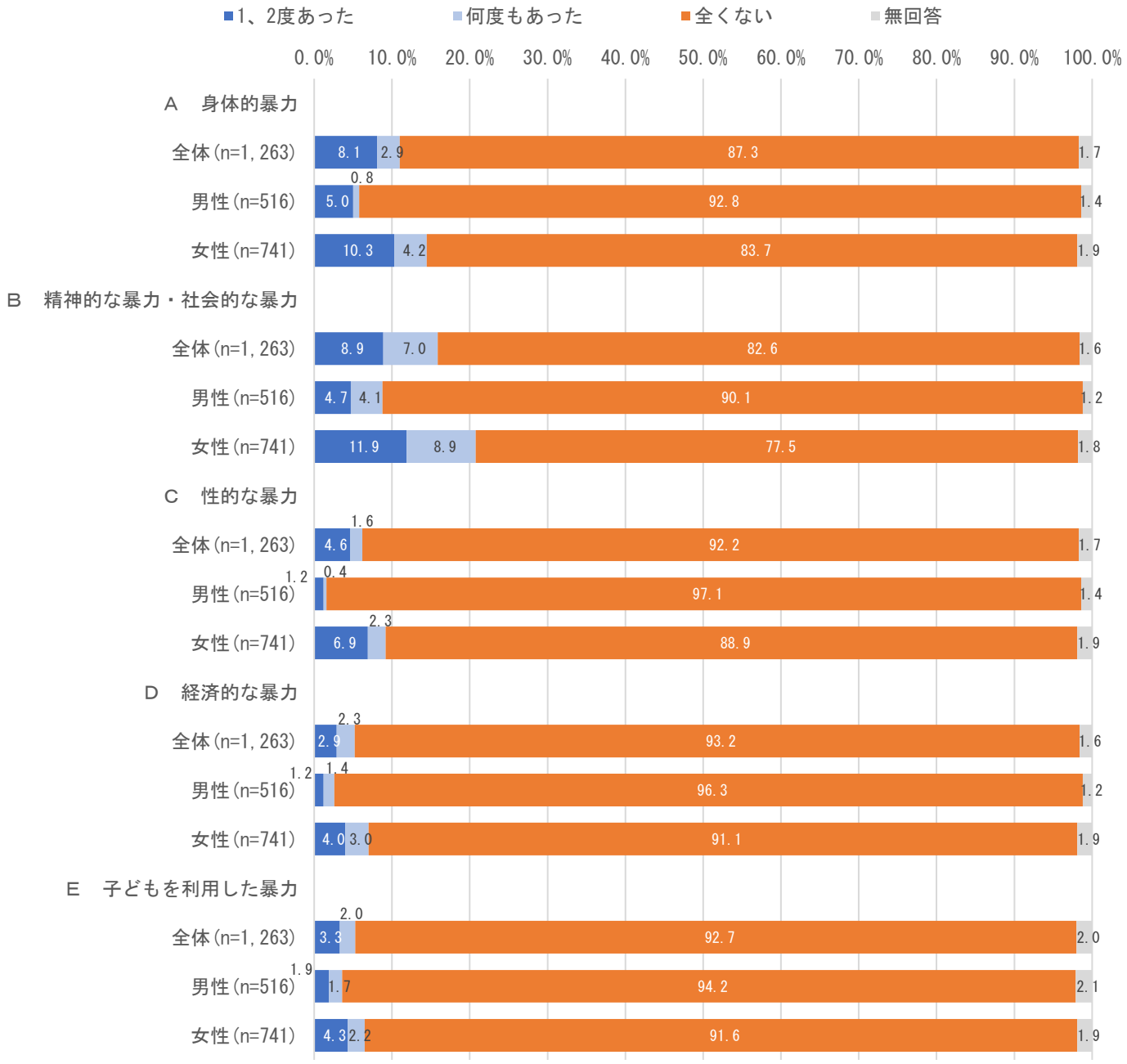
【全員がお答えください】

問１８　ＤＶについてお尋ねします。あなたは、配偶者や交際相手などの親密な関係にある（あった）人から、次にあげるようなことをされたことがありますか。Ａ～Ｅ のそれぞれについて、○をつけてください。（SA）

DV 被害は「精神的な暴力・社会的な暴力」の 15.9%でトップ全項目女性が上回る

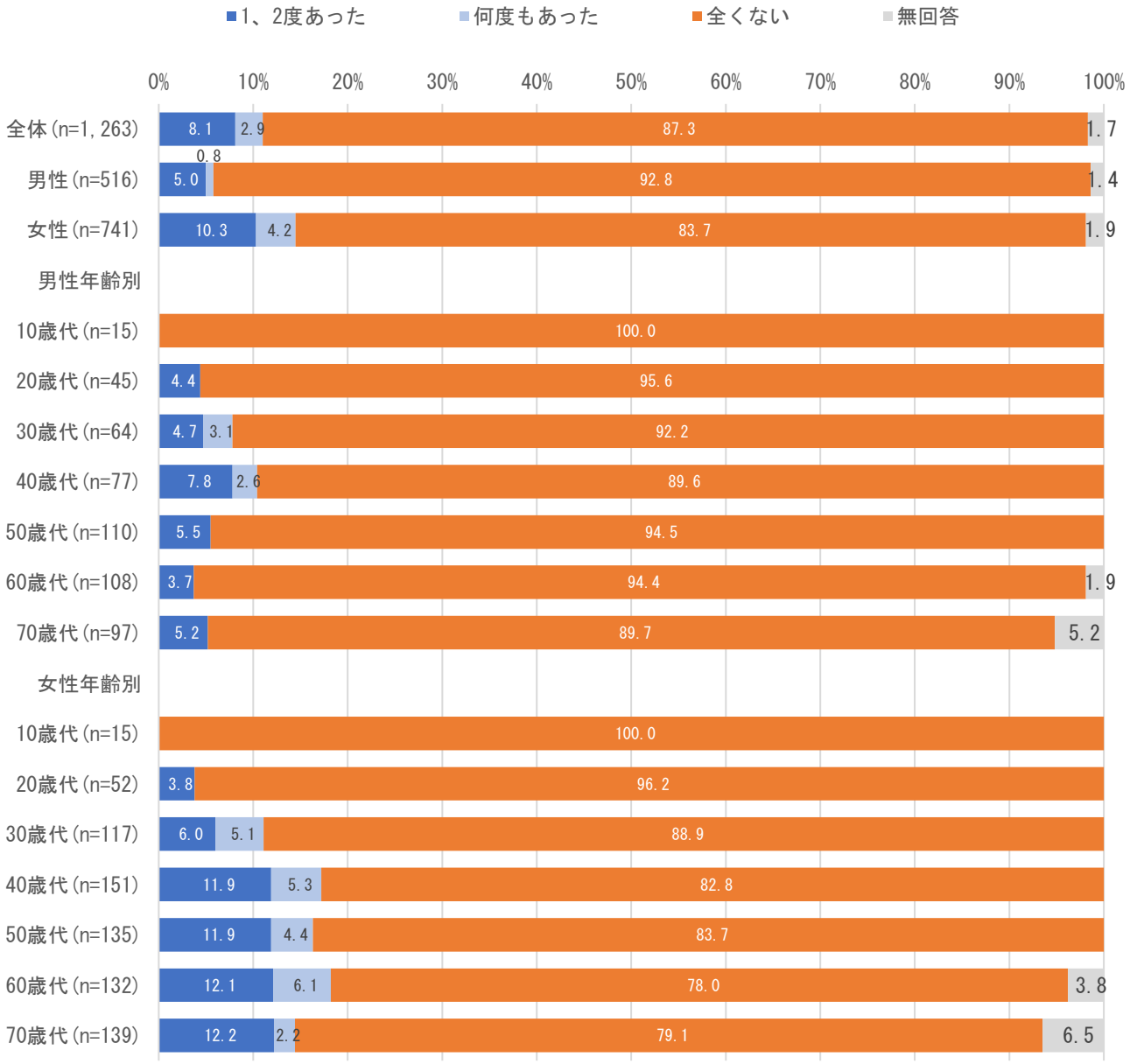
「ＤＶ被害にあった（「1、2 度あった」＋「何度もあった」）」が最も高かったのは「精神的な暴力・社会的な暴力」の 15.9%、次いで「身体的暴力」が 11.0%、「性的な暴力」が 6.2%、「子どもを利用した暴力」が 5.3%、「経済的な暴力」が 5.2%の順で続いている。

性別でみると全ての項目で女性が男性を上回っており、最も乖離が大きかったのは「精神的な暴力・社会的な暴力」の 12.0 ポイントとなっている。



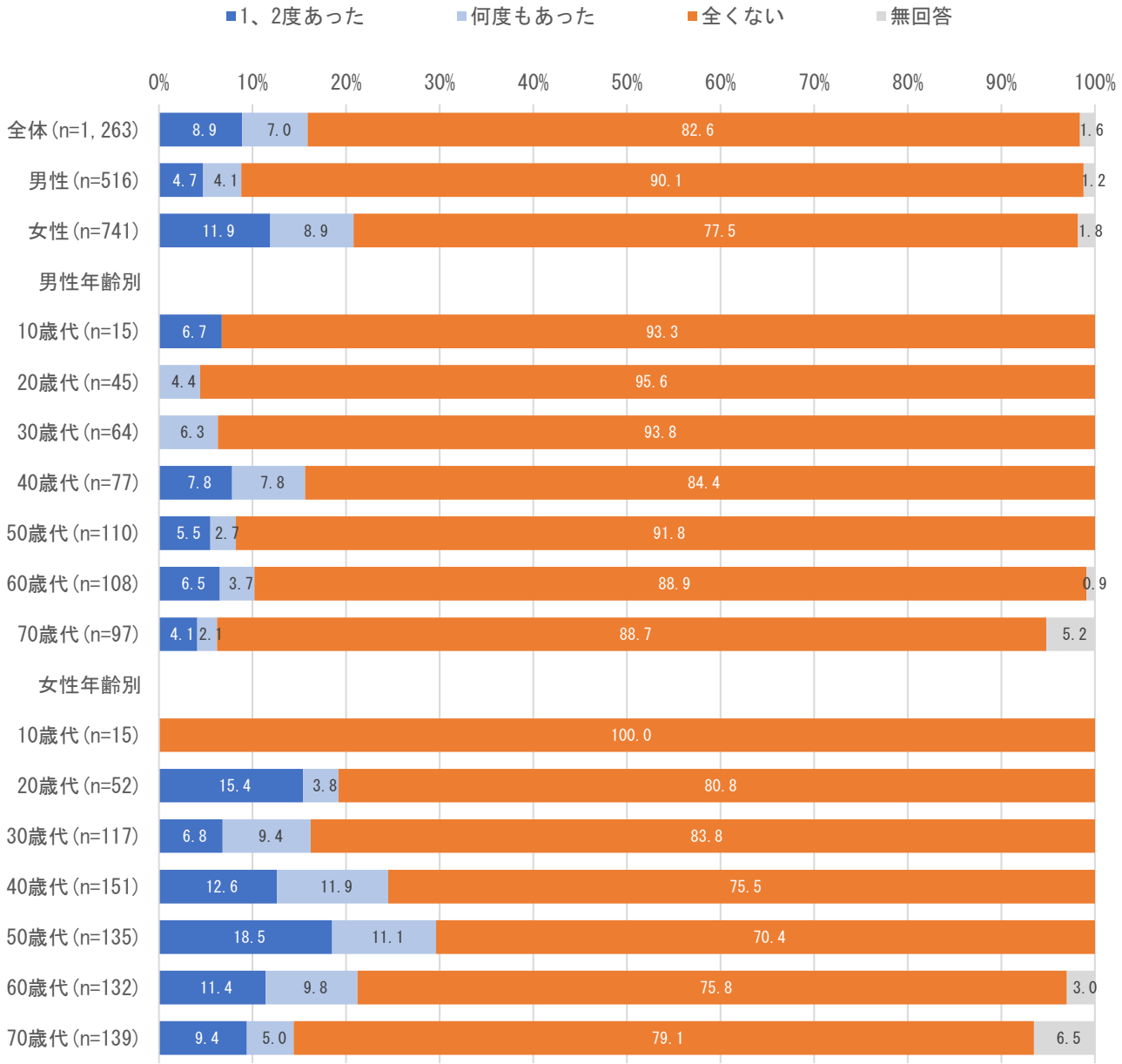
【Ａ身体的暴力】

性別・年代別では「ＤＶ被害にあった」は男性が 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じており、女性は 60 歳代が最も高くなっている。



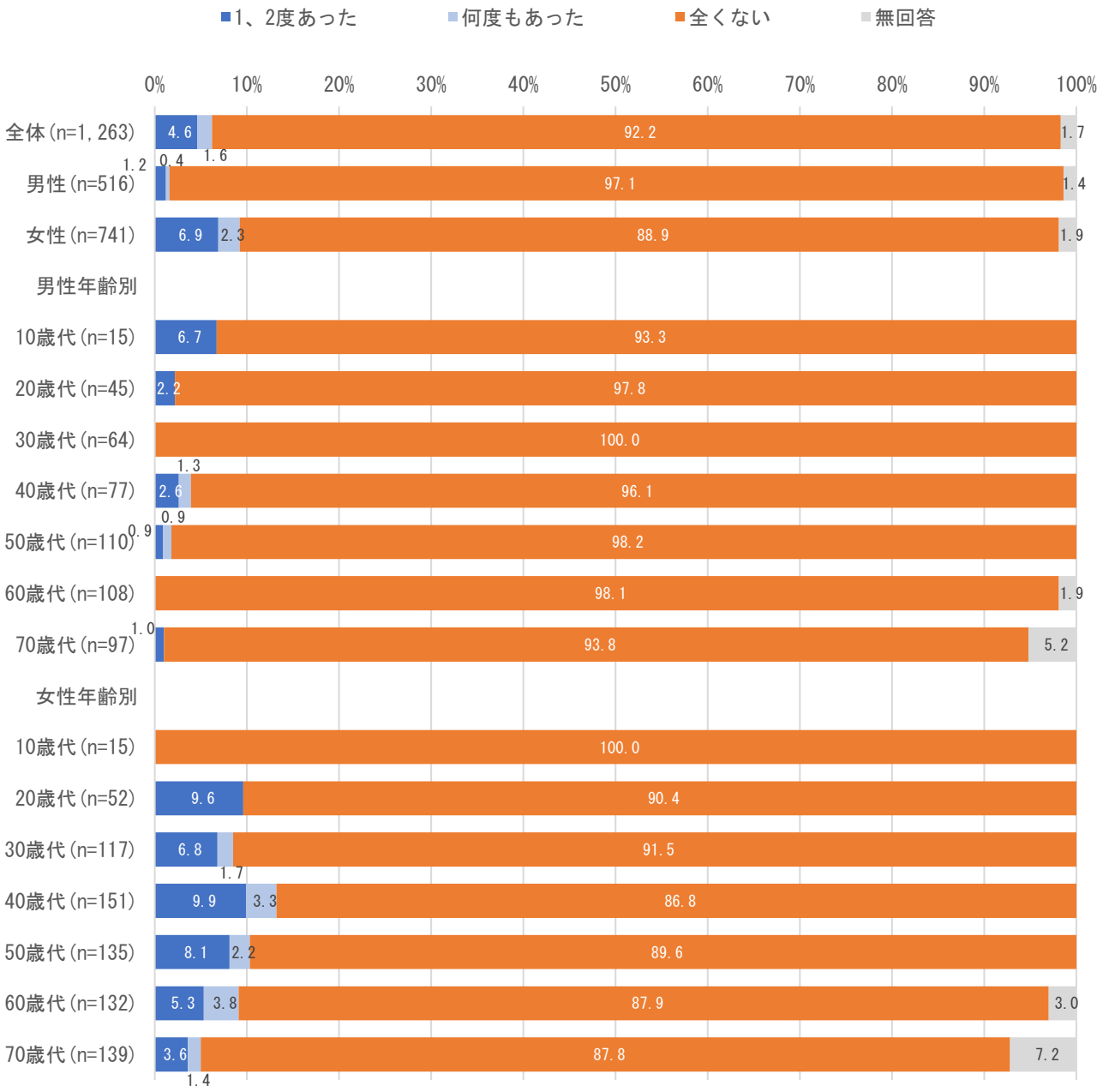
【B精神的な暴力・社会的な暴力】

性別・年代別では「ＤＶ被害にあった」は男性が 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、50 歳代以降は減少の傾向がみられ、女性は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。



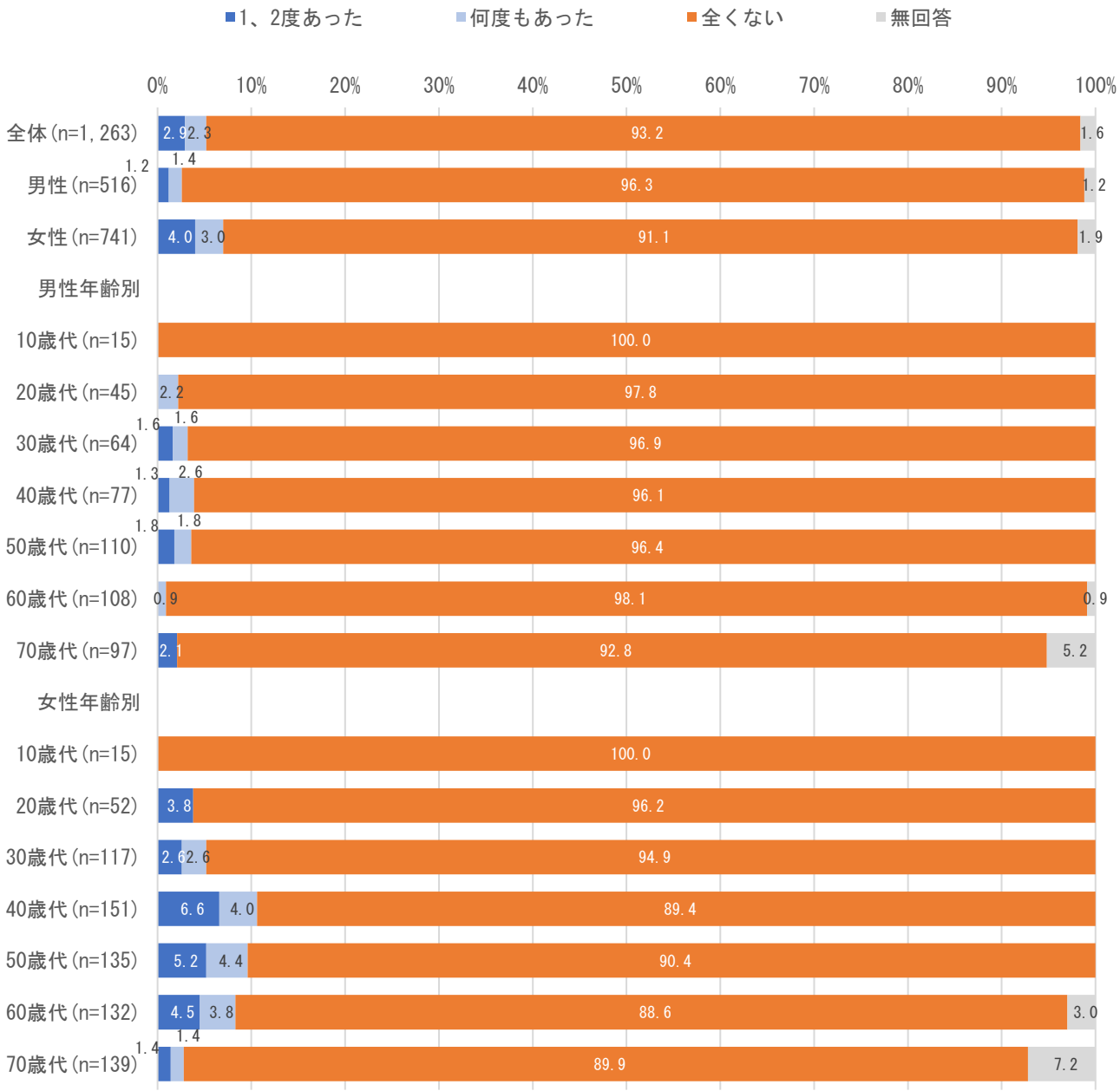
【C性的な暴力】

性別・年代別では「ＤＶ被害にあった」は男性が年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。



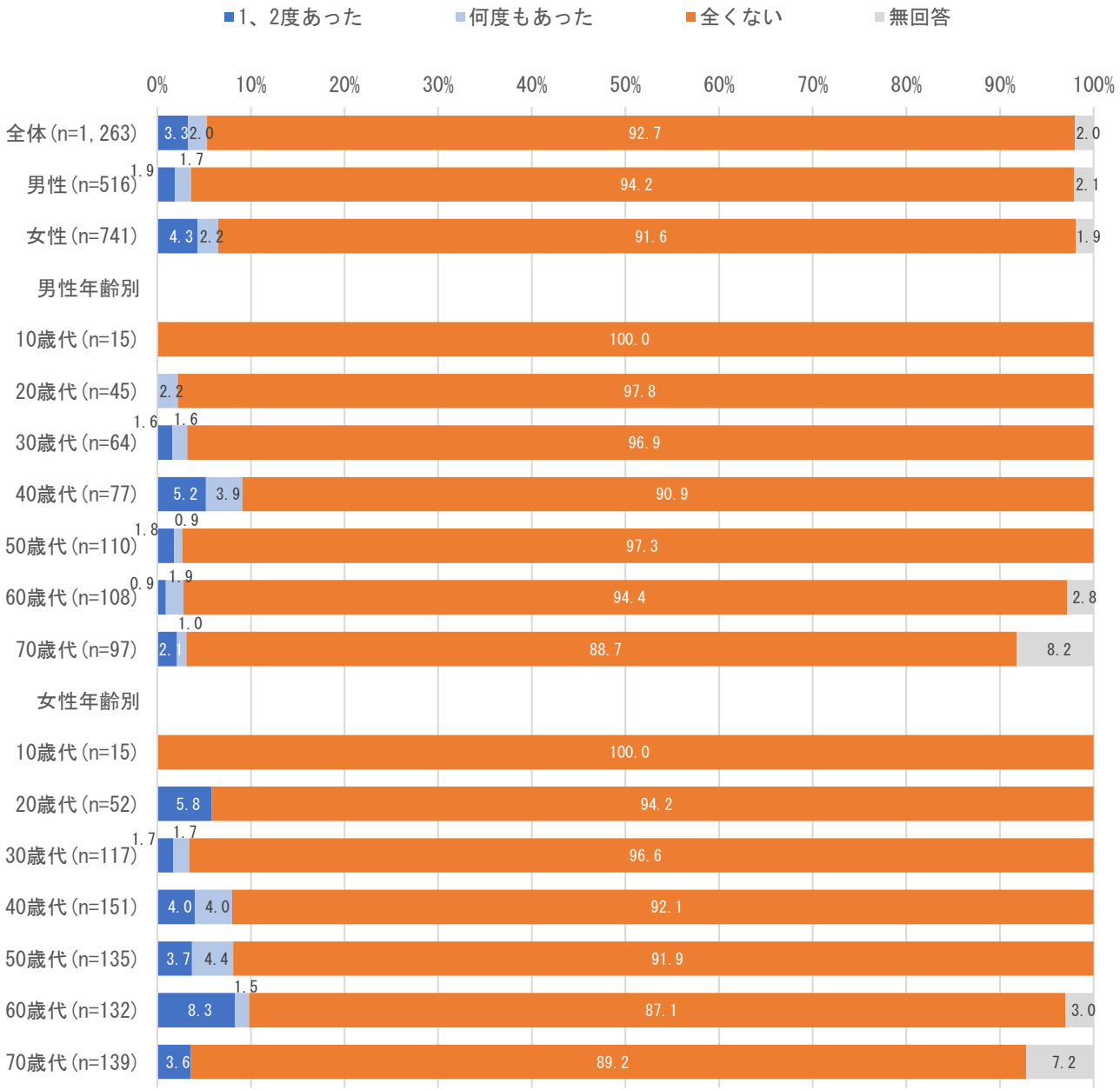
【D経済的な暴力】

性別・年代別では「ＤＶ被害にあった」は男女ともに 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。



【Ｅ子どもを利用した暴力】

性別・年代別では「ＤＶ被害にあった」は男性が 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じており、女性は 60 歳代まで年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



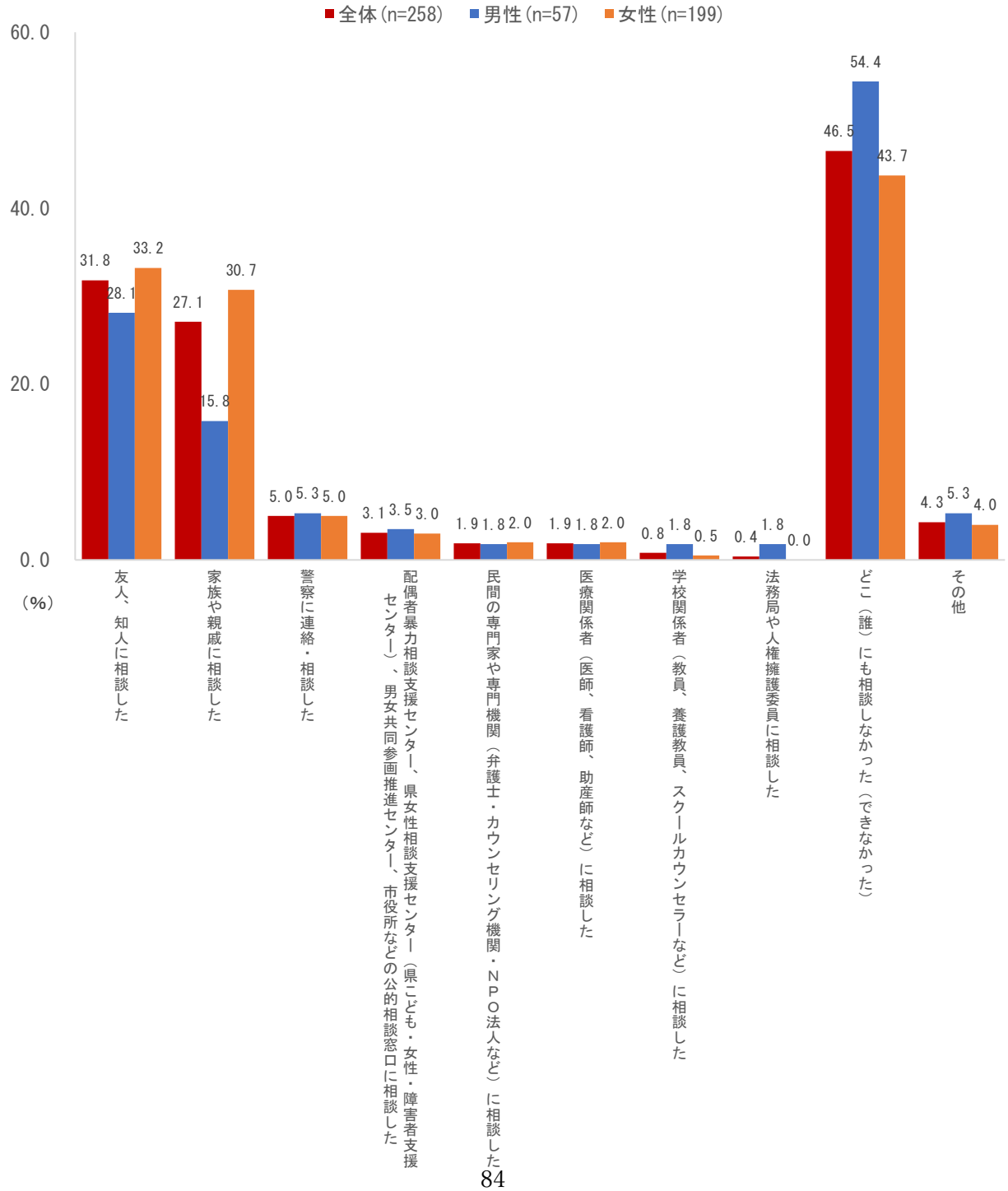
【問 18 で１つでも「1～2 度あった」、「何度もあった」と答えた方がお答えください】

問１９　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（MA）

「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」が 46.5%
ＤＶ被害の相談先は「友人、知人に相談した」が 31.8%で最多

ＤＶ被害の相談先は「友人、知人に相談した」が 31.8%で最も高く、次いで「家族や親戚に相談した」が 27.1%、「警察に連絡・相談した」が 5.0%と続いており、「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」は 46.5%となっている。

性別では、「友人、知人に相談した」は女性が 5.1 ポイント、「家族や親戚に相談した」は女性が 14.9 ポイント「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」は男性が 10.7 ポイント高くなっている。



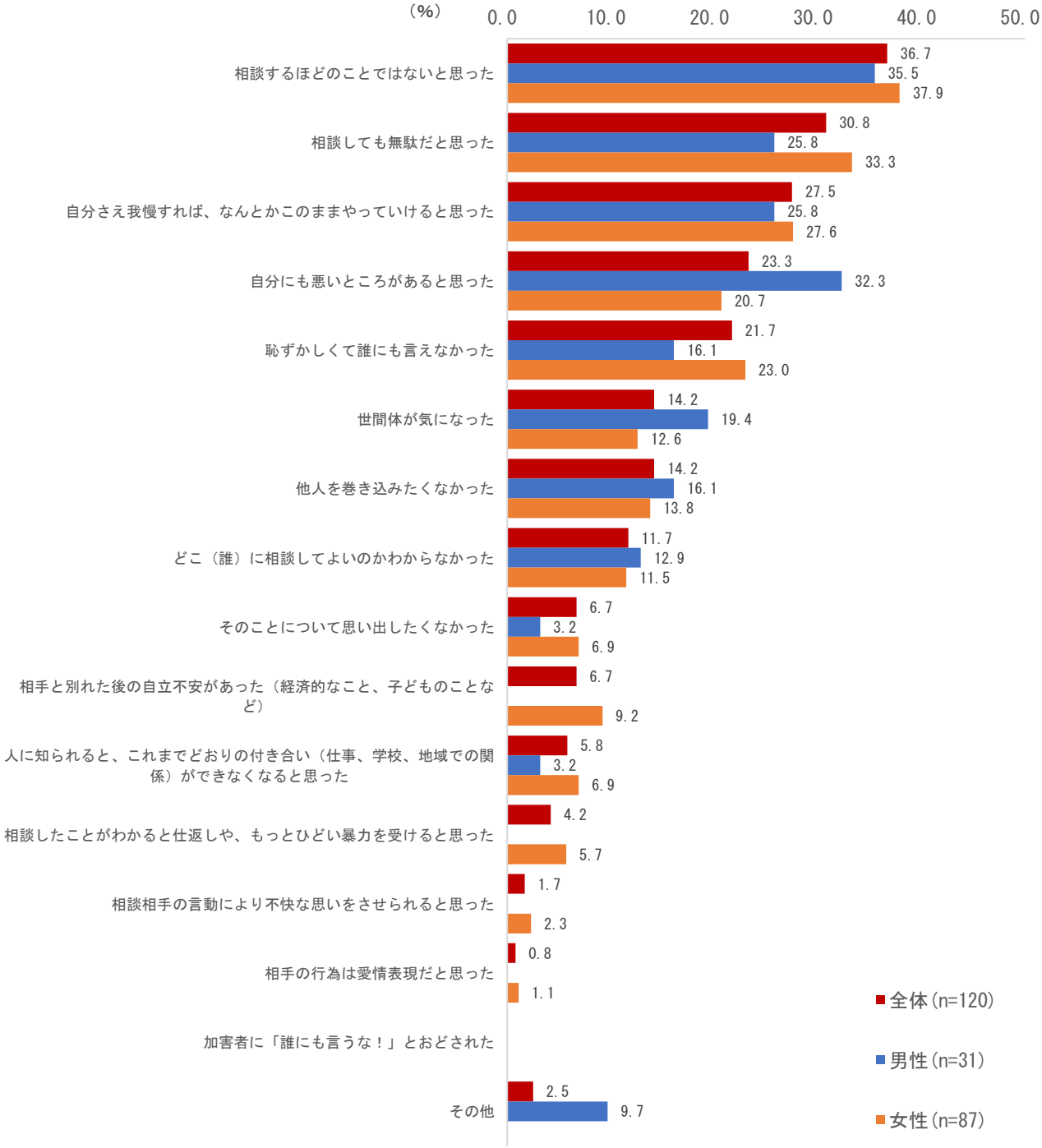
【問 19 で「どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）」と答えた方がお答えください】

問２０　あなたが、どこ（誰）にも相談しなかった（できなかった）理由について、あてはまるものすべてに○をつけてください。（MA）

「相談するほどのことではないと思った」が 36.7%でトップ

「相談するほどのことではないと思った」が 36.7%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が 30.8%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 27.5%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、男性で「自分にも悪いところがあると思った」が 32.3%で 2 位項目となっている。



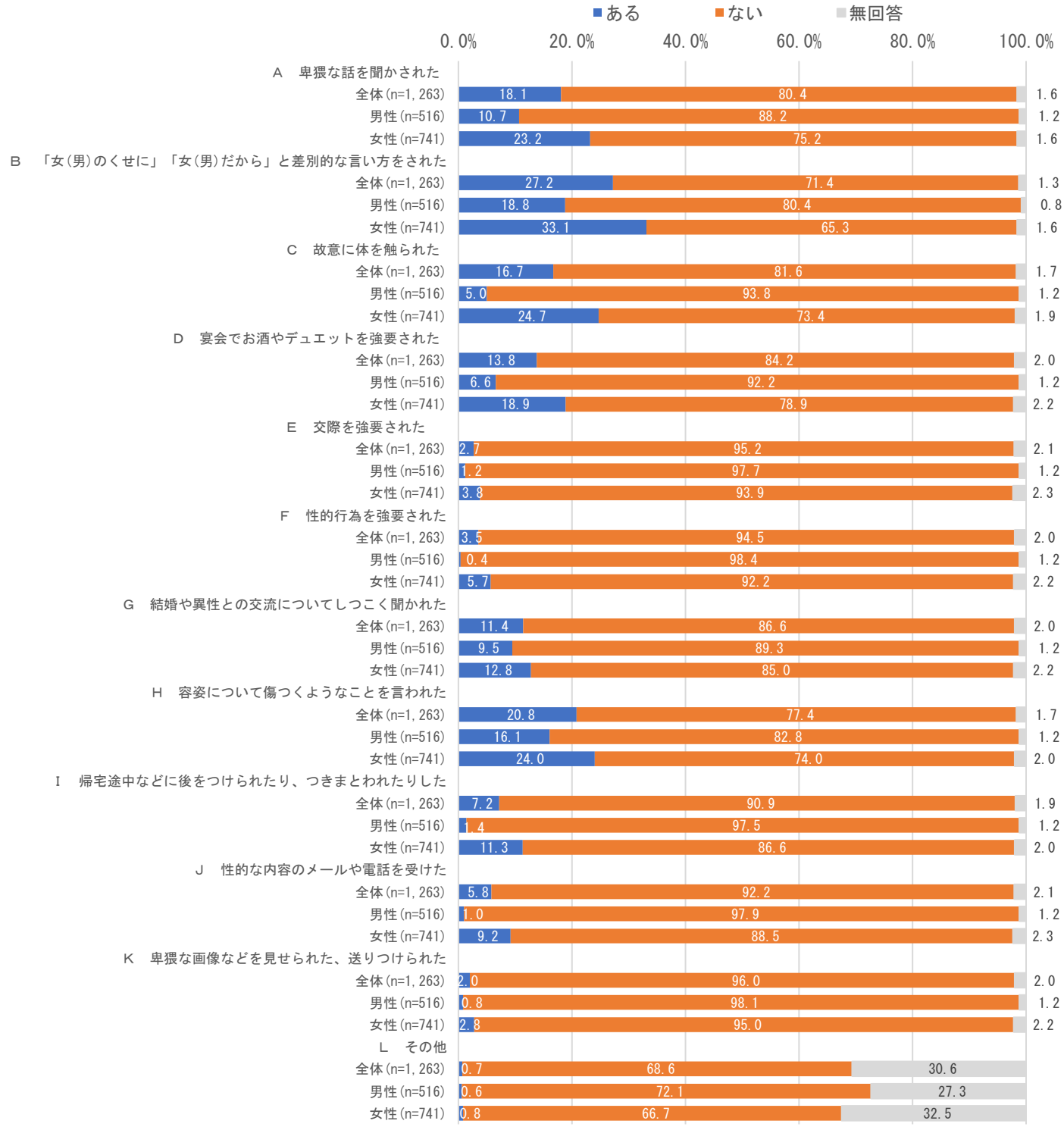
【全員がお答えください】

問２１　セクハラ(セクシュアル・ハラスメント)についてお尋ねします。あなたはこれまでに、次のような行為で不快な思いをしたことがありますか。(SA)

「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が 27.2%でトップ

セクハラを受けた項目で最も高いのは「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が 27.2%、次いで「容姿について傷つくようなことを言われた」が 20.8%、「卑猥な話を聞かされた」が 18.1%と続いている。

性別では全ての項目で男性を女性が上回っており、男女の乖離が最も大きいのは「C故意に体を触られた」で 19.7 ポイント女性が高くなっている。

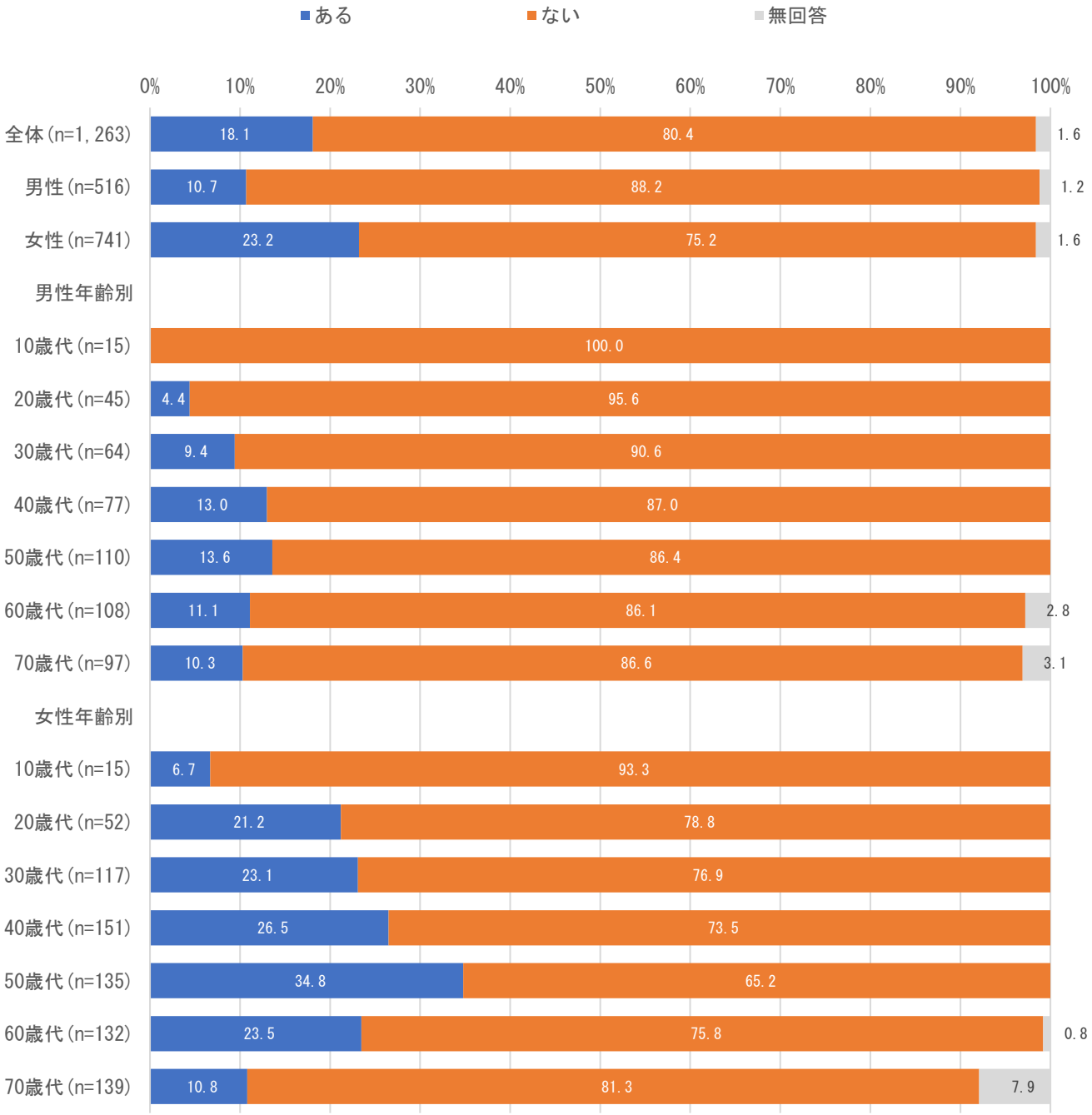


A　卑猥な話を聞かされた

「ある」は 18.1%、「ない」は 80.4%

全体で「ある」は 18.1%、「ない」は 80.4%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 12.5 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男女ともに 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

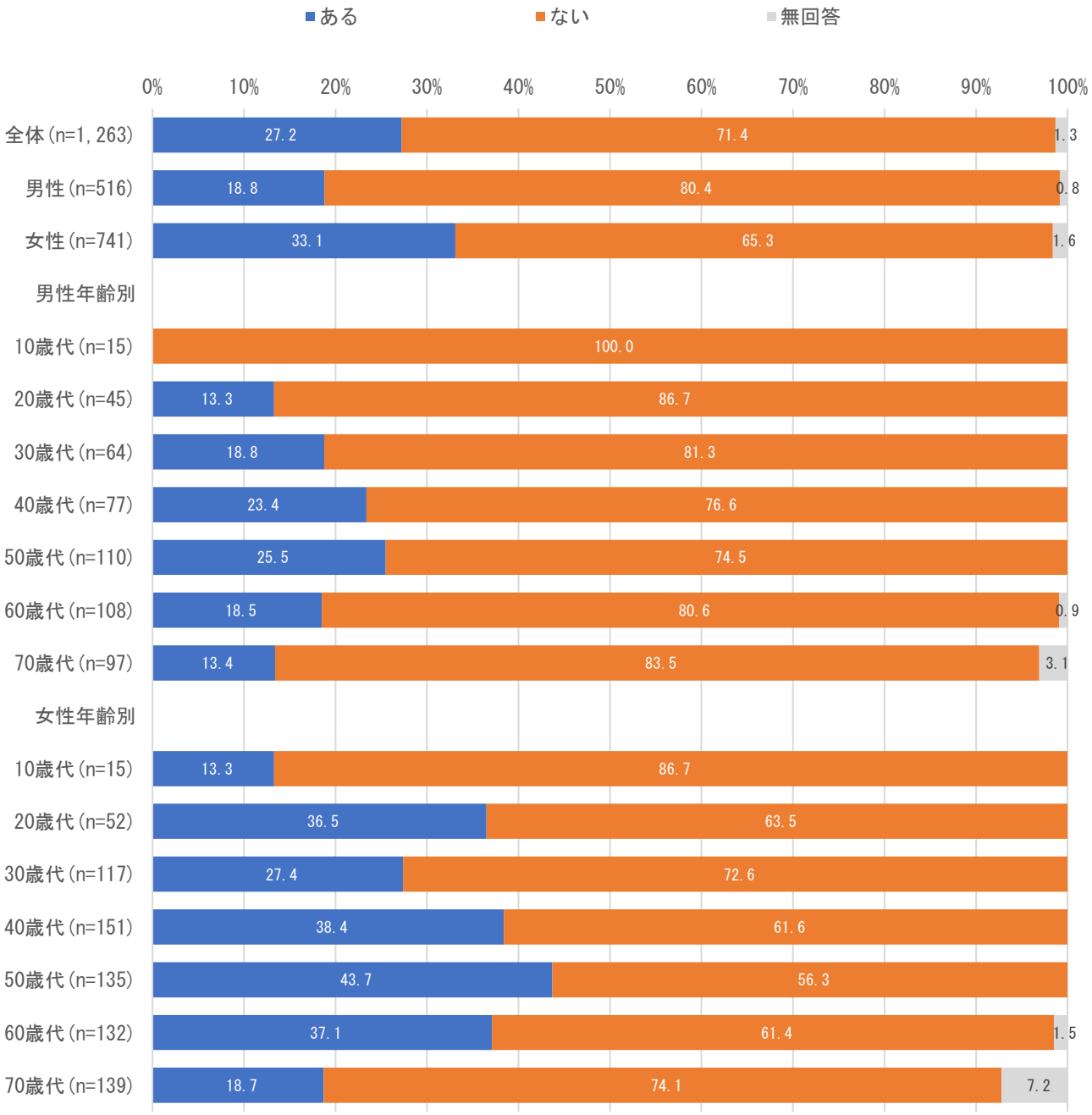


B　「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた

「ある」は 27.2%、「ない」は 71.4%

全体で「ある」は 27.2%、「ない」は 71.4%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 14.3 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男女ともに 50 歳代まで年代の上昇とともに増加の傾向がみられ、以降は減少に転じている。

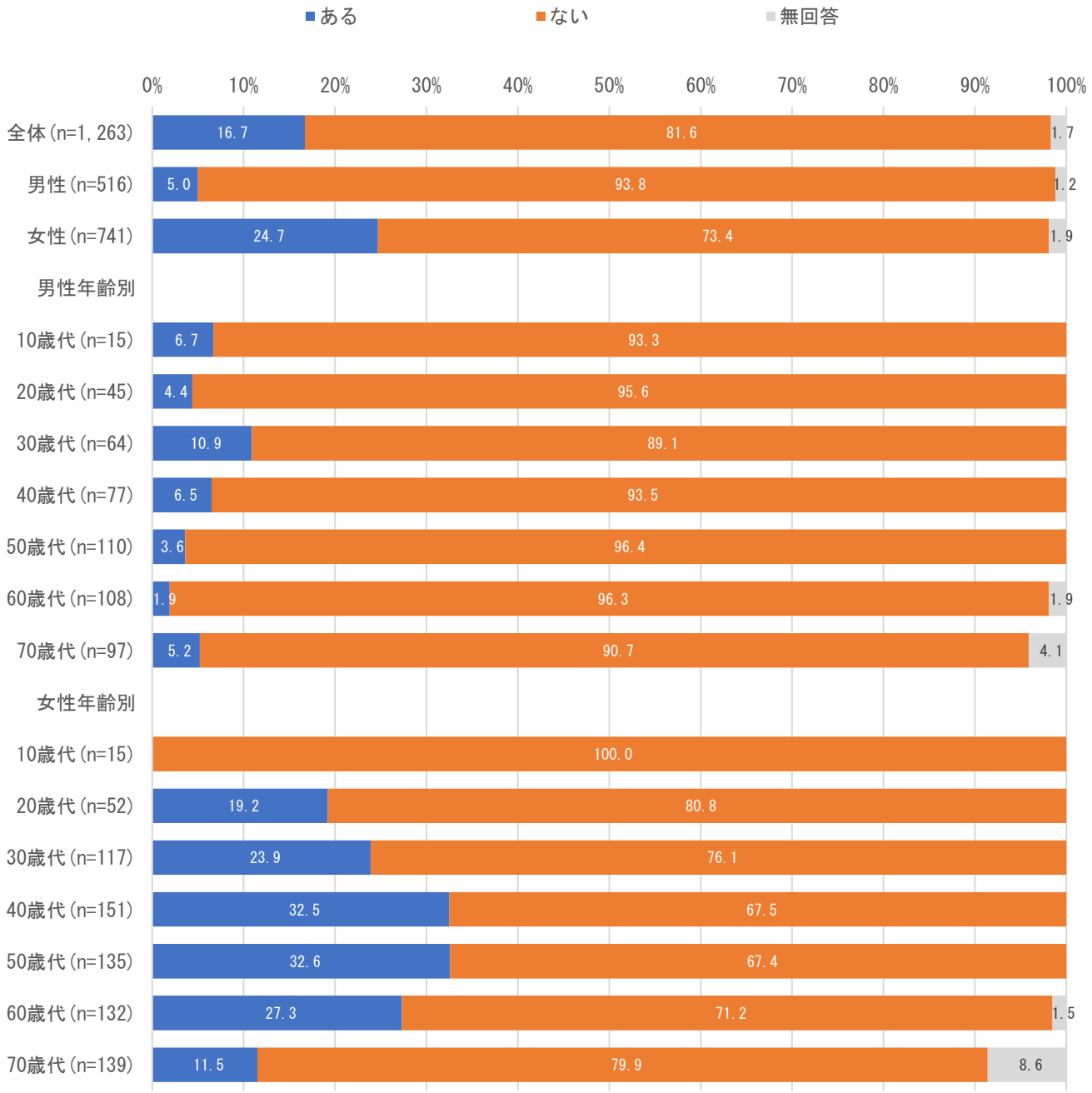


C　故意に体を触られた

「ある」は 16.7%、「ない」は 81.6%

全体で「ある」は 16.7%、「ない」は 81.6%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 19.7 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性が 30 歳代以降で年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、女性は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降で減少に転じている。

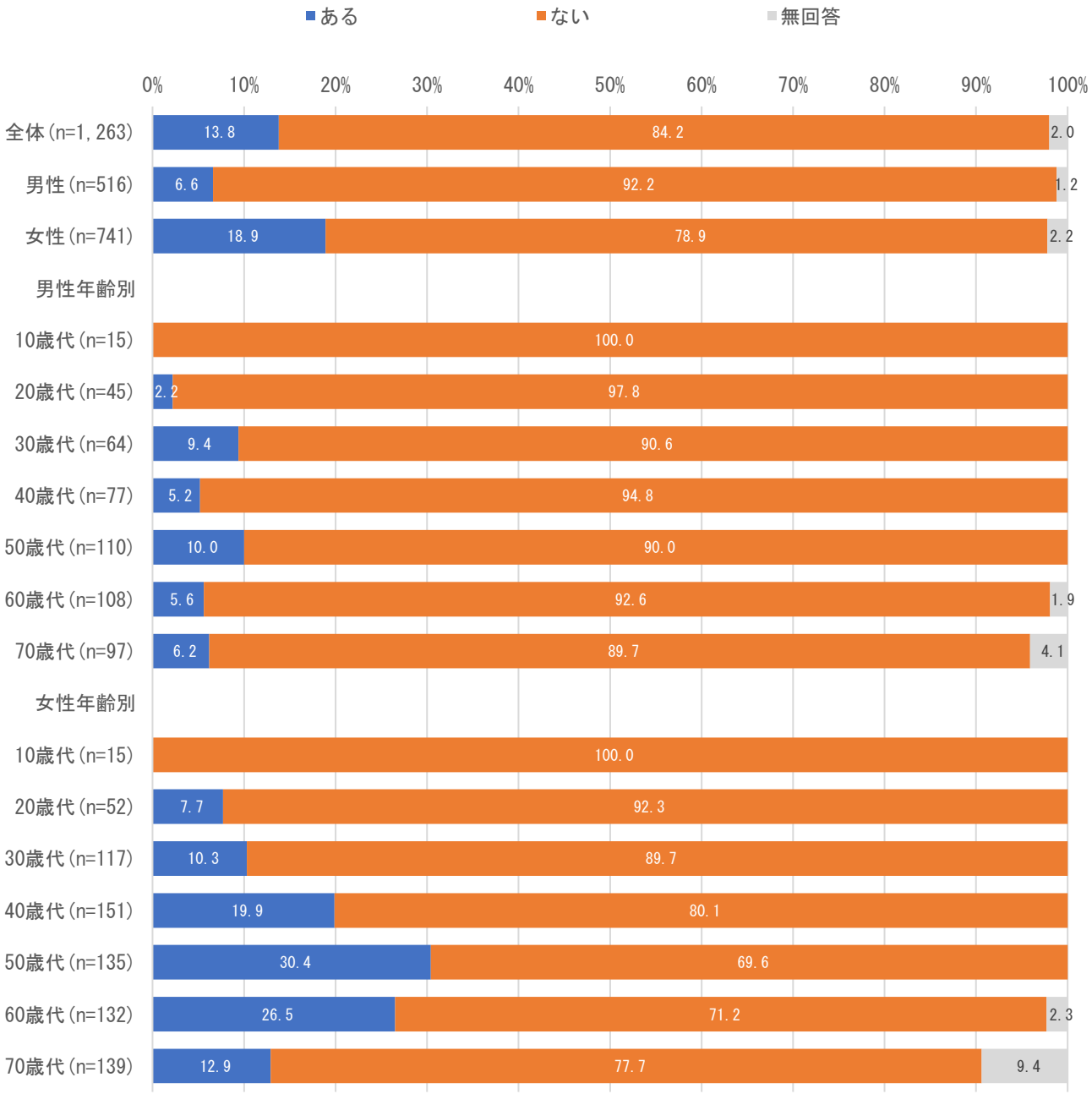


D　宴会でお酒やデュエットを強要された

「ある」は 13.8%、「ない」は 84.2%

全体で「ある」は 13.8%、「ない」は 84.2%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 12.3 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」で男性はバラツキがあり 50 歳代が最も高く、女性は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

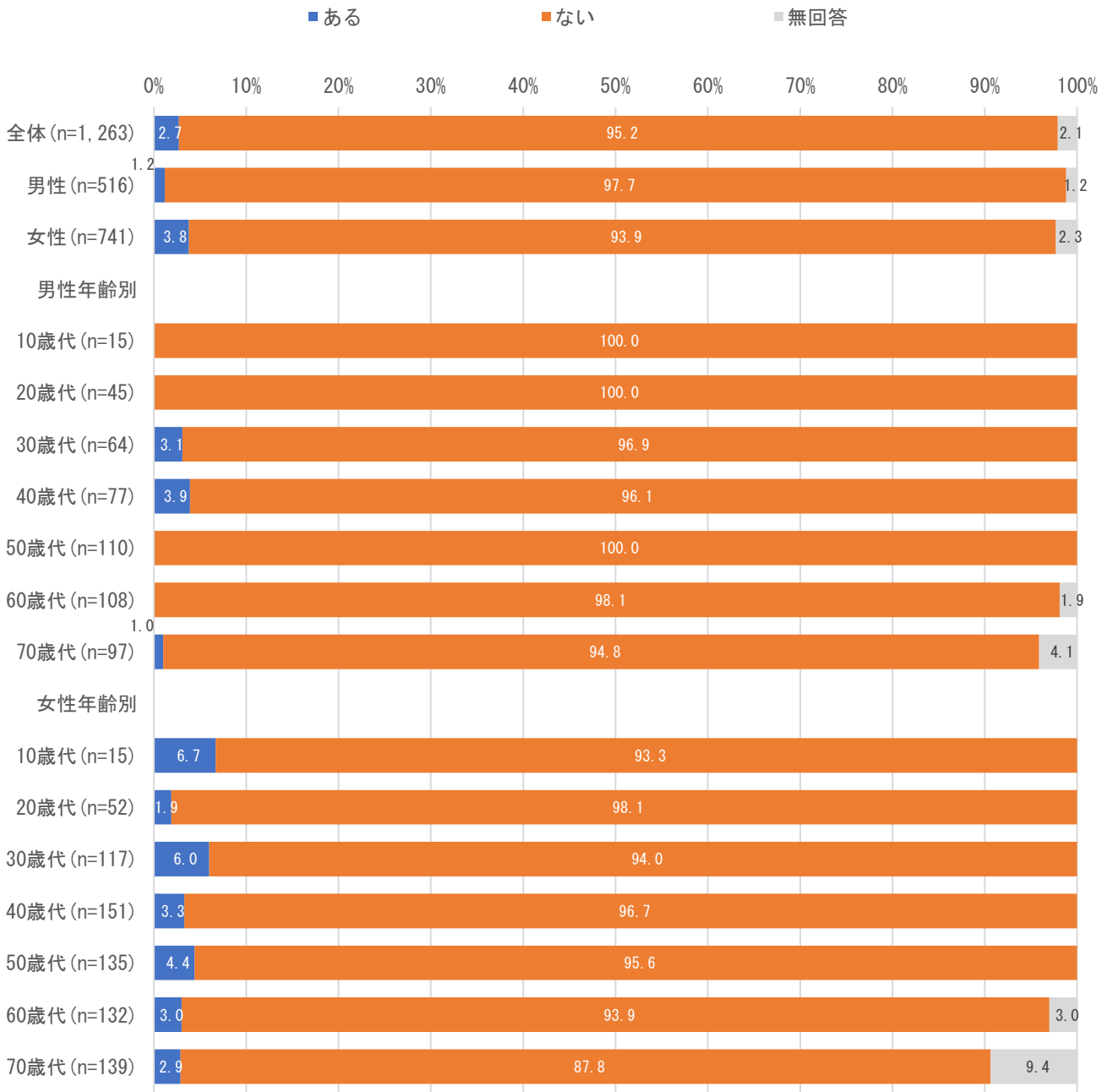


E　交際を強要された

「ある」は 2.7%、「ない」は 95.2%

全体で「ある」は 2.7%、「ない」は 95.2%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 2.6 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性で 40 歳代が最も高く、女性は 30 歳代以降で年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。

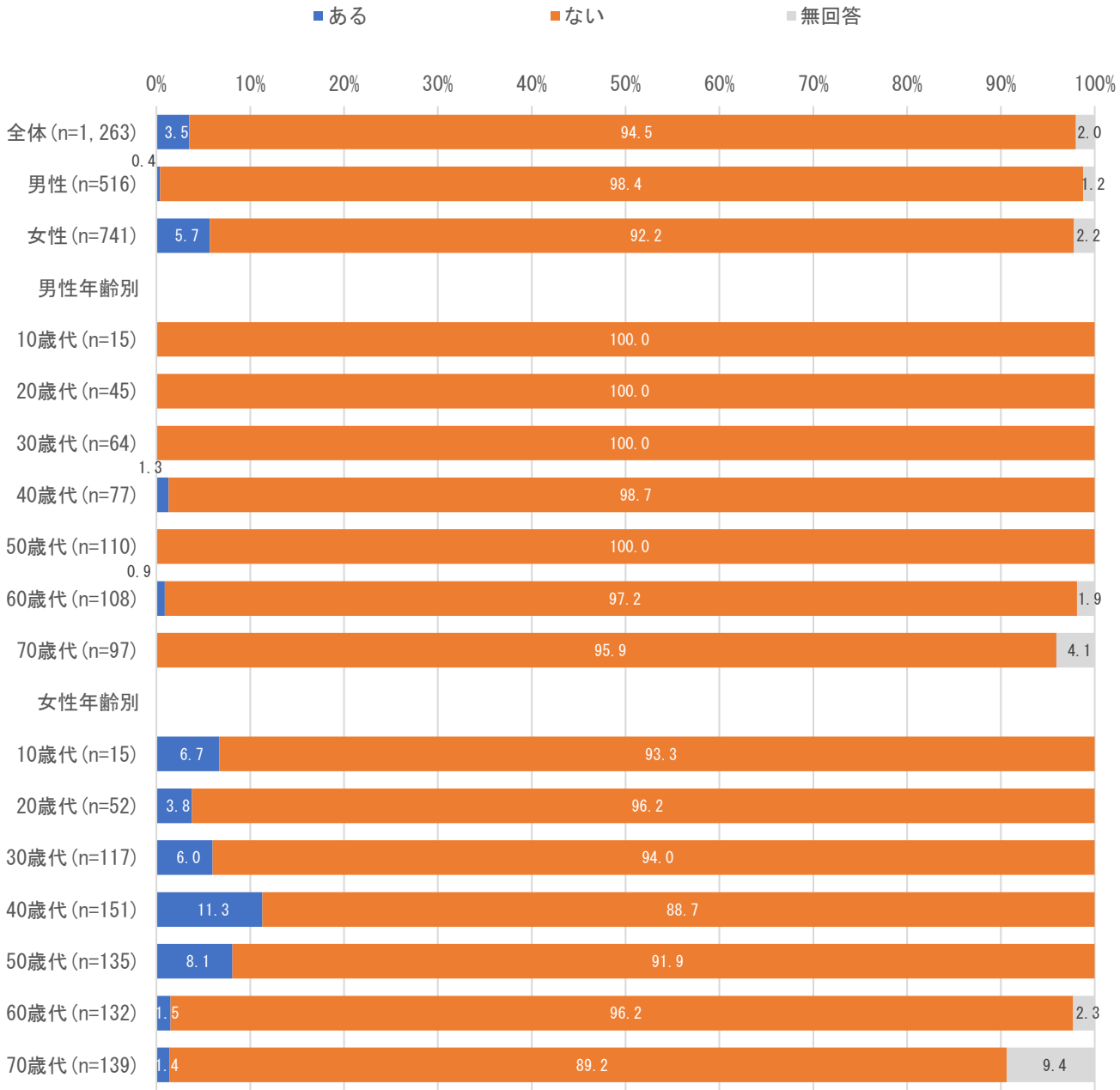


F　性的行為を強要された

「ある」は3.5%、「ない」は94.5%

全体で「ある」は3.5%、「ない」は94.5%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が5.3ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性でほぼ発生しておらず、女性は40歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

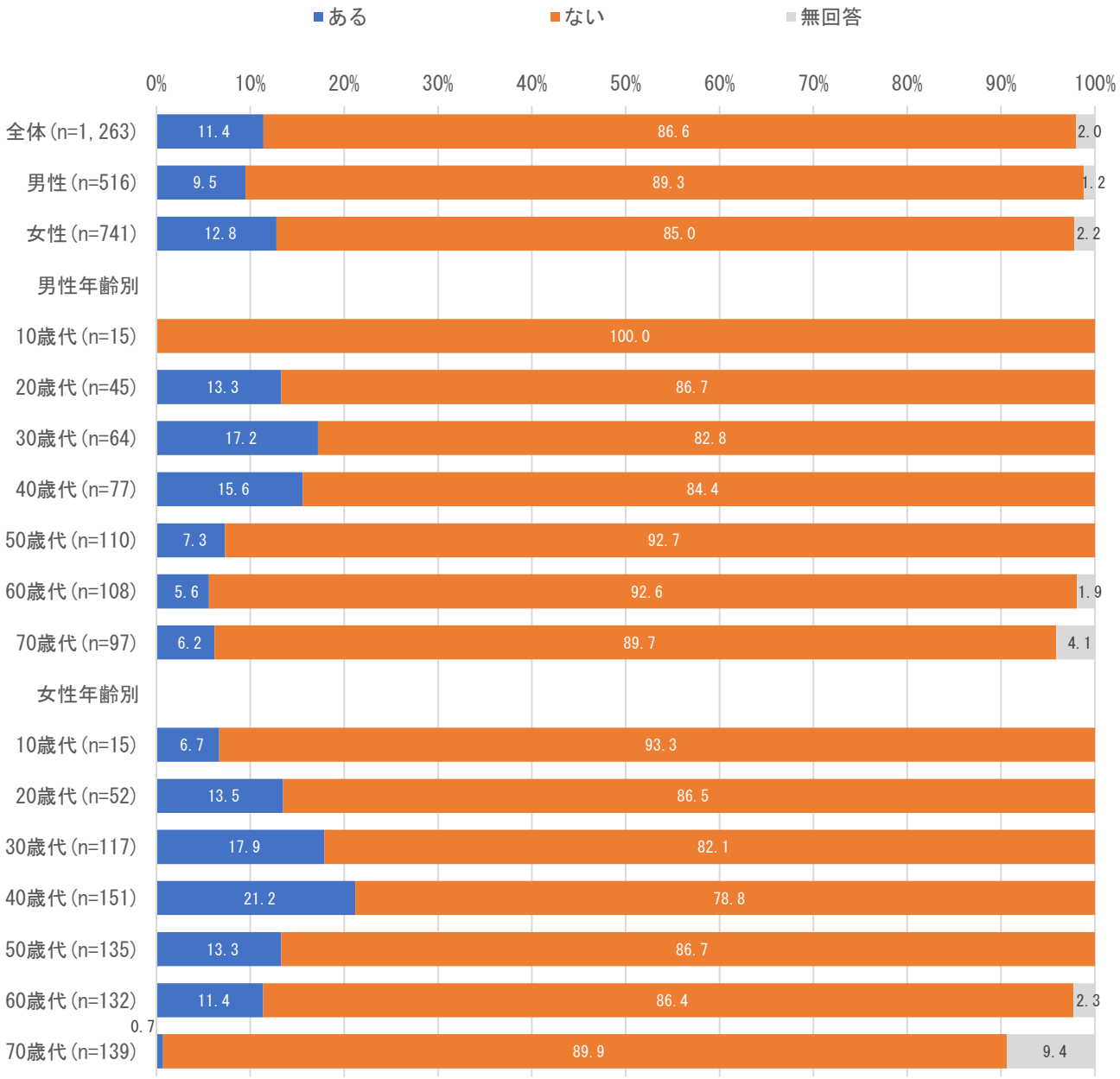


G　結婚や異性との交流についてしつこく聞かれた

「ある」は 11.4%、「ない」は 86.6%

全体で「ある」は 11.4%、「ない」は 86.6%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 3.3 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性が 30 歳代以降で年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

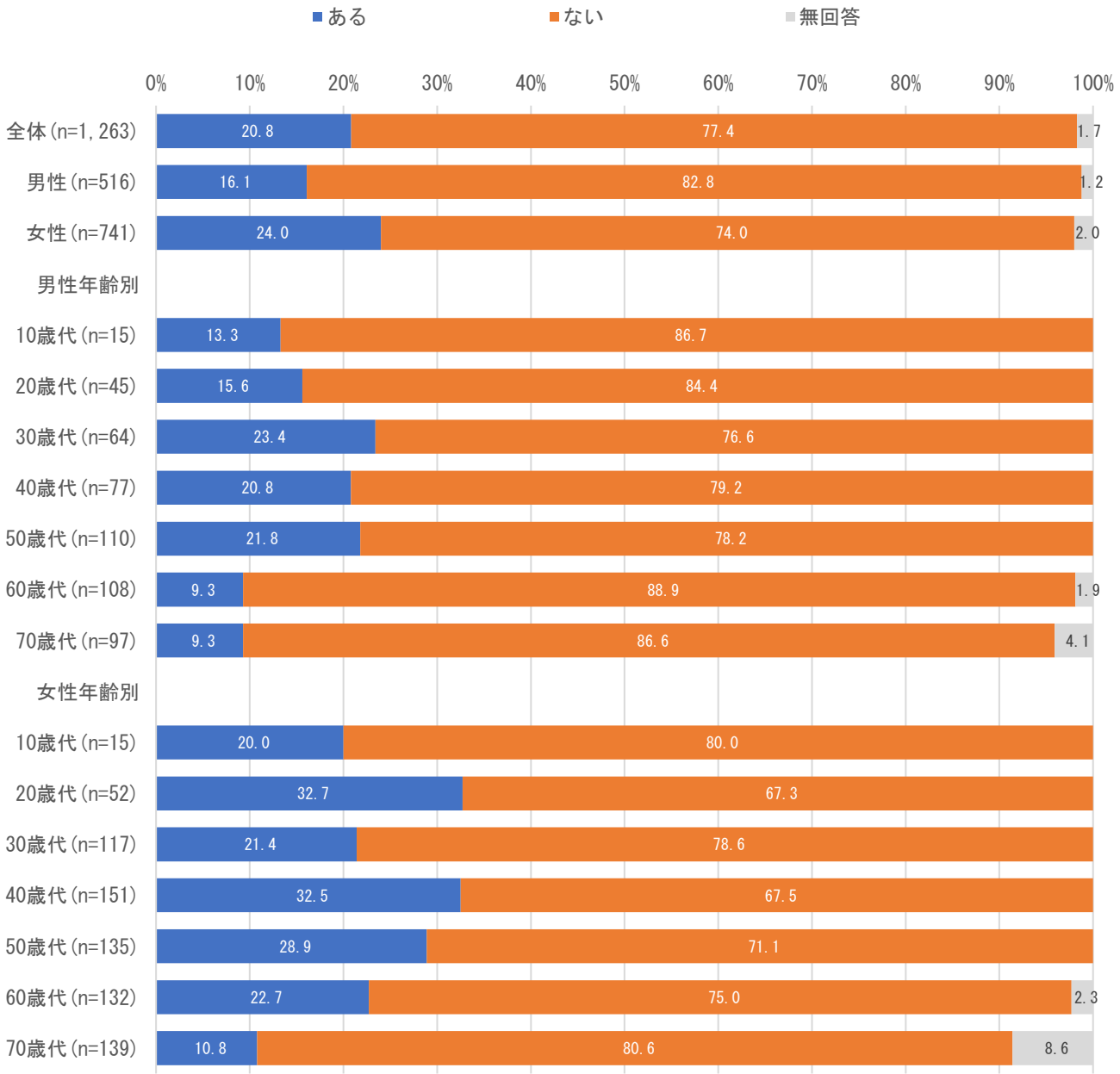


H　容姿について傷つくようなことを言われた

「ある」は 20.8%、「ない」は 77.4%

全体で「ある」は 20.8%、「ない」は 77.4%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 7.9 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性が 30 歳代以降で年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加の傾向にあり、以降は減少に転じている。

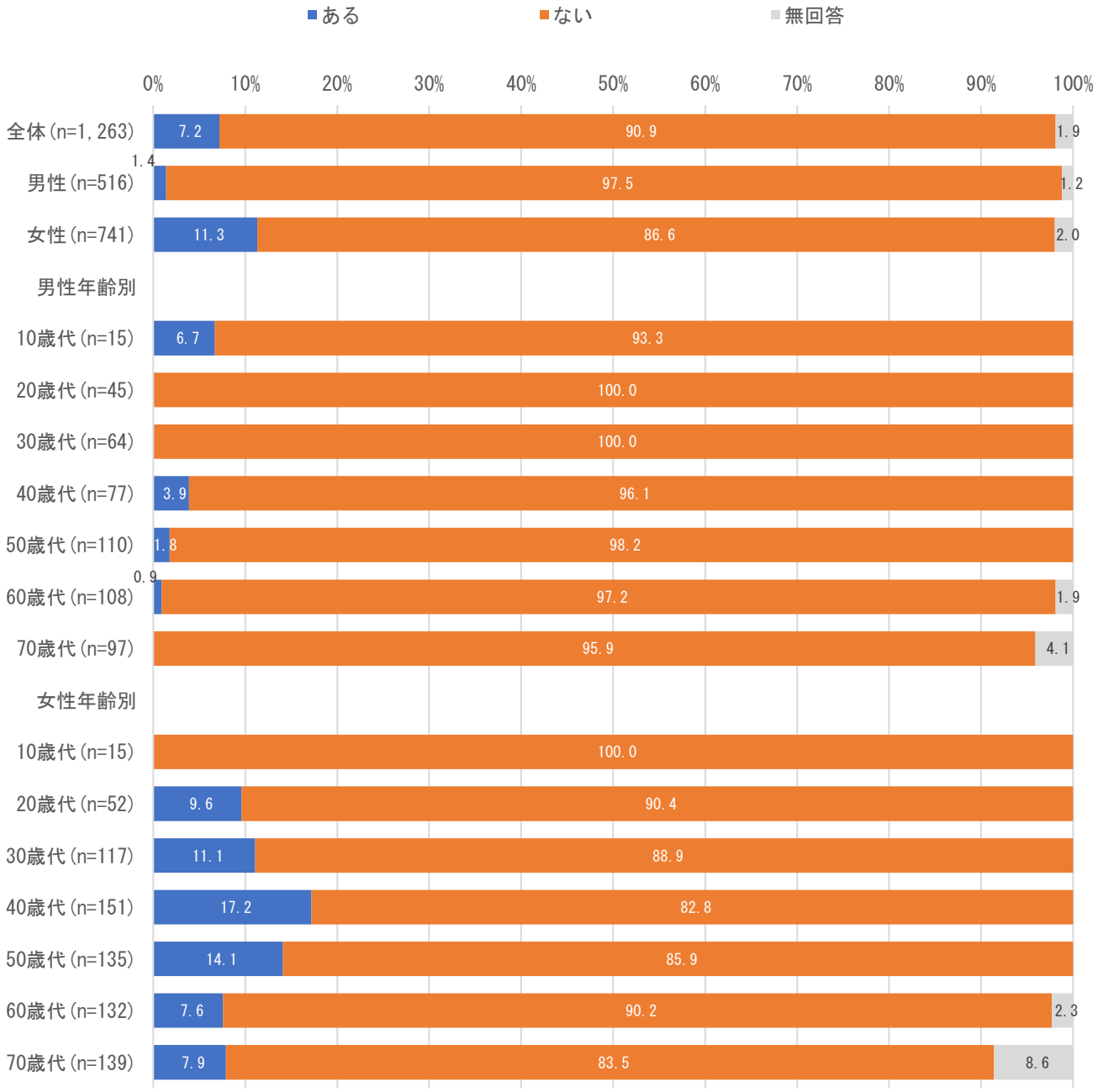


Ⅰ　帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした

「ある」は 7.2%、「ない」は 90.9%

全体で「ある」は 7.2%、「ない」は 90.9%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 9.9 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性が年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

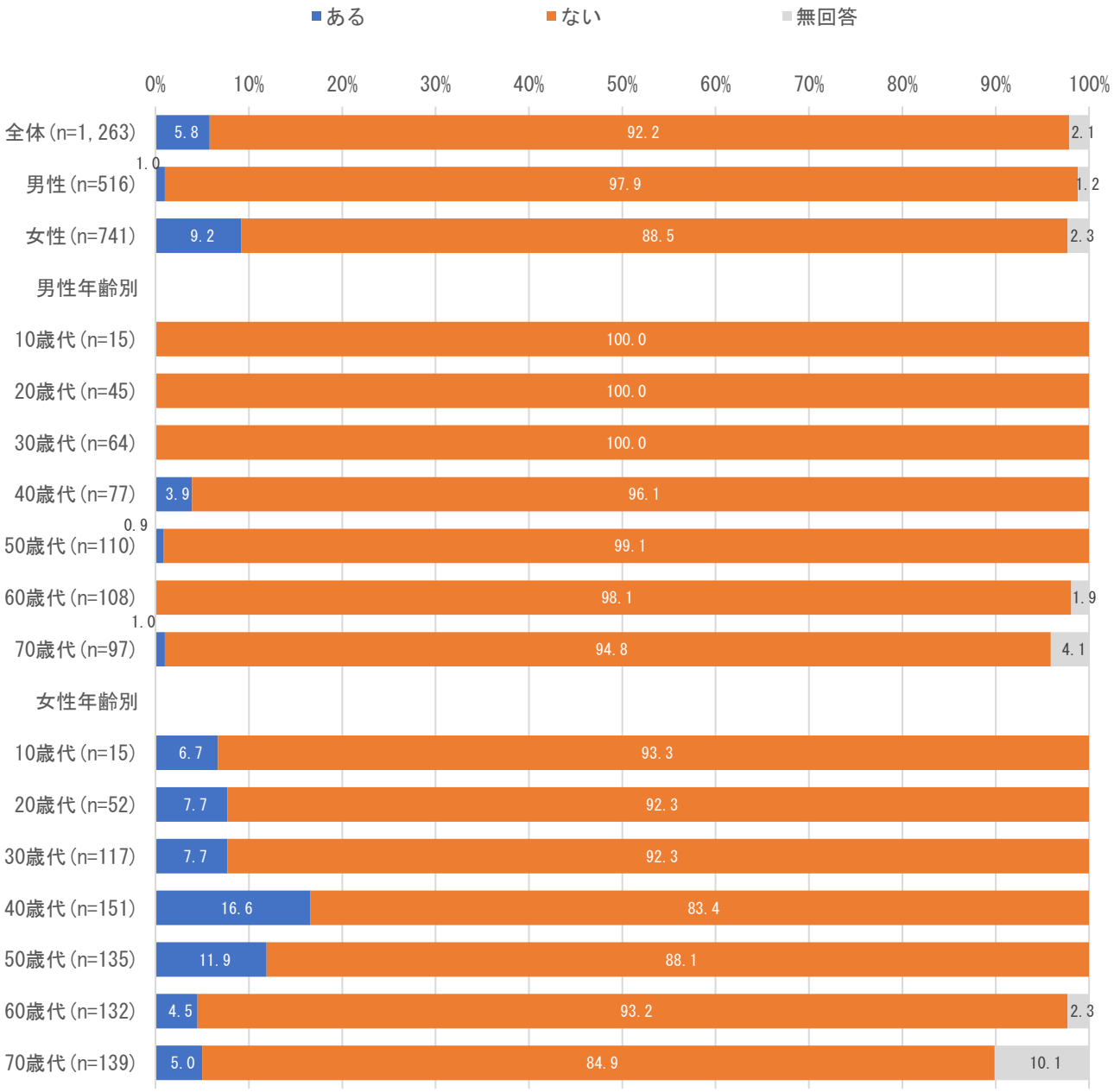


J　性的な内容のメールや電話を受けた

「ある」は5.8%、「ない」は92.2%

全体で「ある」は5.8%、「ない」は92.2%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が8.2ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性でほぼ発生しておらず、女性は40歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。

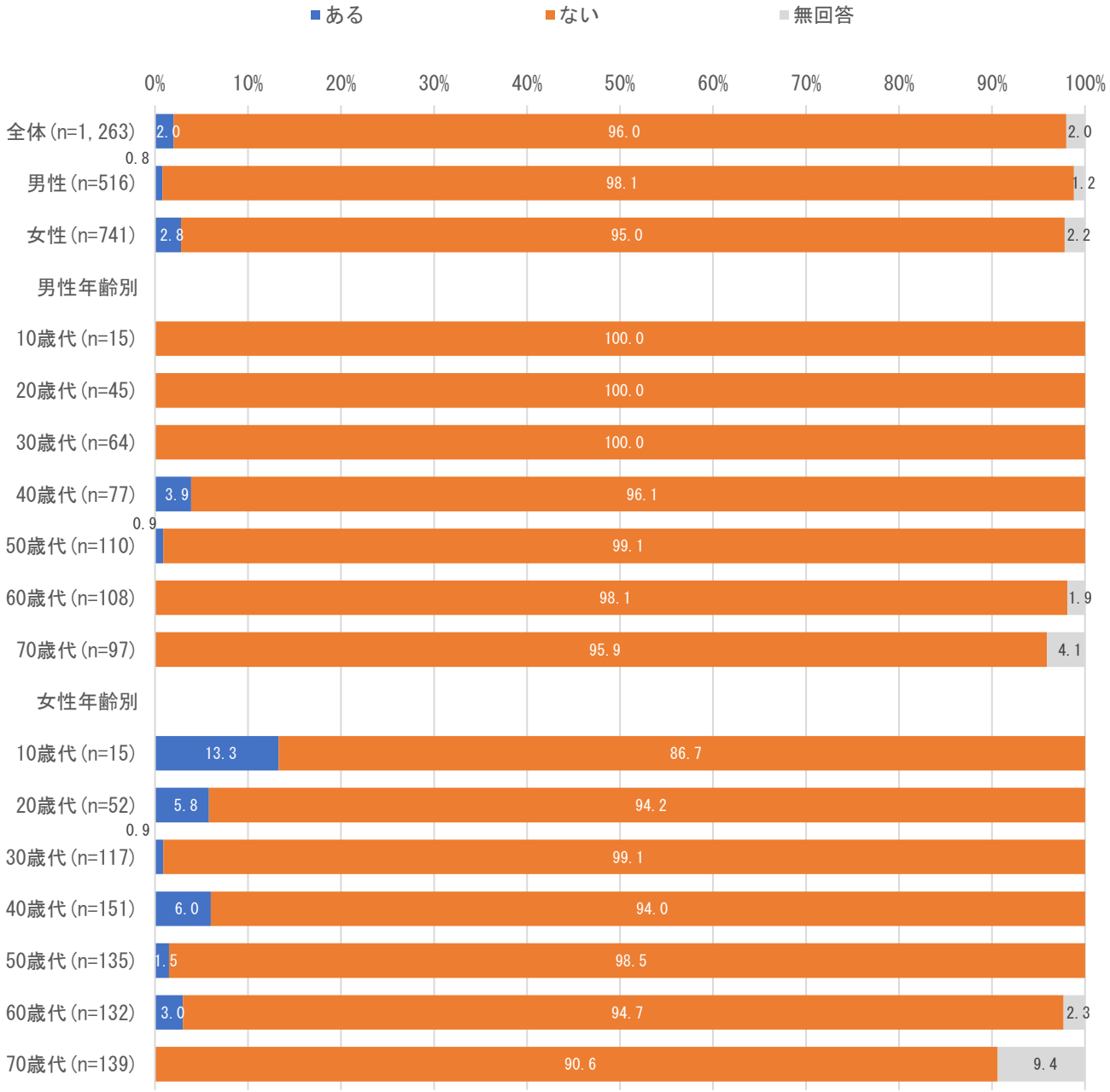


K　卑猥な画像などを見せられた、送りつけられた

「ある」は 2.0%、「ない」は 96.0%

全体で「ある」は 2.0%、「ない」は 96.0%となっており、男女とも「ない」の割合が高い点で同様の傾向がみられる。また、「ある」は女性が 2.0 ポイント高くなっている。

性別・年代別で「ある」は男性でほぼ発生しておらず、女性はバラツキがみられ 40 歳代が最も高くなっている。

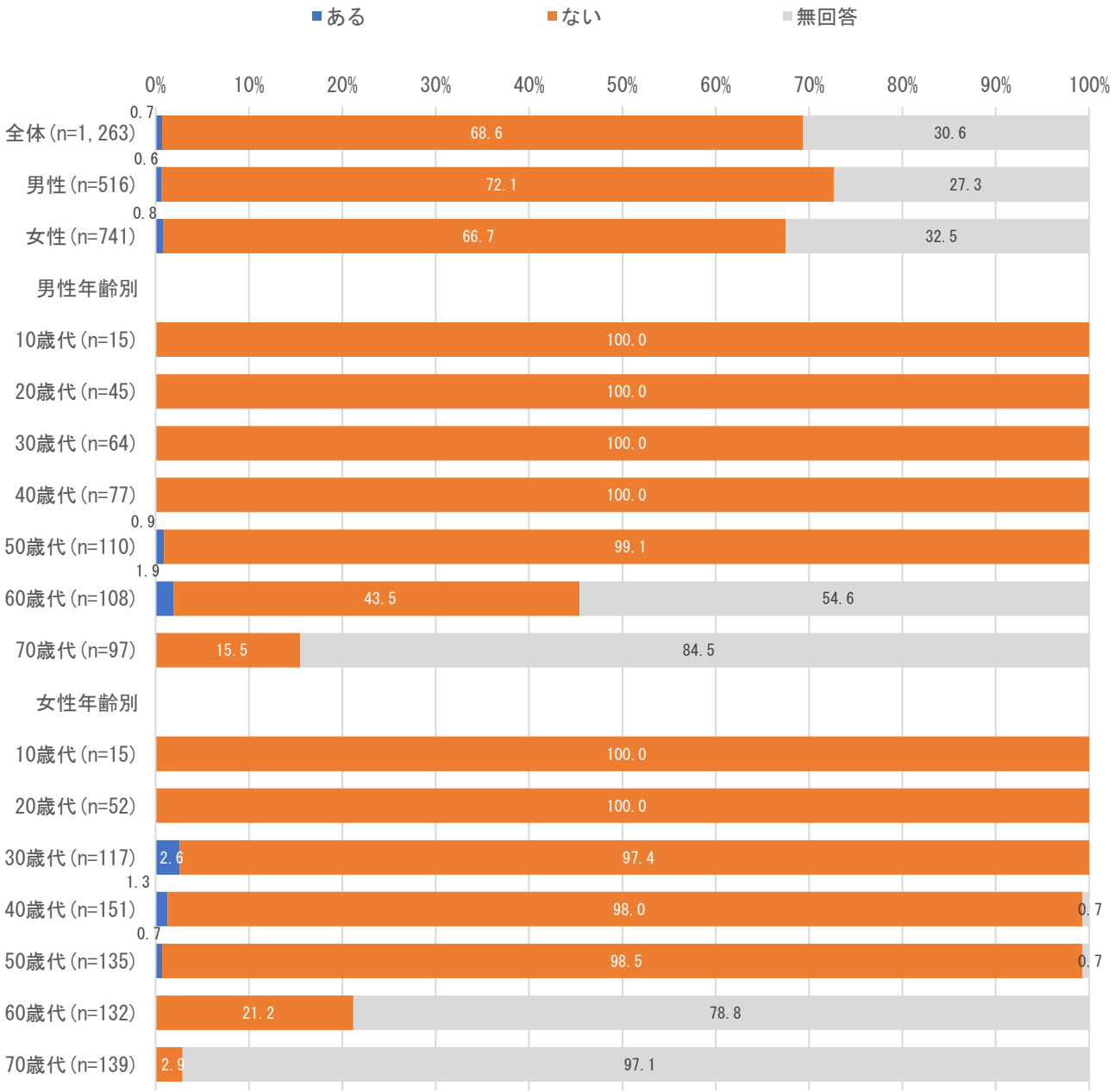


L　その他

「ある」は0.7%、「ない」は68.6%

全体で「ある」は 0.7%、「ない」は 68.6%となっており、性別での傾向の差はみられない。また、「ある」は女性が 0.2 ポイント高くなっている。

また、その他の内容はA～Kと重複する内容を具体的に表現したものであった。



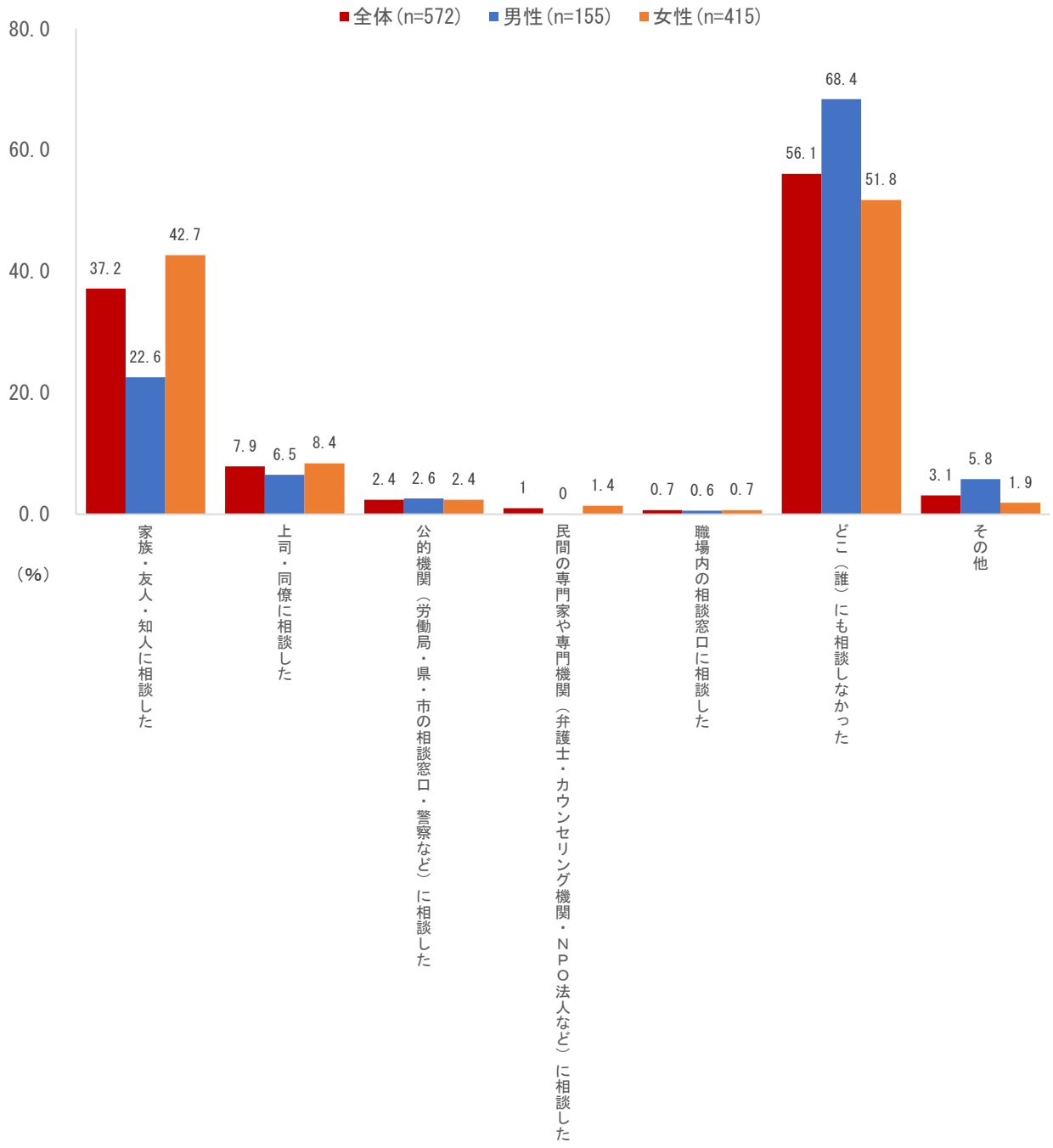
【問 21 で１つでも「ある」と答えた方がお答えください】

問２２　あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（MA）

「ある」と回答したのは 572 名、うち「どこ（誰）にも相談しなかった」は 56.1%
相談先は「家族・友人・知人に相談した」が 37.2%で最多

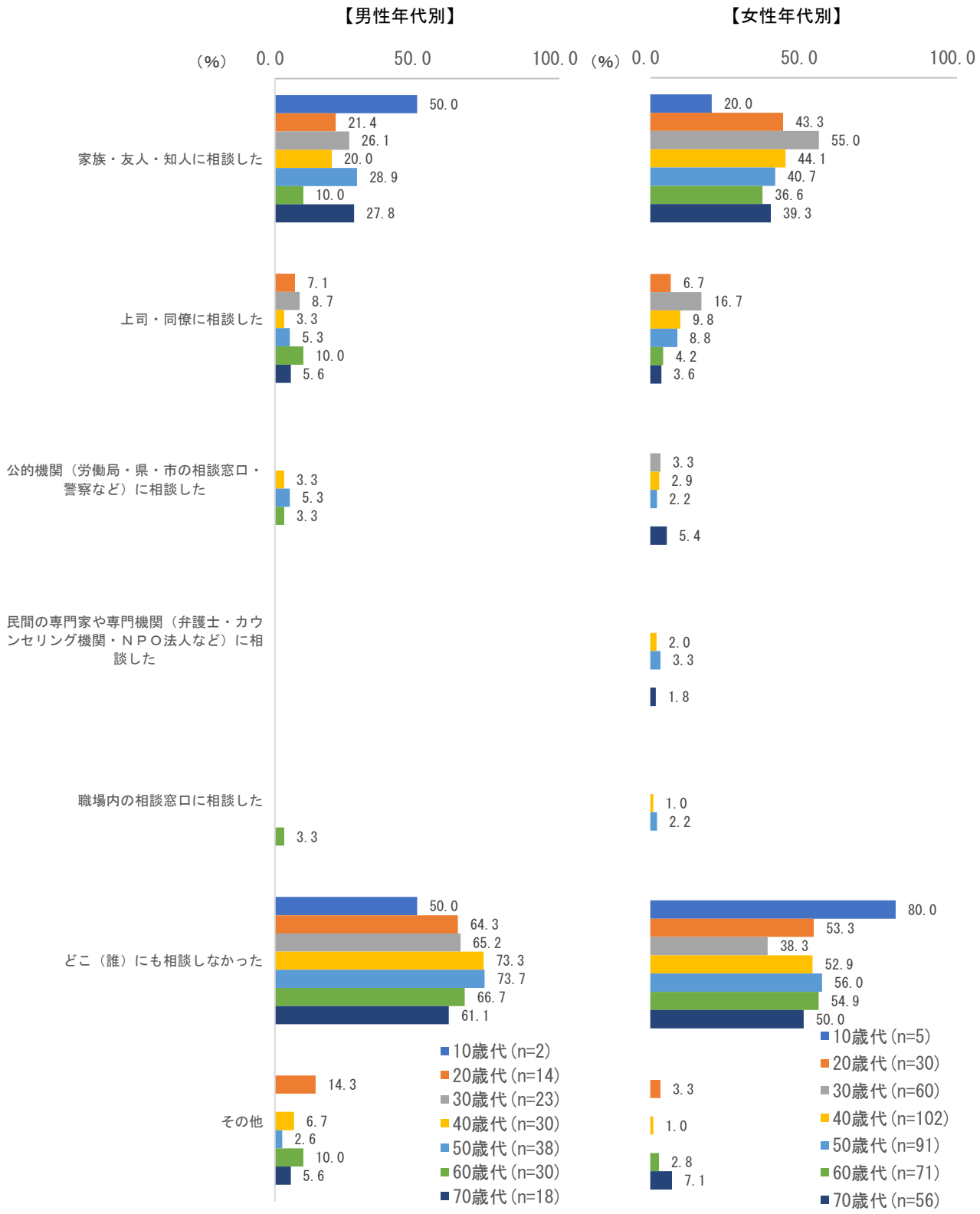
「家族・友人・知人に相談した」が 37.2%で最も高く、次いで「上司・同僚に相談した」が 7.9%、「公的機関（労働局・県・市の相談窓口・警察など）に相談した」が 2.4%と続いており、「どこ（誰）にも相談しなかった」は 56.1%となっている。

性別で上位項目に傾向の相違はみられないが、全体１位項目の「家族・友人・知人に相談した」は女性が 20.1 ポイント高く、「どこ（誰）にも相談しなかった」は 16.6 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別で各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

女性は比較的母数のある 30 歳代以上でみると「家族・友人・知人に相談した」・「上司・同僚に相談した」は年代の上昇とともに減少の傾向にあり、「どこ（誰）にも相談しなかった」は 50 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降減少に転じている。

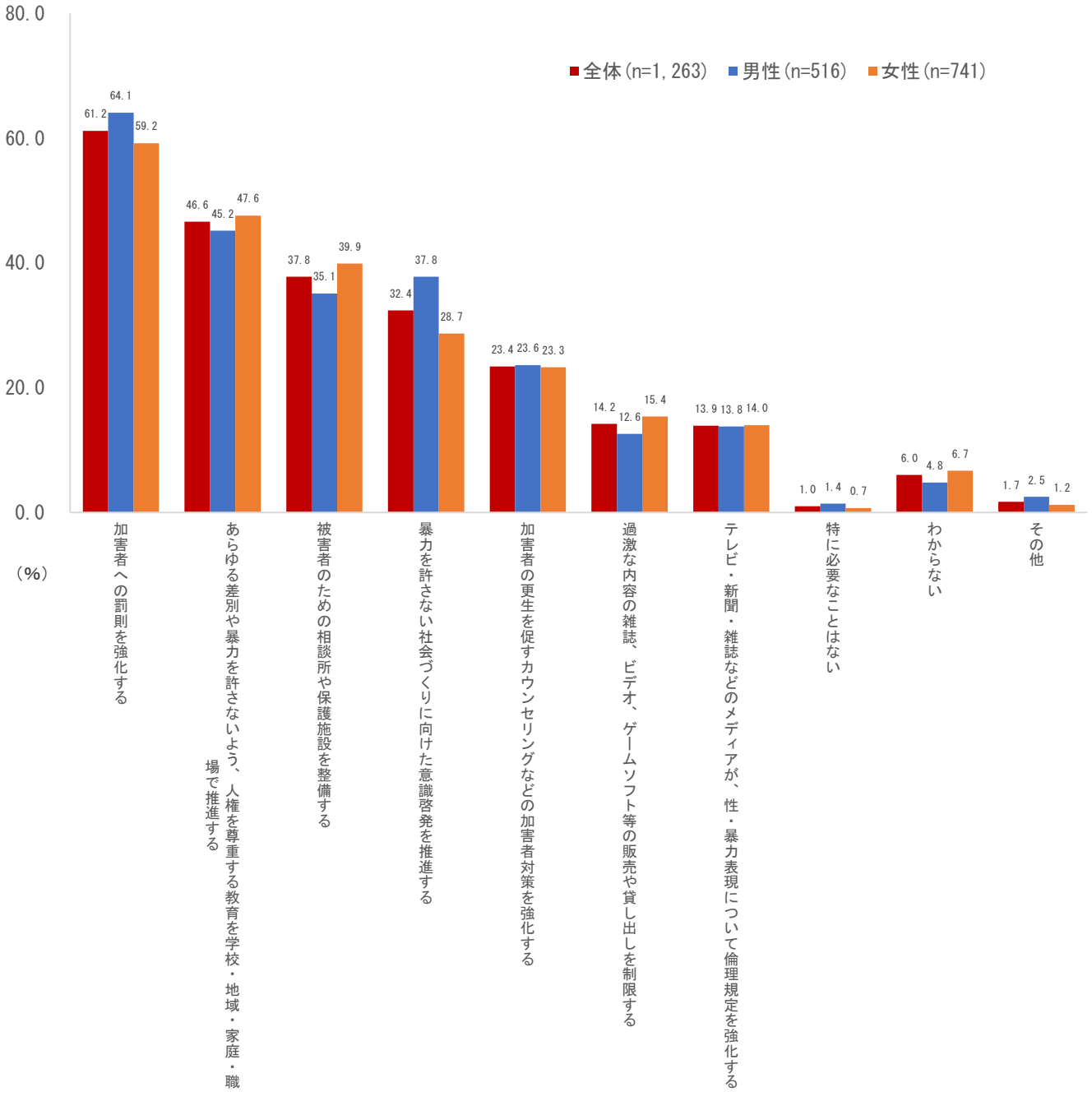


【全員がお答えください】
問２３　あなたは、セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）やＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）（MA）

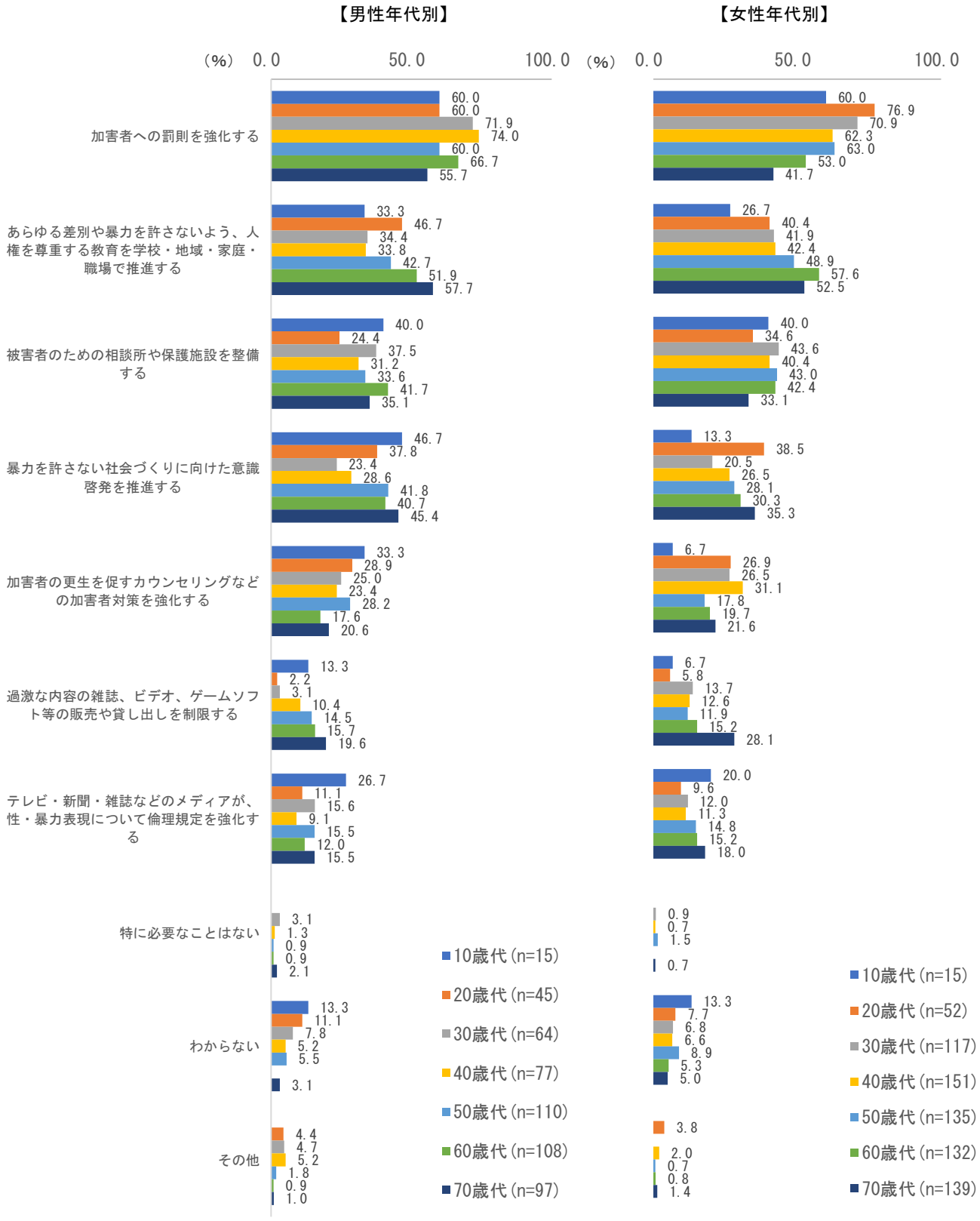
「加害者への罰則を強化する」が 61.2%でトップ

「加害者への罰則を強化する」が 61.2%で最も高く、次いで「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・家庭・職場で推進する」が 46.6%、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」が 37.8%と続いている。

性別で上位 3 項目での傾向の相違は、男性で「暴力を許さない社会づくりに向けた意識啓発を推進する」が 37.8%で 3 位項目となっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「加害者への罰則を強化する」で男性は 40 歳代が最も高く、女性は年代の上昇とともに減少の傾向がみられ、「あらゆる差別や暴力を許さないよう、人権を尊重する教育を学校・地域・家庭・職場で推進する」は男女ともに年代の上昇にともない増加の傾向がみられる。また、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」は男女ともにバラツキが大きく、男性は 60 歳代、女性は 30 歳代が最も高くなっている。



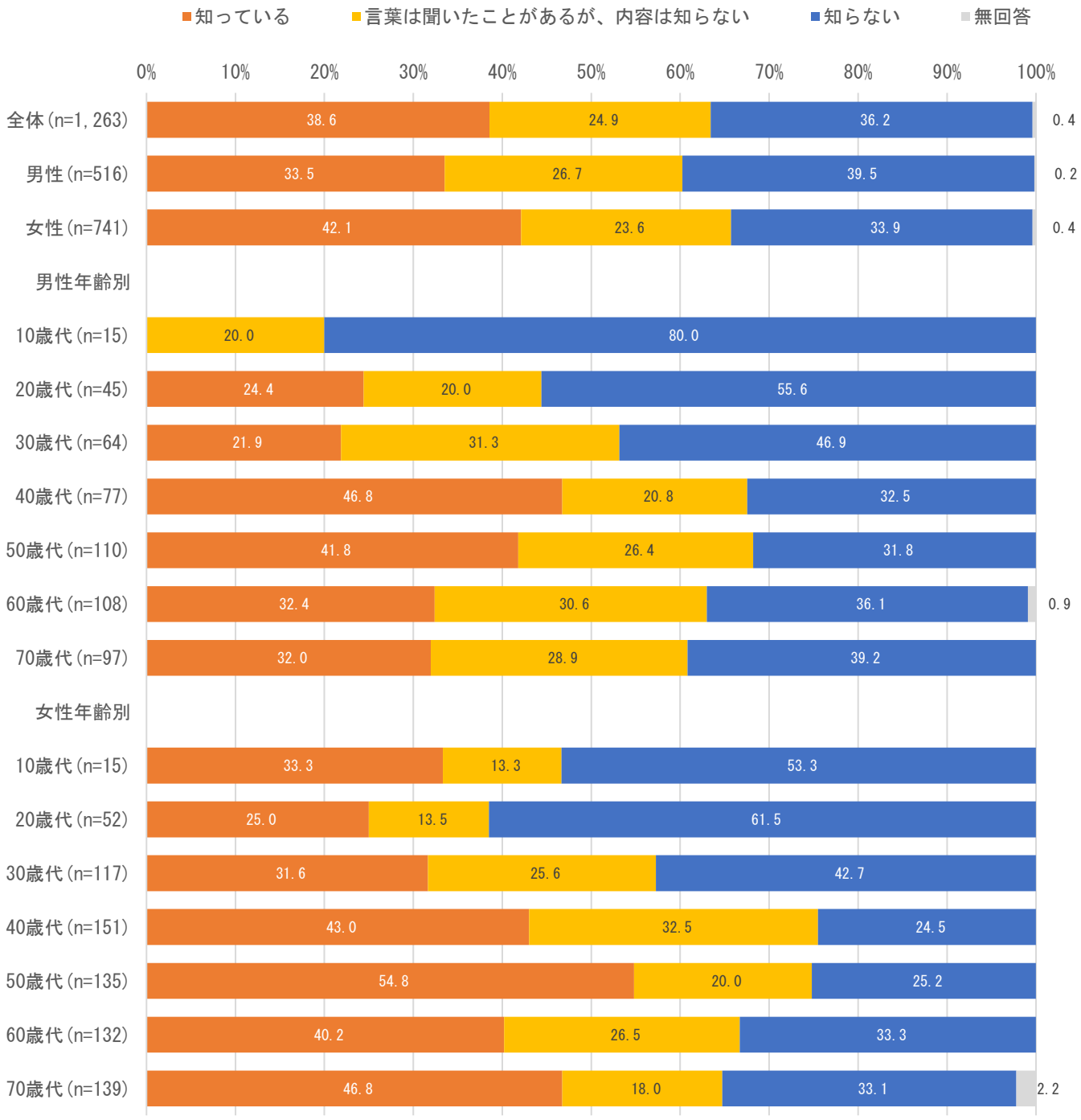
【全員がお答えください】

問２４　あなたは、令和５年 10 月 11 日から大村市でパートナーシップ宣誓制度を開始したことを知っていますか。１つ○をつけてください。（SA）

認知度は 63.5%

「知っている」が 38.6%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が 24.9%、「知らない」が 36.2%となっており、認知度（「知っている」＋「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」）は 63.5%となっている。また、性別では女性の認知度が 5.5 ポイント高くなっている。

認知度を性別・年代別でみると、男性は 50 歳代、女性は 40 歳代まで年代の上昇とともに増加し、以降は減少に転じている。



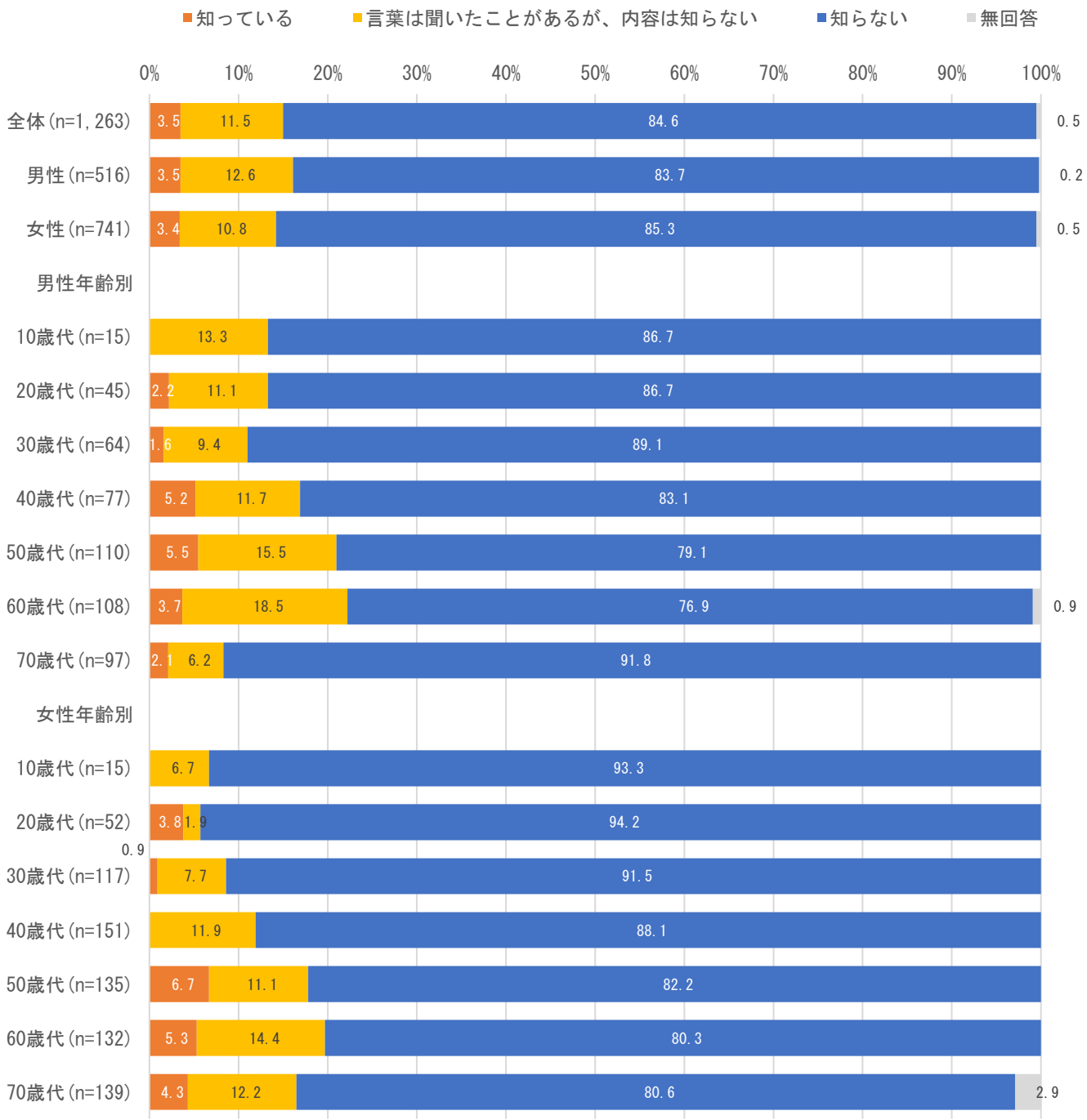
【全員がお答えください】

問２５　あなたは、「ALLY（アライ）」という言葉を知っていますか。または聞いたことがありますか。１つ○をつけてください。（SA）

認知度は 15.0%

「知っている」が 3.5%、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が 11.5%、「知らない」が 84.6%となっており、認知度は 15.0%となっている。また、性別での傾向はみられず男性の認知度が 1.9 ポイント高くなっている。

認知度を性別・年代別でみると、男女ともに 60 歳代まで年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



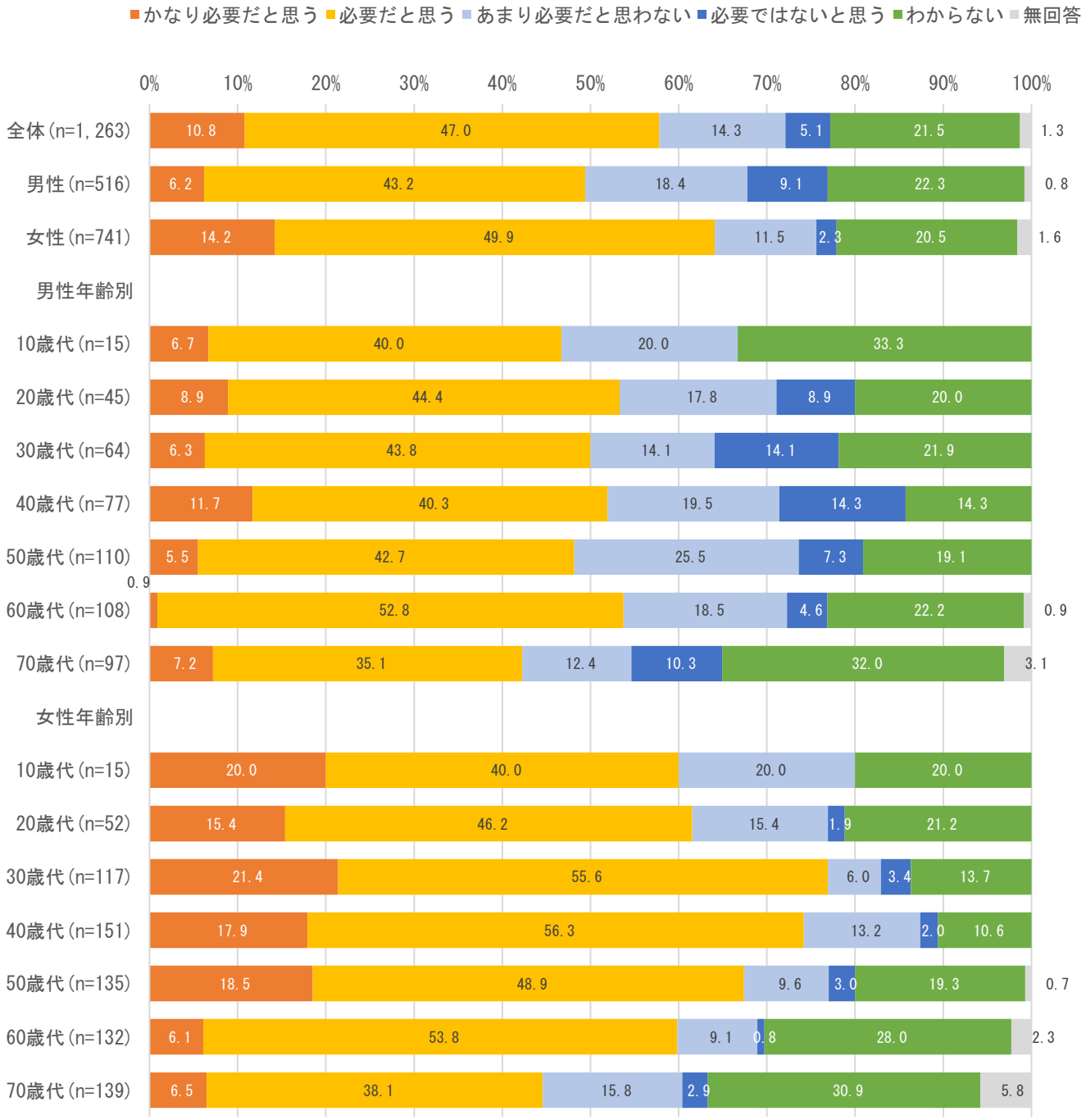
【全員がお答えください】

問２６　ＬＧＢＴＱなどの性的マイノリティの人たちが暮らしやすい社会を作るため、性の多様性（SOGI）に関する取組は必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものに１つ○をつけてください。（SA）

「必要」が 57.8%、「不要」が 19.4%

「必要だと思う」が 47.0%、「わからない」が 21.5%、「あまり必要だと思わない」が 14.3%と続いており、「必要（「必要だと思う」＋「かなり必要だと思う」）は 57.8%、「不要（「あまり必要だと思わない」＋「必要ではないと思う」）」は 19.4%となっている。また、性別では「必要」は女性が 14.7 ポイントポイント高くなっている。

性別・年代別でみると、「必要」は男性で年代によるバラツキがあり 60 歳代が 53.7%で最も高く、女性は 40 歳代以降で年代の上昇に伴い減少傾向がみられる。

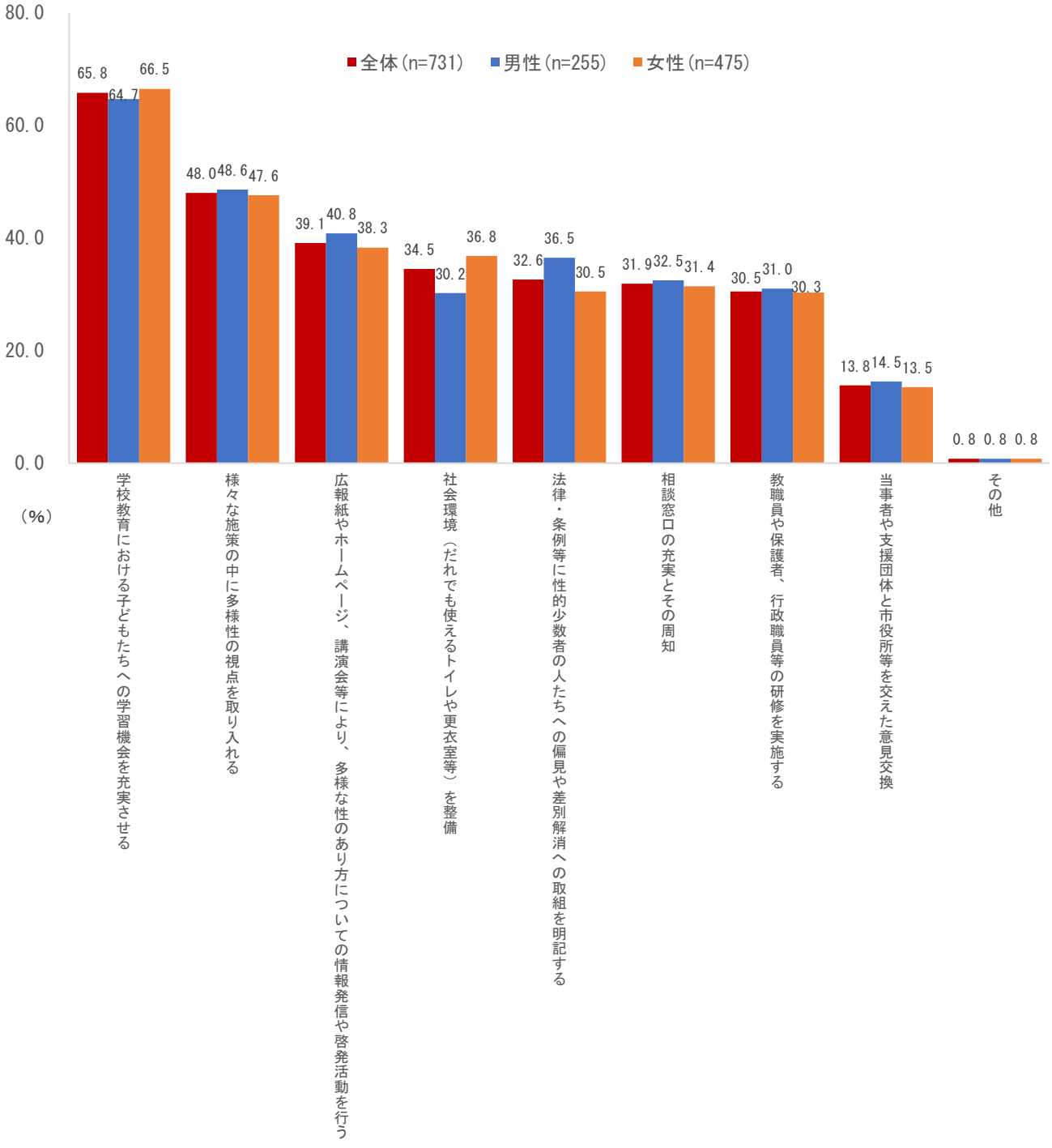


【問 26 で「1 かなり必要だと思う」、「2 必要だと思う」と答えた方お答えください】
問２７　どのような取組が必要だと思いますか。必要と思うものすべてに○をしてください。
（MA）

「学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる」が 65.8%でトップ

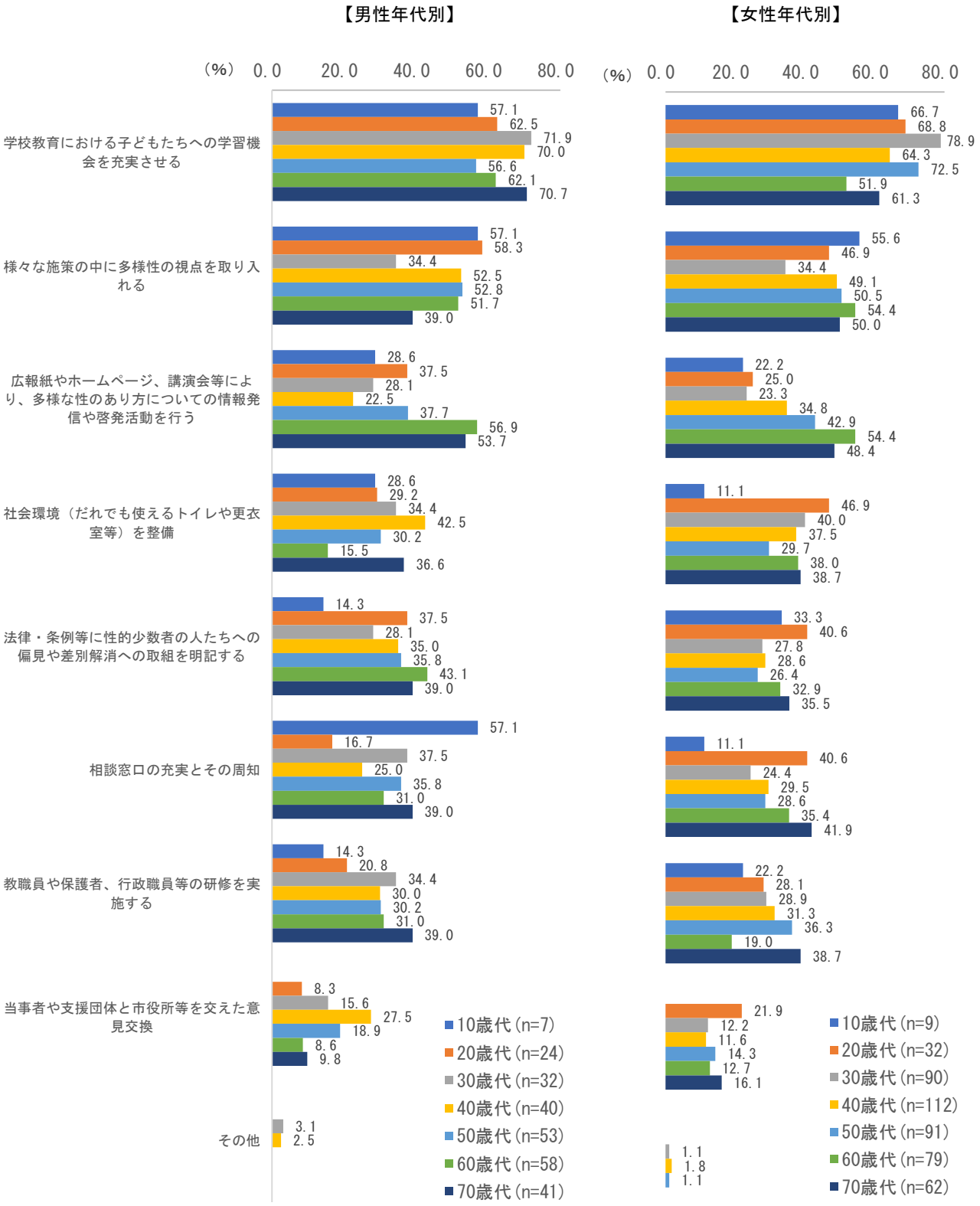
「学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる」が 65.8%で最も高く、次いで「様々な施策の中に多様性の視点を取り入れる」が 48.0%、「広報紙やホームページ、講演会等により、多様な性のあり方についての情報発信や啓発活動を行う」が 39.1%と続いている。

性別で上位 3 項目に傾向の相違はみられない。一方、男女間の差か大きいものは「社会環境（だれでも使えるトイレや更衣室等）を整備」で女性が 6.6 ポイント高く、「法律・条例等に性的少数者の人たちへの偏見や差別解消への取組を明記する」で男性が 6.0 ポイント高くなっている。



性別・年代別で男性は各母数が極端に少なくなるため参考掲載とする。

女性は比較的母数のある 30 歳代以上でみると「学校教育における子どもたちへの学習機会を充実させる」は年代によるバラツキがあり 30 歳代が最も高く、「様々な施策の中に多様性の視点を取り入れる」は年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



【男女共同参画社会の実現に向けて】

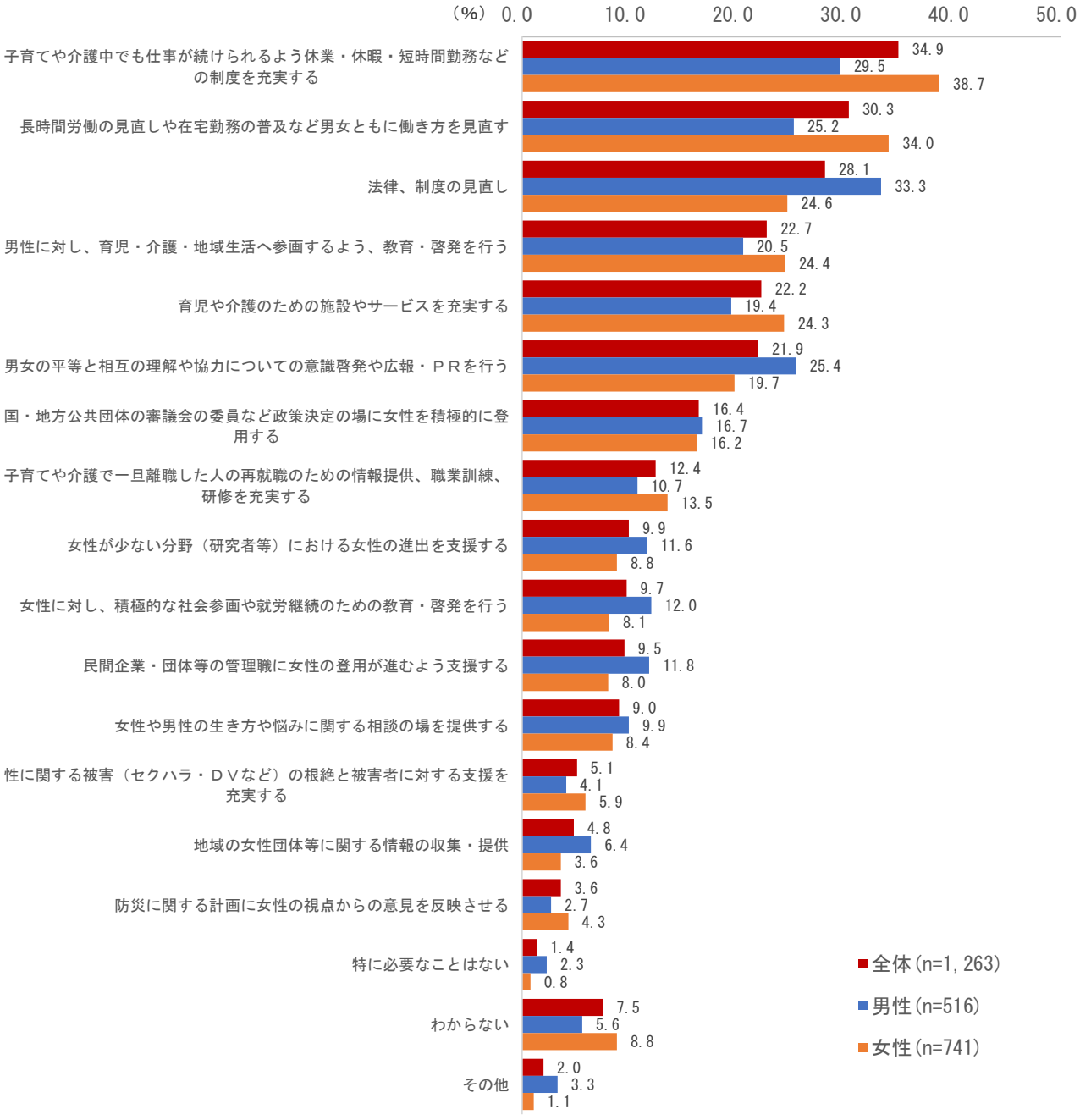
【全員がお答えください】

問２８　「男女共同参画社会の実現」「女性の活躍促進」を目指して、今後、行政はどのような施策に力をいれていくべきだと思いますか。（○は３つまで）（MA）

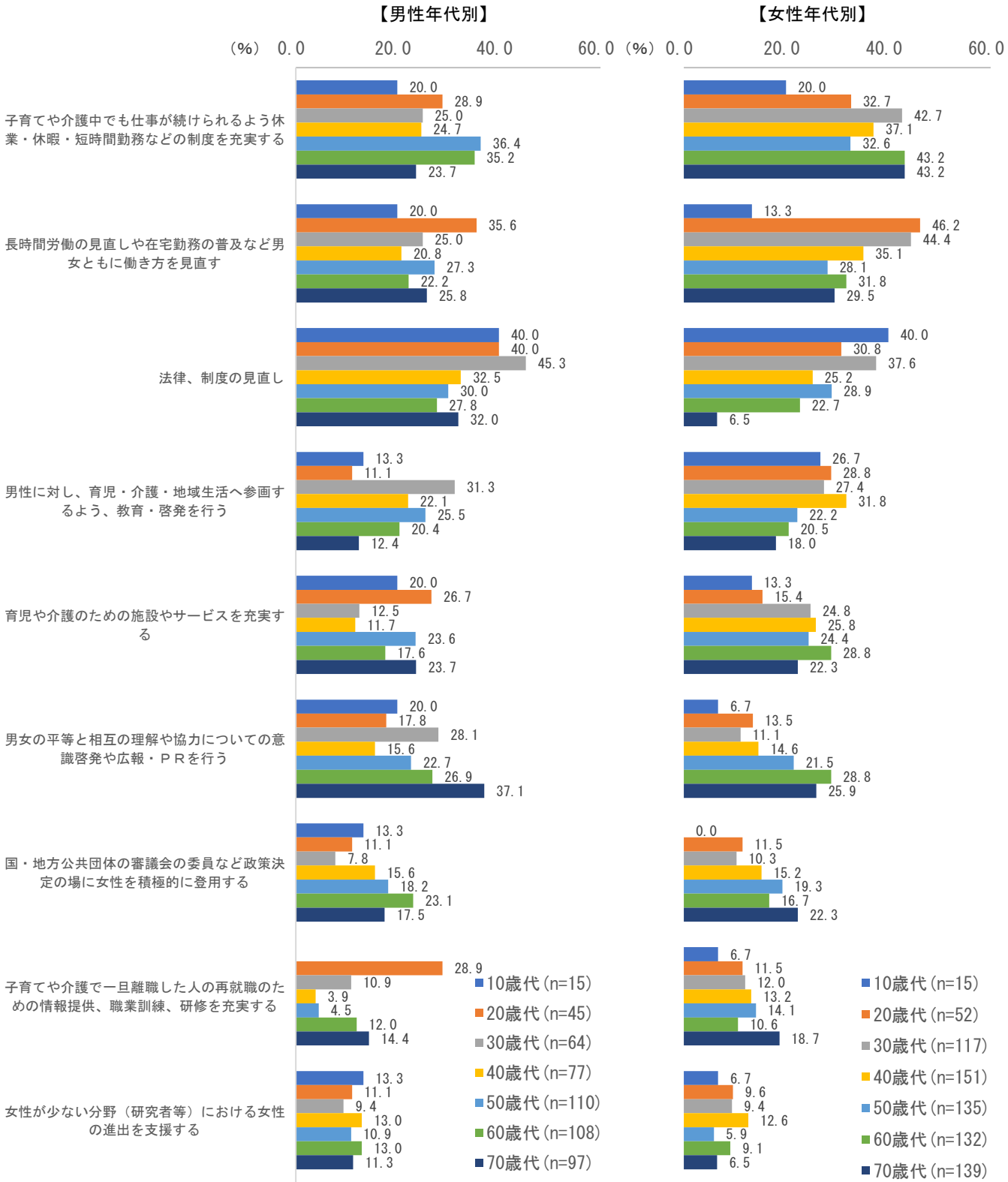
「子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する 34.9%でトップ

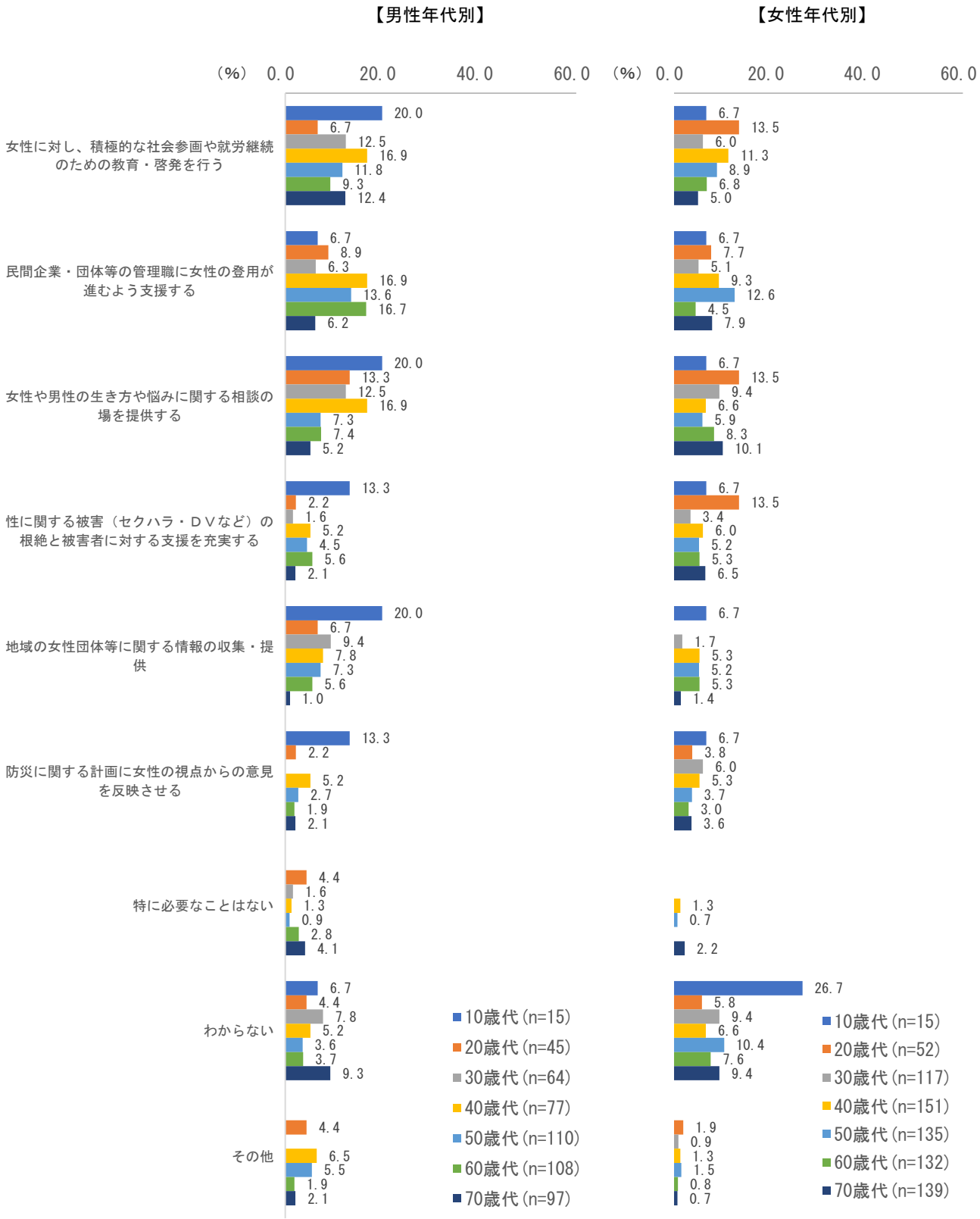
「子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する」が 34.9%で最も高く、次いで「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など男女ともに働き方を見直す」が 30.3%、「法律、制度の見直し」が 28.1%と続いている。

性別で上位 3 項目で傾向の相違がみられるのは、男性で「法律、制度の見直し」が 33.3%で 1 位項目、「男女の平等と相互の理解や協力についての意識啓発や広報・ＰＲを行う」が 3 位項目となっており、全体上位 3 項目で男女間で差が大きいのは、「子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する」で 9.2 ポイント、「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など男女ともに働き方を見直す」で 8.8 ポイント女性が高く、「法律、制度の見直し」で男性が 8.7 ポイント高くなっている。



性別・年代別にみると全体１位項目の「子育てや介護中でも仕事が続けられるよう休業・休暇・短時間勤務などの制度を充実する」は男女ともにバラツキがあり、男性で 50 歳代、女性で 60・70 歳代が最も高くなっている。「長時間労働の見直しや在宅勤務の普及など男女ともに働き方を見直す」・「法律、制度の見直し」で男女ともに年代の上昇とともに減少の傾向がみられる。




【男性年代別】
【女性年代別】
（%） 0.0 20.0 40.0 60.0
女性に対し、積極的な社会参画や就労継続のための教育・啓発を行う
民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
性に関する被害（セクハラ・ＤＶなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する
地域の女性団体等に関する情報の収集・提供
防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる
特に必要なことはない
わからない
その他
10歳代 (n=15)
20歳代 (n=45)
30歳代 (n=64)
40歳代 (n=77)
50歳代 (n=110)
60歳代 (n=108)
70歳代 (n=97)
10歳代 (n=15)
20歳代 (n=52)
30歳代 (n=117)
40歳代 (n=151)
50歳代 (n=135)
60歳代 (n=132)
70歳代 (n=139)

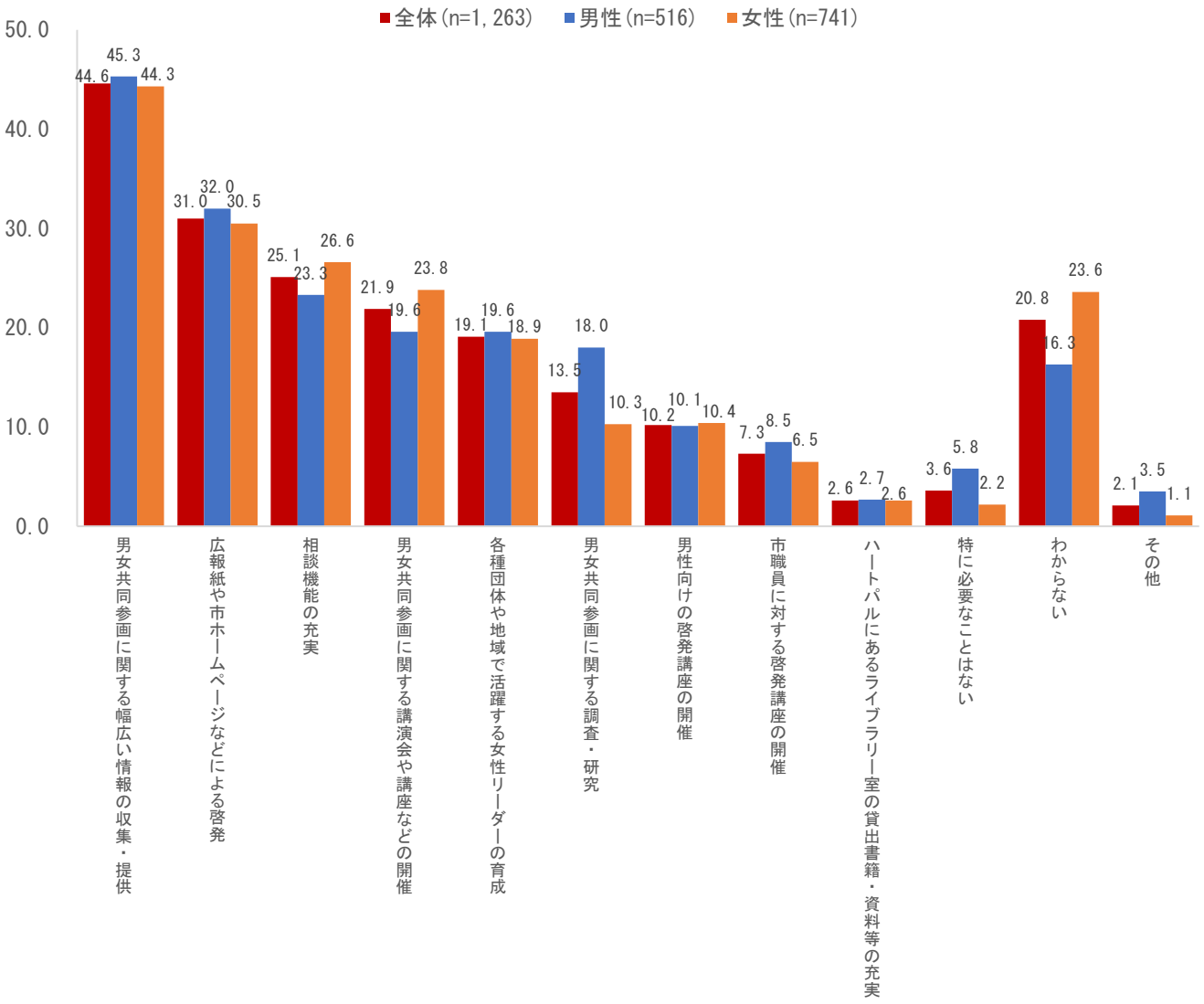
【全員がお答えください】

問２９　大村市には、大村市男女共同参画推進センター「ハートパル」があります。今後、どのような事業に力を入れるべきだと思われますか。（○は３つまで）（MA）

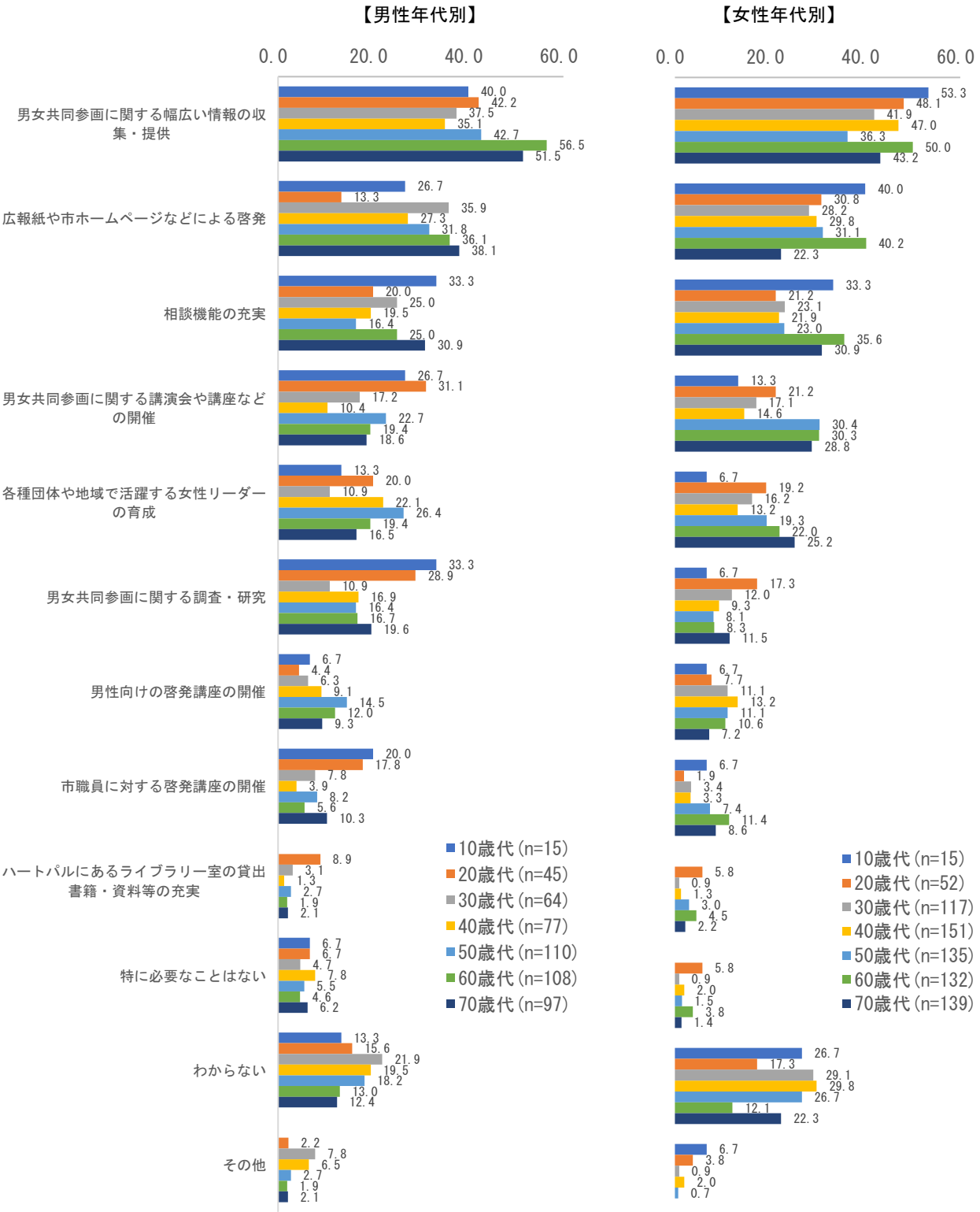
「男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供」が 44.6%でトップ

「男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供」が 44.6%で最も高く、次いで「広報紙や市ホームページなどによる啓発」が 31.0%、「相談機能の充実」が 25.1%と続いている。

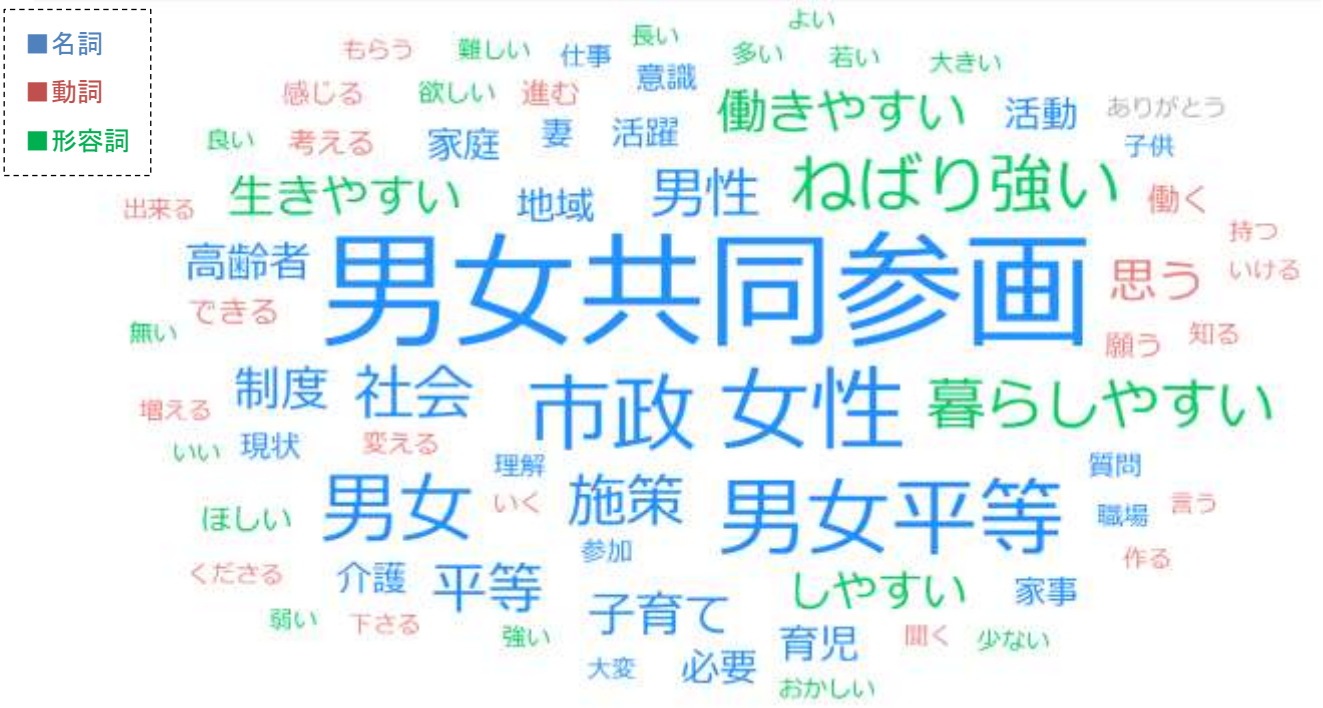
性別で上位 3 項目に傾向の相違はみられないが、男女間で差が大きいのは「男女共同参画に関する調査・研究」は 7.7 ポイント男性が高くなっている。



性別・年代別にみると全体 1 位項目の「男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供」は男女ともにバラツキがあり、男女ともに 60 歳代が最も高くなっている。「広報紙や市ホームページなどによる啓発」は男性で年代の上昇にともない増加の傾向がみられ、女性はバラツキがあり、60 歳代が最も高くなっている。「相談機能の充実」は男性でバラツキが大きく 70 歳代が最も高く、女性は年代の上昇とともに増加の傾向がみられる。



【意見・要望の自由記述】



AI 要約可視化:UserLocalAI テキストマイニング

【意見・要望の項目別件数（重複あり）】

種類（カテゴリ）	件数	内容（一部抜粋）
男女共同参画施策への否定・疑問	14	「もはや、時代に合わない事業と思いますので大幅な事業縮小を希望します。」
女性優遇・数合わせへの反対（能力主義）	12	「【女性だから】【マイノリティだから】という理由だけで優遇する必要はない。」
女性活躍推進は必要（方法改善）	9	「女性活躍社会の実現は必要と思うが…女性数のみ着目した活動とならないよう…」
育児・子育て支援（保育・病児保育）	15	「保育園も中々見つからない…社会復帰もできないし、旦那は育休を取れない。」
介護支援・家政支援	4	「介護においても、安価での家政婦派遣などを行政の取り組みにしてはどうかと思いますね。」
家事分担・家庭内意識改革	8	「男性の皆様はまずは家庭での自身の役割を見直すべき。」
DV・性暴力・ハラスメント対策	7	「男性の会社社長が、怒鳴ったり威圧的な言動をしたり…通報制度があればと思います。」
LGBT・ジェンダー施策への慎重／反対	8	「誰でも使えるトイレや更衣室等は男女平等とは一切関係のない話なので絶対やめてください。」
広報・啓発・教育の必要性	10	「市民に対する積極的なアピールが必要！」
アンケートへの不満（長い・難しい）	9	「質問が多すぎる。パーセントと質問の消化率があってない！おかしい！」
地域活動への負担感	5	「地域活動に参加？正直無理です。仕事しないと生活できないわけですし。」
雇用・就職支援（氷河期世代等）	6	「就職氷河期世代への就職支援についても再度実施してほしい。」
経済・税・予算不満	7	「予算ありき、使いきるため…関係のないことに金を使うのは止めてもらいたい。」
その他（要望・雑多意見）	5	「猫の保護をよろしくお願いします。」

【性別・年代別の個別回答】

年齢	性別	意見内容
10 歳代	女性	男女共同参画社会についてもっと詳しく知ってもらう活動が大事だと思います 私も含めて若い人はあまり自分事のようには考えていないと思うので、興味を持って貰えるような活動がいいと思います！！
10 歳代	女性	この前プラザで、講座に来たらおまけでナプキンが貰えるという活動をやっていたと思いますが、むしろ恥ずかしくて行きにくいと思うからナプキンを配るのはやめた方がいいと思います
20 歳代	男性	猫の保護をよろしくお願いします。
20 歳代	男性	男女平等というなら、仕事や政治においては女性のみに特化したキャンペーンや人材投与を行うのではなく、あくまで実力を重視して欲しい。 しかし働きやすい環境作りは必要だと思うので、仕事につけない方への何らかの支援は必要だと感じている。
20 歳代	男性	まだ女性は弱いのか？文章がかたい、選びにくかった。
20 歳代	男性	人口減少が進む中、女性の社会進出・復帰は重要であると思う。しかし、社会の競争の場において女性だから役職に登用するといった流れを作ってしまっては男女平等ではなくなる。社会競争の場に公権力による女性優遇が起こらないよう気をつけて欲しい。
20 歳代	男性	男性用の DV シェルターを作ってあげてください
20 歳代	女性	関わる全ての皆様がこの問題に対して考えるという選択あっての住みやすさだと感じます、いつも本当にありがとうございます。 素晴らしい案も広く深くあらゆる角度からデメリットを想像してすべてに対策を行なって頂けたら、とても心強く助かります。 （権利を守るための仕組みを悪用する方法も多くあり大変なこと思います。） 大村市の未来をよろしくお願いいたします。
20 歳代	女性	今回初めて妊娠し、様々な社会の現実を知った。現在我が家は旦那が主な収入を、私（妻）がパートと家事を担っている。4 月に出産するため残り 2 ヶ月しか働けないが正社員ではないため産休中の収入がない。保育園も中々見つからないと、周りの母は言う。ますます、社会復帰もできないし、旦那は育休を取れない。なぜならその分の収入が減るからである。旦那は育休がとれずパートの私は産休中の収入もない。貯金で産休、育休中の生活をしなくてはならない。保育園も見つからないとなると、私達のような家庭は男女共同参画どころか社会への復帰も厳しいと言うのが現状だ。今回 3000 人を選んでこのアンケートを実施したと聞いたが、この長文を読んでくださった役所の皆様にお声が届くよう願っております。
20 歳代	女性	男女ともに育児休業制度を確実に取得できる社会を望みます。少子化を進めない為にも、子の成長を仕事を辞めることなく見守れるようになって欲しいです。
30 歳代	男性	1 番小さな社会である家庭に対して影響が大きい活動が全体を良くすると思います。 お母さんが元気で不幸な家庭は見たことないので、女性を優遇するというより活力が出る取り組みを期待しています。
30 歳代	男性	設問の地域参加と男女平等はまた別問題だと思うのでまだアンケートを別件でされた方が良いと思います。
30 歳代	男性	男女ともに時短勤務や賃上げなどが進んでも、保育園に入れなかったり病児保育がなかったりすると、休んだり早退しなくてはならない。 働きやすい企業も大切だが、シッター補助や介護支援、病児保育の充実など他に任せられる制度の充実が必要と思う。
30 歳代	男性	若者は理解はできているが、50 代以上に向けて必須型で説明会や訪問指導が必要。昔の働き方を変えない限りは無くならない問題なので。
30 歳代	男性	女性活躍社会の実現は必要と思うが、女性が望まない代表への推薦や、女性数のみ着目した活動とならないよう女性の意識向上をしたうえでの施策になるといいと思います。
30 歳代	男性	男性の皆様はまずは家庭での自身の役割を見直すべき。妻がしている 1-10 のことを全部 1 人でしてみてください。 CM や SNS で男性陣へ呼びかける。女性が当たり前のように何でもどれだけ負担しているのかがわかるようなものを みんなが何気なくみている SNS で頻繁に流す。1 人 1 人の意識改革になるように‥
30 歳代	女性	男女比を同等に活躍している人やこれから活躍するであろう人のイベントなどあったらいいとおもう。
30 歳代	女性	育児や介護など困ったときに相談できる所、利用できる施設や制度などの情報が分かれば、それらを利用する事で、少しでも不安を解消できるのではないかと思います。
30 歳代	女性	今後の活動、取り組みに期待しています
30 歳代	女性	男女平等とは、家事や仕事の時間を同等にすることが本質ではないと考えます。女性の進出が少ない政治や研究分野でも、女性はいます。選べる力があるかないかが大事だと思います。今は令和とはいえ、親世代、先生世代は昭和です。自分たちが認識している以上に男尊女卑の古い価値観は無意識下に植え付けられていて、そ

年齢	性別	意見内容
		れを塗り替えるのは簡単ではありません。まずは、一人は一人がそれに気づき【本当は何がしたいか】を考えることができる、素直になる力と選んだあとに進む力が必要になってくると思います。 育児休暇や介護休暇についてですが、取得すればいい！というものではなありません。例えば育児休暇で、夫がいたら昼ごはんもちゃんと作らないといけない。という産後妻側の手間がかかります。取得したところで、夫が何をしたらよいか、また産後は全治三年の大怪我と言われているほど動けない(動くことはよくない)このことをまず理解しておくことが大切です。前半に述べたように【無意識下の価値観】は、塗り替えるのが大変です。結婚してからでは遅く、小学生からの性教育の一環として伝えるべきです。(女性ばかりが葛藤を抱えることは、子どもが欲しい！そんな家庭に憧れる！とそもそもならないから、今子どもを産む人が減っている＝広義の性教育領域) 住みたい街ランキング 4 位、子育てしやすい街 1 位である大村市、抜本的な男女共に自由な街づくりに期待します
30 歳代	女性	男性主導で物事を動かしていても、男女共同になることはない。特に妊娠、出産、育児は未だに女性のものだと思っている男性は多く、国や制度としても妊娠出産を行わない男性が色々と取り決めをしているため、母親が女性が本当に必要な制度やサービスがまだまだ足りていない状況だと思う。 意見を集めるだけではなく、反映させていかないといけない。また、女性が表立つことをよく思わない男性が多いことも事実。
30 歳代	女性	高市総理が誕生したように、リーダーとして活躍する女性が増えて欲しい。 そのためには男女どちらにも意識変化が必要だと思う。 若い世代はすでに平等の意識が備わっていると思うので、その世代が活躍できる場を沢山作って欲しい。
30 歳代	女性	ジェーン・スーさんの講演をユーチューブで見ました。とても面白くて、大村市のたくさんの人達にも観てもらいたいと思いました。
30 歳代	女性	現在未就学児 1 人を育てながら、フルタイムで共働きです。2 人目を考えたいですが、金銭面、子育てのマンパワー不足、子供との時間の確保が難しい点で考えられません。少子化対策、男女共同参画推進の為にも、子育て家庭の選択肢が増えることを願います
30 歳代	女性	男性が家事育児、地域参加しようにも、やはり仕事に忙しいのが現実だと思います。 各人がワークライフバランスを意識して、調整しつつ、いろんなことにチャレンジすることで、共同参画につながるのではないでしょうか。男だから、女だからの考えをなくすような啓発を進めて欲しいです。
40 歳代	男性	女性総理の活躍が目覚ましいですが、高市総理は、勉強する事を惜しまず、冷静にリーダーシップを発揮されているが、私の周りにいる多くの女性は、感情的で理論的な話しが出来ない人が多い。その様な人を重要ポストに配すると、パワハラの根源となる。 個人的は、感情的になる人間を篩にかけて排除する必要があると思う。
40 歳代	男性	男女共同参画ということで、女性登用という機会を良く聞くようになったが、それを望まない方も多数いると思われます。
40 歳代	男性	パートナーシップ制度について、多様な価値観がある事を踏まえると、本来は市民の意見を十分に聞いた上で制度化すべきか否かを判断する必要があると思いますが、そのプロセスがないまま、市長の意向だけで 制度化されたように感じられ、大村市の民主主義の危機を感じました。
40 歳代	男性	女性軽視や女性蔑視は反対だが、現在の男女共同参画社会の考え方の全部は賛成できない。 男女は別の生き物なので、互いの長短を認識・尊重し、それぞれができることを精一杯できる社会が望ましい。 横一線の平等などは、全く意味がないどころか、悪い社会にしかならないと思う。
40 歳代	男性	男女の比率だけを同じにすると良いのではない。工事現場やし尿処理の現場は男性がほとんどを占めるが、そこには何も言わず管理職や議員だけを均等にするのはどうか。人が猿の時代からオスは獲物を捕るのに特化した機能、メスは子育てや仲間を守る機能に特化している。
40 歳代	男性	男女ともに暮らしやすいよう賃上げと税の軽減を行って下さい
40 歳代	男性	頑張ってください。
40 歳代	男性	育児、介護による限られた時間でも仕事ができる政策を行ってほしい。
40 歳代	女性	今年度から募集が終わっている就職氷河期世代への就職支援についても再度実施してほしい。働きたい意思のある人がたくさんいると思う。
40 歳代	女性	誰でも使えるトイレや更衣室等は男女平等とは一切関係のない話なので絶対やめてください。絶対に絶対にやめてください。 まず身体的特徴から区別するのが当然で、女性の人権を守るところが第一です。ジェンダー論云々はそれが守られることが前提の話なので、そこを履き違えて東京のジェンダーレストイレのような勘違い甚だしい政策を実施しないようにお願いします。
40 歳代	女性	質問の中には、質問する内容自体にがっかりするようなものもありました。やっぱり変わらないからこそ、その内容を質問するんでしょう。残念でなりません。問いにあった答えをより良い方向に向けられるよう、取り組んで頂きたい。

年齢	性別	意見内容
40 歳代	女性	大村市が革新的な最先端の市になる事を祈っています
40 歳代	女性	知らない言葉でてきていたので、市政だよなので説明して欲しいです。 男女共同参画社会とは異なるかもしれないですが、他の市では結婚お祝いなどがでているので、検討して欲しいです。
40 歳代	女性	私のような中年の単身者が大村市にもいるのではと思います。仕事中心の生活で、子育てや家庭での問題はなく、だからと言って地域活動にも参加する意味も正直見いだせません。まだ両親か健在で同居しています、両親が昔ながらの人たちなので、地域活動に参加していますが、この先両親が介護が必要になった場合、代わりに地域活動に参加しようとは今のところ考えていません。なぜなら私個人では関わりがないから。少し前に隣のおばさんに「え、〇△ちゃん？ご両親に似てきたわねぇ」なんて言われたくらい。全く会いません。そんななのに市の施策？地域活動に参加？正直無理です。仕事しないと生活できないわけですし。休みくらい好きなことをしたい。自分が高齢者になったら何らかの関わりが出てくるのかもしれませんが…。LGBTQ とか、蔑視していることはないけれど、結局のところ自分は当事者じゃないから分かりません。そういう人って多いのではと思います。公務員の方もたいへんですね、頑張ってください。
40 歳代	女性	年配の議員を減らし世代交代で若い下をどんどん入れてほしい
40 歳代	女性	性行為の強要、は夫婦間でも 声をあげていいものなのか　気分じゃないと断るのか 難しいな、と思います。　生理的に受け付けない、だけども やらないといけなかったのか　不仲になった原因の一つだよなぁと 思っています。
40 歳代	女性	女性の正社員雇用促進
40 歳代	女性	子育て世帯においては、安価での病児保育や家事代行サービスの充実と実現。 介護においても、安価での家政婦派遣などを行政の取り組みにしてはどうかと思いますね。医療保険や介護保険でできるサービスは、患者が生きていくことを支えますが、その患者の家族の生活や仕事は支えません。患者の家族はデイサービス後の夜の時間、デイに行かない日、ショートを使わない日などは自分の時間や仕事や体力を犠牲にしていることもあります。行政はそこをカバーできる枠組みやサービスを提供したらいいと思います。
40 歳代	女性	今回の様なアンケートはそもそも興味がない独身者には向かないと思います。
40 歳代	女性	女性優遇ではなく、男女平等の社会を作るべき。役職も、性別に関係なく能力の高いものがつくべき。
40 歳代	女性	資格を持っていても働く場所がなく、スキルを活かせる職場が少ない。人口が増えればおのずと色んな職種が活躍できる場が増えると思う。
40 歳代	女性	当たり前だと思われている小さなことから自分達で変えていく意識も必要ですよね。疑問を感じることもありますが、変えていくのが現状では難しいというのが正直な気持ちです。市の施策に期待します。よろしくお願いします。
40 歳代	女性	男女平等というより、性別関係なく、活躍したい人が輝ける社会になるといいなと思います。どんな人でもそれぞれを尊重しあえる社会が理想です。
50 歳代	男性	日本の家文化で産み出された「終身雇用と年功序列」で日本が世界一となった。それが許せない世界が政治家を使い「破戒」させている、民営化、派遣、女性労働、外国人技能実習、移民、難民、、、２%の富裕層 18%の一般層８０%の貧困層…大村市は…大村市の描く未来はどうなのでしょうか？移民に反対、増税反対、太陽光反対、環境の嘘、大村市はどちらを向いているのでしょう？捲れてきているのが理解出来ませんか？
50 歳代	男性	幼少期からの教育が大事だと思う、高齢者は理解不能だと思います。
50 歳代	男性	頑張って下さい。
50 歳代	男性	子供が熱が出た場合等、急に仕事を休まなければならない時に、職場に迷惑をかける事への精神的な負担軽減が必要だと思います。お互い様精神を皆が理解する事が重要だと思います。
50 歳代	男性	今の時代、やる気のある女性の社会進出は可能な状況と思います。なんでも男女平等と主張する男女共同参画には疑問があります。男女の区別が差別と言われてしまうような行き過ぎた考えになっているのではないかと、今回のアンケート内容をみて感じました。もはや、時代に合わない事業と思いますので大幅な事業縮小を希望します。
50 歳代	男性	大村市には今の時代に沿った施策を考え、それを実行に移していただきたいと思っています。市民には幅広い年代に分かりやすく広報して頂きながら、気軽に参加しやすい催しを開催して頂きたいと思います。
50 歳代	男性	質問が多すぎる。パーセントと質問の消化率があってない！おかしい！何問あるか？最初に説明がない
50 歳代	男性	現状どの分野の職場や職種も 少子高齢化で人手不足です。 実際どの地域社会でも夫婦としては男性が正規社員で女性はパートと 言う雇用が当たり前の社会だ！ も

年齢	性別	意見内容
		う時代は刻一刻と変化しているのにまるで 50 年前と何一つ変わり映えのない国だ！地域のトップや 県のトップ国会議員達はこの全く 変わり映えのない地域社会を実際 どう思っているのか？ 聞いてみたいし、今後どう変革するのか聞いてみたいですよ！ 実際能力のある女性や主婦の方々は もっともっと社会に進出してもっともっと活躍の場を設けて認められる 社会づくりが必要だ！ 市政や教育者達と子育て中の 親御さん達がもっともっと協力し 合う場を国や県が設け主婦層は もっと世に出てバリバリ働ける環境づくりが必要だと思うし今後 その様にしなければどんどん 低所得者が増える一方で この国は進化していきません！ 市政はもっとこのありきたりな 現状の社会を変革するべきと 私は思います。 この豊かな長崎県がもっともっと 潤う様に大手企業誘致に努力したり 大村市に大学を設立したり市政は 考えているはずなのに全く進化が ない！もう大都会ばかりが潤う 社会などまっぴらだ！ 10 年後 20 年後 30 年後の事を市政は 真剣に考えて下さいよ！ 以上
50 歳代	男性	男の立場からみて、男女平等と言いながら女性優遇に当たる事が多々あります。真の平等を求めます。
50 歳代	男性	男が女が若者が高齢者がではなくみんなで考えていくようにした方がよいので男女共同参画という考え方も見直してはどうですか？分断するような社会は嫌です。
50 歳代	男性	市の政策に限らず世の中では、例えば地域や会社組織の役職・議員など様々な場面で女性の頭数や割合を増やそうと必死さが伺える。女性には女性の男性には男性の特性や役割があり、人により適性も実力も異なるため、一概に男女の数や割合にこだわることには違和感がある。　先ずは女性が男性と同じチャンスや機会を得られるための自由や余裕があるべきた。そのためには、家庭で女性ばかりに家事や育児の負担がかからぬよう、家庭から男女平等・同等であってほしい。
50 歳代	男性	土曜日、日曜日も相談窓口を開設するなどの努力をしてほしい
50 歳代	男性	仕事はもちろんのこと、家事もろくにせず家でゴロゴロしている妻が働ける案があれは教えてくたさい。
50 歳代	男性	自分の、あるいは家族の生活がまずは第一と考えているので地域活動を含めた共同参画推進はやめてほしい この調査の回答欄にも地域活動を絡めたものが有り、その活動自体負担に感じる
50 歳代	女性	大村市は、わりと進んでいると思う
50 歳代	女性	【女性だから】【マイノリティだから】という理由だけで優遇する必要はない。男性女性とも、能力があるからその職や地位であるべき。 男女同数や女性が少ない等、人数に左右されての施策には反対です。
50 歳代	女性	様々な視点からの多様性、様々な情報を広めて欲しい。
50 歳代	女性	今教育費が MAX にかかっています。親の介護の心配と家計の経済的な苦労と家事に育児に仕事にも追われて、正直　これ以上の何かしらの役の負担はしたくない。納税すらしてきてない外国人留学生が無償で自分達の子供が奨学金の借金背負っておかしい事ばかり… 安心して子供を育てていける環境に先ずは変えてほしい。
50 歳代	女性	若い人達は、育児に参加している男性が多い。男女平等のイメージがあるが、私たち 50 代以上の男性は、まだまだ女性が家の事をする物という考え方が強い。その人達の教育をして欲しい。
50 歳代	女性	まずはみんなが今の状況を知り、不利益を被るようなことがないよう意識改革、制度改革をして、意見交換を続ける。
50 歳代	女性	最終的には、人権問題に至ると考えます。妻・母・地域の一員・職業人として多重の責任がのしかかってくる年代は、とても負担が大きいです。何の為に生きているのかわからないくらいに、四季も感じる事なく睡眠をとることに必死になる年代の人を少しでも減少させる必要があると考えます。これは、男女ともに、他社の立場、大変な状況を理解しようとする人を敬う姿勢を持つことで、少しは改善し、子育てが楽しめるようになると思います。 これは、幼少期からの教育で培われます。 つまり、教育に予算の増額と質の向上を求めます。
50 歳代	女性	だいぶ変化してきたとは思うけど、職場でも育児や介護について、誰しも経験する出来事として、よりよい変化ができればと思うこともある。職場に 2 人くらい同じ境遇の人がいれば他の人に負担がかかる。お互い様だからと、みんなが少しずつ負を受け入れることで、職場がまわるように、これからも続けていってほしい分野です。よろしくお願いします。
50 歳代	女性	やって終わりの税金の無駄遣いではなく、本当に効果のあることをしてほしいです。昔よりは随分男性も女性も意識が変わってきているとは思います。
50 歳代	女性	産休育休を取り職場に戻ってきてほしいが休暇中だけ働いてくれる人を探すのは大変
50 歳代	女性	講演会などがあれば参加したいです

年齢	性別	意見内容
50 歳代	女性	まだまだ高齢者の男女の差別的な意識は根深いと思う。市政の中でも高齢者の時代錯誤の考えの方もあるのが現状だと感じます。そこに携わる方、周囲の方から意識改革を徹底してほしい。まずはそこからではないかと思います。
50 歳代	女性	知らないまま、興味を持たない人が多いと思う。もっと一般の人の目や耳に入れないと何も進まないと思います。
60 歳代	男性	LBGT に、関しては、肉体的な区別が特に注意が必要で施設利用も肉体的な性別を重視し、本人の言い分だけを信用してはいけない。人は見た目で安心し、警戒を解いたりする。幼い時期に脳をバグらせることは避ける必要がある。
60 歳代	男性	アンケートが長過ぎる。 質問内容、回答を簡略化する必要あり
60 歳代	男性	大村市の積極的な関与を期待します
60 歳代	男性	仕事は既に退職し、町内会長をしているが、女性の活動（役員等）への参加の意識が低い。行政として何か出来ないか考えていただきたい。
60 歳代	男性	女性自身の意識改革。男女平等としているが、女性に重要、きつい仕事を任せようとすると、たまに「私、女だからできない。」とか言う。
60 歳代	男性	男女共同参画を推進するにあたり、他の自治体等の事例等も参考にし、若者が結始し、仕事も有り、住むところも有り、保育園等も充実した若き嫁が暮らしやすい環境を整えてほしい。今までの常識にとらわれないような改革をするべし！
60 歳代	男性	子育てしやすい自治体１位、すみやすい自治体４位、を更に生かしてもらい、すべて全国１位をもめざそう。
60 歳代	女性	この調査票を受け取らなかったら、男女共同参画について、ほとんど意識せずに生活していたことと思います。 改めて人権や生活環境などについて考えることが出来ました。 ありがとうございます。
60 歳代	女性	市民に対する積極的なアピールが必要！
60 歳代	女性	特別に、男女は関係無いと思います。男女関係無く万人が平等である事が、大事だと思います。先ず子供を生み成長させ未来に希望を持たせる事が大事だと思います。
60 歳代	女性	男性の会社社長が、怒鳴ったり威圧的な言動をしたり現実に大村市では沢山あります。女性がもっと社会で活躍するには、そのような男性社長が減ること、威圧したり怒鳴ったり相手がパワハラと感じる事をセミナーでも良いですが１件ずつでも回ってもらいたい程です。相手が女性だったり、自分より弱い立場だと怒鳴ったりする人、通報制度があればと思います。自分は一生懸命やってるのにとかなり落ち込みます。各業界別に言いたい放題会があれば言えますかね。
60 歳代	女性	年金だけでは食べて行けません もっと高齢者が働ける場所を提供して下さい。
60 歳代	女性	育児休業を自分の休養としている男性もいると聞き、意識を変えるべきだと思う。大人だけでなく、子どもたちにも意識づけ出来るような何かがあればと思う。
60 歳代	女性	平等になったらどんな未来や希望があるのか　明るい展望を知らせてほしい
60 歳代	女性	男女平等はとても大事だと思います。しかし、妊娠出産できない男性との平等はかなり難しい事だと思います。 未来が皆にとって幸せな毎日になりますよう、よろしくお願いします。
60 歳代	女性	女性は働きたいと思っている。子供が産まれても親の介護が必要となっても長く働きたいと考えている。その為には男性が同じ立場になって社会のしくみを変えていけるように努力、実行していくことが必要。私はそこがポイントだと切に思っている。
60 歳代	女性	その他の意見。なかなか相談しても事務的でつらい現状など知る由もないと思います。あたたかい人もいればそうでない方が多いのが真実です。今後もあまり市に期待はしていません。
60 歳代	女性	問１８ＤＶはよくあります。自分の両親にもいくらかあったし、他でも聞いたことがあります。自分は近くに親戚など味方となって動いてくれる人がいないので、極力交際・結婚を避けて今までなんとか無事に過ごしてきましたが、今後も気をつけ、何か兆しがあれば、すぐ町内会や警察などに相談します。Ｅ２つ目も暴力になるんですね。初めて知りました。子供の立場だとどうしていいかわからないので、ポスターなど学校で掲示したりして、こんなことは相談していいことや、どうしたらいいか方法がわかるといいです。中絶強要はわが子を殺害することですね。母体にも危険だと思います。子供の立場を想像しました。「ぼくたちのことをみんなに知ってほしい。でも、ぼくたちにはもう体がないから言えない。お母さんはとても苦しんでいるから無理に言ってほしくはない。ほかにぼくたちのことを知っている人にお願いしたい。ぼくたちも生きたかった。愛されたかった。愛したかった。お父さんどうしてぼくができるようなことをしたのに、ぼくを殺したの？」と言う気がします。男性にはわが子を自分の人生に引き受ける覚悟なしに、子どもができるようなことをしないでほしいです。女性や子どもには大変な影響のあることなのを知ってほしいです。

年齢	性別	意見内容
60 歳代	女性	特に意見・要望ありません。この調査表を記入するにあたりかなり時間を要しました。（１０分２０分では記入できませんでした）ポストに投函するのもポストが近くにあればいいでしょうがポストが近くにない人、足が不自由な人は、どうなるんでしょうか。大村市の最低賃金とまではいいませんが、それなりのお礼をしていただきたいです。
70 歳代	男性	予算ありき、使いきるため、必要のないこと、関係のないことに金を使うのは止めてもらいたい。
70 歳代	男性	先ず大村市が自ら市民に見える形で男女共同参画を実践する。
70 歳代	男性	グローバリズムの政策は、いま直ぐ止めるべきです。
70 歳代	男性	１．母子家庭：女性独り手３人の子どもを育成。２度の結婚、離婚をして、それぞれの子供あり。３度はもうしない。４９才で再転職に苦心、市政の力で職ができないか。12/2　５０才パートで子供の育成資金がない。７９才の我々の所へきているが病気持ち大変であった。（年金生活中の老人夫婦）２．男女の法見直しを頼みます。3．昨年土地が売れたが、この私の財産である。妻まで税金をとると大変困っている。私に税金し妻にはなしとすべし。年金生活と母子、女手で３人の子。女子の向上を。
70 歳代	男性	中世以前は正に男女共同参画（役割分担に基く）社会であったが、徳川幕藩体制下儒教（朱子学）教育が行き渡り、明治も其処で教育を受けたテロリスト達が自らの都合と利益拡大しか眼中になかった。現在此処数年来、其れが言われるようになり、まだまだ路にはいったばかりで、この先、世代交替も進んで行く中で自然と醸成されていくであろうから、今声高に其れを唱える必要はないと思う。
70 歳代	男性	「男女共同参画」について１．改定に対してすぐできますか？２．人材は確保できているのですか？３．予算は大丈夫ですか？４．民間人でやる気のある人の登用は？５．大変良い事は、なかなか難しいと思いますがねばり強くスピードを持って目的達成を目指して下さい。
70 歳代	男性	女性目線での地域活性化をはかる（例）女性が会長の町内会には活動資金を助成し、女性目線での町内会運営や、行事で活性化をはかる。日本一子育てがしやすい自治体であるが、さらに具体的に女性が働きながら子育てがしやすい自治体をめざす（例）各企業に女性が働きながら子育てがしやすい勤務形態を工夫してもらう。女性が働きながら子育てがしやすい勤務形態を持った会社、企業の誘致。空き店舗の紹介や家賃の助成なども。保育所や学童の充実（待機しなくてもいいように）
70 歳代	女性	高齢者には　答えにくい不適切な質問がかなりあり答えられない
70 歳代	女性	私は 70 代ですが団塊の世代の主人です。個人によりますが、家事は奥さん仕事は主人がするとの思いでやってきました。私に仕事を強要する事はありませんでしたが、60 で定年し未だに家事は女性の役と思っているようです。どんどん年をとっていったら、共同で家事の事もする事は必要ですが、何の悪気もありませんが理解できないみたいです。
70 歳代	女性	意識調査の結果が今後の行政施策に役立つことを願ってます（決して死策にならない様に）
70 歳代	女性	70 代ですので昔に比べてずいぶん女性が生きやすい世の中になったなぁと思います。それでも社会参加については、まだまだなのが現状のようです。男女ともに自分の生きやすい世の中であることを望みます。
70 歳代	女性	大村→長崎間のシャトルバスを土日祭日も平日通り運行して欲しい。民間企業デパート、ストア、個人商店は公務員と違って休日や夜８時まで営業していますので９時から９時半の帰宅は、平日並みに運行して欲しい。夜道の女の子の帰りは家路に着くまで怖くてかわいそうです。長崎スタジアムが出来てからは、土日は出島での乗車ほとんどできません。スタジアムの試合がある時は、それ専用バスを用意して欲しいです。
70 歳代	女性	「男性・女性」ではなく『自分らしく』生きていくことが大切だと思います。それぞれ人として個性や能力を活かして、それぞれの場で活躍して日本を支えていただきたいと願います。
70 歳代	女性	まだまだ大村は男社会が強いと思います。女性もすばらしい人、すごい人がいる事がもう少しアピール出来るのを願っています。
70 歳代	女性	年齢的に現在の状況に該当しない件もあります。若い頃の日常を思い出し記入してみました。